

文京区町会連合会 創立60周年記念誌

六十年のあゆみ



イラスト：根津神社のつつじ祭り

文京区町会連合会

六十年のあゆみ

目 次

区名「文京」の由来	1
創立六十周年を迎えて	文京区町会連合会会長 鷹田 芳郎…2
創立六十周年に寄せて	文京区長 成澤 廣修…3
祝辞	文京区議会議長 渡辺 雅史…4
創立六十周年記念誌によせて	東京都町会連合会会長 大崎 秀夫…5
歴代会長	6
現役員	7
常任理事	8
文京区町会連合会規約	9
東京都町会連合会規約	11
文京区歌・文京区の特徴	14
文京音頭・文京小唄	15
六十年の思い出	16
町会連合会・区政のあゆみ	26
地区町会連合会のあゆみ	
礪川地区町会連合会	44
大原地区町会連合会	74
大塚地区町会連合会	94
音羽地区町会連合会	120
湯島・本郷地区町会連合会	142
向丘地区町会連合会	184
根津弥生七ヶ町連合会	200
汐見地区町会連合会	212
駒込地区町会連合会	222
人口・世帯数の推移	239
編集後記	244

文京区町会連合会 創立60周年記念誌

六十年のあゆみ



区名「文京」の由来

「文京」は、昭和22年3月15日、東京都制の改正に伴い、23区制になったときに、旧小石川区と旧本郷区の両区が合併して誕生した。

当時、東京新聞社で、新区の名称を一般から募集した。それによると、次のような名称がよせられた。

「春日」・「湯島」・「音羽」・「白山」・「駒込」など。

これらの募集結果を参考に、両区でいろいろ審議したが、容易に決定をみるにいたらなかった。たまたま、旧小石川区役所で、職員から新区名を募集したところ、その中に「文京」という名があり、また、旧本郷区役所での両区統合のための交渉委員会の席上、委員から「文京」の名が出された。

これらを両区の統合交渉委員会に諮ったところ、親しみ易く、区の性格を端的に表していて「文教の府」のイメージを表現しているということになり、両区の区議会で「文京」を正式に新区名として決定した。

ふみ みやこ 文の京とは

これまで、文京区は、「文教の府」といわれ、「文化の香り高いまち」をめざして発展してきた。これに寄せる区民の誇りと愛着を大切にしたい。そのうえで、区民と区が、時代の大きな変化に適応しつつ、可能性に富んだこの地を、新たな洗練と成熟の段階へとさらに発展させていく都市自治の姿を「文の京」と呼ぶ。

創立六十周年を迎えて

文京区町会連合会は、平成27年1月に創立60周年を迎えることとなり、創立30周年時に作成した記念誌に続いて、今回60周年記念誌を発刊する運びとなりました。

顧みますと、戦後、解体を余儀なくされた町会が、新しく地域住民の自主的な親睦団体として生まれ変わって以来、歴代の会長、役員の方々の大変なご尽力により、この組織を確固たるものに築きあげてきました。

私は、文京区町会連合会の今日を築いてこられた先輩の遺産をうけつぎ次の世代に継承する身として、創立60周年を迎える喜びとその重みを受け止め、感慨深い思いでございます。ここにあらためて、会員及び役員、区及び官公庁等関係機関の皆様のご支援及びご理解並びにご協力に対し、厚く感謝を申し上げます。

災害発生時の防災対策を始め防犯対策、環境問題、少子高齢化対策など、地域や区が抱える課題が山積する中、町会、自治会及び文町連の果たす役割はますます重要になっております。

こうした課題の解決に向け、地域での活動に歴史をもつ私たち文町連が核となって、町会・自治会の自主性の確立と相互理解及び親睦を図っていくことはもちろんのこと、ボランティアやNPO団体などほかの地域活動団体との絆を固く結び、文京区の真のパートナーとしての役割と責任を果たすべく、区との協働により、心豊かで安全で安心に暮らせる地域社会の実現に取り組んでまいり所存です。

創立60周年を契機として、役員一同、益々研鑽に励み、文町連の発展のため全力を傾けてまいります。

終わりに、関係各位におかれましては、今後ともより一層のご理解、ご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、155町会・自治会の今後の益々の発展と会員皆様のご健勝を祈念し、記念誌発刊のご挨拶とさせていただきます。

なお、記念誌刊行にあたり、編集委員のみなさま方には、2年有余にわたり、献身的な努力を重ね、このような立派な記念誌が出来上がりました。心から深く敬意と感謝をささげたいと存じます。



創立六十周年に寄せて

文京区町会連合会が創立60周年を迎えられますとともに、記念誌を発刊されましたことを心からお祝い申し上げます。

戦後、解体を余儀なくされた町会が、新しく地域住民の自主的な親睦団体として生まれ変わって以来、歴代の会長、役員の方々の大変なご努力により、その組織を確固たるものに築きあげられましたことに深く敬意を表す次第であります。

東日本大震災以降、地域コミュニティの重要性が高まり、地域における最も身近な共同体組織である町会・自治会が行政との貴重なパイプ役として連携を図るなど、期待とその役割は益々大きくなっております。

また、近年の猛暑、集中豪雨被害などの異常気象に対しましても、地域の皆様方の共助の仕組みが被害を最小限に留めております。

顔の見える血の通った暖かい関係を皆様方が地域で築いていただいていることは、子供からご高齢の方々まで元気で生き生きと暮らせる力となっております。

区といたしましても皆様方からの様々なご意見、ご要望を区政に反映させながら明るく希望に満ちた区政実現のために支援を続けてまいります。

平成22年に文京区基本構想「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」を策定し、本年は、その実現に向けた2期目の基本構想実施計画に踏み出す年にあたります。地域で助け合い、思いやりあふれる、いつまでも住み続けたいまちを目指し、皆様方とともに取り組んでまいりたいと思います。

60年という大きな節目にあたり、今後も、さらに地域に根を張り、皆様方の活動や地域の絆を強め、町会ならびに町会連合会が益々発展されますとともに、新しい時代に向けてより良い地域コミュニティを築くために、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



祝 辞

このたび、文京区町会連合会が、創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

文京区町会連合会におかれましては、良好な地域社会の維持、形成のために、地域の町会・自治会の要として積極的な活動を展開され、区民生活の向上に先導的な役割を担ってこられました。

創立から今日まで、実に60年の長きにわたり、歴代会長並びに役員の皆様、町会・自治会の皆様が着実に築いてこられました輝かしいご功績に対し、敬意を表するとともに、区の発展と住民福祉の向上へのご尽力に深く感謝を申し上げる次第でございます。

一言に60年と申しましても、その道のりは長く、区民の暮らしぶりも戦後の荒廃から思えば今昔の感に堪えません。この間、少子・高齢化の進展、社会経済状況の目まぐるしい変化等により、町会・自治会活動に従事されておられる皆様の環境も大きく変化してまいりました。

こうした中で、地域をより豊かで活力に満ちたものにしていくためには、区が第一義的には責任を負うものの、区民、地域活動団体、NPO、事業者など、新たな公共の担い手の皆様と力を合わせていく必要がございます。

町会連合会の役員の皆様、町会・自治会の皆様におかれましては、その担い手として、これまでのご経験を充分活かしていただき、一層のご活躍をご期待申し上げます。

区議会といたしましても、文京区基本構想の10年後の将来都市像である、歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」を目指して努力してまいりますので、今後ともご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、文京区町会連合会の益々のご発展を祈念申し上げます、60周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



創立六十周年記念誌によせて

この度、文京区町会連合会が創立60周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴連合会におかれましては、昭和29年の設立発起人会から始まり、半世紀以上に渡る献身的な町会活動により、年々規模を拡大され、現在では区内155町会もの組織を擁するまでに発展を遂げられました。これもひとえに、会長をはじめ、役員並びに会員の皆様方の長年にわたるご努力とご苦勞の賜物と、深く敬意を表する次第でございます。

東京都町会連合会は、平成25年に創立30周年を迎えることができました。今日に至るまで順調に拡大を続けてきたわけではありません。幾多の困難を乗り越え、設立当初から柱となって支えてこられてきた貴連合会や、各区の町会・自治会の皆様に支えられ、ようやく、貴連合会の半分の年を迎えられました。この30年という歴史の中で、都区制度改革、ゴミ問題、防災問題など、その時々重要な課題に取り組んでまいりました。平成11年の首都移転に断固反対する国民大集会においては、東京都町会連合会として移転反対の署名を約82万人分集め、官房長官へ手渡しました。この大きな運動の先頭に立たれ活動されたのは、当時、東京都町会連合会会長であった文京区の故相川会長でございます。首都東京を愛する都民として、広く反対の声を結集し、移転反対の署名活動の指揮をとられた実績に心より敬意を表します。私たち町会自治会で活動する者は、利害関係からではなく、ボランティア精神をもって地域のために、行動しております。このような組織こそが、地域を作り、東京都を支えていくものと確信しております。

結びに、文京区町会連合会並びに各地域の町会・自治会の益々のご発展と創立60周年を心からお祝い申し上げます、私の祝辞とさせていただきます。



歴代会長



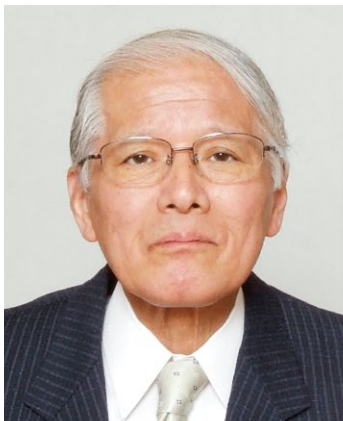
十一代 相川 金次郎



十二代 菅沼 利雄



十三代 村松 孝四郎



十四代 渡辺 泰男



十五代 諸岡 健至

現 役 員



副会長 田上 侑司



会 長 鷹田 芳郎



副会長 諸留 和夫



副会長 金輪 精梧



副会長 諸岡 健至



副会長 澁木 禧雄



副会長 秋羽 一雄



副会長 高橋 毅喜



副会長 櫻井 新次郎

常任理事

礪川地区町会連合会

鷹田 芳郎
原 武久
橘 高智光

大原地区町会連合会

田上 侑司
小野寺 加代子
島川 健治

大塚地区町会連合会

諸留 和夫
加藤 雄三
村越 義晴

音羽地区町会連合会

金輪 精梧
山口 貞二
加藤 昭吾

湯島・本郷地区町会連合会

諸岡 健至
鎗田 精康
松本 清
溝口 智正

向丘地区町会連合会

澁木 禧雄
松尾 紀彦
小倉 芳彦

根津弥生七ヶ町連合会

秋羽 一雄
宮田 昇
山田 泉治

汐見地区町会連合会

高橋 毅喜
松田 功
尾崎 哲雄

駒込地区町会連合会

櫻井 新次郎
田邊 國弘
福田 敏一郎

顧問

渡辺 泰男

文京区町会連合会規約

■ 第1章 総 則

- 第1条 本会は文京区町会連合会と称す。
- 第2条 本会の事務所を文京区内に置く。
- 第3条 本会は文京区内にある町会により組織する。

■ 第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は町会の自主性と民主的精神を尊重し、町会の発展のため相互連絡と協調を図り、町民の生活向上と福祉の増進に寄与することを目的とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 地区町会連合会及び単位町会との情報の交換
 - (2) 町会の発展と正しい運営のため、地区町会連合会との密接な連繋
 - (3) 地方公共団体及び各公共団体との相互協力
 - (4) その他必要と認める事項

■ 第3章 役 員

- 第6条 本会に次の役員を置く。
- | | |
|-------|-----|
| 会 長 | 1 名 |
| 副 会 長 | 8 名 |
- 「副会長は、総務、企画、渉外及び会計（各2名）を兼務する。」
- | | |
|------|-----|
| 監 事 | 2 名 |
| 常任理事 | 若干名 |
- 第7条 会長、副会長及び監事は総会に於て選出する。
- 2 役員を選出は次により行う。
- (1) 会長は地区町会連合会会長より選出する。
 - (2) 副会長は常任理事の内、会長地区を除く地区より選出する。
 - (3) 監事は正、副会長を除く常任理事より選出する。
 - (4) 常任理事は原則として地区町会連合会の正、副会長により組織する。
- 第8条 役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。
- 2 任期中に役員の変更等があった場合は、その地区の後任者が残任期間の職務を行う。
- 第9条 補欠により就任した役員任期は前任者の残任期間とする。
- 役員は任期満了の場合においても後任者の就任するまでは前任者がその職務を行うものとする。

第10条 会長は本会を代表し、会務を統轄する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

第11条 本会に顧問、相談役を置くことが出来る。顧問、相談役は会長の諮問あるときに之に応ずる。

■ 第4章 会 議

第12条 会議は総会及び常任理事会とし会長が招集する。

第13条 総会は定時総会及び臨時総会とする。

定時総会は年1回これを開催し、事業報告、会計報告、その他重要事項の議決を行なう。

第14条 常任理事会は、必要に応じ開催し、会の運営その他重要な会務を審議する。

第15条 会議は会長が招集し議長となる。会議は定数の過半数の出席を必要とする。

議事は出席者の過半数の同意により決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

■ 第5章 経 費

第16条 本会の経費は、会費、負担金、寄附金及びその他の収入をもってあてる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月に始まり翌年3月末日に終る。

付 則

本会々則のほか必要と認めた事項については常任理事会において議決することができる。

本規約は昭和55年7月1日より施行する。

付 則

本規約は昭和57年5月12日より施行する。

付 則

本規約は平成4年5月22日より施行する。

付 則

本規約は平成6年5月25日より施行する。

付 則

本規約は平成8年5月29日より施行する。

付 則

本規約は平成14年5月21日より施行する。

付 則

本規約は平成18年5月19日より施行する。

東京都町会連合会規約

■ 第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、東京都町会連合会（以下「都町連」）という。

(組織)

第2条 本会は、東京都の管轄区域内に存する町会・自治会等の地縁団体を以て組織し、且つ、区市町村を単位とする連合会組織（以下「区市町村連合会」という。）を会員として構成する。

2 前項の区市町村連合会が存しない場合、または同一区市町村内に、地域を単位とする複数の連合会組織が存する場合は、前項の規定に係わらず、総会の承認を得て会員とすることができる。

3 本会に入会又は退会しようとする区市町村連合会は、本会に届け出をし常任理事会において決定する。

(事務所)

第3条 本会の事務所は、会長の所属する区市町村連合会内に置く。

■ 第2章 目的及び事業

(目的)

第4条 本会は、会員相互の連絡を密にして、区市町村連合会の発展向上に努め、東京都民の生活向上と福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第5条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 本会及び区市町村連合会の発展、地域社会の生活向上及び地域福祉の増進に必要な活動
- 二 会員相互の情報交換及び連絡調整
- 三 東京都、区市町村、関係行政機関及び関係諸団体との密接な連携
- 四 その他、本会において必要と認める事項

■ 第3章 役 員

(役員)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- 一 会 長 1 名
- 二 副 会 長 若干名
- 三 会 計 2 名
- 四 監 事 2 名

五 常任理事 各会員より1名

(役員を選出)

第7条 役員を選出は次による。

- 一 会長及び監事は、常任理事のうちから総会において選出する。
- 二 副会長は、常任理事のうちから会長が委嘱する。
- 三 会計は、常任理事のうちから会長が委嘱する。
- 四 常任理事は、原則として各区市町村連合会の会長の職にある者を充てる。

(役員任期)

第8条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。但し、会長の再任については、3期6年を限度とする。

- 2 役員任期が満了してもなお後任者が決まらないときは、後任者が決まるまでの間、引き続き現任者がその職務を行う。
- 3 欠員補充による役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 区市町村連合会の職を辞した者は、本会の職を全て解消する。

(役員職務)

第9条 会長は、本会を代表し事務を統括し、会議の議長となる。

- 2 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 会計は、本会の会計事務を処理する。
- 4 監事は、本会の会計を年1回以上監査する。

(名誉会長等)

第10条 本会に、名誉会長、顧問及び相談役を置くことができる。

- 2 名誉会長、顧問及び相談役は、会長の求めに応じ会議に出席し意見を述べることができる。

第4章 会 議

(会議)

第11条 会議は、総会、常任理事会及び本部役員会とし会長がこれを召集する。

- 2 会議の議決は、出席者の過半数を以てこれを決す。可否同数のときは議長の決するところによる。
- 3 臨時会は、会長が必要と認めたととき開催することができる。
- 4 役員以外の者を会議に参加させる場合は、会長の許可を得て参加させることができる。

(総会)

第12条 総会は、会員を以て構成し、最高議決機関として次の事項を審議決定する。

- 一 規約の改廃に関すること

-
- 二 事業報告及び決算に関すること
 - 三 事業計画及び予算に関すること
 - 四 規約第7条の人事に関すること
 - 五 その他、本会の運営の重要な事項に関すること

(常任理事会)

第13条 常任理事会は、会長、副会長、会計、監事及び常任理事を以て構成し、必要に応じ開催し本会の運営その他重要な事項を審議する。

(本部役員会)

第14条 本部役員会は、会長、副会長、会計及び監事を以て構成し、本会全般の運営に係わる事項を審議する。

■ 第5章 会 計

(会計)

第15条 本会の会計は、次に掲げる収入をもって充てる。

- 一 会費
- 二 事業参加負担金
- 三 寄附金その他の収入

(会費)

第16条 本会の会費は、年50,000円とする。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。

■ 第6章 雑 則

(その他)

第18条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は常任理事会の議決を経て別に定める。

附 則

本規約は、平成18年3月8日から施行する。(全面改正)

本規約は、平成24年6月21日から施行する。(一部改正)

文京区歌

佐藤 春夫 作詞 弘田 龍太郎 作曲

1 あゝ大江戸のむかしより
ここは学びの土地にして
紅の塵ちかけれど
緑の丘はしずかなり
書よむ窓の多なれば
家おのづから品位あり
都は文化の中心地
わが区は都の文京区

2 今新時代の朝未明
自由民主の鐘の音に
人は巷に迷へども
我等が隣安らへり
もの知る人の多なれば
町おのづから平和あり
都は文化の中心地
わが区は都の文京区

文京区の特徴

(1) 地勢

文京区は、23区のほぼ中央に位置し、面積11.31km²と23区中20番目となっている。

武蔵野台地の東端に位置する本区は、関口台、小日向台、小石川台、白山台、本郷台といった台地が並び、その間に音羽谷、小石川谷、指ヶ谷、根津谷といった幾筋もの谷が入り込み、起伏に富んだ地形をなしている。交通網は、地下鉄が6路線乗り入れ、20駅が設置されている。山手線の内側に位置しているが、JRの駅は一つもなく、駅前を形成していない。このため繁華街といわれる場所はない。

(2) 歴史・文化

徳川家康が江戸城に入り、城下の開発が進むとともに、大名屋敷や武家屋敷が置かれ、護国寺や根津神社など由緒ある神社仏閣も建立された。かつての大名屋敷のいくつかは、小石川後樂園（水戸藩上屋敷）や六義園（大和郡山藩下屋敷）として、現在多くの人に親しまれる庭園

となっている。また、江戸市街地の拡張に伴い、外堀の外側に寺社を移したことにより、区内には多くの寺社が立地し、都心部にありながら、緑豊かで落ち着いた雰囲気醸し出している。

明治になると、加賀藩前田家の上屋敷跡地に東京大学が開設されたことをきっかけに、多くの教育機関が立地し、森鷗外、夏目漱石、樋口一葉、石川啄木など日本近代文学史上に名を連ねる文豪たちが居住地としていたことから、文化の香り高いまちとして全国的にも知名度が高い。

(3) 人口

文京区の人口は、住民基本台帳によると平成24年9月1日現在、20万人を超えている。昭和45年には、23万人だった人口は平成7年まで減り続け、16万8,000人となった。その後都心回帰により増加を続けて現在の人口となっている。15歳未満の人口は、平成12年まで減り続け、平成17年から増加に転じているが、65歳以上の高齢者人口は一貫して増加している。

文京音頭

サトウハチロー 作詞 細川潤一 作曲

- 1 踊り唄えば 文京音頭ヨー
トコみんなで ブンと来な
若いみどりの 町なみこえて
アーコリャコリャ
西へひびけば 目白の森へ
北へ貫らぬぎゃ 飛鳥山
ブン ブントキナ
ブントキナコリャ
文京音頭で ブンと踊ろ
ブンと踊ろ
(以下囃子言葉略)
- 2 加賀の前田は 百万石ヨー
今じゃ御門に 名をとめる
江戸の残りは かねやすまでと
唄にあるのも ちとうれし
- 3 祭りゃ白山 小日向 氷川ヨー
北野 今宮 根津権現
天祖 八幡 こんにゃくえんま
桜木天神 お富士さま
- 4 踊りおさめた 文京音頭ヨー
あおぐ星空 聖橋
肩をならべて 元町 真砂
さざれ石まで 八千代町
- 5 坂もうれしや 目白の坂は
右と左の 女男坂
たより菊坂 富坂あたり
話まとめる 団子坂
- 6 橋の小桜 石切 江戸川
大滝すぎれば 水稲荷
数え数えて 十七文字に
なるかならぬか 芭蕉庵
- 7 豊島ヶ岡とは どなたがつけた
鳩も緑の 屋根でなく
ひとつひとつと 上ればうれし
寺は護国寺 お富士さま

文京小唄

サトウハチロー 作詞 細川潤一 作曲

- 1 梅の湯島の 天神さまへ
今日も昨日も 願かけた ホニサ
明日の休みにゃ あなたとふたり
そぞる歩きの 六義園
ホニサ ホイホイ
- 2 野球見物 あなたとわたし
胸もはずむよ 後楽園 ホニサ
クリーン・ヒットで重ねた点で
ホットひと息 安藤坂
ホニサ ホイホイ
- 3 ところ本郷 赤門前で
主と見あげる 時計台 ホニサ
風は追分 東か西か
片町あたりに 星がとぶ
ホニサ ホイホイ
- 4 旅の疲れは 本郷でおとき
ひとり菊坂 明け鳥 ホニサ
根津に八重垣 お前の八重歯
思い浮かべる 妻恋町
ホニサ ホイホイ
- 5 主と私は 音羽をこえて
通う台町 胸のうち ホニサ
晴れてそうときゃ 椿山荘で
御披露する夜に 雁がとぶ
ホニサ ホイホイ
- 6 主がおしえる うなずくわたし
春をたたえる 植物園 ホニサ
こがれぬいたは嬉しじゃないか
むかしなつかし吉祥寺
ホニサ ホイホイ
- 7 弥生塚とは どのようなものか
君と調べた 過ぎし春 ホニサ
好きなあの子も 悩みも悔いも
すべて忘れた 茗荷谷
ホニサ ホイホイ

六十年の思い出

30周年記念式典 (S61.1)



文京ふるさとまつり



第25回文京ふるさとまつり (H8.8.5)

第16回文京ふるさとまつり (S62.7.20)



第27回文京ふるさとまつり (H10.8.24)



第27回文京ふるさとまつり (H10.8.24)

町会功労者表彰式 (H9.10)



施設見学会 (H20.9)



(H22.10)



区長退任 (H19.4)



煙山区長退任

区長就任 (H19.4)



成澤区長就任

区議会議員と常任理事との意見交換会 (H25.8)



総 会 (H26.5)



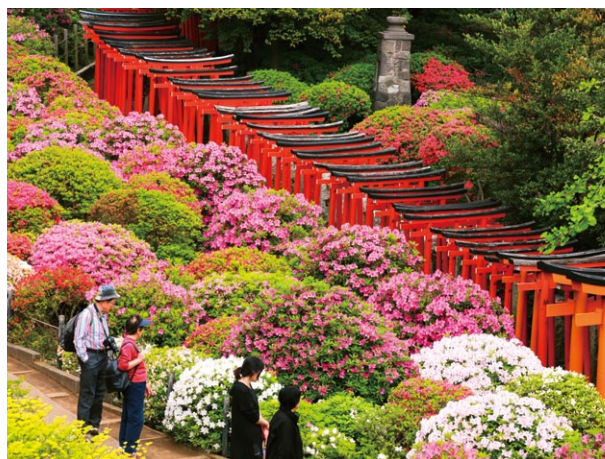
文京 花の五大まつり



文京 さくらまつり



文京 つつじまつり



文京あじさいまつり



文京菊まつり



文京 梅まつり



文京 朝顔・ほおずき市



定点観測写真



源覚寺 (S52)



湯立坂 (S52)



護国寺仁王門前 (S52)



源覚寺 (H24)



湯立坂 (H24)



護国寺仁王門前 (H24)



駒塚橋 (S52)



無縁坂 (S52)



追分交差点 (S52)



駒塚橋 (H24)



無縁坂 (H24)



追分交差点 (H24)



根津神社前 (S52)



団子坂下 (S52)



浅嘉町交差点 (S52)



根津神社前 (H24)



団子坂下 (H23)



浅嘉町交差点 (H24)



文京総合庁舎 (S34)




文京シビックセンター (H6)

町会連合会・区政のあゆみ

謳歌する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 昭和61年度(1986)


4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・区理事者と常任理事との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開条例施行 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女雇用均等法施行
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期総会 ・町会功労表彰 被表彰者174人 ・つつじまつり協賛 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 ・施設見学会（中央防波堤外側埋立処分場、葛飾清掃工場） 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会・ミス文京コンテスト ・朝顔・ほおずき市協賛 		<ul style="list-style-type: none"> ・衆参同日選挙
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人センターオープン 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり本祭典協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の森公園オープン 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・区理事者と常任理事との意見交換会 ・文京ふるさとまつり9地区対抗カラオケ大会協賛 ・菊まつり協賛 	 <ul style="list-style-type: none"> ・文京区地域振興サービス公社設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆大島三原山噴火全島民避難命令
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・出張所長と常任理事との意見交換会 		<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆大島島民全面帰島
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 ・講演会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		

■ 昭和62年度(1987)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・区理事者と常任理事との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・第12代区長に遠藤正則氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄民営化
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期総会 ・町会功労表彰 被表彰者193人 ・つつじまつり協賛 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 ・施設見学会（国立歴史民俗博物館、加曾利貝塚博物館） ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔・ほおずき市協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 ミス文京コンテスト、本祭典 		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		<ul style="list-style-type: none"> ・利根川進氏ノーベル賞受賞（生理学・医学賞）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり9地区対抗カラオケ大会協賛 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京まちづくり指針策定 	

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 昭和62年度(1987)

12月	・出張所長と常任理事との意見交換会	・根津総合センターオープン ・カイザースラウテルン市と姉妹都市提携協定調印	 <ul style="list-style-type: none"> ・青函トンネル開通 ・東京ドーム落成
1月	・新年懇親会	・都市型有線テレビ開始	
2月	・講演会		
3月	・梅まつり協賛		

■ 昭和63年度(1988)

4月	・さくらまつり協賛	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム「みどりの郷」オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソウルオリンピック ・昭和天皇崩御、年号が平成に ・昭和天皇大喪の礼
5月	・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 ・町会功労表彰 被表彰者242人 ・つつじまつり協賛		
6月	・あじさいまつり協賛		
7月	・施設見学会（八王子市役所、多摩御陵） ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会・ミス文京コンテスト		
8月	・朝顔・ほおずき市協賛		
9月	・文京ふるさとまつり協賛 本祭典		
10月	・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会		
11月	・文京ふるさとまつり9地区対抗カラオケ大会協賛		
12月	・菊まつり協賛		
1月	・出張所長と常任理事との意見交換会		
2月	・新年懇親会		
3月	・梅まつり協賛 ・講演会		

■ 平成元年度(1989)

4月	・さくらまつり協賛		<ul style="list-style-type: none"> ・消費税スタート
5月	・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 ・町会功労表彰 被表彰者203人 ・つつじまつり協賛		
6月	・あじさいまつり協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 ミス文京コンテスト		
7月	・文京ふるさとまつり協賛 写生大会 ・朝顔・ほおずき市協賛		

謳歌する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成元年度(1989)

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり協賛 本祭典 ・施設見学会（埼玉県産業文化センター） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京・台東下町まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルリンの壁崩壊 ・衆議院解散 ・衆議院総選挙
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり9地区対抗カラオケ大会協賛 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・出張所長と常任理事との意見交換会 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 		

■ 平成2年度(1990)


4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・湯島高齢者在宅サービスセンター落成式 	<ul style="list-style-type: none"> ・東西ドイツが国家統一 ・雲仙普賢岳噴火 ・湾岸戦争開始
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 ・町会功労表彰 被表彰者191人 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会 ・施設見学会（ガス科学館、葛西臨海水族園） 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり協賛 ミス文京コンテスト ・朝顔・ほおずき市協賛 		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり協賛 本祭典 		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり9地区対抗カラオケ大会協賛 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・出張所長と常任理事との意見交換会 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 		

■ 平成3年度(1991)


4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・第13代区長に遠藤正則氏 ・（財）まちづくり公社設立 ・シビックセンター建設着工 	
----	--	---	--

町会連合会	区 政	社 会
-------	-----	-----

■ 平成3年度(1991)

<p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会功労表彰 被表彰者202人 ・あじさいまつり協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会・ミス文京コンテスト <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（文京区立少年自然の家八ヶ岳学園） ・朝顔・ほおずき市協賛 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり協賛 本祭典 <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり9地区対抗カラオケ大会協賛 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張所長と常任理事との意見交換会 <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 ・講演会 <p>3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと歴史館オープン  <ul style="list-style-type: none"> ・飲料缶・牛乳パックの回収開始 ・中堅ファミリー層向け住み替え家賃助成制度開始 ・文京台東下町まつり <ul style="list-style-type: none"> ・住宅マスタープラン策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センター試験始まる ・東海道新幹線に「のぞみ」登場
---	--	---

■ 平成4年度(1992)

<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会功労表彰 被表彰者208人 ・あじさいまつり協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会・ミス文京コンテスト <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（文京区立湯之谷やまびこ荘） ・朝顔・ほおずき市協賛 ・文京ふるさとまつり協賛ミス文京区内パレード <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり協賛 本祭典 <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム「くすのきの郷」オープン ・障害者住み替え家賃助成開始 ・ひとり親家庭住み替え家賃助成開始 ・毎週土曜日閉庁スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校週5日制スタート
--	---	---



発信する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成4年度(1992)

10月	意見交換会 ・文京ふるさとまつり9地区対抗カラオケ大会協賛	・文京台東下町まつり	
11月	・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛		
12月	・出張所長と常任理事との意見交換会		
1月	・新年懇親会		
2月	・梅まつり協賛		
3月	・講演会		

■ 平成5年度(1993)


4月	・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)文京区福祉公社設立 ・音羽生涯学習館オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・皇太子徳仁親王が雅子様とご成婚
5月	・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 ・町会功労表彰 被表象者208人		
6月	・あじさいまつり協賛	<ul style="list-style-type: none"> ・千石図書館オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・コメが冷夏で凶作、緊急輸入
7月	・文京ふるさとまつり協賛 写生大会・ミス文京コンテスト ・施設見学会(文京区立湯之谷やまびこ荘) ・朝顔・ほおずき市協賛		
8月	・文京ふるさとまつり協賛 本祭典		
9月	・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会		
10月	・文京ふるさとまつりカラオケ大会協賛	<ul style="list-style-type: none"> ・文京台東下町まつり 	
11月	・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛		
12月	・出張所長と常任理事との意見交換会		
1月	・新年懇親会		
2月	・梅まつり協賛		
3月	・講演会		

■ 平成6年度(1994)

4月	・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛		<ul style="list-style-type: none"> ・松本サリン事件
5月	・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 ・町会功労表彰 被表象者199人		
6月	・あじさいまつり協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会		
7月	・文京ふるさとまつり協賛		

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成6年度(1994)

	<p>ミス文京コンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（東京ガス根岸工場・みなとみらい21） ・朝顔・ほおずき市協賛 		
8月	・文京ふるさとまつり協賛 本祭典		
9月	・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会	・文京台東下町まつり	・関西国際空港開港
11月	・菊まつり協賛		
	・写真コンクール協賛		
12月	・宿泊研修会（ごうら荘）		
12月	・出張所長と常任理事との意見交換会		
1月	・新年懇親会		・阪神淡路大震災
	・文京ふるさとまつりカラオケ大会協賛		
2月	・梅まつり協賛		
3月	・講演会(堀田力氏)	・文京シビックセンターオープン(12月)	・地下鉄サリン事件

■ 平成7年度(1995)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 		<ul style="list-style-type: none"> ・青島知事が、世界都市博覧会開催中止を表明
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・区理事者と常任理事との意見交換会 ・定期総会 		<ul style="list-style-type: none"> ・地方分権推進法が成立
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・向丘高齢者在宅サービスセンター（シルバーピア向丘併設）オープン 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつり協賛 ミス文京コンテスト ・施設見学会（文京区立柏学園・布施弁天池） ・朝顔・ほおずき市協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・第14代区長に遠藤正則氏 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつりカラオケ大会協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 本祭典 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 ・町会功労表彰 被表彰者189人 	<ul style="list-style-type: none"> ・天神図書室オープン ・戦後50周年記念文京区戦没者追悼式 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京台東下町まつり 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修会（ごうら荘） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京区立学校適正規模適正配置審議会最終答申 	
1月	・新年懇親会		
2月	・梅まつり協賛		
3月	・講演会(木村庄之助氏)		<ul style="list-style-type: none"> ・北海道豊浜トンネルで岩盤崩落死者10人


発信する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成8年度(1996)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・たつおか在宅介護支援センター開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・第26回オリンピックアトランタ大会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期総会 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京エコ・リサイクルフェア開催（教育の森公園） 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 写生大会 ・区理事者と常任理事との意見交換会 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（千葉県現代産業科学館・サッポロビール千葉工場） ・文京ふるさとまつり協賛 ミス文京コンテスト ・朝顔・ほおずき市協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時相互応援協定締結（石岡市、湯之谷村） ・文京区行政手続条例施行 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・文京ふるさとまつりカラオケ大会協賛 ・文京ふるさとまつり協賛 本祭典 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京台東下町まつり 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民斎場開設 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・町会功労表彰 被表象者166人 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和高齢者在宅サービスセンター開設 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修会（ごうら荘） 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会「歳をとらないための健康管理」（中野昭一氏） 		

■ 平成9年度(1997)


4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・不忍通りふれあい館開設 ・特別養護老人ホーム白山の郷開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法成立
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期総会 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京エコ・リサイクルフェア開催（教育の森公園） 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（多摩六都科学館・江戸東京たてもの園） ・朝顔・ほおずき市協賛 		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとまつり本祭典協賛 		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・町会功労表彰 被表象者168人 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京台東下町まつり 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度改革で、都知事と区長連名で自治省に確認書を提出 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修会（ごうら荘） 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成9年度(1997)

2月	・梅まつり協賛	・制度改革推進文京大会	
3月	・講演会「早期発見でボケは防げる・治せる」(金子満雄氏)		

■ 平成10年度(1998)

4月	・さくらまつり協賛	・統合校の本郷小・本郷台	・特別区制度改革法案成立
	・つつじまつり協賛	中学校が開校	
5月	・定期総会		・参議院選挙(投票時間2時間延長)
6月	・あじさいまつり協賛	・文京エコ・リサイクルフェア開催(教育の森公園)	
7月	・施設見学会(TEPCO新エネルギーパーク・東京湾アクアライン海ほたる)	・巡回型ホームヘルプサービス区内全域で開始	
	・区理事者と常任理事との意見交換会		
	・朝顔・ほおずき市協賛		
8月	・ふるさとまつり本祭典協賛	・文京台東下町まつり	
	・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会		
10月	・町会功労表彰 被表彰者171人		
11月	・菊まつり協賛		
	・写真コンクール協賛		
12月	・宿泊研修会(ごうら荘)		
1月	・新年懇親会		
2月	・梅まつり協賛		
3月	・講演会「教育の現状と課題」(棚橋嘉勝先生)	・地域振興券交付開始	
		・まちづくり公社解散	

■ 平成11年度(1999)

4月	・さくらまつり協賛	・インターネットホームページ供用開始	
	・つつじまつり協賛	・資源環境部設置	
5月	・定期総会	・区長選で煙山力氏が当選	・都知事選で石原慎太郎氏が当選
6月	・あじさいまつり協賛	・文京エコ・リサイクルフェア開催(教育の森公園)	
7月	・施設見学会(横浜ランドマークタワー、麒麟横浜ビアビレッジ)		
	・区理事者と常任理事との意見交換会		
	・朝顔・ほおずき市協賛		
8月	・ふるさとまつり本祭典協賛		
	・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会		
10月	・根津・千駄木下町まつり協賛	・教育の森フェスティバル	
	・町会功労表彰 被表彰者155人		

発信する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----


■ 平成11年度(1999)

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・都心6区区民大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都機能移転に断固反対する国民大会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修会（ごうら荘） 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会「骨粗鬆症を防いで豊かな老後を過ごすために」（中島信治先生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公会堂等落成記念式典 	

■ 平成12年度(2000)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃事業が都から移管 ・小石川と本郷保健所を文京保健所に統合 ・介護保険部を設置、シビックセンター管理部と厚生部を廃止 ・本駒込地域センターオープン ・リサイクルプラザオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・衆議院議員選挙
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期総会 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（丸富製紙株式会社、白糸の滝等） ・区理事者と常任理事との意見交換会 ・朝顔・ほおずき市協賛 		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとまつり本祭典協賛 ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・根津・千駄木下町まつり協賛 ・町会功労表彰 被表彰者151人 	<ul style="list-style-type: none"> ・都心6区区民大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・都営大江戸線開通
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修会（ごうら荘） 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		

■ 平成13年度(2001)


4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム千駄木の郷オープン……………→ ・基本構想答申 ・東京フィルハーモニー交響楽団と協定 	<ul style="list-style-type: none"> ・家電リサイクル法施行
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期総会 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（富士写真フィルム足柄工場、大山阿夫利神社） ・区理事者と常任理事との意見交換会 		

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成13年度(2001)

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔・ほおずき市協賛 ・ふるさとまつり本祭典協賛（この回をもって休止） ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・根津・千駄木下町まつり協賛 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・町会功労表彰 被表彰者137人 ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 ・宿泊研修会（湯之谷やまびこ荘） ・首都移転反対署名 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・出張所を廃止し、地域活動センターを設置 	

■ 平成14年度(2002)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理部発足 ・男女平等センターオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・DV防止法全面施行 ・首都移転断固反対決起集会 ・日韓サッカーワールドカップ 		
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定時総会 				
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 				
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（日産株式会社栃木工場、益子焼陶芸教室） ・朝顔・ほおずき市協賛 ・区理事者と常任理事との意見交換会 				
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 				
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・根津・千駄木下町まつり協賛 ・町会功労表彰 被表彰者131人 				
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・写真コンクール協賛 				
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修会（ごうら荘） 				
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 				
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 				
3月					
				<ul style="list-style-type: none"> ・衛生試験所を廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラク戦争

■ 平成15年度(2003)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃事務所を統合、保育課を新設 ・中学校で学校選択制スタート ・煙山区長再選 ・東京ドーム競輪復活反対 	<ul style="list-style-type: none"> ・石原慎太郎知事再選 ・健康増進法施行
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定時総会 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 		


協働する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成15年度(2003)

7月	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学会（東芝磯子エンジニアリング、石川島播磨重工業、麒麟横浜ビアビレッジ） 朝顔・ほおずき市協賛 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急記者会見 後楽園競輪再開反対対策本部設置 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 区理事者と常任理事との意見交換会 区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> 根津・千駄木下町まつり協賛 町会功労表彰 被表彰者173人 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> 菊まつり協賛 写真コンクール協賛 宿泊研修会（ごうら荘） 		<ul style="list-style-type: none"> 衆議院議員選挙
1月	<ul style="list-style-type: none"> 新年懇親会 		<ul style="list-style-type: none"> 自衛隊イラク派遣
2月	<ul style="list-style-type: none"> 梅まつり協賛 		

■ 平成16年度(2004)


4月	<ul style="list-style-type: none"> さくらまつり協賛 つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> 本郷福祉センター「若駒の里」を開設 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> 定時総会 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> あじさいまつり協賛 都町連20周年記念大会 		<ul style="list-style-type: none"> 参議院議員選挙
7月	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学会（東海原子力発電所、核燃料サイクルアトムワールド、アクワールド大洗水族館） 朝顔・ほおずき市協賛 区理事者と常任理事との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> サイクルステーション事業開始 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 		<ul style="list-style-type: none"> アテネオリンピック
10月	<ul style="list-style-type: none"> 根津・千駄木下町まつり協賛 町会功労表彰 被表彰者162人 		<ul style="list-style-type: none"> 新潟県中越地震発生
11月	<ul style="list-style-type: none"> 菊まつり協賛 写真コンクール協賛 宿泊研修会（ごうら荘） 		
12月		<ul style="list-style-type: none"> 自治基本条例制定 安全安心まちづくり条例制定 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> 梅まつり協賛 		

■ 平成17年度(2005)

4月	<ul style="list-style-type: none"> さくらまつり協賛 つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> 自治基本条例施行 安全安心まちづくり条例施行 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護法全面施行 ペイオフ全面解禁
----	--	---	---

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成17年度(2005)

5月	・ 定時総会		
6月	・ あじさいまつり協賛		
	・ 都町連20周年記念大会		
7月	・ 施設見学会（東京ガス環境エネルギー館、麒麟横浜ビアビレッジ）		・ 都議会議員選挙
	・ 朝顔・ほおずき市協賛		
	・ 区理事者と常任理事との意見交換会		
8月	・ 区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会		
9月		・ 安心メール配信開始	・ 衆議院議員選挙
10月	・ 根津・千駄木下町まつり協賛	・ 施設予約ネットスタート	
	・ 町会功労表彰 被表彰者173人		
11月	・ 菊まつり協賛		
	・ 写真コンクール協賛		
	・ 宿泊研修会（ごうら荘）		
1月	・ 新年懇親会		
2月	・ 梅まつり協賛		
3月		・ 文京福祉センター湯島分館開設	

■ 平成18年度(2006)

4月	・ さくらまつり協賛	・ 交流館開設	・ 障害者自立支援法施行
	・ つつじまつり協賛	・ (財)文京アカデミー始動	
		・ 指定管理者制度導入	
		・ 文京区防災対策条例施行	
		・ 汐見地域センター（地域活動センター・交流館・本郷図書館）開設	
5月	・ 定時総会		
6月	・ あじさいまつり協賛		
7月	・ 朝顔・ほおずき市協賛		
	・ 区理事者と常任理事との意見交換会		
8月	・ 区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会	・ 子育てアシスト文京おかいもの券交付	
10月	・ 根津・千駄木下町まつり協賛	・ 鼓童と協定	
	・ 町会功労表彰 被表彰者131人		
11月	・ 菊まつり協賛		
	・ 宿泊研修会（湯河原 杉菜）		
	・ 写真コンクール協賛		
12月	・ 施設見学会（花王鹿島工場、ウオッセ21）		
1月	・ 新年懇親会	・ 路上喫煙禁止地区指定（飯田橋・水道橋・後楽園・春日駅周辺）	

協働する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----


■ 平成18年度(2006)

2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京区制60周年 ・収入役室を廃止 	
----------	---	---	--

■ 平成19年度(2007)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治法改正により、助役を副区長に改称、会計管理者を新設 ・成澤廣修氏が区長に当選 ・コミュニティバスが運行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・石原慎太郎氏東京都知事再選 
5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・定時総会 ・あじさいまつり協賛 		<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県中越沖地震
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔・ほおずき市協賛 ・区理事者と常任理事との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・くすのきの郷介護報酬不正請求事件により指定介護老人福祉施設等指定取消処分 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会各会派幹事長と常任理事との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地開発公社解散 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（ガスの科学館、江戸東京博物館） 	<ul style="list-style-type: none"> ・くすのきの郷等民営化 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・根津・千駄木下町まつり協賛 ・町会功労表彰 被表彰者91人 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・宿泊研修会（湯河原 杉菜） ・写真コンクール協賛 		
1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 ・梅まつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想実施計画策定 ・地域防災計画改定 ・耐震改修促進計画策定 	

■ 平成20年度(2008)


4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険部を廃止 ・特養、高齢者在宅サービスセンター民営化 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者医療制度開始
5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・定時総会 ・あじさいまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園待機児童緊急対策会議設置 ・路上喫煙禁止地区指定（湯島・本郷） ・教育委員会が学校配置計画（年次計画）を廃案 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国四川大地震
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・文町連と区との相互協力協定締結 		

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成20年度(2008)

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔・ほおずき市協賛 ・区理事者と常任理事との意見交換会 		<ul style="list-style-type: none"> ・北京オリンピック
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・区議会と常任理事との意見交換会 ・施設見学会（つくばエキスポセンター、桜井ぶどう園） 		<ul style="list-style-type: none"> ・リーマンブラザーズが破たん、以降世界同時不況
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・根津・千駄木下町まつり協賛 ・町会功労表彰 被表彰者64人 ・研修会及び懇親会（函徳亭） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ノーベル物理学賞（南部陽一郎・益川敏英・小林誠）、化学賞（下村脩）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・第3次行財政改革推進計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・オバマ氏が第44代米国大統領に就任

■ 平成21年度(2009)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミー推進部新設 ・歩行喫煙等の禁止に関する条例施行 ・目白台運動公園開園..... ・音羽中学校開校 ・定額給付金・子育て応援特別手当支給開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルエンザ世界的流行
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定時総会 	<ul style="list-style-type: none"> ・名誉区民（元区長）遠藤正則氏の区葬 ・「文京区平和宣言」30周年 	<ul style="list-style-type: none"> ・衆議院議員選挙
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつり協賛 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔・ほおずき市協賛 ・研修会及び懇親会（シビック椿山荘） 		
8月			
9月		<ul style="list-style-type: none"> ・産業とくらしプラザ開設 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会（山梨県甲州市甘草屋敷、恵林寺、ワイン工場） ・根津・千駄木下町まつり協賛 ・町会功労表彰 被表彰者74人 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・菊まつり協賛 ・区議会と常任理事との意見交換会 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつり協賛 		<ul style="list-style-type: none"> ・バンクーバーオリンピック

■ 平成22年度(2010)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり協賛 ・つつじまつり協賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動センター機能強化のため、地域活動センター所長を設置 ・真砂中央図書館の除く地区 	
----	--	---	--

協働する時代

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成22年度(2010)

5月	・ 定時総会	館に指定管理者制度導入	
6月	・ あじさいまつり協賛	・ 新たな基本構想策定	・ 小惑星探査機「はやぶさ」帰還
7月	・ 朝顔・ほおずき市協賛	・ 汐見・駒込地域活動センターにふれあいサロンを開設	・ 参議院議員選挙
8月	・ 区議会と常任理事との意見交換会		
10月	・ 施設見学会（茨城県石岡市常陸風土記の丘、筑波山、筑波ハム）	・ シエナ・ウインド・オーケストラと協定	
	・ 根津・千駄木下町まつり協賛		
	・ 町会功労表彰 被表彰者74人		
11月	・ 菊まつり協賛		・ ノーベル化学賞受賞（根岸英一・鈴木章）
	・ 写真コンクール協賛		
	・ 宿泊研修会（湯之谷やまびこ荘）柏崎刈羽原子力発電所、信濃川水力発電所		・ イチロー 10年連続200本安打達成
	・ 区議会と常任理事との意見交換会		
1月	・ 新年懇親会		
2月	・ 梅まつり協賛		
3月			・ 東日本大震災

■ 平成23年度(2011)

4月	・ さくらまつり協賛 ・ つつじまつり協賛	・ 区長選挙で成澤廣修氏再選 ・ 東日本大震災被災地に職員派遣	・ 石原慎太郎氏知事再選
5月	・ 定時総会		・ なでしこジャパンサッカー女子ワールドカップ優勝
6月	・ あじさいまつり協賛		
7月	・ 朝顔・ほおずき市協賛 ・ 研修会及び懇親会（シビック椿山荘）		
8月	・ 区議会と常任理事との意見交換会		
10月	・ 施設見学会（栃木県足利市足利学校、益子焼窯元）	・ コミュニティバス第2路線がスタート	
	・ 根津・千駄木下町まつり協賛	・ 行財政改革推進計画策定	
	・ 町会功労表彰 被表彰者69人		
11月	・ 菊まつり協賛		
12月	・ 写真コンクール協賛		
1月			
2月	・ 新年懇親会		
3月	・ 梅まつり協賛 ・ さくらまつり協賛		

■ 平成24年度(2012)



4月	・ さくらまつり協賛		
----	------------	--	--

	町会連合会	区 政	社 会
--	-------	-----	-----

■ 平成24年度(2012)

4月	・つつじまつり協賛	・江戸川橋体育館新設	・スカイツリー開業
5月	・定時総会	・施設使用料改定	
6月	・あじさいまつり協賛	・森鷗外生誕150年記念事業	
6月	・朝顔・ほおずき市協賛		・ロンドンオリンピック
7月	・研修会及び懇親会（シビック椿山荘）		・山中教授ノーベル賞受賞（医学・生理学）
8月	・区議会と常任理事との意見交換会		
	・施設見学会（神奈川県川崎市東芝科学館、横浜市三溪園）		
10月	・施設見学会（神奈川県川崎市東芝科学館、横浜市三溪園）		
	・下町まつり協賛		
	・町会功労表彰 被表彰者57人		
11月	・菊まつり協賛	・森鷗外記念館開館	
	・写真コンクール協賛		
1月	・新年懇親会		・知事選・衆院選
2月	・梅まつり協賛		
3月		・文京区地域防災計画修正	

■ 平成25年度(2013)

4月	・さくらまつり協賛	・文京総合体育館オープン……	
	・つつじ祭り協賛	・湯島地域活動センターにふれあいサロン開設	
5月	・定時総会	・徳川慶喜没後100年記念事業	
6月	・あじさいまつり協賛		・都議会議員選挙
6月	・朝顔・ほおずき市協賛		・スポーツ祭東京2013
7月	・研修会及び懇親会（シビック椿山荘）		・富士山世界文化遺産登録
8月	・区議会と常任理事との意見交換会……	・カイザーслаウテルン市訪問（姉妹都市提携25周年記念）	・2020年東京オリンピック・パラリンピック決定
	・施設見学会（松戸市・水戸市徳川ミュージアム、戸定歴史館）	・豪雨被害地（津和野市・伊豆大島）に職員派遣	・中国大気汚染（PM2.5）
10月	・下町まつり協賛	・牧阿佐美バレエ団と協定	・東京都知事選
	・町会功労表彰 被表彰者54人		・ソチオリンピック
11月	・菊まつり協賛		
	・写真コンクール協賛		
1月	・新年懇親会		
2月	・梅まつり協賛		

■ 平成26年度(2014)

4月	・さくらまつり協賛		・消費税5%→8%
	・つつじまつり協賛		
5月	・定時総会		
6月	・あじさいまつり協賛		

礪 川 地 区



礪川地区町会連合会

● 昭和53年4月結成

構成町会 24町会	平成26年8月現在
初音町町会	富坂一丁目町会
富坂二丁目町会	春日一・二丁目春睦会
春日町三丁目町会	表町町会
小石川表町会	柳町町会
柳町中央町会	柳町三和会
八千代町町会	戸崎町町会
南戸崎町会	指ヶ谷町会
白山指ヶ谷町会	白山町会
京華通り自治会	春日一丁目仲睦会
春日一丁目大門町会	道和町会
後楽町会	第二後楽園アパート
春日礪川町会	本郷一丁目アパート自治会

歴代会長

初代	酒井 瀧蔵
二代	橘高 智雄
三代	松永 秀三
四代	田代力太郎
五代	鷹田 芳郎

地区町会連合会のあゆみ

昭和20年後半から30年初めまでに文京区礪川出張所管轄区域に25の自治会・町会が結成され礪川地区町会連合会「礪川町連」が組織されました。当初礪川町連は25の町会を地域ごとに10のブロックに分けブロックの代表町会長が一年ごとに地区町連の会長を務め当番制で運営されていました。昭和53年礪川地区町会連合会として会長、副会長、会計、監事、幹事を選出し運営に至りました。

礪川地区とは神田川・武蔵丘陵白山台地・小石川馬場脇を流れる東大下水に囲まれ、中心に小石川大下水(千川)が流れる周辺一帯の地域を総称します。区域の中に水戸徳川家上屋敷(小石川後楽園)小石川菜園(小石川植物園)伝通院・こんにやく閻魔源覚寺等旧跡・古刹が多数見られます。

礪川地区は縄文時代(4,500年前)武蔵丘陵が海に崩れ落ちる沿岸であり、急な崖や浸食された海岸線の入り混む台地と海に流れ込む細流とで成り立っていたと考えられます。

明治10年大森貝塚の発見者である動物学者モース博士の日本における2番目の貝

塚発見場所が小石川植物園本館裏手及び薬草園南側崖面でした。海に流れ込む細流は砂や小石が多く見られ海岸線が引き陸地となり、その丘陵と谷筋一帯の集落を小石川村と呼ぶようになりました。寛政の改革以来出版物の規制を受け衰退した狂歌川柳復活に貢献した小石川村在住の作家文日堂礪川(小石川の漢語表現)に地名の由来が見られます。

時代も下り小石川に生を受けた小説家永井荷風が大正13年関東大震災後大田蜀山人の墓に詣で小石川を散策する随筆『礪川徜徉記』にも礪川の字を当てております。

江戸時代の礪川地区は多くの大名屋敷と寺社仏閣市井の町屋に囲まれた朱引外の静かな山の手です。江戸切絵図から見ると大名屋敷は徳川水戸家、安藤飛騨守、松平豊後守等中屋敷、下屋敷、旗本屋敷が多く見られます。本郷丸山から出火した明暦3年の振袖火事以降江戸市街の都市整備が進み火除地が設けられました。市街地に在る多くの寺院が小石川・本郷・谷中に移されました。礪川地区も明治時代近代化が進み教育機関が多数創設されました。明治6年礪

川尋常小学校が設立したのを始め柳町小学校、指ヶ谷小学校が設立、昭和22年文京区立第三中学校が旧三井邸跡地に創設。公立幼稚園として柳町幼稚園、後楽幼稚園があります。特に柳町幼稚園は平成18年「柳町こどもの森」と名称を変え幼稚園・保育園一元化施設として注目されています。私立学校は中央大学理工学部、付属高等学校、筑波大付属大塚特別支援学校、都立文京盲学校、明治25年創設の淑徳学園（現在名淑徳SC）、明治20年～昭和7年までの跡見学園小石川柳町校舎、私立幼稚園として福寿幼稚園・明照幼稚園があり文の京の名に恥じない環境です。地区の真ん中を流れる千川は昭和9年暗渠化され都道千川通りになりましたが河川の時代には多くの橋が掛ってありました。上流から戸崎橋・一本橋・掃除橋・千川橋・柳橋・嫁入り橋・丸太橋と続きます。こんにやくエンマ源覚寺門前では毎月6日・16日・26日の縁日には夜店が数10件並び大勢の人々で賑わいました。昭和53年礫川地区町連の運営が始まり連合会では事業・研修会・見学会・総会・新年会及び定例会・役員会を開催、文京区青少年対策礫川地区委員会の活動や礫川町連連合事業への支援、成人式・新入学・敬老の日のお祝・緑の日・日本赤十字募金・歳末たすけあいの斡旋等をサポートしております。

礫川地区町連の事業として「文京朝顔・ほおずき市」が有名です。平成26年に29回を数えたこの事業は区民部経済課の指導事業としてスタートしました。入谷鬼子母神、浅草四万六千日での朝顔市、ほおずき市を伝通院、こんにやくえんま源覚寺境内にて一度で開く贅沢な事業です。無量山伝通院から善光寺坂を下り源覚寺迄の道筋は春夏秋冬今日でも江戸の風の香りに包まれ

るパワースポットです。

文京朝顔・ほおずき市は朝顔、ほおずきの販売を柱に地域活性化を目的として毎年7月中旬に開催しております。地区の町会、商店会を中核として立ち上げた文京朝顔・ほおずき市実行委員会及び文京区観光協会を主催団体とし文京区・文京区産連・町会連合会・区商連・商工会議所文京支部・東京観光財団に後援を頂き伝通院、澤蔵司稲荷、善光寺、源覚寺各寺院、跡見学園女子大学、尚美ミュージックカレッジ専門学校、小石川郵便局、富坂警察署、小石川消防署、消防団、山梨県甲州市、群馬県下仁田町、小石川福祉作業所、文京ニュージューランド友好協会、文京三中園芸部等地元のあらゆる組織団体のご協力を頂き小石川夏の風物詩となるまでに育ちました。善光寺坂を繋ぐスタンプラリー、文京区との友好都市による物産店等週末に設定した事業のため駆け回る子供達の歓声で賑わいました。平成20年転機が突然に興りました。

事業を見られる形から見せる形へ、新たな戦略としてダイバーシティ・マネジメントを進め事業のイノベーションに取り組みました。

祭りとしては尚美ミュージックカレッジの学生によるライブ、ヘブンアーティストによるゲリラパフォーマンス、跡見学園女子大学ゼミ生による模擬店、手作りコンニャクの体験コーナー等来場者が参加できる事業を増やしました。

朝顔の販売に関しては販売と同時に変化朝顔の栽培と育成に取り組みました。朝顔は奈良時代薬草として中国より日本に渡来しその花の鮮やかさと朝咲いて昼にはつぼむ潔さから江戸時代人々の心を掴む人気ある園芸草花です。平成22年第25回より新たな事業として小石川善光寺境内にて変化

朝顔の栽培展示を始めました。変化朝顔は文化文政時代江戸浅草蔵前の牛頭大王で開かれた朝顔の花合わせに、変異した朝顔が出品され注目を浴び変化朝顔として江戸・京大阪で広まりました。また嘉永5年小石川牛天神別当龍門寺花合わせに杏葉館(北町奉行鍋島直孝)の名で出品した大輪朝顔は変化朝顔の新たな遺伝子として全国に広まりました。文京朝顔・ほおずき市実行委員会は来場者に鑑賞して頂くと共に研究し育てて頂ける同好者を募集し里親制度を立上げ、多くの方々の参加を頂きました。

地区町会では盆踊り・ラジオ体操会・餅



盆踊り



盆踊り



ラジオ体操会



ラジオ体操会



防火訓練

つき・防災防犯パトロール・成人・入学・敬老の祝・赤十字募金・歳末助け合い運動等積極的に取り組み効果を上げております。また関連団体である文京区青少年対策礪川地区委員会事業に対しても全面的に協力を惜しみません。伝通院山門前をスタートし春日通り、千川通り、吹上坂を上り春日通りに戻る一周3キロを会場とした礪川マラソンは会を重ねる毎に参加希望者が伸び東京都心部での有力な市民マラソンとして注目を浴びております。

平成23年3月に発生した東日本大震災は礪川地区に於いても物心共に被害を被りました。東京での震度5弱の揺れとその後数ヶ月続いた余震は自然災害の恐ろしさを身をもって体験することとなりました。

平成21年避難所運営協議会が礪川地区内に礪川小学校避難所運営協議会・柳町小学校避難所運営協議会・指ヶ谷小学校避難所運営協議会・第三中学校避難所運営協議会の四か所に設立され学校管理責任者及び区職員との連携で震度5強の災害に対処し発災初期の活動体制の組織化を図りました。

平成23年東日本大震災遭遇時に震度5弱にも拘らず地域住民の方々、企業従業員の

方々が多数避難所に身を寄せ、多くの帰宅難民の保護、救済に当たりました。このような状況を踏まえ平成23年11月地域防災計画の修正が行われ臨時災害対策本部の設置と指示により可能な範囲で避難所の開設と運営に対する協力を行うことになりました。

平成25年8月には大原地区との共同にて礪川地域活動センター管内地域にて首都直下型大規模地震発災対応訓練・災害対策本部運営訓練・発災型地震実働訓練等文京区総合防災訓練に参加致しました。

礪川地区町会連合会では設立以来35年町民の住みよい環境と、安心で安全な町を維持する事が目的であると常に考えております。

防災訓練、防犯・交通安全運動、地域浄化、青少年健全育成、文化伝統の維持育成、福利厚生等活発に進めて参ります。

また、町の行事に関しては近隣町会連合にて大規模な事業やイベントを行うための資金やスタッフの相談、企画運営会議室の提供にも積極的に関与して参ります。平成27年3月に完成する新しい礪川地域活動センターを地区町連の中核として今後の35年先を見据えて参ります。



朝顔・ほおずき市



昭和38年2月、白山下都電停留所付近

■ 歴代会長

初代	柿沼 官市 (昭和25年～)	四代	島山 多平 (昭和41年～)	七代	田代力太郎 (昭和62年～)
二代	井村芳之介 (昭和30年～)	五代	吉岡 長造 (昭和48年～)	八代	金子 實 (平成19年～)
三代	吉里 貞雄 (昭和34年～)	六代	前原 政雄 (昭和49年～)	九代	前原 基志 (平成26年～)

町会名のあゆみ

江戸の地誌や社寺、名所の来歴を記す書「江戸砂子」によりますと「小石川の内、寛永元年(1624年)こんにやくゑんま、で名高い源覚寺が開かれ、門前町ができ、明治2年、源覚寺門前町と下富坂西側を併せて、初音町とした。」とあります。

又「白山御殿(元小石川植物園)のあたりは、ほととぎすの名所で、初音の里といわれたのでこれから町名がとられたのであろう。」とあります。当時初音町内の中央を、千川が流れて後年、東部、中部、西部、と区別されましたが中部には、源覚寺、こんにやくゑんまがあり毎月六の日「6日、16日、26日」に縁日が開かれ、東部と西部の両岸を「嫁入橋」「柳橋」が結び、両岸の商店と多くの夜店が並び、たいへん賑わったものでした。源覚寺の境内では、丸太で小屋を組み、いろいろの見世物が出て、大人も子供も楽しんだ思い出が多くあります。

しかし昭和の初期に交通量の増加と大雨による千川の洪水被害のため、暗渠になり、東部が、小石川一丁目、中部と西部が、小石川二丁目、と分かれてましたが、その時の商店も「えんま商盛会」として続いており、

昔からの絆が新しい町の中でもいまだに根付いております。

「大正14年4月1日」「東京市社会教育課」調査「小石川区内の町会名と会員数」「初音町 200」とあります。これは世帯数と思われませんが、「現在は1500世帯以上」、今後も「マンション」の増加と共に会員も増えると思われ当時の面影は年々薄くなり、時代の流れを感じる次第です。

初音町町会は規約の通り会員相互の親睦を図り、町内の福利、文化の向上を目的として活動しており、毎月第1土曜日、町会役員と婦人部合同の定例会を開催し、当月行事の打ち合せをし春・秋の交通安全運動、防犯・防災訓練の参加、成人・敬老の祝品、区報等の配布を行っています。

7月は5町会合同のラジオ体操

8月は朝顔ほおずき市 源覚寺境内で販売、神奈川県大山神社山荘一泊研修

9月 白山神社祭礼、盆踊り大会

10、11月 赤い羽根と歳末共同募金

12月 防災訓練と餅つき大会、歳末警戒パトロール6日間、源覚寺の除夜の鐘の協力、手伝いその他、資源の回収等の活動をしております。



平成23年9月21日 白山神社祭礼



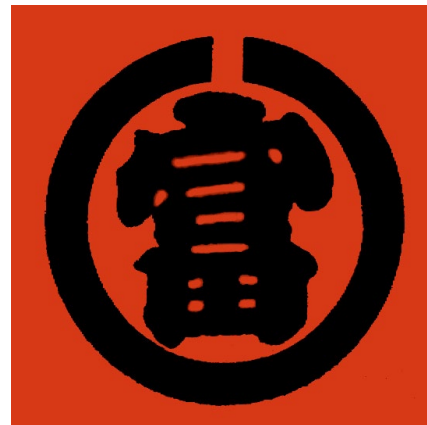
平成24年12月11日 防災訓練と餅つき大会

富坂一丁目町会

● 昭和25年結成

■ 歴代会長

- | | | |
|----|------------------------------------|---------------------|
| 初代 | 有瀧富寿丸
(昭和25年戦後睦会発足、昭和31年町会と改める) | |
| 二代 | 山本富美子 (昭和34年～) | 七代 青木 勇 (平成2年～) |
| 三代 | 小林 為次 (昭和36年～) | 八代 長谷川 武 (平成8年～) |
| 四代 | 岩谷 伸 (昭和48年～) | 九代 仁平 敬一 (平成11年～) |
| 五代 | 吉本 久雄 (昭和51年～) | 十代 宮崎 正男 (平成23年～) |
| 六代 | 奥山 吾介 (昭和56年～) | 会長代行 高橋 将昭 (平成26年～) |

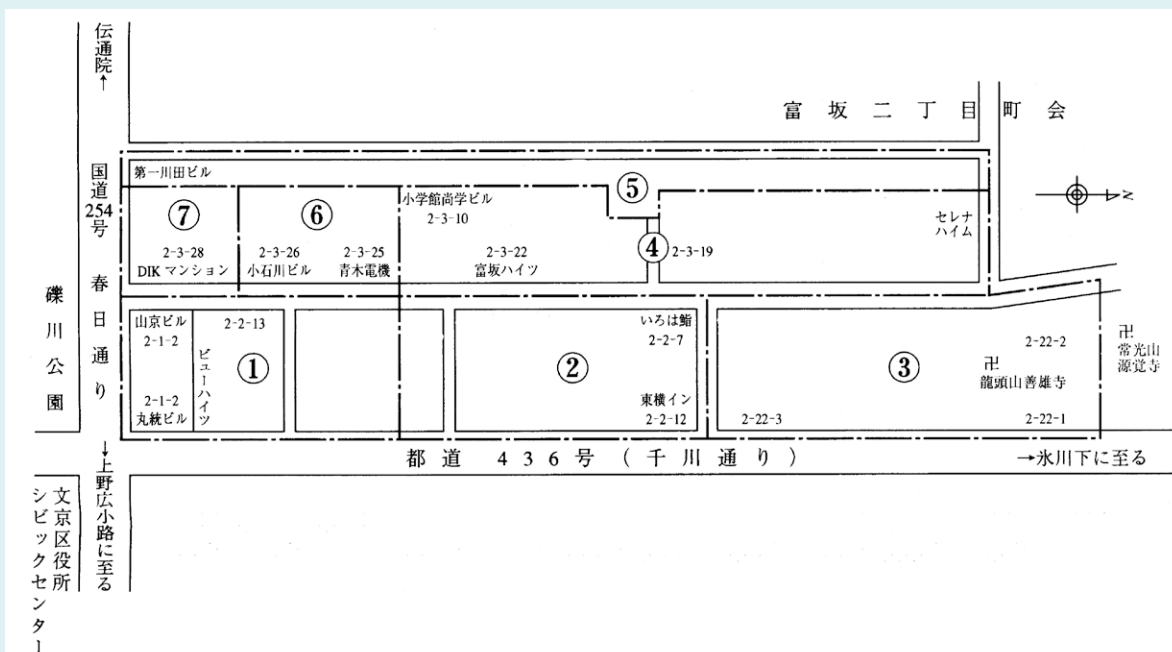


町会のあゆみ

その昔豊かな水に恵まれ静かな町並は明治富国強兵の国策として陸軍砲兵工廠が創立されてにわかに町家の数も増し文字通り商家が立並び、戦前には酒屋2、質屋2、湯屋、駄菓子屋、米屋、本屋、床屋、タバコ屋、魚屋、鍛冶屋、時計屋、薬局、花屋、豆腐屋等生活に必要なものは一応この町の中で用がたりる程の賑わいでした。今次の大戦により焼土と化しその中から力強く立上り街づくりが芽生え、戦後は図書の普及にともない書籍関係の職業が商家にvariety多く

なっています。戦前の下富坂町一部及び餌差町の両町を合併して昭和25年4月富坂一丁目睦会を結成、次いで昭和31年4月富坂一丁目町会として発足しました。

そして現在は、戸建ての家も少なくなり、マンション・商業ビルへと様変わりしてきました。近くには4路線の地下鉄駅があります。この町会を行き交う方も多くいらっしゃいます。小さな町会です。互いに助け合って「綺麗から、安全な町へ」と願って生活しております。



富坂一丁目町会区域別区分画図

■ 歴代会長

初代 富岡 親（昭和24年～ 睦会発足）
二代 福田平次郎（昭和26年～）
三代 富岡 豊太（昭和28年～）
四代 福田平次郎（昭和29年～）
五代 高木英三郎（昭和30年～）
六代 白石 瑛（昭和31年～ 文京区議会議員）
睦会を町会に改称
七代 内田 好保（昭和41年～）

八代 木村孝三郎（昭和44年～）
九代 今井 寅吉（昭和48年～）
十代 木村孝三郎（昭和50年～ 文京区議会議員）
十一代 鈴木 六郎（昭和58年～）
十二代 松永 秀三（昭和62年～）
十三代 小山内 實（平成16年～）
十四代 大友 和夫（平成21年～）
十五代 萬立 幹夫（平成26年～ 文京区議会議員）

町会のあゆみ

明治42年に当時の市会議員であった松井金吾先生の働きによって「上中西富坂町会」として発足する。昭和20年頃に「睦会」と名称を変えたが、昭和24年に「富坂二丁目町会」と改名し、現在に至る。

当町会は文京区のほぼ中央の小石川地区の高台に立地して、近くには歴史ある学校群がある。交通面においてもメトロ丸の内線・南北線の「後樂園」、都営地下鉄三田線・大江戸線「春日」の駅も近く徒歩5分圏内であり、東京、銀座、池袋、新宿、上野に行くのも大変至便である。駅から近いにも拘わらず静かで、近隣の和は深く、高台で住み良い町と言われている。

当町会は毎年いろいろのイベントやボランティア活動を積極的に実施しています。

- リサイクル活動 資源分別回収（新聞・ダンボール・古紙・瓶・缶）を行っています。
- 防犯・防火活動 地域の安全を守るため警察署や消防署主催の講習に参加しています。特に救命活動講習には毎回参加し、AED（自動体外式除細動器）の取扱い資格を取得しています。（女性部員）
- 防災活動 大地震などの災害に備えて、隣接4町会合同による避難所運営会議による「避難訓練」に参加しています。
- 秋の子どもまつり ●敬老祝品の配布
- 春秋の交通安全週間の参加 ●町内旅行
- 年末夜警の実施 ●サマーフェスティバル運営の参加 ●町内清掃 ●礪川マラソン大会運営の参加 ●文京朝顔・ほおずき市運営の参加 他



町会役員



子ども神輿



防災訓練

■ 歴代会長

初代	山中 喜祐 (昭和32年～)
二代	佐藤 松男 (昭和54年～)
三代	古口 晴彦 (昭和60年～)
四代	鈴木 謙三 (昭和62年～)
五代	中藪 康夫 (平成元年～)
六代	谷川 肇 (平成17年～)

町会のあゆみ

春日町一・二丁目春睦会は、現在の本郷一丁目、後楽一丁目の内、その名の示す通り、旧小石川区春日町一・二丁目に当る地域を占める町会です。この町は、由緒ある歴史に富む文京区の中でも、やや小粒ながらユニークな歴史と伝統を持つ町会であります。「春日」の名から明らかな通り、この地域は、徳川三代将軍家光の乳母で大奥最高の権勢を振るった春日の局の旧領地で、局は将軍からこの土地を拝領し、ここに町屋を造りました。現在この町の中央に位する稲荷神社（出世稲荷神社）は、局の土地28坪と小栗猶之丞よりの借地27坪を併せて、局が寄進したということが「御府内備考」に記録されてあります。現在この神社は町会の氏子、総代が一丸となってこれを護持し町の守り神となっていると共に境内は区の公園として活用されておしま

す。この由緒ある「春日」の名が戦後の町名変更により消失したことは残念ですが、本町会の名称「春睦会」にはその名を留め、現住者一同和親協同し、明るく、楽しく、平和な町造りに挺身しています。

さて現在の町会は昭和32年4月に結成以来55年になります。会員は東京電力、東京ドームを含む約35世帯の方々と5つのマンションが加入しています。役員は会長をはじめ18名の方々が各々の役割を担い活動内容は区報及び新聞の配布、花見会、稲荷神社例大祭、初午修祓式、旅行会、餅つき会等町会規約に則り活動しています。しかしながら現在少子高齢化問題等課題をかかえていますが我々町会は出会いを大切にし明るく、楽しい町造りにつとめていきたいとおもっています。



稲荷神社例大祭の神輿



例大祭の緑日風景

■ 歴代会長

初代 萩原 正平 (昭和22年～)
二代 梅津久四郎 (昭和24年～)
三代 横田銀太郎 (昭和29年～)
四代 東條亀之助 (昭和31年～)
五代 中川 好富 (昭和33年～)
六代 高嶋富太郎 (昭和35年～)
七代 能勢 熊 (昭和37年～)

八代 森 貞次 (昭和40年～)
九代 吉崎憲太郎 (昭和51年～)
十代 及川 養吉 (昭和53年～)
十一代 松田 剛治 (昭和63年～)
十二代 諏訪 茂一 (平成13年～)
十三代 杉田 明治 (平成20年～)

町会のあゆみ

住所は「下富坂町」「小石川餌差町」とその名を替え、町会名はその都度変更されましたが、昭和15年4月の千川改修道路拡張整備を機会にその時の住所の「春日町三丁目町会」とされ、昭和39年の「小石川一丁目」への新住所表示後もそのまま使われています。

昭和42年の白山通り道路拡張工事から、地下鉄各線の工事そして最近の大江戸線・三田線連絡工事などまちはいつも工事現場と化し、商業への設備投資が進まず、山手線の内側で地下鉄4線が交差するという利便性がありながらも土地の公示価格が低

く、八王子や武蔵野駅前に比べても下回っています。

なんとか文京区の都市核にふさわしいまちにと、平成11年度よりシビックセンター周辺のまちづくりを考える懇談会が区の主催で行われ、それをきっかけに機運が高まり、平成13年9月に「まちづくり協議会」、平成14年11月に「再開発準備組合」が設立され、平成24年3月に東京都より組合設立認可を受け、同4月に「春日・後楽園駅前地区市街地再開発組合」が船出をしました。

この再開発は小さな権利者が集まり自主的に始まった殆ど例のない開発です。防災



町会現況写真 (©(株)エイエス)

拠点のまち・文の京にふさわしい知のまち・交通結節点をより繋ぎバリアフリー化し利便性の高いまち・都市核にふさわしい賑いのあるまち、このようなビジョンでまちづくりを進め、「胸をはって子供や孫たちに継承できるまち」を目標に、平成29年度の大方向の完成を目指して町会一同で努力しています。

■ 歴代会長

初代	鱈淵高次郎（昭和22年～）	四代	酒井 滝蔵（昭和32年～）	七代	小川 弘（平成15年～）
二代	浪越徳次郎（昭和24年～）	五代	小川 健二（昭和62年～）	八代	清水恭一郎（平成21年～）
三代	山内 信孝（昭和31年～）	六代	田中 四郎（平成3年～）	九代	森田 晴輝（平成24年～）

町会のあゆみ

表町町会の特徴的な行事が『一日だけの文化祭』です。回を重ねるごとに、作品の数も種類も、出品者・出演者も広がりを見せています。展示コーナーには絵画（油彩・水彩・パステル画ほか）、絵手紙、手芸、書道、押し花絵、工作、著作、ガラス工芸、寄せ植えなどさまざまなジャンルの作品が並びます。6歳から97歳と幅広い年齢層からの出品も特徴です。音楽コーナーでは、プロのヴァイオリニストの方の参加や、レーザー光線を使った音楽の披露などもあり、格調高いライブを行っています。また、防

災コーナーを設け、防災への取組を報告したり、個別の相談や質問にも答えています。

表町町会は、町会員が皆安心して暮らせるよう、防災に力を入れています。新年会、バスハイク、ラジオ体操、祭礼、文化祭等、どんな行事にも「防災」のキーワードを絡めるようにして、常にお互いが助け合える関係を作り上げられるよう、親睦をはかるお手伝いをしています。年間を通じ様々な事業を行っておりますが、これらを実践できるのも町内に多数ある環境の整った寺社・学校法人のご協力のおかげです。



絵画部門：高校生の作品も



工作では6歳児も参加



いつもライブは大盛り上がり



防災コーナーも設けました

■ 歴代会長

初代 松苗半次郎（昭和31年～
※昭和41年～昭和43年 秋庭由平会長代行）
二代 浅野 二郎（昭和44年～）
三代 秋庭 由平（昭和49年～）

四代 戸田 源次（昭和61年～）
※平成10年～平成11年 加瀬順一会長代行）
五代 加瀬 順一（平成11年～）
六代 朱宮 正剛（平成23年～）

町会のあゆみ

■ 分離独立の経緯

小石川表町は江戸時代からの古い町で、地形的に伝通院周辺の台地と崖下の上下にわかれ、台地上に住む人々と低地に住み印刷、製本工場で働く人々とは町会の運営に対立することが多く、当時低地を代表して松苗副会長以下当時の幹部が相談を重ねた結果「表町町会」より分離独立して小石川の名前を冠して「小石川表町会」が誕生した。

■ 戸田会長時代

昭和61年1月に会員名簿が作成され、会員222名が登録されている。婦人部の活動としてダンボール、空き缶などの収集が始まりリサイクル運動の先駆けとなった。平成3年頃、町内の消毒作業を行っていたが、健康に害があることがわかり平成12年に中止された。平成9年4月22日に町会創立40周年式典、祝賀会がサテライトホテルで開催された。平成10年3月に40周年記念会員名簿が発行され、会員139名が登録されている。

■ 加瀬会長時代

平成13年11月23日に町会旗新調披露会がホテルダイエーで盛大に挙行された。平成17年3月小石川ザ・レジデンスの建設で、町会域の一部が南戸崎町会に編入され、町会域が東西に分断した。レクリエーション、白山神社祭礼、春秋の交通安全運動、地域防災活動、餅つき大会、年末夜警等が町会の周年行事として確立され、郷土史と町会の位置付け、後継者育成に力を注いだ。平成20年11月1日に創立50周年記念誌が発行され、会員124名（マンションは1件とする）が登録されている。平成21年8月14日に青年部（若葉会）が発足し、町会活動の推進

役を果たしている。

■ 朱宮会長時代

女性役員を配し、若い世代への継承を図る。平成24年度会員は220人（内一般121、マンション99）。

■ 今後の課題

マンション化が進み、下町の情緒も人情も希薄になりつつある。多様に変化する地域や社会環境の中で、柔軟に対応できる町組織をつくりあげねばならない。町会の役割は、青少年の育成、防災、安全安心で住みよい町づくり、お年寄り対策等、行政等との連携がますます重要になっている。



昭和33年6月、入魂式の様子

■ 歴代会長

- 初代 周治松次郎（昭和24年～）
- 二代 山辺 孝二（昭和25年～）
- 三代 中村栄次郎（昭和27年～）
- 四代 鷹田 芳（昭和33年～）
- 五代 鷹田 芳郎（平成9年～）

町会のあゆみ

太平洋戦争の敗戦により、米国GHQの指令で戦時中の町会は、解体され柳町町会も、三つに分割され（現在の柳町町会・柳町中央町会・柳町三和会）私達の住む地区は、簸川神社の氏子の親睦団体、柳親会として生まれ変わりました。

その後、昭和27年に、「元柳町会」、昭和38年8月1日住居表示が改正され「柳町」から「小石川」へ、昭和54年には、町会名は昔のままの「柳町町会」へと変わりました。

当時、この地域は出版・印刷・製本の町として、工業・商業とも活況を呈しておりました。マスコミにも取り上げられました。平成に入り、工業も商業も合理化の名のもとに大型化し、柳町町会も、交通至便の為住宅地と変わってきました。マンションが林立し、町民の過半数がマンションの住民

で占められるようになり、かつての町会のふれあいの度合いは少なくなり現在に至っております。

現在町会行事としては、小学校教育の登下校時のあいさつ指導等、交通安全運動・簸川神社の祭礼や、子供広場の催し防火防災の為の思想普及や訓練の実施、近隣町会と共催のラジオ体操・親子夏休み盆踊り大会等最近は新しい住民も参加するようになりました。柳町町会には、柳町小学校が避難所になっている関係で、防災防火が当町会の最大の課題であります。2011年の3.11の時のような混乱のないように、準備しなければなりません。地域の中心である礪川活動センターの建て替えが決定され、街の安心安全の暮らし達成に多いに希望を持っております。



簸川神社例大祭町会役員・婦人部

■ 歴代会長

初代 小林 英夫 (昭和24年～)
二代 保坂 勝造 (昭和37年～)
三代 山田 泰資 (昭和42年～)
四代 保坂 勝造 (昭和49年～)
五代 早川 一雄 (昭和53年～)

代行 佐々木 総吉 (昭和60年～)
六代 萩原 繁三 (昭和61年～)
七代 川崎 英次 (平成5年～)
八代 小林 由雄 (平成11年～)
現会長 大澤 宏平 (平成18年～)

町会のあゆみ

「白山通りの拡幅で、3分の1の町並みが減少したが、マンション等も増えて、町の様相も変わりつつある。町名の改称は、昭和30年1月に『柳町中央町会』となった。」
(30年のあゆみ 抜粋)

年号も、平成に変わり平成25年を迎えます。その間平成14年～平成17年は、町内各所で高層マンション建設の為の土地、家屋の買収が激しさを増し町内の住民の方たちは一時移転、又は新天地にて生活の場を求める方など様々です。当然のことながら、町内活動は衰退し昭和から平成10年頃までの勢いは影を薄めてしまいましたが、平成21年頃には建築ブームも収まり、一時移転されていた町内会員や商店も戻り、少しずつですが町並みが賑やかになってきました。

当町会の年間行事としては、春・秋の交通安全運動・礪川マラソン・町会連合ラジオ体操・朝顔ほおずき市・夏休み親子盆踊り大会など、町会合同事業のほか、町内新年会・忘年会・日帰りバス旅行・募金活動・年末特別警戒など町内会の親睦・安全に対する啓発に寄与しております。平成23年の東日本大震災以後、町内の防災体制見直し、食料の備蓄も鋭意検討中です。平成24年の第46回総会では、新たに災害時特

別積立金を計上し、万一来に備えております。

近年はマンション居住の方々の参加も増え、新年の餅つき大会・『ふれあい祭』と称した子供中心のゲーム大会などを催すことができるようになりつつあります。2年に一度の簸川神社の祭礼は、残念ながら人員不足のため、平成14年の祭礼を最後に開催されないまま現在に至っておりますが、平成26年の簸川神社祭礼には、神輿巡行を執り行う計画も進めております。今後これらの町内活動を通じて地域コミュニティに寄与し、昔ながらの活気のある明るい、住み良い安全な町、柳町中央町会でありたいと思います。



白山通りから商店街入口を望む

柳町三和会

● 昭和30年4月再発足

■ 歴代会長

〈柳町三和会、再発足〉(昭和30年4月)

初代 林 文助(昭和30年～)

二代 中尾 末吉(昭和35年～)

三代 霜鳥徳次郎(昭和49年～)

四代 石原 正作(昭和55年～)

五代 中尾 泰一(平成16年～)

六代 市村 一雄(平成16年～)

七代 ニノ宮一夫(平成22年～)

町会のあゆみ

明治の末に発足した柳盛会が大正初年に三和会と改称、同8年には今我々の見る神輿を新調した。戦後GHQの命令で表向きは解散したが、柳講→柳町協力会の名で存続し、昭和30年4月に本来の名で再発した。なお、名称は柳町の24・26・29の三つの番地の集まりであることを表す。

この土地は明治維新前は武家地であったがその後一時水田となり、明治20年頃には再び宅地となり、40年頃白山通りが新設され次いで電車も開通した。その後表通

りは商店街、奥は町工場や住居の多い状態で関東大震災も戦火も免れて来た。昭和39年、白山通りを境に小石川1と西片1に二分され、のち白山通りの大拡幅で西片側の戸数が半減し、更に平成12年11月の再開業によるエルアージュ小石川の出現で町内は大きく変貌したが町内会の絆は今も健在である。

平成15年、84年経った大神輿を修理し、20年には山車の修理も行なった。防災防犯関係では、20年4月に防犯パトロール隊が発足し、24年春の防災コンクールでは2位入賞を果たした。厚生方面では旅行や芸術鑑賞のほか19年から播磨坂で観桜会を始め、22年5月からは月例昼食会のニコニコ会が加わり、24年12月、10年ぶりに会員名簿を発行した。また柳町小学校を会場にラジオ体操・親子盆踊りを近隣町会と共催し、朝顔ほおずき市・サマーフェスティバル・礪川マラソンにも協力している。



町会旅行 忍野ベリーランド(平成25年7月)



防災コンクール3位入賞(平成25年3月)



山車と子供みこし(平成24年9月)

■ 歴代会長

- 初代 加藤 清作 (昭和28年～)
- 二代 田中清太郎 (昭和36年～)
- 三代 中島 信明 (昭和60年～)
- 四代 船田 幸男 (平成5年～)
- 五代 上田 武司 (平成17年～)

町会のあゆみ

現八千代町町会の前身は、寛文3年(1663)に伝通院境内の清掃を奉仕とする人達16名が、徳川家より世襲の権利と、土地家屋を拝領したのが始まりであり、江戸時代は「掃除丁」と称したが、明治2年「掃除町」と改め、明治5年には築地馬場(小石川馬場)と云う土地と合併して、「小石川伝通院掃除町」と改称された。

大正14年「掃除町」から「八千代町」に改称された。改称の理由は諸説あり定かではないが、国歌「君が代」から八千代をとって「八千代町」と命名したとも言われている。

終戦後「八千代会」が設立され、その後昭和28年現在の「八千代町町会」が結成され現在に至っている。

昭和39年8月1日住居表示が法令により改正され住居表示から八千代町と云う名称

が消えたが、町会名は昔のまま現在も「八千代町」を使用している。

現在、八千代町町会は「安心で安全でより住みよい町会」をモットーに町会長を中心に全役員が町会運営に努力しております。

平成18年には発起人10名により八千代町青年部を正式に立ち上げ平成24年現在19名に拡大町会親睦会、祭典等に重要な役割を占めるに至りました。

以下年間の主な活動状況は、各種会合の開催、慶事行事、防災・防犯活動、交通安全活動、青少年対策活動への協力、レクリエーション等福利厚生活動、祭典の実施、募金活動、資源回収リサイクル活動、児童公園管理活動、盆踊り・ラジオ体操・各行政機関・渉外団体との連絡・協調等積極的に活動しております。



平成26年秋季例大祭



八千代町神輿

■ 歴代会長

初代 小泉 輝章 (昭和27年～)
二代 北川作次郎 (昭和29年～)
三代 山内 吉雄 (昭和30年～)
四代 小島 金次 (昭和47年～)

五代 戸波 順 (昭和57年～)
六代 堀内 實 (平成2年～)
七代 原 武久 (平成21年～)

町会のあゆみ

戸崎町町会は、小石川植物園の南に隣接し、高台の住宅地域と低地の商工地域に分かれ、かつては、共同印刷を中心とした印刷製品業者が密集し活気を呈していた。しかし、昨今の紙文化の衰退で町内も様変わりし住宅地帯に変貌してきている。又、75歳以上の人口が310名となり、高齢社会が現実のものとなりつつある。

■ 祭礼

当町会は、簸川神社の氏子町会で隔年に大祭が執行され、子供神輿、山車が繰出されるが、四年に一度は大神輿が渡御し盛大を極める。

■ 町会員を対象とするレクリエーション

毎年、何らかの行事を行っているが、歳末に町民融和のふれあい餅つき大会が是照院境内で行われ、ついた餅は皆に配給し楽しんでいる。

■ 防犯交通に関する行事

特に、春秋の交通安全運動には、全町会役員が総出動し協力している。

■ 防火、防災、防犯に関する行事

この行事については、初代会長以来活発な運動を展開しており、防災訓練については、町内を対象として11の地区に分け、全町民参加を目標に、初期防火訓練の徹底を期し、路地裏浸透作戦を行っている。その他、礪川地区町連、小石川地区町連、文京区総合訓練等の各種防災訓練にも積極的に参加協力している。特に、防火防犯の高張提灯を町内7か所に設置し安心、安全の街づくりに好評を博している。

■ ラジオ体操

7月下旬から8月上旬にかけて町会主催で念速寺境内にて2週間程行っている。

■ 盆踊り

隣接五町会共催で、8月下旬に2日間行っている。

以上の諸行事の外、数多くの行事を全町会員、役員一丸となって活発に行っている。



簸川神社御祭禮 平成24年9月8日～9日

■ 歴代会長

初代 大熊 整 (昭和25年～)
二代 田辺 三郎 (昭和51年～)
三代 大橋 耕作 (昭和54年～)
四代 佐藤 義久 (昭和59年～)

五代 佐藤 忠司 (平成10年～ 会長代行期間11ヶ月)
六代 境入 眞致 (平成16年～)
七代 金子 幸廣 (平成20年～)
八代 山岸 芳雄 (平成26年～)

町会のあゆみ

小石川3丁目（一部4丁目にかかる）にある南戸崎町は、町の中央にある小石川無量院を中心に古くから門前町として開け栄えてきた町と思われます。小石川無量院は開山慶長19年と記され、江戸時代からの記録にも残る寺院です。

南戸崎町会は、昭和25年4月、大和会（現戸崎町会）から分離する形で誕生しました。共に簸川神社を氏神とし、祭での協力体制を維持し続け、昭和31年に、2年ごとの大祭に神輿の渡御を行い、費用は都度均等に分担することを正式に決定。現在も互いに協力しあう関係が続いています。

町は第2次大戦下、昭和20年5月25日の空襲による火災に見舞われました。戦後近隣地区と同様に、製本・印刷業の町として発展し、住宅・工場・商店が共存する下町らしさを備えた町となっていました。

バブル期以降は都心の地価高騰により、工場の地方移転や大型マンションの建設などが進み、我が町の表情も時代と共に変わっていきます。治安と教育が高水準の都心のオア



簸川神社大祭神酒所前にて御神輿

シス・文京区は住宅需要が更に増え、新規住民の参入も多く、新しいコミュニティが必要になってきていると思います。

まだ始まったばかりですが、当町会ではインターネット上に『南戸崎町会』のFacebookページを立ち上げました。活動や町会からの連絡や会員同志の情報交換や親睦などが図ってゆけたらと考えております。ぜひ、ご覧になって下さい。

歴代会長は、町会の人々の和を広めて親睦を深め明るい町造りに努める、を町会役員の目的として、特に防災と青少年の育成に力を注いできました。今後も安心して住み心地の良い町であるように、町会としてお役に立っていきたくております。

そして、多くの会員の皆さんにも気軽にご参加いただける町会であるようにと願っております。



2012年7月ハワイアンズへバスの旅

指ヶ谷町会

● 昭和20年9月結成

■ 歴代会長

初代 浦部 武夫 (昭和20年～)
二代 高柳 進 (昭和49年～)
三代 市川 勇次 (昭和56年～)
四代 清水 巖 (昭和60年～)

五代 菊地 栄造 (平成3年～)
六代 豊島 賢一 (平成7年～)
七代 小澤 一雄 (平成17年～)
八代 豊島 弘江 (平成23年～)

町会のあゆみ

町名は徳川三代将軍家光が鷹狩りに来た折りに「あの谷も遠からず人家が出来るであろう」と指し示されたことに由来します。

現在の当町会の活動は、歳旦祭に始まりラジオ体操会・白山神社のご祭礼・レクリエーション・防火防災訓練の実施・餅つき大会・歳末夜警等、年間を通して地域のコミュニティづくりに積極的に取り組み、安全安心の町づくりに貢献すべく努力しております。また、その努力の成果として、数々の団体表彰・個人表彰も頂くことができました。中でも、毎年実施される文京区（小石川地区）の防災コンクールにおいて3連覇の偉業も成し遂げました。これもひとえに地域防災の重要性を認識し、積極的に訓練を励行した成果と言えましょう。

「指ヶ谷」の町は、昔からお互いが支え

あう人情豊かな住みよい町です。この伝統はこれからも引継いでいかれることと思います。決して現状に満足せず、創立100周年に向って、更に絆や連帯感を深めるべく、邁進していく所存です。



～90周年の輝かしい歴史と絆を大切に更なる発展を目指す～
(平成23年2月6日 後樂園飯店にて 町会役員スタッフ一同)



「重厚にして華麗」な町内大神輿が白山通りを渡御



“備えあれば憂いなし” 町会主催防災訓練に積極的に参加
(指ヶ谷小学校校庭にて)

■ 歴代会長

- 初代 齊藤喜一郎（昭和24年～）
二代 橋高 智雄（昭和43年～）
三代 野上 年定（平成14年～）
四代 橋高 智光（平成18年～）

町会のあゆみ

この町会は、蓮華寺坂、薬師坂、浄心寺坂の三坂が落ち合う白山下にあり、礪川町会連合会に所属する。隣接には指ヶ谷町会、京華通り自治会、白山町会、丸山新町町会、上御殿町会がある。白山通りを挟んで、四丁目側は住宅地域であり、店舗の数は少ない。一丁目側は「白山下商店会（仲通り商店街）」を擁する商業地域であり、その奥に住宅地域も控えている。この道路両岸の異なった地域住民の交流と融和を図り、平和で明るく清潔な住みよい町作りをモットーにして、公平で公正な予算編成によって、地域防災、防犯、文化交流、地域福祉、商店街の活性化、地域住民の健康増進等に、役員、住民が力を合わせて町会活動を運営している。

町会の主な年中行事は、正月の白山神社初詣会を皮切りにして、町民による新年会、

成人祝い、新入学児童に入学祝品の贈呈、春秋の交通安全運動、防犯防火パトロール、毎月1回の有価ゴミ収集、夏休み親子ラジオ体操会、9月の白山神社お祭礼と町内盆踊り大会、敬老の日に祝品の贈呈、10月の文化部バス旅行、指ヶ谷小学校避難所運営訓練、街角防災30訓練、年末及び寒中に行う夜警、冬の炊き出し訓練、年3回の共同募金活動、6月の白山神社境内の文京あじさいまつりに協力、町内女性部による福祉奉仕活動、等々である。

町内西側の蓮華寺坂のわきには、日蓮宗蓮華寺がある。山岡鉄舟の山岡家先祖代々の墓、元文部大臣森戸辰男氏の墓、清水次郎長伝で一世を風靡した浪曲師広沢虎造師の墓等もあり、境内には文京区保護樹木指定の、樹齢300年を超えた大銀杏が天を衝き、町内の名所となっている。



防災訓練



ラジオ体操

■ 歴代会長

初代	赤池	一	(昭和24年～)
二代	緒方	聖雄	(昭和45年～)
三代	小山	衛	(昭和53年～)
四代	緒方	聖雄	(昭和60年～)
五代	福島	忠義	(平成6年～)
六代	町田	博夫	(平成14年～)
七代	太田	康夫	会長代行(平成26年～)

町会のあゆみ

白山町会は、白山坂(薬師坂)を挟んで、中腹から東西に広がる地に位置し、往時より東側の八百屋お七の墓のある円乗寺、西側の浄土宗心光寺の門前町として発展してきた。町内に都営三田線の白山駅があり、朝夕の通勤通学時には文字通りのラッシュとなり、町会は小なりといえども内容は豊富で、町内の繁栄も白山下唯一のものと自負している。

町会の年間行事としては、町民をあげての新年初詣から始まり、成人の日。新入学児童には祝い品を贈り、小学生以下には五月の節句にも祝い品を贈呈している。年二回の町会のレクリエーション。敬老祝い。春秋の交通安全運動。防犯防火運動。歳末の夜警には特に力を入れ、各種募金活動等、町をあげての行事協力は、地域の他町会との連携を保ちながらも、ひと味違った努力

を積んでいる。白山下の繁栄は、白山町会からと町民一丸となって邁進している。



白山坂(薬師坂) 全景



浄土宗心光寺



円乗寺にある八百屋お七の墓

■ 歴代会長

- 初代 川辺 次平 (昭和28年～)
- 二代 清水 貞雄 (昭和43年～)
- 三代 寺田 勝 (昭和58年～)
- 四代 齋藤 勝夫 (平成2年～)
- 五代 古屋 正貴 (平成12年～)
- 六代 綿貫 栄雄 (平成16年～)
- 七代 大野聡一郎 (平成24年～)※副会長

自治会のあゆみ

昭和20年代においては、川端自治会と称し、町会と商店会を兼ねた地域活動を行っていたが、戦災と強制疎開のため大半の住民が四散してしまった。終戦後24、5年頃から商店や住宅ができ、商店会と町会に類する団体活動が始まった。

昭和28年、白山神社祭礼協賛のため、商店会が中心となって子供神輿の製作をきっかけに町会が正式に発足して、川辺治平氏が初代会長に就任した。

名称については、大正時代から隣接地に存在していた京華学園の磯江理事長及び肥田理事等と懇談の上、「京華通り自治会」と命名した。

約200世帯ほどの町会であるが、協調と連帯をモットーに次のような活動をしている。

- 一、厚生と福祉に関する事業
- 一、交通安全対策に関する事業
- 一、青少年問題対策についての事業
- 一、防犯及び防火に関する事業
- 一、保健衛生全般に関する事業



越中おわら



防災訓練



白山神社祭礼

■ 歴代会長

- 初代 白木 亀吉 (昭和28年～)
二代 白木徳之助 (昭和35年～)
三代 平井 宥慶 (平成11年～)

町会のあゆみ

町名は、この町会通りの西側を住居表示変更以前「(小石川) 仲町」といったところからきた。今の三中裏門部分、道路端から40m弱は仲町の土地である。体育館沿いも仲町であった。大塚にも仲町があったので、こちらには「小石川」をつける。

住居表示改正前、仲町通り東側は小石川町と表した。小石川町は後樂園に面する通りまで含まれたが、仲町通り沿いの住民の生活範囲は、そちらとは全く切れていて、こちら仲町なので、町会組織設立と共に、仲睦会となり、今に至る。即ち当町は、関東武蔵野台地が東に伸びた先端の一つ小石川台の突端に位置し、後樂園の地面とは相当の高低差があるところに存在する。高い土地にあるのだ。それがここまで小石川町と表したのは、考えるに、水道橋の角から仲町に接するここまで占めていた水戸屋敷が明治政府に没収されて以後、ここには砲兵工廠が造られ、分割されず一区画を保った。これを一つに表記して小石川町としたのではないか。お蔭で、ここ後樂園から遠地の高台に住む人々の住所も小石川町と

なった。

その砲兵工廠の裏門が、仲町通りに面して有ったという。今の第五方面本部の入口のところだ。それで人の出入りが激しく、仲町通り入口に公衆便所があるのはその所為である。この砲兵工廠に、明治37年？大暴発事故があった。そのとき、常泉院・西岸寺は、大勢の死傷者を収容し、救済したという。交通網の発展とともに輸送に便あるところへ移動して、小倉に行ったと聞く。

何で「仲町」とついたか、水戸黄門さまが諸国行脚から還り、このあたりにまで着いたとき、ここは何処か、と問うに、中頃です、と応えたものがあって、仲町と付いた、こんな面白い(ひと口)話が古老によって語られてきた。そういうわけで、当町会は決して大きくないが、徳川御三家の水戸殿と縁故ある由緒正しい町会、として、これからも誇りを以て維持していく所存である。



町会中央部から北側



町会中央部から南側

春日一丁目大門町会

● 昭和45年5月結成

■ 歴代会長

初代 佐藤 光信 (昭和45年～)
二代 吉川 晴通 (昭和53年～)
三代 岡田 守弘 (平成元年～)
四代 吉川 晴通 (平成2年～)
五代 鈴木 一郎 (平成13年～)
六代 小手森政喜 (平成17年～)

七代 金井 均 (平成19年～)
八代 吉倉 秀子 (平成21年～)
九代 柳沼 愛子 (平成22年～)
十代 實方 正子 (平成24年～)
十一代 白石 英行 (平成26年～)

町会のあゆみ

春日大門町会は、東は中央大学（春日一丁目仲睦会）・西に安藤坂（旧大門町会）・南に区立第三中学校（道和町会）・北に富坂警察（表町会）に面し、約120mの区道を挟んで構成された、最も小さな町会です。

古くは、小石川村で伝通院前白壁町（白壁造りの家屋が多く、現在の当町会）と陸尺町（伝通院役夫の住居）と称し、慶長七年（1602年）伝通院寺領町屋となりました。明治2年（1869年）には、両町が合併し、伝通院の大門に近いことから、「大門町」と称しました。

その後、大門町（現在の表町に合併）と春日一丁目大門町会に分かれ、地域力を高めて参りました。

1990年代から、ご商売をされていた方々の閉店と共に、新たな共同住宅ができたものの、少子高齢化が進みました。しかし近

年では、更新された住居での年少人口が増えると共に、町会に参加される次世代の方も増え、廃止された各事業に対し、新たな親睦事業の提案・構築がなされているところです。

また「第三中学校避難所」に隣接する町会として、地域力を高め、「安心で安全」で「愛着あふれる町」であるように、会員みなさんで楽しみながら、歩んでいます。



防災コンクールでは、優勝狙っています



緑多い町の為に、玄関先清掃をしています



町会の情報発信局「掲示板」を新設しました

■ 歴代会長

初代 荒井 直吉（昭和34年～）
二代 内野栄五郎（昭和38年～）
三代 谷口栄太郎（昭和41年～）

四代 秋葉 邦雄（昭和50年～）
五代 荒井 秀雄（平成2年～）
六代 大森 道昭（平成24年～）

町会のあゆみ

■ 史跡・文化

道和町会は安藤坂の中央部の両側及び巻石通りの金剛寺坂入口から後楽園付近までの両側住人で春日1.2丁目後楽1丁目及び水道1丁目で構成されています。安藤坂は坂の西側に安藤飛騨守の上屋敷があったことから名づけられました。巻石通りは内堀の大名屋敷及び本町、町屋に給水するため、目白台下の関口大洗堰で流れをせきとめて、水位を揚げ開渠の水道で神田上水と呼ばれていました。明治の初めにこれを暗渠とし道路にしたのが巻石通りであります。

町内の東側丘陵に1184年、源頼朝の発願によるという北野神社があります。安藤坂の中央部の東側に萩の舎の旧跡があります。この萩の舎の門人には梨本宮妃や樋口一葉がおり、塾主である下田歌子の歌碑が北野神社にあります。

■ 町会の活動

当町会には商店等はほとんどなく、地味な町会で、個別住宅の住人も少なくアパート、マンションの住民が大多数です。

独自の活動

納涼大会 8月の終わりに近い土曜日に北野神社の境内に模擬店を設営しポップコーン、かき氷、ビール、焼き鳥、焼きそばなどを販売しています。

バス日帰り旅行 大型バスで2年に1度、会員を対象に5月中旬の日曜日に行っています。

お祭り バス旅行を行わない年に子供の山車を町内で引き回します。

北野神社行事のお手伝い

12月31日 お焚き上げ
1月1日 新年参賀
2月中旬 献梅祭

礪川地域活動センター関連のお手伝い

朝顔・ほおずき市
礪川マラソン大会
サマーファミリーフェスティバル

富坂警察署・小石川消防署への協力

富坂防犯協会の会員・小石川防火防災協会の会員として警察署・消防署ご指導のもと、町会会員の防犯、交通安全、夜警、防災防火などの知識普及に役立っています。

震災災害への備え

東日本大震災は想定外の被害が発生した。町会の防災対策としては自助・共助の取り組みが必要と考えております。

道和町会は第3中学校が避難場所として指定されており、町会員も避難場所の区民防災役員として活動しております。この避難場所は町会員だけでなく、近隣住民、帰宅困難者に対して数日間の避難場所を提供することとなっております。

その他の活動

小学校入学児童のお祝い品、敬老のお祝い品の贈呈。夏休みラジオ体操、春及び秋の交通安全運動、年末の夜警など町会員福祉と親睦を図っています。



納涼大会

■ 歴代会長

- 初代 染谷 盛一（昭和29年～）
- 二代 小笠原政和（昭和55年～）
- 三代 寺崎作治郎（平成4年～）
- 四代 荒川 誠一（平成12年～）
- 五代 武澤 房吉（平成21年～）
- 六代 組橋 孝幸（平成24年～）
- 七代 篠崎紘治郎（平成26年～）

町会のあゆみ

後楽町会の町会員数は約800世帯と東京ドーム、ドームホテル、トヨタ自動車、五洋建設、住友不動産、鹿島道路、富士通ビジネス、23区特別競馬組合等の多数の大手企業も町会員に加入して下さり多方面の支援と協力を頂いて町会活動の一助になっております。

日本赤十字社の共同募金をはじめ歳末助け合い運動募金、みどりの募金、文社協助け合い募金等各種募金活動を後楽町婦人部を中心に積極的に行っており大きな成果を上げ募金活動に貢献しています。

町会員相互の親睦を図る為、毎年夏休み最後の休日に、町会主催の日帰りレクリエーションを貸し切りバス3～4台で約150名の町会員の参加を得て実施しています。因みに平成24年8月のレクリエーションは東日本大震災の被害地でもある福島県を応援する意味合いも含め、いわき市のスパリ

ゾートハワイアンズでプールで泳いだり、フラダンスを見たり、買い物したりして楽しい1日を過ごして親睦を図りました。

後楽町会として行政等の支援を受けず町会独自の費用負担で防犯活動の一環として町内5か所の主要の場所に富坂警察署生活安全課の指導と協力により防犯カメラの設置、作動させ犯罪発生を抑止と事件、事故等の調査に役立て町会員の安心、安全に寄与しております。



「夏のレクリエーション」役員集合写真（平成24年8月26日）



防犯カメラ作動始め式（平成23年7月22日）



第二後樂園アパート

● 平成元年結成

■ 歴代会長

初代 丸岡（平成元年～）
二代 岡部（平成2年～）
三代 石掛（平成3年～）
四代 吉田（平成4年～）
五代 梶田（平成5年～）
六代 岡部（平成6年～）
七代 渡辺（平成8年～）

八代 梶田（平成9年～）
九代 三上（平成10年～）
十代 岡部（平成11年～）
十一代 芝田（平成12年～）
十二代 梶田（平成13年～）
十三代 岡部（平成15年～）
十四代 石掛（平成21年～）

自治会のあゆみ

旧小石川自治会は平成元年に第二後樂園アパートとしてリニューアルしました。

昔は空地が多くありましたが、現在は南に東京ドーム、北に後樂園駅、東にラクーア、北東にシビックセンターという、後樂園のど真ん中にあるイメージです。

昔を知らない人はなんでこのような場所にアパートがあるのが不思議に思えるでしょう、実は戦後この地は多くの人が入居していました。東京オリンピックを境に移転を余儀なくされ、残った建物が第二後樂園アパートとして現存しているのです。

昭和30年頃には、今のシビックセンターの場所は空地で盆踊りの大会などをやっていた記憶があります。

この地域の子供は礪川小学校から文京三中に進学するのが普通で、貧しかったけれど頑張れば豊かになれるような希望がある時代でした。

会長は2年満期で交代し協力してきましたが、居住者が変わりいつの間にか自治会の参加者も決まった顔ぶれになり、長い間岡部さんが会長を引き受けてくれました。その後、岡部さんは高齢のため引退し、現在は石掛が会長を務めています。

自治会として消防訓練などをしていましたが、今年は伝通院の朝顔・ほおずき市に参加して活動の一步を踏み出しました。

皆様が健康で楽しく毎日を過ごし、長生きできたら幸いです。



アパート近くの後楽学園（幼稚園）昭和30年頃



メトロエムもラクーアもない頃のアパートから見た後樂園遊園地の景色

春日礫川町会

都営後楽園第一アパート 東京都文京区春日1-15-9

● 昭和35年4月結成

■ 歴代会長

- 初代 太田 音吉 (昭和35年～)
- 二代 檜山 勉 (昭和53年～)
- 三代 大沼 文雄 (昭和57年～)
- 四代 檜山 勉 (昭和61年～)
- 五代 瀬尾 マサ (平成11年～)
- 六代 杉内キミヨ (平成21年～)
- 七代 佐伯 領二 (平成23年～)

町会のあゆみ

昭和33年(1958)建設、昭和35年『春日礫川町会』は発足しました。戦後の住宅事情に伴い建てられた木造一戸建の集合住宅に変えての鉄筋コンクリート6階建。1階の8店舗を除き、32戸の2Kアパートです。昭和29年、地下鉄丸ノ内線池袋～御茶ノ水間が開通し、昭和39年礫川公園が造成されました。春日通り富坂下交差点角の素晴らしい住環境です。

平成11年、文京シビックセンター竣工、都営地下鉄大江戸線と三田線、営団地下鉄

南北線の開通と、文京区の中心的位置となりました。

築後54年を経、老朽化と住人の高齢化など、現在は居住22世帯の小さな町会です。



眼下に礫川公園を、その右下が当アパート。遠望中央やや左に富士山を眺める。左に広がるのは小石川後楽園。(文京シビックセンター25F展望ラウンジより)



春日通り[春日局之像]辺りより、当アパートと文京シビックセンター

本郷一丁目アパート自治会

● 昭和49年結成

■ 歴代会長

会長 平 稔 (昭和49年～)

副会長 春田 戌

自治会のあゆみ

昭和49年に交通局ビル完成の折、99世帯が入居して同年に自治会として発足。55年より春田、松井両氏が副会長となる。近隣の住民の皆様との和をモットーとして組織された。



水道橋方面



春日・小石川・本郷をつなぐ春日町交差点



アパート隣の緑地からシビックセンターと講道館を望む



真砂坂から本郷方面を望む

大原地区



小石川植物園入口

大原地区町会連合会

● 昭和41年1月結成

白山前町町会	原町町会
原町西町会	東御殿町会
白山御殿町睦会	上御殿町会
小石川五丁目互楽会	林町町会
林町南町会	丸山町会
氷川下町会	大原町会
宮下町会	西丸町会
駕籠町会	西原町会
一般社団法人大和郷会	

■ 歴代会長

初代	水上 孝正 (昭和41年1月～昭和41年4月)
二代	葛岡吉之助 (昭和41年5月～昭和48年3月)
三代	宮山 秀治 (昭和48年4月～平成8年5月)
四代	田上 秀夫 (平成8年5月～平成11年4月)
五代	本橋 徹哉 (平成11年5月～平成15年8月)
六代	小林 信男 (平成15年9月～平成19年4月)
七代	浅利 幹郎 (平成19年5月～平成23年11月)
八代	田上 侑司 (平成24年5月～)

地区町会連合会のあゆみ

大原地区は、文京区の北部に位置し、その範囲は、白山台地と小石川の谷地となる千川通りから旧白山通り（国道17号）にまで及び、最端部は豊島区に接している。

街並みは、文京区を代表する地場産業である印刷・製本関連の事業所が千川通り周辺に集積している一方、白山台地に位置するエリアでは閑静な住宅地が広がりを見せている。幹線道路に囲まれた内側は概ね低層な住宅で、戦災が比較的小規模だった地域には戦前の建物も一部残っている。近年は住宅の建替えが進んでおり、白山通りや不忍通りの沿道にはマンションが建ち並んでいる。

商店街が住宅地化する傾向にあるものの、白山上周辺や千石駅付近には小売店や飲食店が軒を連ね、人が多く行き交っている。

また、大原地区には、東洋大学や都立小石川中等教育学校（旧都立小石川高校）、私立高校など多くの教育機関があるほか、白山神社・簸川神社・巣鴨大鳥神社や、蜀山人の名で知られる大田南畝の墓がある本念寺など神社仏閣があることから、文化的な雰囲気をも有する街でもある。白山神社や



簸川神社例大祭

簸川神社の9月の祭礼と大鳥神社の11月の酉の市には大勢の人が集い、一年で一番の賑わいを見せる。

さらに、地区内には小石川植物園があり、緑豊かな都心のオアシスとして親しまれている。貞享元年（1684年）に徳川幕府が設けた小石川御薬園を前身とする日本で最も古い植物園で、一般にも公開されている。約16万1千㎡の敷地には数千種もの植物が栽培され、四季を通じて様々な花木を楽しむ



小石川植物園

むことができる。

大原地区町会連合会は、地区内にある17の町会によって昭和41年1月に結成され、半世紀近くが経過している。以来今日まで、地区全町会の共通事業遂行のために連携し、町会相互の親睦と福利増進を図ることを目的に様々な活動を行っている。

具体的には、奇数月に定例の町会長会議を開催して町会運営に有益な情報共有と地域の諸課題解決に向けて意見交換を行っている。また、9月の定例会は、文京区長も参加する宿泊研修会として開催し、地域自治発展に必要なテーマを取り上げて区政の課題等について理解を深めるとともに、町会長間の親睦を図っているところである。



宿泊研修会

さらに、当町会連合会では、青少年対策大原地区委員会との緊密な連携のもと、地域の幅広い住民を対象とした行事を催している。

まず、毎年7月末の日曜日に地区内の学校校庭で合同開催されるラジオ体操会は、毎年800人近い地域住民が早朝に各町会単位で町会旗を先頭に集合して参加する地域イベントの一つである。



合同ラジオ体操会

また、大原夏祭り夕涼みは、8月末の土曜日に開催される地域の大イベントで、露店は町会や学校PTAなどの地域団体が出店協力・運営をしている。1,500人規模の住民が親子で楽しめる夏祭りは、子どもたちにとって夏休みの思い出のひと時を彩ってくれる。



夏祭り

大原スポーツ祭りは10月体育の日に開かれ、パン食い競走や綱引き、三世代リレーなど熱い戦いが繰り上げられる。秋空の下で童心に返って老若男女が共に汗をかき、激戦あり笑いありの楽しい一日を過ごす貴重な地域コミュニティ交流の場を提供している。



スポーツ祭り

そのほか、平成23年3月の東日本大震災を契機に、地域コミュニティや地域防災の充実が求められる中で、地域の「共助」の核としての活動についても理解に努めている。

最後に、町会連合会の活動拠点である大原地域活動センターが平成26年10月から千石公園隣りに移転する。これに伴い、当町会連合会も新たな場所において大原地区の更なる発展を目指して活動していくことになる。

■ 歴代会長

初代 塩野 光彦 (昭和29年4月～昭和33年3月)
二代 田村 良知 (昭和33年4月～昭和36年3月)
三代 押切 奥美 (昭和36年4月～昭和40年3月)
四代 村上 藤吉 (昭和40年4月～昭和42年3月)
五代 宮山 秀治 (昭和42年4月～平成8年3月)

六代 辻村 幸男 (平成8年4月～平成10年12月)
七代 和田政五郎 (平成11年4月～平成12年7月)
八代 浅利 幹朗 (平成12年8月～平成23年11月)
九代 古沢 一男 (平成24年5月～)

町会のあゆみ

白山前町は、昔は小石川村に属した。元禄一二年町屋を開いた。町名は、白山神社の境内の前通りにあることから名づけられた。

白山神社は、天曆二年加賀の国一宮白山神社を旧本郷元町に祀ったのに始まるという。後、現在の小石川植物園の地に移ったが、明暦元年に白山御殿造営のため、現在地に移った。五代将軍綱吉とその生母桂昌院の信仰を受けて、小石川の鎮守として、大いに栄え門前町も発展した。

白山前町は、何事も神社から始まる。一月二日昇殿参拝を行い、新成人のお祝い配布、三月には餅つき大会、新入学児童のお

祝い、紫陽花祭り参加、夏休みラジオ体操、町会レクリエーション日帰りバス旅行、白山神社例大祭、敬老お祝い品配布、年末夜警、春秋は交通安全運動、全国地域安全運動、全国火災予防運動の参加と多岐にわたる行事を行っており、安全で、安心して、住みつづけられる地域社会づくりに努めている。



白山前町町会レクリエーション マジックショウ 講師 三沢副会長

■ 歴代会長

初代 箕 正純（昭和28年7月～昭和40年）
二代 藤巻 正栄（昭和40年～昭和48年3月）
三代 吉田嘉和知（昭和48年4月～昭和57年3月）
四代 藤本 勇人（昭和57年4月～昭和59年3月）

五代 鈴木 寛（昭和60年5月～平成元年3月）
六代 吉村丹次郎（平成元年4月～平成10年3月）
七代 小林 信男（平成10年4月～平成21年3月）
八代 横山 勝彦（平成21年6月～）

町会のあゆみ

結成時の町会は「原町新和会」と称し、昭和31年より現在の原町町会と改称した。

昭和39年発行の「親和」創立10周年記念誌によると、この年原町町会は西町会と分離されたと記されている。

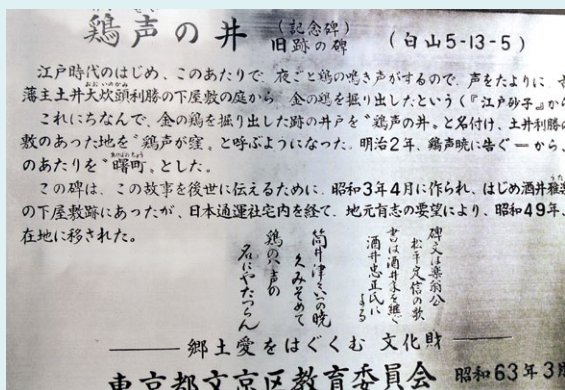
同誌からいくつか抜粋すると

- 歳末たすけ合い募金——昭和33年度から連続四年区内最高の募金を得た。
- 区民体育祭（小石川サッカー場にて）昭和35年第一回から連続十回総合優勝の輝かしい記録を樹立した。
- 東京タワー祭民謡大会（昭和34年7月）原町チームは優勝し東京代表として高知市に選手男女15名指導員付添人合わせて30名参加地元の人々と交流を重ねた。
- 同年町会夜警にて小石川消防署長より表彰された。当時の役員、指導者さらに町内青年会「鶏声会」約45名の並々ならぬ熱意と御努力に対し頭の下がる次第である。青年会中心の夜警は昭和32年12月から翌1月末迄、昭和37年度迄続けられた。

*

平成22年8月29日（日）自助、共助と連携をテーマに東京都・文京区総合防災訓練が大規模に実施された。

当日は7時より13時迄開通以来、初めて



鶏声の井（跡碑）

白山通り（千石駅前→白山下）が全面交通止めとなり、警察、消防、自衛隊等出動へり等による救出活動を行い、当町会も大勢の住民が訓練に参加及び見学。住民同誌による倒壊建物からの救出救助、バケツリレー、また地元の東洋大学、京華学園でも展示、体験、実演などの訓練を行い、終了後は町会でハシゴ車、起震車、騎馬隊の馬にも試乗、充実した1日だった。その約半年後の23.3.11東日本大震災が起これ、防災意識の高まりと共に各地で災害に備え訓練を行う様になる。

史跡 鶏声の井跡碑

区内には百数十を数える史跡、名所があるが我が町唯一の旧跡は鶏声の井記念碑である。現在は京華学園女子校の前に置かれており、社会教育課発行の「文京史跡めぐり」案内書に詳細記録されており、これを略記するとこの碑は昭和3年4月の建造で伯爵酒井忠正の書である。もとは幕末まで酒井雅楽頭下屋敷内で、明治以後酒井家の賃家であった場所にあった。昭和49年地元有志の要望で現在地に移設された。碑の表には楽翁公の松平定信の歌が刻まれている。

鶏声の井旧跡 白河楽翁公歌

筒井津々 いつの暁

久みそめて

鶏の八声の

名にやたつらん



■ 歴代会長

初代	浅井	玄哲	(昭和31年～)
二代	石町	忠雄	(昭和48年～)
三代	岩堀	信義	(昭和49年～)
四代	木谷	正司	(昭和50年～)
五代	渡辺	秀康	(平成4年～)
六代	野村	芳枝	(平成15年～)
七代	吉田	恒男	(平成19年～)
八代	田中	帖	(平成22年～)

町会のあゆみ

原町西町会は、昭和31年「原町親和会」より分離した。当町会の特色ある年間行事としては、納涼まつり、文化講座、防災教室、新1年生、敬老対象者への記念品の贈呈などがある。“みんなでつくろう わが町ふるさと”を合い言葉に、地域の発展を目指している。

納涼まつり—昭和50年より夏の風物行事として「納涼まつり」を毎年実施しており、100人余りのボランティアさんのお手伝いにより、町内の道路に、金魚すくい、ヨーヨー釣り、輪なげ、西瓜割り、かき氷、綿菓子、植木市、古本市など約20の模擬店を出店（無料）。又、消防団の協力での消防訓練、非常食の試食などを実施、現在では毎回会員800人以上が参加して好評を得

ている。

文化講座—毎回専門講師を招き、フラワーアレンジメント（プリザーブドフラワー）、臨床美術など、老若男女が腕を競っている。

防災教室—防災館での体験見学、救命講習、区防災危機管理室による講習会、警察署、消防署より講師を招いての講話研修などを通し地域の震災に備える意識の向上を目指している。



納涼まつり

東御殿町会

● 昭和24年4月結成

■ 歴代会長

初代	永井 熊吉	(昭和24年4月～昭和46年9月)
二代	輿石 静俊	(昭和46年10月～昭和52年8月)
三代	結城 祐昭	(昭和52年8月～平成7年4月)
四代	高柳 保雄	(平成8年5月～平成18年4月)
五代	萩原 久治	(平成18年5月～平成23年6月)
六代	横田 滋	(平成23年7月～)

町会のあゆみ

東御殿町は、植物園の入口辺りから、小石川消防署の先まで、千川通りと植物園に挟まれた地域です。

町会員は160世帯。

町内の活動は、新年会、春・秋の交通安全運動、夏休みのラジオ体操、納涼会、敬老のお祝い、秋の防犯活動、歳末の夜警など、さまざまな活動を行っておりますが、なんと言っても2年に1度の簸川例大祭は盛大です。

町内の役員を中心に、町会員が一丸となって行い、特に土曜日の宵宮では、簸川神社の階段を一気に担ぎ上げての宮入りは感動です。



歳末の夜警



簸川例大祭



■ 歴代会長

- 初代 梨本栄二郎（昭和31年4月～昭和40年3月）
- 二代 高橋常次郎（昭和40年4月～昭和43年3月）
- 三代 清水 富蔵（昭和43年4月～昭和46年9月）
- 四代 島川亀二郎（昭和46年10月～平成10年11月）
- 五代 鈴木 良雄（平成10年12月～平成21年3月）
- 六代 島川 健治（平成21年4月～）

町会のあゆみ

白山御殿町睦会は、昭和31年に結成を見て、古き昔からの地名をそのままに御殿町とした。由来は徳川五代将軍綱吉の別邸があったところで現在は小石川植物園となっている。その為、小石川植物園の周囲の町会は御殿という名前が多い。地域的に見れば小石川植物園に沿っての町会であり、春夏秋冬四季折々に植物園の草花が咲き、環境面では最適の町である。道行く人たちの羨望のところであり、自然と地域そのままが睦の和をかもし出して町を形成している。

人情的には下町気質なところが多く、お祭などの際は町全体が一体と

なって町会を盛り上げている。

また、犯罪も少なく、安全安心の町を保って町会の発展に寄与してまいりたいと思う。



町会旗



簸川例大祭

■ 歴代会長

- 初代 清水覚太郎（昭和24年7月～昭和25年3月）
- 二代 阿部 寅次（昭和25年4月～昭和30年3月）
- 三代 安岡 正篤（昭和30年4月～昭和35年3月）
- 四代 本多 重雄（昭和35年4月～昭和40年3月）
- 五代 岩井 恒一（昭和40年4月～昭和45年3月）
- 六代 鴨下 晃湖（昭和45年4月～昭和50年9月）
- 七代 澤田 稔（平成8年4月～平成10年3月）
- 八代 梅山 龍男（平成11年5月～）

会務代行

- 小川 賢一（昭和43年～昭和48年）
- 馬杉 春子（昭和48年～昭和59年）
- 澤田 稔（昭和59年10月～平成8年3月）
- 梅山 龍男（平成10年3月～平成11年5月）

町会のあゆみ

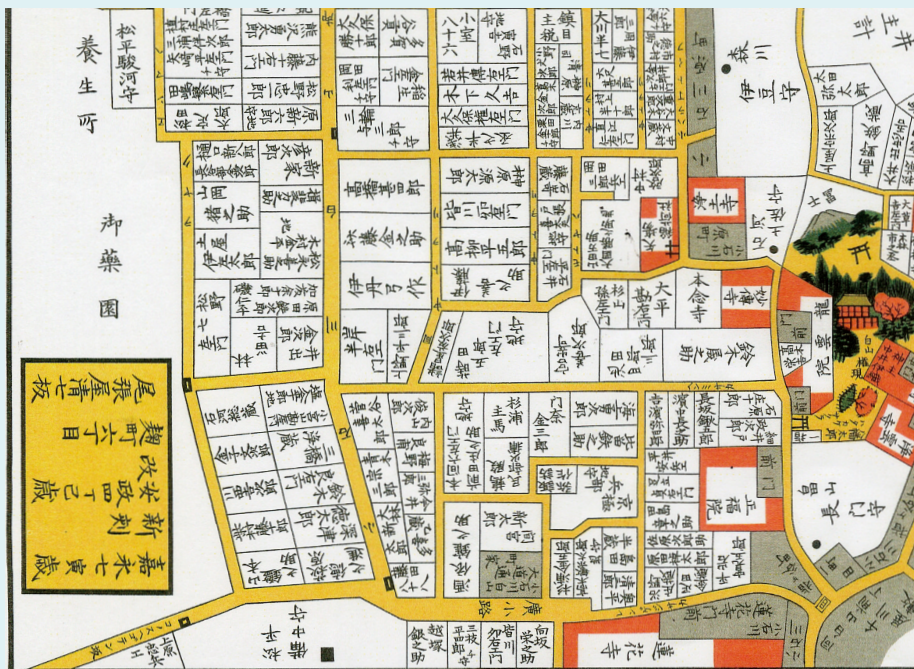
上御殿町会は、戦後に、白山御殿町から分かれて結成された町会の一つです。当初は「上御殿自治会」と称していましたが、平成11年5月から現在の町会名に改称しました。

小石川植物園を含む一帯に、かつて将軍になる前の徳川綱吉の屋敷である白山御殿があったことから御殿の名が残っています。町会は、植物園東側の御殿坂を上った白山台と白山通りに通じる蓮華寺坂（蓮花寺坂）から、逸見坂を挟んで浄土寺までの

地域に位置しています。町の区画は江戸末期の古地図と基本は変わっていません。

現在の住居表示は白山4丁目となっており、約670世帯の方々が居住する静かな住宅街です。

町会では、白山神社の祭礼のほか、植物園内にある小石川養生所の井戸を使わせてもらって毎年、防災訓練を行うなどの活動をしています。また、月3回、町会内だけでなく、区内で広く青色防犯パトロールを実施し、地域の安心・安全に寄与しています。



『東都駒込辺絵図（1857年）』（現在の上御殿町会付近）

小石川五丁目互楽会

● 昭和36年結成

■ 歴代会長

初代 矢嶋 明治 (昭和36年～昭和40年)
二代 土屋 義治 (昭和41年～昭和44年)
三代 澤 末吉 (昭和45年)
四代 益川 昇 (昭和46年～平成2年)

五代 青木 宏之 (平成3年)
六代 三橋 久 (平成4年～平成8年)
七代 菊地 耕造 (平成9年～平成12年)
八代 三橋 久 (平成13年～)

町会のあゆみ

結成時の町会名は「白山御殿町互楽会」と称し、昭和41年新住居表示の実施により、白山御殿町から小石川五丁目となり、現在の町会名に改称した。世帯数は80余のこじんまりとした町会ではあるが連絡や周知をはじめ町会の運営は緊密、円滑に行われていると自負している。主な行事は、定期総会、日帰り旅行、夜警と、1年おきの簸川神社の本祭りでは町会員が一団となって取り組んで町内の親睦に意を用いているのが我が町会である。



夜警風景



簸川神社の祭礼風景



■ 歴代会長

初代 水上 孝正（昭和30年1月～昭和43年3月）
二代 伊村栄太郎（昭和43年4月～昭和50年3月）
三代 小宮 次郎（昭和50年4月～昭和52年3月）
四代 高橋 一郎（昭和52年4月～昭和55年3月）

五代 田上 秀夫（昭和55年4月～平成11年3月）
六代 林 宏（平成11年4月～平成15年3月）
七代 田上 侑司（平成15年4月～）

町会のあゆみ

林町町会は大正初期頃より「協林会」と発足し、其の後数年にして「林町町会」と改称させられたようです。東西南北に分かれていたが、戦後、昭和22年3月アメリカ占領政策で町会が廃止され解散の運命にありました。平和復興後、自然の勢いで復し倍旧の勢いで盛り上がり昭和30年1月23日再発足せられ今日に至って居ります。（南町会は昭和27年独立）

昭和30年1月 再発足

昭和48年7月 創立20周年記念事業として、町会事務所（民家）購入

昭和54年3月 「町会だより」創刊

昭和54年4月 創立30周年記念事業として、事務所増築、全世帯に記念品配る

昭和54年9月 祭礼用大神輿新調する

昭和55年3月 伊豆大島、宮城沖地震多発に備えのため、防災組織を作る

平成7年9月 創立40周年事業として、祭礼用品小神輿、山車等を修復する

平成17年3月 創立50周年式典、上野東天紅にて挙げる。町会名簿を改編、祭礼用

品獅子頭の修復する

平成19年7月 町会事務所出入口通路土地購入する

平成19年12月 自治法地縁団体として申請、認可される

平成20年3月 町会所有の事務所（家屋、土地、出入口道路）を「林町町会」名称で登記する

町会行事

4月 小、中学生新一年生祝品贈呈、総会、交通安全運動

5月 新旧役員会、各団体総会、募金

7月 ラジオ体操、大原地区合同ラジオ体操会

9月 簸川神社例大祭、交通安全運動

10月 敬老会、募金

11月 日帰りレクリエーション

12月 年末警戒夜廻り、募金

1月 新年会

2月 もちつき大会、防災コンクール
「町会だより」毎月発行 集団リサイクル回収毎月第3月曜日 役員会年6回



平成24年度 簸川神社例大祭 林町町会



平成24年度 林町町会 敬老会

■ 歴代会長

初代 是松 敏麿 (昭和27年～昭和40年)
二代 梁取清太郎 (昭和41年～昭和50年)
三代 関 貞雄 (昭和51年～昭和58年)
四代 関根 官助 (昭和59年～昭和62年)
五代 是松 敏久 (昭和63年～平成8年)

六代 桑原 久男 (平成9年～平成10年)
七代 小野 辰己 (平成10年～平成16年)
八代 齋藤 茂 (平成17年～平成24年)
九代 岩瀬 幸英 (平成25年～)

町会のおゆみ

はじめに

林町南町会は終戦後の占領政策のもと、昭和25年初期に入り睦会として福祉関係の団体として、設立が容認されるようになったことを機に昭和27年7月第1回創立記念総会が開催され、会名も白山御殿町の一部と林町の南側が一緒になり、南睦会と決定し発足しました。

昭和29年11月には創立3周年記念を明化小学校講堂を借用し敬老会を開催。昭和30年3月に団体名を林町南町会と改編し現在に至っております。

発足当時の会長、役員、町会員皆様の喜びは戦後の混乱期を乗り越える為の大きな役割を果たしたことに違いありません。

平成12年10月、創立50周年記念品の配布。

平成24年10月21日(日)快晴のもと、文京区立第十中学校体育館を借用、成澤文京区長をはじめ、小谷周一校長等、多数のご来賓の参加をいただきまして盛大に町会創立60周年の節目の行事を無事に終了することができました。

60周年、人間で言えば「還暦」のお祝いです。生まれた時に還り、第二の出発点という意味で、赤い物を身に着けて、お祝いします。町会も発足させた時の思いに還らせて頂き、生まれ変わり発展をさせて林

町南町会が連綿とつづくことを望みます。

皆さんの記憶にも未だに残る「東日本大震災」「原発の問題」と想定外という言葉・・・被害に遭った人たちだけではなく、日本中の人たちが「家族の絆」「地域の絆」「絆」と言う言葉と日本人の道德心のすごさを世界中の人達に認識され再発見したと思います。

おわりに

林町南町会は60周年記念誌「つながる」を発刊しました。その想いは、広義的には「世界につながるように」、狭義的には一人一人が家族に、世代に、地域、町、公共団体、役所に良いことの方へすべてつながる。

結果として、町会で、家族で、世代間で「すき」がなく、自助努力、共助とのつながりが発揮され、暮らしやすい町会になりますよう願います。



9月 防災訓練



12月 親睦バス旅行



簗川神社お祭り 子どもみこし

■ 歴代会長

初代 葛岡 吉之助（昭和29年11月～昭和52年5月）
二代 益子 恒義（昭和52年5月～昭和60年3月）
三代 山中 正義（昭和60年3月～昭和62年8月）
四代 近藤 釧三（昭和62年8月～平成8年5月）

五代 笹山 小枝子（平成8年5月～平成13年5月）
六代 平井 忠夫（平成13年5月～平成17年5月）
七代 高野 讓體（平成17年5月～平成21年5月）
八代 小野寺 加代子（平成21年5月～）

町会のあゆみ

1) 30年前から継続されている町会行事

防災訓練、防災コンクール参加。年末特別警戒〈夜廻り〉。春、秋の交通安全週間の街頭活動。夏休みのラジオ体操。簸川神社お祭り。春、秋のバスハイク。餅つき大会。新入学児童へのお祝い〈傘〉配り。敬老のお祝い配り。各種募金活動。総会。新年会。

2) 30年間に変遷のあった事業

殺鼠剤、殺虫剤の配布：平成10年頃まで。

リサイクル事業：平成2年12月から、婦人部により古紙・アルミ缶回収事業を始める。一時中断したが平成23年再開。

納涼盆踊り：昭和30年代から続いてきた盆踊り（昭和63年から大原・林・丸山の3町会合同納涼踊り大会）は平成13年8月で踊り手不足で終了。

スポーツ祭り：町会運動会は“スポーツ祭り”と名前を変え、平成14年からは3町会合同スポーツ祭り、さらに大原地区対スポーツまつりとなる。

3) 新しく始まった事

町会事務所開設：平成18年4月“喫茶レイク”後を賃貸で借りて新たに開設。

町会広報誌の発行：昭和63年11月、“丸山町会だより”創刊号が発行された。年4回発行を目標に現在71号が発行されている。

大神輿の修理：町会や近隣の皆さま600人以上のご寄付で改修が行われ、平成22年9月コーシャハイム千石の集会所で簸川神社の宮司により、“神輿改修清祓いの儀”が行われた（写真1）。

平成24年簸川神社大祭の宮入りの神輿（写真2）。

社協ふれあい“いきいきのサロン”の支援：せんごくサロン（平成19年3月開設）、ツチノコ広場（平成23年4月開設）の活動を支援。



写真1：神輿改修清祓いの儀（H23.9.5）



写真2：簸川神社大祭宮入り（H24.9.8）

氷川下町会

■ 歴代会長

初代 太田宣次郎
二代 古谷 精一
三代 篠原 徳七
四代 春日 政男
五代 清水 正作
六代 源田多喜次

七代 春日 武
八代 有賀 長治
九代 田中 昭吉
十代 本橋 徹哉
十一代 遠藤 近甫
十二代 市橋 弘司（平成19年5月～）

町会のあゆみ

旧氷川下町は、その昔小石川村の内にあった。永禄年間（1558～1580）北条氏の家臣島津孫四郎の土地及び法林院領であった。

江戸時代に入って新田を開き享保年中（1726～1736）に千川沿いを中心に開墾して「氷川たんぼ」と称した。

明治24年、簸川神社のある台地の下の低地にあったので、その場所を氷川下町と名づけられた。この低地を流れる千川沿いに「氷川たんぼ」と「播磨たんぼ」があり、明治末期頃までは、花々が咲き清流には魚影も多く見受けられた。

しかし、こうした素朴な田園風景は長くは続かなかった。

明治の中頃になると川沿いには製紙屋、染工場が立地し人口が急増してきた。明治29年には、共同印刷の前身である博進社印刷工場が千川沿いの播磨たんぼの真中に進出し、印刷製本の街へと変貌していった。その後、ますます人口は増大し下水道の不備で千川は毎回何回かの出水にみまわれた。そこで、昭和5年11月根本的な治水改修工事が開始され、水流をコンクリートの暗渠にし、昭和9年7月に工事は竣工した。それが現在の千川通りの礎である。

旧氷川下町の地域には、「交和会」と「親

友会」の2つの住民組織の団体があり大正15年5月この2つの会が統合され歴史ある氷川下町会の誕生となった。昭和42年1月より現在の住居表示により氷川下町会の名称は廃止され、千石二丁目、三丁目、大塚三丁目、四丁目の一部に変更されたことは御存知の通りであります。

当町会として年間を通じて防火防災、防犯、交通安全、青少年の健全育成、レクリエーション、公害対策、敬老の日、会員の慶弔及び祭礼等の各種事業を、及び町会青年会を中心としてラジオ体操会、ちびっ子縁日、夜警（12月1日～1月末日迄の2ヶ月間）等々の事業を遂行すると共に、会員相互の親懇と町内の安全安心の街づくりに尽力しています。



町会旗

■ 歴代会長

初代 曾羅 忠義（昭和29年4月～昭和40年3月）
二代 竹澤幾太郎（昭和40年4月～昭和43年10月）
三代 武藤 常三（昭和44年4月～昭和61年10月）
四代 中島 勝次（昭和62年4月～平成3年10月）

五代 高久 三郎（平成3年11月～平成9年3月）
六代 今井 正雄（平成9年4月～平成15年3月）
七代 平野今朝人（平成15年4月～平成26年4月）
八代 竹澤 一乘（平成26年5月～）

町会のあゆみ

当町会は大原地域活動センターのお膝元の名前とは違い90世帯に満たない小さな町会です。

防犯、交通安全、防火防災など各種協会に加盟し、交通安全週間には旗振りを、年末は夜警をして、町内の安全に務める傍ら、1年を通して第1、第3土曜日には廃品回収を行っています。

また会員の親睦のため新年会、お祭り、敬老会などを行っています。「敬老会」は新たに古希を迎えた方をお祝いし高齢化社会になった今でも70歳以上が集まりお祝いをしています。

都の「地域の底力再生助成事業」

20年度には当時まだ珍しい助成金を使い、青年部の音頭で「餅つき大会」を開催し町会の枠を越えて盛大に行われ、近隣の方々にも喜ばれました。

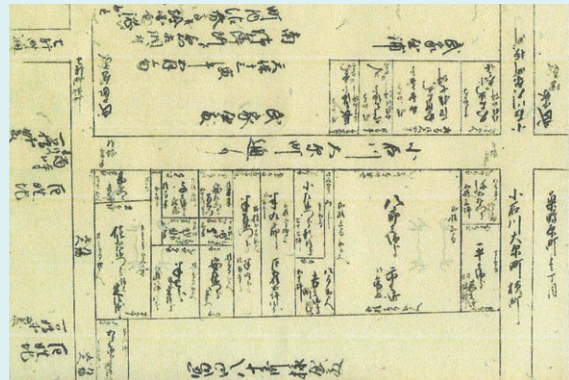
またメイン道路で開催される大原地区対の夕涼み会には毎年出店させて頂いております。



都の助成事業による餅つき大会

「町名の由来」

江戸時代からの旧家（伊勢五）に保存されていた資料によれば「小石川村のお百姓の持ち物であった広大な草原に」町屋敷が出来た事により（小石川大原町）「大原町」の名前が生まれたと思われます。



大原の名前が付いた頃の屋敷図



現在のメイン通り（小石川大原町通り）



■ 歴代会長

初代 高橋阿久利（昭和29年9月～昭和31年3月）
二代 安藤 藤助（昭和31年4月～昭和32年3月）
三代 寺井 豊蔵（昭和32年4月～昭和38年3月）
四代 土橋 金笈（昭和38年4月～昭和43年3月）
五代 松崎 平治（昭和43年4月～昭和45年3月）
六代 高橋 昇一（昭和45年4月～昭和46年3月）

七代 横堀 健吉（昭和46年4月～昭和55年3月）
八代 高橋 秀郎（昭和55年4月～昭和59年3月）
九代 栗林 宏（昭和59年4月～平成6年3月）
十代 星 原二（平成6年4月～平成8年3月）
十一代 三好 和男（平成8年4月～平成18年3月）
十二代 鶴田 厚昭（平成18年4月～）

町会のあゆみ

現在、宮下町会のある町は、古くは伝通院領で、今の簸川神社の下に町屋が開かれ、植物園西隣にあった承応元年館林藩主（徳川五代将軍綱吉）の白山御殿用地に召し上げられ、その代地として巢鴨村の一部、現在地に移ったが、お宮の下にあったので宮下町と名付けられた。江戸時代には武家屋敷と五軒町及び宮下町との三者の構成であったが、それが明治になり市区制が施行された際、町名を「宮下町」と呼称するようになった。

大正時代になって、だんだんと居住者が増えてきたので、どうしても町ぐるみの地域的組織が必要となっていき、町内の主だった有志の方々のお骨折りで、大正10年に「交親会」という名の町会が創立された。従って大正12年の関東大震災に際しては、この「交親会」の活動によって、震

災災害処理が迅速かつ円滑に遂行された。交親会時代の町会長は、初代 高橋 甚右工門氏、二代目 高橋 阿久利氏、三代目 矢部 滝蔵氏、四代目 三輪 新一氏であった。その後、昭和20年、第2次世界大戦後、町会の人々も落ち着きを取り戻し、町の大部分の区画整理も大方整ったため、町会の前身である交親会の後を受けて、昭和29年9月10日に、現在の宮下町会が創立されたのである。

平成の現在では、町会活動も多様化しており、簸川神社の祭礼はもとより、地域の安心、安全のための活動、（地域安全パトロール、年末特別警戒等）青少年の健全育成（宮下公園を利用した町会運動会、レクリエーション等）を実施し、会員相互の親睦と融和を積極的に図っている。



簸川神社例大祭の風景

■ 歴代会長

初代 鈴木長太郎（昭和28年8月～昭和38年1月）
二代 本田 元吉（昭和32年1月～昭和37年5月）
三代 名取 義信（昭和37年5月～昭和61年3月）
四代 木内 秀（昭和61年4月～平成4年3月）

五代 星野 昭二（平成4年4月～平成4年10月）
六代 仁藤 馨一（平成5年4月～平成16年3月）
七代 中村 昭治（平成16年4月～平成22年3月）
当代 佐藤 勉（平成22年4月～）

町会のあゆみ

第二次大戦後の焼野原より復興が徐々に始まった昭和23年に現町会の前身「西和会」が発足し町内連帯の活動が始まり祭典の太鼓や祭典用具を新調した。

昭和28年8月 「西丸町会」が発足会を経て結成。

昭和28年12月 大神輿を新調

昭和31年12月 小神輿の寄贈を受ける

昭和32年7月 町会婦人部発足

昭和42年 西丸町会は千石1丁目と千石4丁目になるが町会名は「西丸町会」を継続

昭和45年 千石4丁目に児童遊園地開園

昭和46年 西丸町会館完成

平成10年 初の町会海外旅行（グアム）

平成17年～18年 中神輿を修復し大神輿に改造、小神輿を新調

平成18年 西丸町会の法人化完了

平成24年8月 町会結成60周年

現在の主たる町会行事

防犯パトロール、防災訓練、新年会、総会、ラジオ体操、祭典、町会旅行、レクリエーション、赤十字奉仕、社会福祉の協力、新入学、成人、敬老の御祝、役員定例会（毎月9日）、他



町内旅行より 万博の帰途 浜名湖にて（平成8年7月）



町内巡行中の祭りの一コマ（平成18年9月）



防犯パトロール出発時 西丸町会館前にて（平成22年12月）

■ 歴代会長

初代 石田 寅雄（昭和27年1月～昭和27年3月）
二代 下竹安右衛門（昭和27年4月～昭和35年3月）
三代 岩本平左衛門（昭和35年4月～昭和36年3月）
四代 中島雄次郎（昭和36年4月～昭和41年9月）
五代 下竹安右衛門（昭和41年10月～昭和42年7月）
六代 口岩 久松（昭和42年7月～昭和46年4月）
七代 佐藤銀次郎（昭和46年4月～昭和48年3月）
八代 五十嵐忠三（昭和48年4月～昭和50年3月）

九代 渡邊 浩（昭和50年4月～平成2年6月）
十代 矢崎 周次（平成2年6月～平成4年3月）
十一代 相澤 昭一（平成4年4月～平成8年3月）
十二代 矢崎 花子（平成8年4月～平成14年3月）
十三代 山岡 義治（平成14年4月～平成18年3月）
十四代 五十嵐義雄（平成18年4月～平成24年3月）
十五代 金子 敏雄（平成24年4月～）

町会のあゆみ

わたしたちの街「駕籠町」は先達たちの残してくれた名実ともに「ふるさと」である。現役員の下、恒例のお楽しみ広場（フリーマーケット）、夏休みラジオ体操会、プール一般開放、簸川神社例大祭、敬老祝賀などのさまざまな行事や、夜警の実施等、町内一丸となって自慢のできる町「駕籠町」を作ろうと頑張っている。

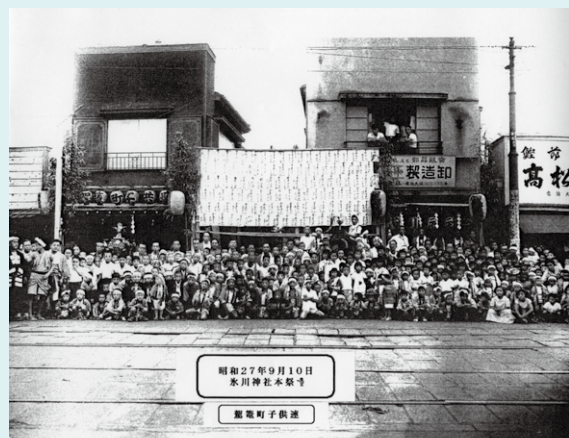
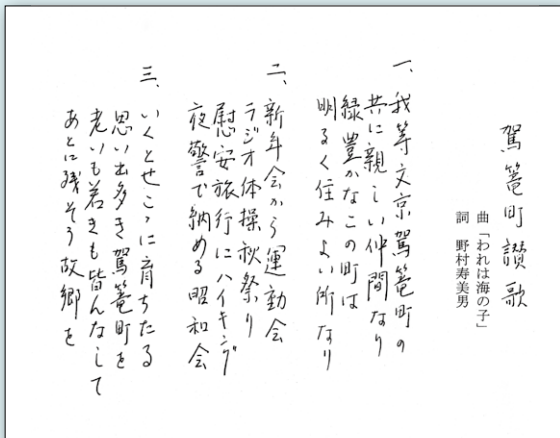
思い起こせば昭和50年代、この「駕籠町」に生まれ育った2世、3世の有志が集まり、自主的に火の用心の夜回りを始めたのがきっかけとなり、昭和54年、会員数20余名の「駕籠町昭和会」を結成した。簸川神社例大祭の手伝いをはじめ、特に子供を中心とした文化活動を率先して行い、町内会

から一目置かれるようになる。

時代の移り行く中で、昭和会員は町会役員に移行。「駕籠町昭和会」も発展的解散をし、平成20年には青年部が発足。若い人たちによって新しい「駕籠町」を目指しつつある。

今ではお楽しみ広場、簸川神社の例大祭は、「駕籠町」の賑々しい雰囲気の大イベントとなっている。

この「駕籠町」の名も、昭和41年の住居表示の実施により公的には文京区立駕籠町小学校、駕籠町公園、駕籠町会館などに名を留めるのみになったが、町会名としては今も「駕籠町」を継承している。



昭和27年9月10日 簸川神社本祭 駕籠町子供連

■ 歴代会長

初代 武藤徳次郎（昭和33年4月～昭和34年3月）
二代 伊藤 秀信（昭和34年4月～昭和42年3月）
三代 村越 富雄（昭和42年4月～昭和47年3月）
四代 関田 虎治（昭和47年4月～昭和57年3月）
五代 宮本 清（昭和57年4月～昭和59年3月）
六代 北岡 馨（昭和59年4月～昭和60年3月）

七代 吉田福太郎（昭和60年4月～昭和61年3月）
八代 中澤 健一（昭和61年4月～昭和62年3月）
九代 小川 常吉（昭和62年4月～平成9年3月）
十代 小暮 幸次（平成9年4月～平成22年3月）
十一代 寺井常太郎（平成22年4月～）

町会のあゆみ

昭和22年6月、戦後のマッカーサー指令により解散させられていた旧西丸町、旧駕籠町、旧西原町の3町会が合同し、各町会の頭文字を取ったNKN児童文化会が設立されました。その後の人口増加に伴い3町会がそれぞれ分離独立、西原町会は町会規約案を作成し、昭和33年4月1日に再び活動を開始しました。

昭和57年には防災組織規定を制定し、現在も町会長を隊長、町会理事を隊員とした防災隊を組織して、火災や大震災等の非常事態に備えています。

旧町名である西原町の範囲は現在の千石4丁目の一部、約200メートル四方の地域で、中心には面積110坪程の西原町児童遊園があります。この公園の土地は昭和18年3月に斎藤政徳氏から西原町に寄贈されたのですが、前記3町会と文京区を交えての協議の結果、昭和42年に文京区の資産となりました。



ラジオ体操（西原町児童遊園）

町会会員数は約280、毎月1回理事会を開催して行事の立案等を行っています。

理事による活動は、毎月2回の防犯パトロールと古紙リサイクル、春と秋の交通安全運動、歳末と春の夜警、日本赤十字等から協力依頼のある募金の取りまとめ、警察署や消防署で開催される会議への参加等。

また文京区と小石川消防署共催の防災コンクールにも連続して参加しています。

ささやかではありますが、新小中学生には入学祝いを、高齢者の方には敬老祝いの品物を贈っています。

町会員に参加していただく年間行事には年度初めに開催する定期総会、地域の氏神である簸川神社の祭礼、祭礼の夜に西原町児童遊園で行われる盆踊り、ラジオ体操、小石川消防署のご指導による防災訓練、大型観光バスを利用して行うレクリエーション等があります。いくつかの行事は西原婦人会と協力し合っています。



レクリエーション（勝沼ぶどう狩り）

■ 歴代会長

十三代 佐川 直躬（昭和30年4月～昭和31年3月）
十四代 平岡 伝章（昭和31年4月～昭和32年3月）
十五代 岡 得太郎（昭和32年4月～昭和36年3月）
十六代 菊井 維大（昭和36年4月～昭和38年3月）
十七代 飯盛 里安（昭和38年4月～昭和40年3月）
十八代 岡 得太郎（昭和40年4月～昭和52年12月）
十九代 荒井 翁吉（昭和53年1月～昭和54年8月）
二十代 田島 宏一（昭和53年9月～昭和57年5月）

二十一代 伊東 信（昭和57年6月～昭和60年5月）
二十二代 米元 卓介（昭和60年6月～平成元年6月）
二十三代 高木 外夫（平成元年6月～平成4年5月）
二十四代 磯野 龍正（平成4年6月～平成5年5月）
二十五代 富澤準二郎（平成5年6月～平成9年10月）
二十六代 由井 直人（平成10年4月～平成13年3月）
二十七代 小林陽太郎（平成13年6月～平成25年5月）
二十八代 田口 邦臣（平成25年5月～）

町会のあゆみ

本駒込6丁目地区の大部分を占める町会としての「大和郷」は、大正14年に社団法人大和郷会として発足しました。

大和郷会の活動の特色は、いわゆる町会としての役割を超えて、会員福利の増進のための施設の運営、防火・防災は勿論、広く教養、趣味、社会生活の向上に資する教室、講座、講演会開催等のいろいろな生涯学習事業を行っていることにあります。

具体的には、文化部ではコーラス、コントラクトブリッジ、自然観察会、スポーツ部ではゴルフ、ダンス、ハイキングなどのサークルがあって、それぞれ活動しています。

また、これらの活動とは別に、大和郷会として幼稚園を昭和4年に設立し、空襲により園舎が焼失した一時期を除き80有余年にわたって運営してきました。ご幼少の折、現皇后陛下も在園されましたが、現在までに6,130名の卒園生を送り出して

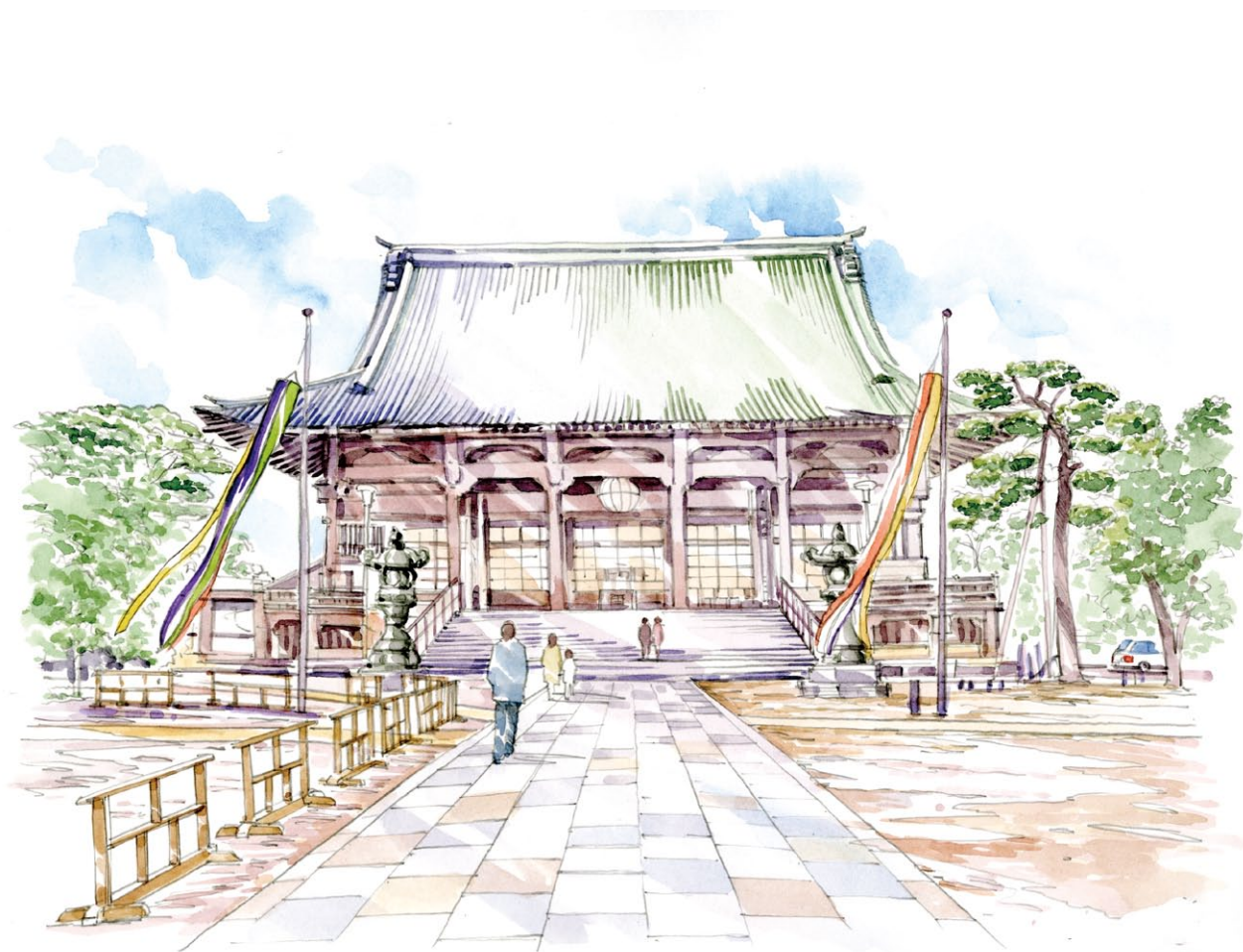
います。幼稚園は平成7年4月、学校法人大和郷学園として大和郷会の事業から分離され、現在、独立した学校法人となっています。

昨今、公益法人の制度改革が報じられていますが、大和郷会は平成25年4月から、一般社団法人として新たなスタートを切ることになりました。大和郷会誕生の原点ともいべき会員相互の共存共助の精神に則り、地域、地縁に由来する共益的な団体として、良好な住環境を維持しつつ、安全で住みよい街づくりを目指しています。



大和郷会事務所と大和郷幼稚園

大塚地区



大塚地区町会連合会

● 昭和43年2月結成

豊島ヶ岡町会	大塚坂下南町会
大塚坂下北町会	大塚上辻町会
大塚窪町町会	大塚一・二丁目町会
文京中央町会	久堅自治会
久堅町民会	久堅親交会
久堅西町会	春日二丁目町会
東青柳町会	第六天町会
武島町会	水道端町会
西江戸川町会	茗荷谷町会
大塚仲町町会	大塚四丁目協力会

■ 歴代会長

初代	並木 顕夫	(昭和43年2月～昭和48年5月)
二代	小林 次郎	(昭和48年5月～昭和56年6月)
三代	秋山松太郎	(昭和56年6月～昭和63年5月)
四代	横山 長	(昭和63年5月～平成2年5月)
五代	安田 重春	(平成2年5月～平成10年3月)
六代	内藤 十三	(平成10年3月～平成14年4月)
七代	柴崎 六郎	(平成14年4月～平成16年9月)
八代	鶴島 信通	(平成16年9月～平成18年4月)
九代	鈴木 伸男	(平成18年4月～平成25年5月)
現会長	諸留 和夫	(平成25年5月就任)

地区町会連合会のあゆみ

大塚地区町連の年間の活動としては、総会、役員会、全体町会長会、伝統芸能鑑賞会、宿泊研修会、新年懇親会等があり、これらの活動を通じて、会員相互の親睦と各単位町会の発展向上に努めています。

また平成25年度より、全体町会長会の開催に合わせて区役所の管理職を講師として招き、区の課題について勉強会を開催しています。

「地域再発見！！大塚マップ」と音声ガイド「文京区・大塚百景」について

大塚地区町連では、大塚地域のさらなる発展を目指して、平成21年度に「大塚マップ」を、また平成23年度には「文京区・大塚百景」を、東京都が行っている「地域の底力再生事業」を活用し作成しました。

「大塚マップ」は、多様な世代の住民、とくに若い世代のマップ作成への参加を促すことによって、内側から地域の活性化を



全体町会長会での討議風景①



全体町会長会での討議風景②



全体町会長会での討議風景③

図るとともに、作り上げた情報満載の楽しいマップによって、外からも多くの人を呼び込んで、大塚地域全体の活性化を図ることを目的として作成しました。出来上がった地図は、大塚地区のすべての世帯に配布しましたが、まだ若干大塚地域活動センターに残っています。必要な方には差し上げますので、窓口で申し出てください。

さらに、オリエンテーリング感覚で、もっと多くの人に大塚の地域を散策していただくと考え、「文京区・大塚百景」を作成しました。これは、マップと音声ガイドペンを頼りに、町会員により大塚百景に選定された名所・旧跡を、各自が自由に散策するというものです。

コースは、「西北コース」と「東南コース」に分かれています。さらに、短時間でも回れるように、「西北コース」は、「小石川上流コース（行程3km・約1時間）」と「水窪川周辺コース（行程4km・約1時間30分）」に、「東南コース」は、「小石川台地コース（行程4km・約1時間30分）」と「小日向台地コース（行程3km・約1時間）」に分かれています（マップ参照）。

マップと音声ガイドペンは大塚地域活動センターで貸し出しています。是非ご利用ください。



伝統芸能鑑賞会で落語を聴く①



伝統芸能鑑賞会で落語を聴く②



区民課長を講師に招いての研修会



平成24年宿泊研修会（箱根吉池旅館の前庭にて）

マップ



音声ガイド 文京区・大塚百景

この音声聞いてから出発しましょう！



水窪川周辺コース

行程4km(約1時間30分)
起伏度3

文京区の道路上の最高地点までゆるやかに登ってから、富士見坂を下って水窪川の流れをたどり、ティーンな大塚に分け入って名所を巡り、護国寺を経由してからまた台地を一挙に登るコースです。

小石川上流コース

行程3km(約1時間)
起伏度2

松平屋敷の庭園だった占春園を通過してからゆるやかに台地を下り、氷川田園を流れる小石川を思い描いた後、名所をめくりつまた台地を登り、ゆるやかな坂で出発点へと戻るコースです。

小石川台地コース

行程4km(約1時間30分)
起伏度5

茗荷谷へ下ってから小石川台地を登り、近現代の文人たちの跡などをたどって下り、周縁の巻石通りを通過してから台地にまた登りまた下るといふ、起伏に富んだコースです。

西北コース

小石川上流コースと水窪川周辺コースを合わせて大塚地区の北側をたどるコースです。

東南コース

小石川台地コースと小日向台地コースを合わせて、大塚地区の南側をたどるコースです。

小日向台地コース

行程3km(約1時間)
起伏度4

茗荷谷へ下ってから小日向台地を登り、また下りて神田上水や水窪川などの流れ跡となる台地の周縁部をたどって、名所旧跡に触れながら最後にまた台地を登るコースです。

- 凡例
- トイレ
 - 道案内
 - 名所案内
 - 迷ったら写真

起伏度のめやす
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| スー | ユル | トロ | トク | ドキ | バク |

道に迷ったら
大塚地域活動センター
Tel. 03-3947-2624

■ 歴代会長

初代 上杉 慎吉

二代 嘉納治五郎

三代 牧野 英一

四代 金井 又美 (昭和24年7月～昭和50年4月)

五代 並木 銈造 (昭和50年5月～昭和61年8月)

六代 石 正之 (昭和61年9月～平成5年8月)

七代 下田 弘美 (平成5年9月～平成10年3月)

八代 土橋 正平 (平成10年4月～平成24年3月)

九代 鎌田 邦彦 (平成24年4月～)

町会のおゆみ

大正10年創立という古い歴史を持つわが町会は文京区の北西に位置し、豊島区との境に接した緑豊かで、とても閑静な住宅街である。真言宗豊山派大本山の護国寺と豊島ヶ岡墓地（皇族墓地）の周りを取り囲むように大塚5丁目があり、その一部と6丁目の大半で構成し、面積は非常に広い。町会名も豊島ヶ岡の名称をいただいた。

3代までの町会長は憲法学者の上杉慎吉氏、講道館創設者の嘉納治五郎氏、刑法学者で文化勲章受章者の牧野英一氏と、そうたる顔ぶれだが、残念ながら歴代や在任期間は定かでない。その後、金井又美氏が戦後の復興期から25年の長期にわたり先頭に立ち発展の礎をつくり、後に続く歴代の町会長や諸先輩の薫陶によって会員数は増加していった。

町会内には約1400世帯が居住しているが、護国寺や日大豊山中高等学校、私立音羽幼稚園などの学校法人も会員に加入していただいております。町内会行事等で大変お世話になっている。

15年間在任した土橋正平会長の後を受けて平成24年度から鎌田邦彦・体制がスタート。町内会のコミュニケーションを

より深めていくため、24年度から『豊島ヶ岡だより』（季刊・A4判2ページ）の発行を始めた。当地域も年々、新住民が増加一方で高齢化の波とともに一人暮らしのお年寄りも多くなり、町会のさらなる発展には新・旧住民の交流が欠かせない。

私たちのエリアは歴史のある古いまちの特徴でもある木造住宅密集地域だ。首都直下地震の備えをおろそかにできない。

このため「心の通いあうコミュニティづくり」をスローガンに地域の安全、安心対策に取り組んでいる。

学童とのかかわりにも力を入れており、2つのスポーツクラブ（野球、ミニバスケットボール）が活躍。祭りのほか、バス旅行、バーベキュー・餅つき大会なども青年部の恒例行事になっている。



12月の風物詩・餅つき大会

■ 歴代会長

初代	並木 顕夫 (昭和27年5月～昭和50年10月)
二代	梅田 叡三郎 (昭和51年2月～昭和58年8月)
三代	高澤 正 (昭和58年8月～平成6年6月)
四代	柴崎 六郎 (平成6年6月～平成16年8月)
五代	杉山 元一 (平成16年8月～平成17年12月) ※代行期間 (H16.8.28～H17.8.28)
六代	曲木 茂 (平成17年12月～)

町会のあゆみ

大塚坂下南町会は大塚5丁目、坂下通りを中央に左右に位置し、豊島ヶ岡御陵の東側に沿う地にあります。町会内には鎮座百周年を迎えた「吹上稲荷神社」や「大塚先儒墓地」もあり、ビルやマンションが多い都会に位置しながらも、緑が多く自然の中に季節を感じる事の出来る地であります。

町会の起源は昭和27年初代並木会長が会員相互の親睦及び福利増進と発展向上に努め、隣接町会との緊密なる連携と調和を保つ事を主な目的とし発足いたしました。

その精神は今も引き継がれ現在に至って居ります。

現在、当町会の主な事業内容としては地域の安全安心を守るため、防犯部、防災部による警戒、啓発活動、交通部による小中学生の通学時の安全誘導、婦人部による地域全体への目配り、そして、お年寄りから小さなお子様までをケアする、老人福祉部や青少年部の活動の充実にも町を挙げて取り組んでおります。

その中の例を挙げてみますと、年末特別警戒や春の各種安全活動、防犯部による地域パトロールや防災部による初期消火訓練、青少年部の夏休みの子供ラジオ体操会や子供広場（縁日）などなど……、また、吹上神社の宮元町会という事もあり、町内

には祭り好きの方も大勢いて、毎年祭礼の際には子供神輿、山車、そして大人神輿も大盛り上がりです。これも当町会の外せない行事の一つです。

そして最後になりますが、何よりも大切に思い、心がけている事は、役員は元より会員の皆様が隣近所との交流、高齢者への声掛けなど、古き良き昭和の下町の様な温かみのある町作りを念頭に、町会運営を行い続けたいという強い思いを持って活動するという事です。



被災地への募金活動を継続中

大塚坂下北町会

● 昭和29年3月結成

■ 歴代会長

初代 窪田 恒（昭和29年3月～昭和42年3月）
二代 内田柳次郎（昭和42年12月～昭和50年3月）
三代 五木田 明（昭和50年4月～昭和62年3月）
四代 久保田 保（昭和62年4月～平成10年3月）

五代 鷹野エツ子（平成11年4月～平成18年3月）
六代 今井 キヨ（平成18年4月～平成21年3月）
七代 川上 清一（平成21年4月～）

町会のあゆみ

戦前は、大塚坂下町全町組織の大塚坂下町会であったが、戦後、大塚坂下南町会、豊島ヶ岡町会、大塚坂下北町会の三町会に改編された。昭和21年、大塚五丁目の一部、六丁目の北部の居住者をもって、大塚坂下北部協力会を組織し、会長に内田柳次郎氏が就任発足した。その後、昭和29年3月、大塚坂下北町会と改称した。

当町会は、人口概ね1,670人、豊島区東池袋五丁目に隣接している区界の小さな町会である。町会の主な活動は、敬老祝品贈呈、氏神祭典、青少年の非行化防止運動、防犯・防災・交通安全の強化促進、環境衛生の改善向上、会員の厚生・保健・弔慰などである。また、会員相互の親睦を図るため、秋の日帰りレクリエーション、年末のもちつき大会、夜間パトロール（子供も一緒）等の年間行事を行っている。

町会内の史跡などについては、江戸時代、小石川村の内に幕府の大塚御薬園があったが、廃園に伴い、その跡地は護国寺領となった。その後町屋が設けられ、現大塚三丁目交差点から護国寺へ下る富士見坂の坂下北側にあつたので坂下町と命名され、後に大塚坂下町となった。

開運坂は、大塚五丁目、六丁目の境を北へ下る坂で、降りた道路は、昔、監獄新道と呼ばれた。その向側には川が流れ、橋が架かっていた（現在の六丁目派出所付近）。その名も泪橋と名づけられ、渡って

出て来る人は巢鴨監獄の方をのぞみ涙ぐんだと伝えられている。



年末の火の用心（平成23年12月30日）



吹上稲荷神社鎮座100年記念 北陸神酒所町会役員（平成24年9月22日）



円覚寺（鎌倉）にて（平成24年10月21日）

■ 歴代会長

初代 栗本 俊道 (昭和25年5月～昭和36年5月 11年間)
二代 岩崎 銀蔵 (昭和36年6月～昭和50年6月 14年間)
三代 横山 長 (昭和50年6月～平成7年6月 20年間)

四代 松崎 米雄 (平成7年6月～平成19年6月 12年間)
会長席空席 (平成19年7月～平成20年5月 10ヶ月間)
五代 渡辺 康博 (平成20年6月～)

町会のあゆみ

大塚上辻町会は、昭和41年に大塚上町町会と大塚辻町町会が合併し、大塚上辻町会として結成され現在に至っております。

世帯数も多い時で、約660世帯程でしたが、現在は約530世帯に減少しておりますが、この減少は区画整理、又、御年寄りの方々が御子様の所へ引っ越ししたりした為の減少で、現在の所は若干ながら増加傾向にあり、町会としては、余り心配はしておりません。

町会役員はもとより、青年部員45名程、婦人部員（地域班お母様含）20名程で、

町会全体を見守り、町会等の催し物、イベント（別途写真）、夏（流しソーメン）、秋口（祭典、子供広場）、秋（おもちつき大会）など、他にも色々なイベントには青年部、婦人部（地域班お母様）の方々、又、町会の人達も大勢参加していただける為、イベントなども盛り上がり町会全体としての絆も強まり、安心して生活出来る町会だと思っております。



スイカ割り



流しソーメン



上辻号御祭り子供広場



祭典



もちつき大会



もちつき大会

■ 歴代会長

初代 菊池 基一（昭和24年7月～昭和26年3月）
二代 穴沢 一（昭和26年3月～昭和41年3月）
三代 中畝貞次郎（昭和41年4月～昭和43年4月）
四代 綾部 美年（昭和43年5月～昭和52年4月）
五代 羽鳥 林造（昭和52年2月～昭和56年5月）
六代 武井 又三（昭和56年5月～平成6年5月）

七代 内野 剛一（平成6年5月～平成8年2月）
八代 小島 道衛（平成8年3月～平成9年5月）
九代 吉田 織恵（平成9年5月～平成14年1月）
十代 磯川 八郎（平成14年1月～平成19年3月）
十一代 加藤 雄三（平成19年4月～）

町会のあゆみ

古くは明治44年の「長清会」、大正12年の「社団法人窪町々会」を経て、昭和24年7月の結成となっています。その後「大塚窪町協力会」から「大塚窪町々会」と改称し、平成21年に会則を改めて「大塚窪町町会」として現在に至り、庶務部・広報部・女性部・厚生部・交通部・防災部・防犯部・環境部及び支部を組織して活動しています。平成23年10月に町会ホームページを立ち上げて、広く町会行事や活動を紹介しています。

町会は春日通りの東側の商業ビルの東側に位置し、地域内には教育の森公園・窪町

公園・窪町東公園のほか、筑波大学、放送大学、筑波大附属小学校、占春園、区立窪町小学校があり、教育の森公園には区のスポーツセンター、防災広場や災害時の飲料水地下槽があります。地域全体に緑が多く、環境に恵まれた静かな住宅街で、マンションが多く戸建住宅が建ち並んでいます。

茗荷谷駅前交番を湯立坂に入ったところに1988年文京区とドイツ国カイザースラウテルン市と姉妹都市提携のシンボルの記念広場があり、神話の一角獣や魚、アンモナイト等の6点の彫刻が、樹々に囲まれて置かれています。



カイザースラウテルン広場

大塚一・二丁目町会

● 昭和24年3月結成

■ 歴代会長

初代	北原 千秋	(昭和24年3月～昭和58年5月14日 34年2月)
二代	西條 市郎	(昭和58年5月15日～平成9年5月11日 13年11月)
三代	石井 彦澄	(平成9年5月11日～平成11年6月13日 2年1月)
四代	大谷 文尚	(平成11年6月13日～平成17年5月14日 5年11月)
五代	西田 昭男	(平成17年5月15日～平成21年5月16日 4年)
六代	宮地 健	(平成21年5月17日～)

町会のあゆみ

大塚一・二丁目町会は安全・安心の街づくりをテーマに結束と融和をはかり、町内活動を推進しております。特に子供達にとって幼い頃からのイベントの楽しい思い出づくりを力強く心掛けています。又、子供達に町内の人々が防犯・防災にどのようにかかわっているかという事を実際に大人との合同パトロールにより体験してもらっています。子供達に現実の行事の楽しさと厳しさの両面を知ってもらうためです。下の写真は夏休みの子供会及び秋祭りの楽しいスナップです。



夏休み子供会



祭礼風景 (平成24年9月22日)



祭礼風景 (平成24年9月22日)



ヨーヨー吊り、ボンボンすくい

■ 歴代会長

- 初代 川田 留吉（昭和24年5月～昭和39年5月）
- 二代 藤沢藤次郎（昭和39年5月～昭和48年5月）
- 三代 安田 重春（昭和48年5月～平成9年11月）
- 四代 福井 ヌ吉（平成9年11月～平成16年5月）
- 五代 中尾 修（平成16年5月～平成18年5月）
- 六代 鋤形 光男（平成18年5月～平成22年5月）
- 七代 若井 行雄（平成22年5月～平成25年8月）
- 八代 尾崎桂一郎（平成25年8月～）

町会のあゆみ

私ども「文京中央町会」は昭和23年5月、前身である「三和協力会」を発展的に解消し創立されました。当時は、敗戦直後の混乱から立ち上がり、戦後の復興が緒についたばかりの時期でしたが、「町内の絆を作ろう。」という諸先輩方の熱意と行政のご協力により会が誕生したものといたします。

以来、今日まで役員会員の皆様方の多大な尽力に支えられここに創立60周年を迎えることができました。この間、都電は廃止になり茗荷谷駅の1日乗降客は10万人を数える賑わいでした。オフィスビルやマンション等、町の発展は目を見張るものがあります。

町会事業としては春秋の交通安全運動へ協力、春秋の火災予防運動の協力。また春の播磨坂桜まつりは、文京五大花祭りの一つになるまで推進しました。町内氏神様は

吹上神社、小日向神社、簸川神社の祭礼合同執行化に成功しました。その他は夏期のレクリエーション、ラジオ体操、敬老の日の催し、就学児童への記念品、防災訓練防災講習会、防災コンクールへの参加、正月には関東有名神社への初詣り、氏神様での豆撒き等、広範囲に亘り町会員の福祉と文化の向上に努めております。

近年における子供達を取巻く環境の変化により「安全安心」の街づくりをスローガンに置き、問題解消に繋がる様、心がけて活動しております。



防災訓練での消火活動（平成25年3月）



文京さくらまつり

■ 歴代会長

初代 黒川勝太郎（昭和26年9月～昭和26年10月）
二代 近沢角太郎（昭和26年10月～昭和28年10月）
三代 秋山松太郎（昭和28年10月～平成6年3月）
四代 大野 晴弘（平成6年3月～平成13年3月）

五代 本多 浄道（平成13年3月～平成20年6月）
六代 諏訪部 武（平成20年6月～平成24年9月）
七代 松本 秀雄（平成24年9月～）

町会のあゆみ

この地域がいつ頃から「久堅」と呼ばれたのか、確たる証拠は存在しないようだが、明治中期の地図には「久堅」が明記されている。一説には明治初期に「久保町」を改めた名称ともいわれている。その地域に昭和初期、久堅自治会の前身である久堅町会が発足した。それは他の地域と同様、満州事変から始まる戦時下で行政との連帯、連携を強化する目的で、隣接する町を含めた総意により発足した。

ところが、昭和20年に敗戦、同時に久堅町会も廃止となる。

その後、組織は無形であるが、有志の実質的な町内会活動により、町の復興や生活環境の改善を進めてきた。昭和27年、町内会活動が解禁になると前後して、再び町会を立ち上げた。その名称を「久堅町自治会」とした。後に「久堅自治会」と改称する。

以後、秋山松太郎氏の下、活発な活動が展開される。基本的な組織づくりはもとより、祭礼をはじめ、盆踊り、のど自慢大会、相撲大会、海水浴等々、町会行事も活発化してきた。

正に「久堅自治会昭和黄金期」といっても過言ではない。昭和後期からは執行部役員の高齢化もあり、青年部が実質的な町会運営を行う。従来の組織体、活動の良い面を踏襲し、変化する町内環境、それに伴う人間関係の多様化に対応すべく積極的な活動を続けてきた。

現在、当時の青年部員の大半が執行部役員として、祭礼、レクリエーション、敬老、成人、入学の祝い等々多岐にわり活動中。更に防災、防犯の啓蒙活動を行いつつ、時代に即した町会組織の在り方、運営方法を模索し「住んで良かった」そんな町づくりを目指し活動をしている。



久堅自治会2011年新年会 居酒屋北海道・後楽園にて



久堅自治会さくら祭

■ 歴代会長

初代 山元 正宣（昭和26年9月～昭和28年9月）
二代 大西 留吉（昭和28年10月～昭和33年9月）
三代 伊藤 義雄（昭和33年10月～昭和36年9月）
四代 秋葉 正治（昭和36年10月～昭和38年9月）
五代 岩佐 新治（昭和38年10月～昭和48年8月）

六代 小林 詮（昭和48年8月～昭和56年9月）
七代 荒川 武一（昭和56年10月～平成7年11月）
八代 佐々木惟雄（平成7年11月～平成17年12月）
九代 奈良 利男（平成18年1月～平成23年11月）
十代 雨倉 源一（平成23年11月～）

町会のあゆみ

当町会は、大正7年1月に創立された。初代会長は水谷影長氏、以後岡田国太郎氏、西澤仙太郎氏等諸氏が歴任した。戦後は、昭和26年9月に復活した。当町会内には史跡がある。霊験あらたかな清水が溢れ流れていた土地に、数年前に小石川パークタワーが建てられた際、その敷地内の泉水と共に、古くから祀られていた弁財天も移され、檜造りの社殿が建立された。ご神体は美しい白蛇で、その脇に絵図があり、この弁財天を長く守って来られた故人大橋芳江さんが、生前富士浅間大神の掛絵図を富士浅間神社から受けお祀りされたと伝えられ、そのお姿は女神である。

平成6年に「平成の小石川七福神」が創設されるに当たり、その一神に加えられ七福神巡りの方の参拝を得ている。

当町会では、もちつき大会、さくらまつり、ラジオ体操、菓撒き、防災体験、花火

大会、簸川神社大祭、新成人・新入学・敬老のお祝い、資源回収、防犯パトロール、年末夜警等の他にも、ディズニーランド・ディズニーシー・ツアー、バスツアー、明治座観劇等、会員間の親睦・町内の安全・福祉に重きを置いた行事を行っている。特に簸川神社例大祭では、平成10年に他町会も行われなかった町会神輿の宮入りを果たし、現在に至っている。



平成21年夏休みラジオ体操



昭和31年9月簸川神社大祭



平成14年9月夏休み子ども花火大会

■ 歴代会長

初代 鴻田 義光（昭和31年10月～昭和39年9月）
二代 鈴木 富雄（昭和39年9月～昭和50年4月）
三代 鎌原 義則（昭和50年5月～昭和55年9月）
四代 和田 仁一（昭和55年10月～昭和59年9月）

五代 鎌原 義則（昭和59年10月～平成4年9月）
六代 深谷 君彦（平成4年10月～平成12年9月）
七代 渡邊 秋彦（平成12年10月～平成22年9月）
八代 坂巻 三登（平成22年10月～）

町会のあゆみ

久堅の名を冠した町会は親交会を含め現在4町会あります。小石川久堅町は江戸期の小石川橋戸町、久保町、宮下町飛地並びに宗慶寺門前、松平播磨守上屋敷を合併し明治の初年小石川久堅町の町名を付されたとあります。

東京の町内会は明治も中期を過ぎた頃より、さまざまな会が母体となり創られたようであります。

大正12年9月1日に突然起こった関東大震災により治安が悪化し不安と恐怖の中で不自由な生活を送る事となり自らの手で街を守ろうと団結した人達で自警団が組織され町内の警備に当たるようになった。やがて治安が回復されると、その組織は後に町会として形を変えて行った。

現在の久堅親交会の前身である久堅町東部町会も自警団が発展的解散をして大正12年12月1日に鴻田秀一氏のもとに設立されたものであります。

当時の概要は戸数246戸、会員238世帯、掲示板3。

その久堅町東部町会も大東亜戦争に突入り、戦争末期に隣接の町会と合併して久堅町南町会と改称したが間もなく終戦を迎え、やがて昭和22年3月、占領軍によって町会の組織は廃止され、創立以来23年3ヵ月を以ってこの町会は解散するに至ったのであります。

昭和29年9月簸川神社の祭礼に際して、鴻田義光・玉井源太郎氏ら町内の有志が発起人となり久堅子供会を結成して、隣接の表町町会より御神輿を借用して、子供達を喜ばせた。

その後、久堅子供会にも自前のお神輿をと、翌30年町内多数の方々よりご寄付を仰ぎ、念願の御神輿と山車が出来あがり子供達や関係者を大いに喜ばせた。

昭和31年9月久堅子供会は、前記発起人を始め多くの方々の協力を得て、町会廃止以来8年目にして、ようやく復活した久堅親交会に併合されたのであります。

当町会は創設以来、和をモットーとして、会員相互の親睦と扶助をはかり、特に青少年の健全育成に力を注いできました。その後、高齢化時代を迎え「久堅コミュニティ」を立ち上げ高齢者の憩いの場を提供して喜ばれております。又防災の面では3・11以来、町会員の安全を第一にと備えに取り組んでいる所であります。



防火・防災訓練

■ 歴代会長

初代 田中次郎吉（昭和30年8月～昭和36年3月）
二代 本田 弥市（昭和36年4月～昭和39年3月）
三代 山川 忠平（昭和39年4月～昭和45年3月）
四代 武藤 一郎（昭和45年4月～昭和50年3月）
五代 山川 忠平（昭和50年4月～昭和60年3月）
六代 安斉 利夫（昭和60年4月～平成元年3月）

七代 武藤 一郎（平成元年4月～平成3年3月）
八代 廣瀬喜久雄（平成3年4月～平成9年3月）
九代 小林 勇（平成9年4月～平成17年3月）
十代 井上 義一（平成17年4月～平成23年7月）
十一代 阿達 正敏（平成23年8月～）

町会のあゆみ

■ 町会結成までの経過

旧久堅町会解散後、爾来田中次郎吉氏等町会内居住の長老有志が心をくだき、昭和30年8月1日現在の久堅西町会結成するに至る。

■ 町会の現在の主な活動状況

1. 文京さくら祭りに参加協力。
2. 隔年の簸川神社例大祭に町内神輿渡御、山車巡行の実施。
3. 小中学校行事への参加、夏期休暇時のラジオ体操、レクリエーションの実施。
4. 春秋交通安全週間運動に協力。
5. 町内の安全を図り、消防訓練を行ない、救命講習の助成、年末防犯夜警の実施。
6. リサイクル活動（古紙回収）の実施。
7. 区報配布、町会報作成等の広報活動実施。

8. 会員間の交流促進の実施。

■ 町会の特質

当町内には商店街がなく、マンションが比較的多い、静かな住宅街である。

世帯数約450世帯、約1,000名が居住している。

■ 町会内の史跡

小石川5丁目11番7号に東京都指定文化財、石川啄木終焉の地の碑がある。



テントの中は大忙し さくら祭



区長と共に 簸川神社大祭



町の安全を守るため・子供夜警

春日二丁目町会

● 昭和25年4月結成

■ 歴代会長

初代 岡田 政康（昭和25年4月～昭和41年5月）
二代 小林 次郎（昭和41年5月～昭和56年6月）
三代 望月 行雄（昭和56年6月～昭和56年8月）
四代（代行）井狩進太郎（昭和56年9月～昭和57年5月）
五代 後藤 徳茂（昭和57年5月～平成2年5月）
六代 伊藤 公夫（平成2年5月～平成16年5月）

七代 楠本 義雄（平成16年5月～平成17年6月）
八代 中島 和子（平成17年6月～平成18年9月）
九代（代行）品田ひでこ（平成18年10月～平成19年5月）
十代 楠本 義雄（平成19年6月～平成20年5月）
十一代 村越 義晴（平成20年5月～）

町会のあゆみ

昭和39年に町会名が、「春日二丁目町会」と改称されてから、金富、同心の町名が消えてしまいました。金富は歴史ある小学校の名前で残されていますが、江戸時代、同心屋敷があったと言うなごりは、巻石通りへ続く静かな佇まいに偲ばれるだけとなっています。

今井坂（新坂）にある徳川慶喜終焉の地は、「仏教大学 大学院大学」となり大銀杏は、シンボルツリーとなっています。

春日通り沿いはマンションが建ち並び、町並みは様変わりしました。現在は1,000世帯50班の内、半分の25班はマンションとなっています。町会行事の、新年会、バスハイク等にはマンションの方々の参加者も多くみられます。

交通安全、防火防災、金富小学校・茗台中学校の子供たちとのふれあい、近隣町会との共催の行事等を、役員を中心に町会員の皆さまの多くの参加を得て、実施しています。

■ 平成25年度行事予定

4月 新入学児童祝・春期交通安全運動
5月 町会総会
7月 礪南5ヶ町夏祭・夏休みラジオ体操
9月 敬老祝の会・秋期交通安全運動
10月 日帰りバスハイク
12月 年末夜警
翌1月 新年会
翌2月 フラワーアレンジメントの講習会
翌3月 防火・防災訓練



平成24年10月21日（日）バスハイク “清里高原散策と小海線の旅”

■ 歴代会長

初代 四宮 久吉（昭和24年4月～昭和34年3月）
二代 河野美三九（昭和34年4月～昭和44年3月）
三代 中井初次郎（昭和44年4月～昭和52年6月）
四代 並木新之助（昭和52年7月～昭和55年7月）
代行 内田松五郎（昭和55年7月～昭和57年5月）

五代 内田松五郎（昭和57年5月～平成元年2月）
六代 並木 茂治（平成元年2月～平成7年5月）
七代 小林 貞夫（平成7年5月～平成15年5月）
八代 諸留 和夫（平成15年5月～）

町会のあゆみ

護国寺前の不忍通りとお茶の水女子大学と音羽通りから東に1本入った小路にはさまれたこじんまりとした町会である。不忍通りに面したところは住宅や店舗が高層マンションへと変わっていきつつある。大通りから中に入ったところは道幅が狭いので高層マンションは建たないため昔ながらの低層の建物が残っていく。

正月は新年会、冬は防災コンクールへの出場、春は播磨坂でお花見、新年度の5月は総会、初夏は日帰りバス旅行、夏の終わりに今宮神社の例大祭と町会が実施する縁日、12月は餅つき、その間には春と秋の全国交通安全運動や歳末特別警戒で夜警の夜回りと行事等は多くある。

「町会のために」を基準に儀式や行事を大切にしていかないと町会は衰退していく

との思いからこれまでの先人たちが築いた道を少しずつ進化させながら人々の幸せを目指して歩いていく。



総会



祭礼縁日



餅つき会



防災コンクール



町会日帰り旅行（箱根芦の湖）



南からみた町会全体



第六天町会

● 昭和24年7月結成

■ 歴代会長

初代 八坂 進（昭和24年7月～昭和56年3月）
二代 高野 一郎（昭和56年4月～昭和59年9月）
三代 鶴島 信通（昭和59年9月～昭和60年3月）

四代 長島 清（昭和60年4月～平成10年3月）
五代 鶴島 信通（平成10年4月～平成18年3月）
現在 奥山 孝夫（平成18年4月～）

町会のあゆみ

地名の由来

第六天町会の地名は正徳3年（1713年）の昔、町内に第六天社（五穀豊穰の氏神さま）が祀られていたことに因むとされています。第六天町会の氏神さまは服部坂上の小日向神社です。

第六天町の事例・活動

◎明治27年6月生まれの吉田 衛氏（ペンネーム・礫南散史氏）が書いた著書・礫南夜話が、第六天町町の宝物として受け継がれ、保存されています。

①地名の由来にはじまり ②明治35年頃から明治末年まで ③大正初期から戦災を受けるまで ④町内こぼれ話 ⑤町内に住まれた名士等々歴史が項目別に詳細にわたり記述されています。

◎第六天町は徳川幕府15代将軍「徳川慶喜」終焉の地です。戦火を免れた小日向第六天邸と敷地は戦後、国に物納され大蔵省

（現・財務省）の官舎として使用され、平成19年に国際仏教学大学院大学が取得、徳川「最後の将軍」慶喜公が住まれたイメージを取り入れたデザインにより歴史の流れを継承し、緑豊かな環境造りに沿った校舎が作られました。

平成23年「大銀杏や地形などを生かした配置・デザイン等々により歴史の流行を現在に繋ぎながら潤いのある環境を創造している」との評価により「第10回文の京景観創造賞」を受賞しました。江戸幕府最後の将軍・慶喜公は、小石川水戸藩上屋敷（現・小石川後楽園）に生まれ、第六天町54番地（現・春日2-8-9）で大正2年11月22日に没しました。平成25年は慶喜公没後100年の記念すべき年であり、第六天町会では文京区の企画に基づき数々のイベントを開催しました。平成26年3月文京区指定文化財（史跡）に指定されました。



樹齢250年余といわれている大銀杏



緑豊かな環境造りに沿った校舎

■ 歴代会長

- 初代 森田 忠一（昭和26年4月～昭和49年1月）
- 二代 藤井 隆信（昭和49年1月～平成2年3月）
- 三代 杉岡 大吉（平成2年4月～平成3年10月）
- 四代 平野 敏男（平成3年11月～平成9年5月）
- 五代 森田 忠雄（平成9年5月～平成14年10月）
- 六代 岩本 迪（平成14年11月～）

町会のあゆみ

昭和14年4月より大東亜戦争終結まで礪南町会（今の第六天、水道端、西江戸川、武島各町会四ヶ町の連合であった）に所属しておりました。礪南地域一帯は明治維新までは徳川直参の旗本屋敷で、武島町会もその一部で武島某有力者が住んできた所からその名が付けられたと言われている。昭和26年4月より武島町会一町会として活動。又、近隣町会と親睦を計り各行事を共催して行っている。

年間行事予定

4月	交通安全	3ヶ町
7月	五ヶ町夏祭り	5ヶ町
	五ヶ町ラジオ体操	5ヶ町
9月	交通安全	3ヶ町
	三ヶ町秋祭り	3ヶ町
11月	町内旅行	
12月	町内餅つき大会	
	歳末警戒	
1月	4ヶ町新年互礼会	4ヶ町
	小石川七福神めぐり	
	毎月第4金曜日資源リサイクル	



毎年行われる町会旅行での記念写真

水道端町会

● 昭和25年3月結成

■ 歴代会長

初代 三好登左嘉（昭和25年3月～昭和53年6月）
二代 小山 高勝（昭和53年6月～平成3年5月）
三代 丹内 正孝（平成3年5月～平成10年5月）

四代 鈴木 伸男（平成10年6月～平成25年5月）
五代 小山 一平（平成25年5月～）

町会のあゆみ

「町会のあゆみ」については、前回の30年誌で既にも書き尽くされていると思われるが、その後の展開としては、他の町会の悩み同様に、林立するマンション等の大きな建物の建設があり、個人と個人（住民）の触れ合いが少なくなりつつあることでしょう。

江戸時代初期から明治に至るまで、神田上水が江戸の街を潤していたことは周知のことです。その水路は現在の巻石通りの水道2丁目と小日向2丁目の間にもありました。上水道の南岸が水道2丁目であり、北

岸が小日向2丁目、水道をまたがって両端にあったので水道端という街があったわけです。小日向2丁目の方より「何故私達の街が水道端なのか」という問いを出されたことがあります。

先の大戦後、行政の区分によって水道と小日向に分かれたことが、そのような疑問となって現れたのでしょう。

行政区分を超えた、長い町会の歴史が、私達住民の中に根付いて居て、それが町会の存立の条件となっているように思われます。



防災訓練（平成6年5月8日）



礪南三ヶ町祭礼（平成7年9月17日）



祭礼夜の模擬店（平成23年9月10日）



礪南夏まつり（平成24年7月15日）

西江戸川町会

● 昭和25年4月結成

昭和25年「西江戸川町協和会」・昭和34年「西江戸川町会」に改組

■ 歴代会長

初代 大町 茂夫（昭和25年4月～昭和31年3月）
二代 石塚 盛隆（昭和31年4月～昭和51年5月）
三代 古川欣一郎（昭和51年6月～平成11年5月）
四代 朝香 勝利（平成11年5月～平成15年4月）
代行 中野 裕生（平成15年5月～平成15年7月）

五代 高木 雄二（平成15年7月～平成16年3月）
六代 仲野 裕生（平成16年9月～平成18年5月）
七代 岡島 洋紀（平成18年6月～平成20年5月）
八代 新井 攻（平成20年5月～）

町会のあゆみ

西江戸川町会は洪水の多い町でした。台風、大雨の時は満潮の時間を調べ、満潮の時は床上浸水になる可能性がありました。最近では環状七号線の地下に地下水路が出来、ここ10年以上水が出なくなりました。当町会は印刷業、製本業の会社が多く経営しておりました。自営業者が多く、町会会員は若い方々が町会運営を協力していただき、盛大でした。現在はマンションなどの大きな建物で住民との触れ合いが少なくなりました。

■ 町会行事

新年会・総会・防災訓練・花見・ラジオ体操・夏まつり・小日向神社祭礼・町会旅行・赤十字奉仕・年末夜警・春秋全国交通安全週間テント設営協力



小日向神社
秋の例大祭 境内記念写真



小桜橋
昭和10年6月1日架け替えられた竣工記念写真

■ 歴代会長

初代	静永 孝英 (昭和24年～昭和31年)
二代	高田 栄 (昭和31年～昭和33年)
三代	平野幾三郎 (昭和33年～昭和41年)
四代	柏木 栄一 (昭和41年～昭和45年)
五代	静永 孝英 (昭和45年～昭和53年)
六代	高松 秀幸 (昭和53年～)

町会のあゆみ

昭和24年5月開催の総会で静永孝英氏が町会長に選任されてから今日までが茗荷谷町会のあゆみです。

町会の範囲は小日向1丁目2番、3番、10番及び14番から26番、小日向3丁目6番から3番6号まで、小日向4丁目1番から9番までとなっています。

この区域の世帯数は区の統計によれば、1,300世帯となっていますが、この数字は奈良県などの独身寮（学生寮）の住民を含むもので、いわゆる戸別世帯でいうと概ね900世帯が茗荷谷町会の世帯数です。

町会連合会などで未加入世帯のことが話題になることがありますが、茗荷谷町内は全世帯が町会に加入されています。

町会の活動については23区内でも1、2位といわれています。このことはテレビのバラエティ番組でも取り上げられたことが



スイカ割り(夕涼みフェスティバル)

あります。

ここで主な行事を紹介させていただくと①除夜の鐘を撞く会、②新春歩こう会、③初午祭（町会が所有管理している宗四郎稻荷神社のお祭り）、④もちつき大会（路上でのもちつき大会は23区内での発祥の地）、⑤小・中学校の卒業入学を祝う会、⑥春秋の交通安全運動、⑦町内消毒（蚊と蝇の駆除活動）、⑧夏休み中のラジオ体操会、⑨毎月1回の町内防犯パトロール、⑩防犯、防災、交通安全の三活動で夕涼みフェスティバル、⑪秋の祭礼行事、⑫敬老行事（節寿を祝う会）、⑬ハロウィン、⑭年末特別警戒運動、⑮除夜の鐘を撞く会の準備。



流しそうめん(秋まつり行事の一つ)

これらの活動は町会役員会の議を経て、婦人部、次世会（青壮年部）を中心に町内の全ての人（自由参加）が参加して行われています。

■ 歴代会長

初代 次田大三郎（昭和30年5月～昭和32年3月）
二代 山口 寿信（昭和32年4月～昭和42年3月）
三代 與田 勝蔵（昭和42年4月～昭和52年8月）
四代 伊藤 秀文（昭和52年9月～昭和56年5月）

五代 西川 勝一（昭和56年6月～昭和60年4月）
六代 内藤 十三（昭和60年5月～平成14年3月）
七代 篠 文一（平成14年4月～平成26年5月）
八代 宮本 忠昌（平成26年6月～）

町会のあゆみ

本町会は昭和初期に地域の親睦団体として組織され活動を開始した。しかしながら戦争によりやむなく中断され、復興を願う地域の人々の努力と協力により昭和30年5月に再興された。会員相互の親和を期し、併せて公共事業に協力し、町の向上発展、福祉増進を図り明るい町とすることを目的に掲げ、初代会長に内閣法制局長官等を歴任された次田大三郎氏を迎え発足した。その後歴代会長のご尽力により発展の一途をたどり、今日に至っている。

婦人部も歴史は古く、戦前の国防婦人会・愛国婦人会にルーツを發し、大塚仲町婦人会と改称後町会組織に編入され、今日では、その活動は町会運営の重要な役割を担う大きな力となっている。

町会の主な活動は新春の賀詞交換会に始まり、新成人の祝い、日帰りバス旅行、夏休みのすいか割り、ラジオ体操、敬老の祝い、吹上稲荷神社祭礼、歳末警戒パトロール等々



小雨の中、子供達が頑張っていました

を実施し、また、官公庁の協力事業として春秋の交通安全運動・防犯運動、冬春の火災予防運動、防災コンクール・救命講習会への参加、リサイクル活動、特別養護施設“くすのきの郷”の救助隊活動等、広範囲にわたり町会目的に沿って活動を続けている。

特に最近では、すいか割り、祭礼等子供たち中心の行事では、町会員の子供のみに限定せず全ての子供を受け入れ、町のそして地域の賑わい、活性化に努めている。

現在、地域の歴史を後世に伝える活動として『大塚仲町散歩』を行っている。資料の収集や聞き取り調査を繰り返し、大正末期の町並みの古地図を作成し、担当役員の案内で町内を散歩し、『今』との変化・発展を伝承している。



探検散歩募集ポスター

■ 歴代会長

初代 浦田関太郎（昭和30年～昭和39年8月）
二代 河野 平市（昭和39年8月～昭和51年3月）
三代 彦坂 保（昭和51年4月～昭和52年8月）

四代 渡辺 昭雄（昭和52年8月～昭和58年6月）
五代 松本 茂雄（昭和58年6月～平成16年4月〈25年間〉）
六代 藤井 寔（平成16年4月～）

町会のあゆみ

この協力会の地域は旧大塚仲町三六番地と三八番地で、主として旧桑名藩の藩主松平家邸内の約壹万坪の土地であった。

日露戦役後、小石川砲兵工廠で兵器を作っていた人々が戦勝の波に乗って家を立てた人々が、高等師範学校が古くからあり学校職員その他の勤人が多くこの町に移住してくる様になった。

大正12年9月1日の「関東大震災」のため、東京の下町の6割が消失し被災者が敷地を求めて殺到し家を立てた。浴場、郵便ポスト、酒屋、豆腐屋などが次から次へと出来て住宅街が町らしくなっていった。

人口が増加するにつれて自然と仲町に会が生まれた。

昭和20年の4月と5月の2回にわたる大空襲で、この地域も全焼した。

戦後この地域の大半を所有していた松平家が、財産税の為に宅地の全部を国に物納したということで騒ぎになり、町の有志達が国に土地の払い下げ交渉を行った。その結果、昭和30年6月4日に大塚仲町協力会創立総会が開かれ、協力会の母体たる一步を踏み出すことになった。

当時は戦後のめざましい経済復興により住宅・交通も整備され、交通至便と恵まれた文教地域、閑静な土地柄が大きな魅力となり、戦前にも勝る住宅地として多くの人に移住してくるようになった。

その後、町会運営も民主的・理想的な新しい町作りを目標に運営され、昭和61年5月18日大塚小学校体育館に於いて、45名

の来賓を迎えて盛大な創立30周年の式典・祝賀会が行われた。

また、昭和62年4月には大塚病院の開院、昭和63年4月には文京区特別養護老人ホーム・福祉作業所・授産所が開設され、街路も整備されて付近は面目を一新した。

町内では、昭和60年3月に公衆浴場「桜湯」が消え、昭和62年には開拓会館が廃業し旧桑名藩主松平家の御殿造りの棟屋も消え失せて、三室戸学園の運動場となった。

近年町内には耐震建築（3階建て）が多く建築されるようになり、町会としてもこうした地域環境の変化に適応した心ふれあう・明るい・住みよい町となるよう努めなければならない。

平成3年4月1日には社会福祉法人槐の会の障害者福祉施設が開設された。同年4月10日には大塚公園の改修工事も完了し、大塚公園集会所・みどりの図書館も開所となった。また、平成4年4月1日より隣接地の区域内に文京区立第2特別養護老人ホームと併設のシルバーピアおおつかが開設された。

時代の変化も加わる中、歴史伝統を共有し先人の教えを守りながら、悪しきを正し、良さを残し、住みよい町作りに努力していかなければならない。

平成の時代も25年に入って、少子高齢化や世代交代も進み地域環境も変わる中、先人達が進めてきた民主的・理想的な住みよい町作りに努力するのが後人私たちの責務であると思う。



湯の谷やまびこ荘への町内会旅行



創立30周年記念式典

小日向台町町会

● 昭和29年4月会則制定

■ 歴代会長

初代 池田 喜一（昭和24年4月～不明）

二代 中江 要助（不明）

三代 長尾 政治（不明）

四代 額賀 秀一（昭和36年4月～昭和37年3月）

五代 飯塚 信夫（昭和37年4月～昭和39年3月）

六代 藤巻 茂夫（昭和39年4月～昭和47年3月）

七代 飯塚 信夫（昭和50年4月～昭和51年3月）

八代 小林 利隆（昭和51年4月～昭和57年5月）

九代 窪田 稲雄（昭和57年6月～平成16年5月）

代行 河井 志郎（平成15年11月～平成16年5月）

十代 河井 志郎（平成16年6月～平成17年5月）

十一代 小川 忠博（平成17年6月～平成24年5月）

十二代 勝井 邦彦（平成24年6月～）

町会のあゆみ

■ 立地、環境

東に小石川台地と春日通、南に巻石通と神田川、西に関口台地と音羽通に接する小日向台地の頂上部分にある。小日向2および3丁目を中心に、ビークルは通るものの静かな低層の住宅街である。

■ 町会活動

毎月の活動：防犯・防災パトロール、放射線測定など 年間の活動：春秋の交通安全活動、年末の火災予防夜警、春の桜祭り、夏休みラジオ体操、秋の小日向神社例大祭＋子供祭り、12月の餅つき、入学および敬老のお祝い金贈呈などを行っている。

防災活動：被災時への対応を念頭に、特に力を入れている。63か所の消火器やD級ポンプに加え、今年カセットボンベ発電機やスタンドパイプを導入し、色々な機会を利用して町会員参加による操作訓練を行っている。避難所である小日向台町小学校の運営協議会は、町会とは別組織であるが、そこでの訓練活動を全町会的取り組みで担っている。

広報活動：11か所の掲示板に加え、A4版カラー 4ページの「町内だより」を年4回発行している。また町会ホットラインも常備し、町民からの問合せ要望を直接受けている。



9月の小日向神社例大祭＋子供祭り（平成24年には700人を超える人で賑わった）

■ 町会組織

最高の意思決定機関である総会は、5月下旬に開催される。決算の承認、事業計画や予算の決議、会長・監査の選出などを行う。町会域は12の支部に分かれ、支部長は複数人の地区代表から選ばれる。支部長会は総会に次ぐ意思決定機関であると同時に、各支部の業務を分担執行する。執行機関としては、会長のもとに、複数名の副会長および常任理事がおり、それぞれ総務、会計、文化厚生、企画広報、環境、防犯交通、防災防火の各業務を分掌する。役員の任期は2年で、再任できる。ただし、会長のみは3期6年を限度としている。

■ 財政

町会費、寄付金と補助金で賄っている。主たる財源である町会費は、各世帯に一口1200円の整数倍口数を申告の上、納付していただいている。事業会社、商店がほとんどないため、寄付や広告収入が乏しいという点が特徴である。

■ 課題

安全安心で、住んで嬉しい街づくりのためには、課題は多いが、町民と町会組織と一緒に考え、共に活動して行くことによって、着実に解決の道を見つけていきたい。



防災活動の一例（ラジオ体操の後、スタンドパイプのデモンストラーション）

音羽地区



今宮神社

音羽地区町会連合会

● 昭和42年11月結成

高田老松町会 目白台豊川町会
目白台雑司ヶ谷町会 音一文化会
音二町会 音羽三和会
音羽四丁目町会 音羽五丁目町会
音六町会 音羽七和会
音八会 音羽九桜町会
小日水町会 古川松ヶ枝町会
関口一丁目南部会 関水町会
関口町会 目白台二丁目町会
関口二・三丁目町会

■ 歴代会長

初代 和田 宗市（昭和42年11月～昭和51年12月）
二代 相川金次郎（昭和52年1月～平成14年10月）
三代 小黒三治郎（平成14年10月～平成15年1月）
四代 村松孝四郎（平成15年1月～平成22年5月）
五代 金輪 精梧（平成22年5月～）

地区町会連合会のあゆみ

音羽地区は、文京区の最西部に位置している。地理的な特徴として、目白台・関口台の台地から神田川沿いと音羽通りに続くなだらかな傾斜地が大半を占める。

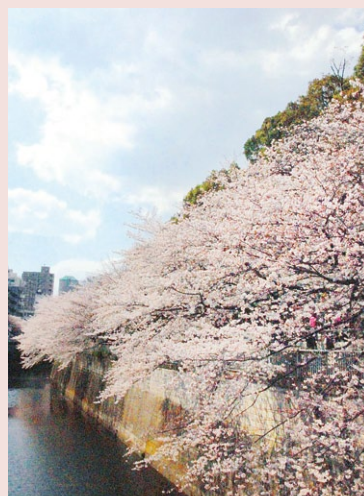


新江戸川公園

さらに、水面に映る桜花が美しい江戸川公園や回遊式泉水庭園である新江戸川公園、多目的広場やテニスコートなどが充実した目白台運動公園があり、また、江戸幕府の将軍徳川綱吉の母親である桂昌院の願いにより建立された護国寺をはじめとして野間記念館や永青文庫、椿山荘、関口芭蕉庵、東京カテドラル聖マリア大聖堂など数多くの文化財や史跡に恵まれた街である。

なお、音羽の名の由来は、前述した桂昌院付きの大奥女中「音羽」からと伝承されている。

さて、音羽地区町会連合会は、東京23区域で自治権拡充運動が活発化した昭和42年11月に創立総会を開催し、結成したものである。なお、発足当時の19町会の会長は、次のとおりで



江戸川公園



音羽通り（目白坂下付近）

ある。

高田老松町会	秋山	義綱
目白台豊川町会	荒木	伊佐味
目白台雑司ヶ谷町会	佐々木	正三
音一文化会	石川	増
音二町会	平沢	作次郎
音羽三和会	宮島	昇
音羽四丁目町会	小林	傳太郎
音羽五丁目町会	橘	侑
音六町会	都筑	武夫
音羽七丁目町会 (音羽七和会)	横田	慶司
音八会	小峰	久平
九桜会 (音羽九桜町会)	和田	宗市
小日水町会	坂田	義雄
古川松ヶ枝町会	鈴木	俊一
関口一丁目南部会	相川	金次郎
関水町会	向井	一太郎
関口町会	坂本	紀一郎
目白台二丁目町会	西田	吉蔵
関口二・三丁目町会	宮川	英子



目白通り

音羽地区町会連合会の結成から、すでに50年近い歳月が経過した。神田川の改修工事や東京メトロ有楽町線（江戸川橋駅・護国寺駅）の開通、音羽通り沿いの再開発、目白台運動公園の開園等を経て、この街は大きく発展してきた。今後も、東京大学の

目白台国際宿舍建設プロジェクト等により、音羽地区はさらに変化していくだろう。



地蔵通り

しかし、私たちは「音羽地区全体の福祉と、おもいやりのある温かい社会づくりを目指す」という、連合会結成当時の思いをなんら変えることなく、日々活動を続けているところである。先人から伝わる、この思いと活動が、さらに若い未来の世代にも引き継がれていくことを祈念したい。



清戸坂（不忍通り）



音羽通り（音羽二丁目付近）

■ 歴代会長

- 初代 佐藤 勤吉（昭和31年4月～昭和41年10月）
- 二代 秋山 義綱（昭和41年11月～昭和52年3月）
- 三代 小黒三治郎（昭和52年4月～平成15年3月）
- 四代 加藤 高良（平成15年4月～平成24年2月）
- 五代 沼田 幸昭（平成24年3月～）

町会のあゆみ

現在、私達の住む町、高田老松町は昔大名屋敷が多く由緒ある町で、その頃の地名は、高田の里と呼ばれていました。

よく、高田老松町会の町会名の由来を聞かれますが、昔の人々の話によれば、細川家屋敷のあった、現在老松消防署の裏の奥地に、見事な鶴と亀の松の銘木があり、その木に、まつわり、町会名が出来、現在に至った事と思われます。

昭和14年頃、昔の細い泥道が道路改正で現在の広い道路（目白通り）と成り、三角広場の児童公園が出来（目白台3丁目バス停前）子供達の遊び場となりました。

終戦後、進駐軍の指令により団体組織が禁止され、町会住民の親和がうすれる姿に、昭和28年頃、文化会を結成し、子供中心とした会を作り、町の友好に努めつつ、昭和31年4月再度、高田老松町会は発足、多様化した時世に対応しながら、地域の発展に努め防犯・防火・交通安全運動の推進に協力、親和の為にちびっ子納涼大会・レクリエーション・もちつき大会・懇親会等等開催し、又、大震災に対する、防災対策を行い町民一同、平和で安心できる町造りに専念しております。



防火防災訓練



交通安全運動



防災訓練（起震車による地震体験）



ちびっ子納涼大会

■ 歴代会長

初代 守田豊太郎（昭和24年7月～昭和28年5月）
二代 星野 正夫（昭和28年5月～昭和36年5月）
三代 長宗 泰造（昭和36年5月～昭和38年5月）
四代 荒木伊佐味（昭和38年5月～昭和53年4月）
五代 塚本八五治（昭和53年5月～昭和59年4月）

六代 今田 定俊（昭和59年5月～平成14年4月）
七代 岡嶋 三郎（平成14年5月～平成18年5月）
八代 北原 稔（平成18年5月～平成24年5月）
九代 上田 泰正（平成24年5月～）

町会のおゆみ

当町会は、明治11年11月に高田豊川町会と命名されて以来、時代の変化と共に様々な変化を遂げつつ今日に至っています。古くは、町会内には、鍛冶屋、化粧品、石鹸、撚糸、チョコレート、マーガリン、友禅染などの工場や大きなお屋敷、長屋などがありました。

昭和初頭の、不忍通りと目白通りの拡幅工事にはじまり、戦後、町会のほとんどの地域を占めていた、小布施新三郎さんの土地が分譲され、その一部が豊明小学校となり、昭和40年代後半からは、家の建て替えが進み、バブル期を経て、街並みは大きく変化してきました。

一方で、太平洋戦争の米軍による空襲により、近隣の街が焼け野原となってしまった中であって、当町会は一部が焼けただけで、ほとんどの戦禍を免れ、戦前からの古い町並みが残る貴重な地域でありました。

木造の長屋や井戸が多数残り、「井戸端会議」という言葉がぴったりな暮らしがありました。

現在では、新しいマンションや住宅が増え、古くからのお住まいの方々に加え、新しくこの地で生活される方が加わり、人口も徐々に増えてきています。

こうして歴史を刻んできた当町会は、街並みやお住まいの方々が変化しても、楽しく、そしてなによりも安心・安全に暮らせる町とするべく、様々な行事を、町会員が力を合わせて実施しています。これらの、行事を通じて、新旧の住民の交流も進み、さらに住みよい町へと進化しています。

■ 主な事業

春秋の交通安全運動、火災予防運動、防災訓練、新入学・成人・敬老祝い、夏休みラジオ体操&紙芝居、バスハイク、餅つき、お祭り



ラジオ体操のあとの紙芝居



楽しい伝統の餅つき



夏休みラジオ体操



町会の中心を通る豊坂



町会のシンボル豊川稲荷



たのしいお祭り

■ 歴代会長

初代 多田顕次郎（昭和26年4月～昭和28年3月）
二代 武藤 文人（昭和28年4月～昭和29年3月）
三代 加藤勝之助（昭和29年4月～昭和34年3月）
四代 吉荒 貞吉（昭和34年4月～昭和36年3月）
五代 秋山己代吉（昭和36年4月～昭和40年3月）

六代 佐々木正三（昭和40年4月～昭和62年2月）
代行 柴田 隆一（昭和62年3月～昭和63年4月）
七代 高橋 春吉（昭和63年5月～平成7年5月）
八代 村松孝四郎（平成7年6月～平成22年8月）
九代 窪田 新一（平成22年9月～）

町会のあゆみ

昭和26年に新しい組織が発足し、当時は30余店舗が有った不忍通りの商店街「親和会」の方々がリードして町会活動を活発にし、今日の基礎を築いた。また当地域は古くから住む人も多く、商店と調和のとれた町が長く続いた。平成になると分譲マンションが9棟建設され、また宅地の分譲も増えて現在は町会員世帯数が約700となり、マンション世帯が40%を占めるに至っている。

当町会内には、明治43年現在の筑波大学附属盲学校が、また明治41年には後の東大付属病院分院の移設があった。現在の分院跡地には平成27年から1000人収容の東大留学生宿舎の建設が予定されている。加えて平成23年に2000人の企業が移転しており、これ等大規模施設との共存がテーマとなっている。

昨今の町会活動は直下型地震の対応、高齢者対策が重要課題である。平成24年4月には、町内の安全な6ヶ所を震災時の「一時集合場所」に選定し、会員自身で確認して貰う為、場所を巡るスタンプラリーを実施した。第2弾として大震災直後の「高齢者安否確認」作業について防災委員会が検討し、50名の役員（組長）が中心に活動する事を決めた。第3弾として「いざとい

う時」に共助活動に参加出来る会員を募り「ボランティア登録制度」を計画している。これを機会に町会活動・共助へ特に現役世代の関心が高まることを期待し、更なる町会組織の結束を目差したい。

八代村松会長は「特別災害基金」を創設し、約8年に亘って貯えた。防災、減災の活動資金を準備した先見の明に感謝している。



H25 一時集合場所さがしツアー風景



H24 一時集合場所スタンプラリー風景

■ 歴代会長

初代 大山喜一郎（昭和28年4月～昭和29年3月）
二代 金輪 益三（昭和29年4月～昭和30年3月）
三代 石川 増（昭和30年4月～昭和48年3月）

四代 奥村孝三郎（昭和49年4月～平成3年9月）
代行 森田 一郎（平成3年9月～平成4年3月）
五代 金輪 精梧（平成4年4月～）

町会のあゆみ

音羽通りは護国寺の門前町として栄え、護国寺を中心に1丁目、2丁目… 9丁目と云う住居表示が、昭和42年に皇居を中心に1丁目、2丁目と変更になりましたが、町会は従来のみ「音一文化会」も町名変更せず今日に至っています。

音羽通りを走っていた、都電20番が昭和46年に廃止になり、現在は都バス上58番が走っています。昭和49年に営団地下鉄有楽町線が開通、護国寺と云う駅が出来、町会に2ヶ所の出口も出来ました。その後26号線の拡幅により都市計画が進み、マンション・事務所ビル等が立ち並ぶようになり、個人の住宅は数件を残すのみとなりました。

昔の街並みを知る者にとっては、寂しい限りではありますが、これも時代の流れと云うのでしょうか。

町会の行事は9月の第1週目の土・日曜日に行われる今宮神社のお祭りです。日曜の正午には10町会が護国寺に集合し、各町会の山車を引きながら今宮神社迄歩きます。又、3年に一度の大祭には音羽通りを通行止めにし、沢山の担ぎ手の大神輿が出て、また一段と賑やかになります。

70歳以上の方へ敬老の日のお祝いとしてお赤飯・紅白饅頭をお配りしています。

町会の高齢化が進んでいますが、若手後継者達に期待し世代交代をしたいと思いません。



製作年数1年9ヶ月・重量700kgの手作り大神輿



昔の街並みの残る風景の写真（25年前）

■ 歴代会長

- 初代 小林 義一（昭和24年7月～昭和30年4月）
- 二代 新倉 誠一（昭和30年4月～昭和40年3月）
- 三代 平沢作次郎（昭和40年4月～昭和58年3月）
- 四代 大林 進（昭和58年4月～昭和60年6月）
- 五代 内田 政昭（昭和60年7月～平成15年4月）
- 六代 堀内 賢一（平成15年4月～平成20年10月）
- 七代 中嶋 秋正（平成20年10月～）

町会のあゆみ

今回創立60周年記念誌を創るとのこと月日の早さに驚き30周年記念誌から30年、この間音羽通り、当町会も大きくかわりました。道路拡幅に伴うアベニュー音羽、ノーブル音羽再開発ビル講談社も土地を取得し26階高層ビル。町会活動としては全国交通安全運動の参加、防犯・防災は特に震災への備え、スタンドパイプなど購入検討、地域の安全に力を入れている。レクリエーションのバスハイクも参加者が少なくなり、変わるものを検討している。今宮神社の祭礼には町会の祭礼委員会を作り、続けている。戦後の昭和25年まだ大変な時、子供達の為有志でお金を出し合い、山車・神輿を造ったと聞いている。又住民の方か

らお祭りは子供の頃が懐かしく孫も参加させたく是非続けてほしいとの声もある。役員も高齢化辛いこともあるが何とか若い方の力を借りて後生をつないでいきたい。写真は20年弱前の婦人部も一緒のお祭りの打ち上げ。懐かしい人の顔も、もう一枚のお花見の写真は当町会の古い一枚。関東大震災の翌年元気出そうと護国寺から飛鳥山まで花見に行ったと聞いている。思い思いの支度をし長屋の花見的な楽しんだ雰囲気が見られる。

相当古くから町会の組織はあつたらしく活動活気が感じられる。護国寺の門前町の小さな町会小さいなりに住みよい楽しい街を後生に伝えていきたい。



飛鳥山の花見（関東大震災の翌年）



お祭りの打ち上げ

■ 歴代会長

- 初代 望月 重一 (昭和21年4月～昭和24年6月)
- 二代 清水 清助 (昭和24年7月～昭和28年6月)
- 三代 宮島 昇 (昭和28年4月～昭和43年3月)
- 四代 城和 義雄 (昭和43年4月～昭和57年10月)
- 五代 小島 作造 (昭和58年4月～平成3年3月)
- 六代 矢澤清太郎 (平成3年4月～平成14年3月)
- 七代 志田 幸雄 (平成14年4月～平成23年3月)
- 八代 鶴岡 明 (平成24年4月～)

町会のあゆみ

当町会は、旧音羽三丁目域内の住民の親睦と地域の発展を旨として発足。当初は音羽三丁目町会と称していたが、住居表示の変更に伴い現名称の音羽三和会と改称した。

一年の行事は、今宮神社、護国寺の初詣に始まり、新年町内初顔合わせ。二月には豆まき。四月には江戸川公園の花見。古紙回収での収益による婦人部のお母さん達が企画する町内の子供たちを連れての川遊

び、そして、最大のイベント今宮神社の祭礼。敬老の日には婦人部による町内高齢者に対するの記念品贈呈を兼ねた慰安訪問。秋にはバス旅行、都内の名所、レストラン探訪など盛りだくさんである。

一年を通じて、婦人部のお母さん達にはたいへんお世話になっており、和気あいあいとした三和会です。



子供みこし渡御



神酒所にて



川遊び



バス旅行

音羽四丁目町会

● 昭和24年7月結成

■ 歴代会長

- 初代 小林傳太郎（昭和24年～昭和52年）
- 二代 山口長太郎（昭和52年～昭和54年）
- 三代 原 金八（昭和54年～昭和56年）
- 四代 大山 泰児（昭和56年～昭和58年）
- 五代 香川 高光（昭和58年～昭和60年）
- 六代 酒巻鉄次郎（昭和60年～平成5年）
- 七代 山口 貞二（平成5年～）

町会のあゆみ

戦争中は隣組の協力により町は延焼をまぬがれ、戦後はいち早く町会の組織も復活した。昭和49年10月30日に有楽町線が開通し、以後音羽町は交通需要の増加による近代化に伴い、町はたちまち高層ビル・マンション等が建設され、商業と住居が混在する町となった。

町名の由来は、幕末期の当町は（音羽町四丁目、寺）で明治2年（地方二番組音羽町四丁目）となり、同10年（音羽町四丁目）となった。

紙問屋、小学校（望月小学校、渡辺小学校、加藤小学校、等）が多かった。



昭和初期 今宮神社



平成24年大祭礼 光文社前



音羽四丁目町会

■ 歴代会長

初代	奥村 金一 (昭和24年7月～)
二代	奥村 よね (昭和37年4月～)
三代	橘 侑 (昭和39年4月～)
四代	大場伊之助 (昭和47年2月～)
五代	大場伊久夫 (昭和47年4月～)
六代	木村 功 (昭和57年4月～)
七代	高橋 哲夫 (昭和62年4月～)
八代	大山 恒夫 (平成10年4月～)

町会のあゆみ

- 新年会
- 総会 (後の懇親会)
- 秋のバスハイク

(1年おき位に行っています)

- 祭礼

祭礼の時は、前日より町会員の皆さまのご協力をいただき、提灯の取り付け、子供達へのお土産の用意、神酒所設定などの準備に取り掛かります。

参加者全員、事故などに遭わぬように十分な配慮をし、山車、神輿に集まる子供達の笑顔を見ると幸福を感じます。

午後は殿方、ご婦人がまざり神輿を担ぎ町会を練りまわす。担ぎ手も見物の人々も笑顔で無事終える次第です。

これからも隣町会と仲良く、行事を行っていただける様に思いながら益々の町会の繁栄を祈念いたします。



H25年 今宮神社祭礼

■ 歴代会長

- 初代 松本 望 (昭和28年4月～昭和29年3月)
- 二代 小木曾太郎 (昭和29年4月～昭和33年3月)
- 三代 稲葉吉太郎 (昭和33年4月～昭和34年3月)
- 四代 加藤 直 (昭和34年4月～昭和36年3月)
- 五代 都築 武夫 (昭和36年4月～平成3年)
- 六代 池田 正雄 (平成3年～平成11年1月)
- 七代 矢萩 捍 (平成11年2月～平成12年1月)
- 八代 加藤 昭吾 (平成12年1月～)

町会のあゆみ

音六町会の設立は昭和24年3月である。この時期、まだ戦災の焼け跡が残っていて街が完全ではなかった。戦時中「となり組」の組織を基盤として幹部10人ほどの合議制で町会の運営を実施していたが、実に困難な時代で幹部の方々の苦労は大変なものだった。そこで組織づくりをしなければならぬことになり、そこで町会を代表する会長の選任を行うこととなり、総会を開催し、初代会長にパイオニア株式会社社長松本望氏が就任したのが始まりで、現在の八代目会長に及んでいる。

その間、音羽の街は大変な変貌をとげた。昭和19年3月の空襲で音六町会も音羽通り東側のねずみ坂下水窪川、西側鳥尾坂下弦巻川より江戸川橋までが焼け、昭和30年ころまで空き地の目立つ、木造の街並みであった。その後、都民に親しまれていた「都電」が有楽町線開通のため、昭和46年に撤去され、現在の地下鉄に潜り、道路は広くなり、丸の内のオフィスビルとはいかないが、立派なマンション街になった。

これからも時代の変貌とともに新時代に沿った会員の皆さんに喜ばれる町会運営を考えなければならない。特に東日本大震災以降は地域住民の防災への関心がさらに高まってきており、江戸川橋周辺の8町会で

構成する旧第五中学校避難所運営協議会での訓練等の町会員の参加が増えている。

他にも毎月の防犯パトロールや役員会、季節ごとの交通安全の交通整理、清掃の日等に協力している。青少年健全育成のために夏のラジオ体操会、老人週間には敬老の集い等を実施している。

今宮神社の祭礼における子ども神輿や山車巡行等の年中行事を今後も役員と会員と一緒に、引き続き盛り上げていきたい。



音六町会の役員のみなさん

■ 歴代会長

- 初代 手塚 貞造 (昭和25年4月～昭和35年3月)
- 二代 森田 清 (昭和35年4月～昭和41年3月)
- 三代 横田 慶司 (昭和41年4月～昭和48年3月)
- 四代 横田 重一 (昭和48年4月～昭和57年3月)
- 五代 阿部 和男 (昭和57年4月～平成14年3月)
- 六代 増田 隆二 (平成14年4月～)

町会のあゆみ

当七和会は旧音羽七丁目町会として昭和25年4月より結成され、町名変更により自治会音羽七和会の名称の下、新音羽1丁目町会に組入れされる。初代会長より現会長まで六代の会長がその任に当たって来ている。今日の自治会内総戸数(会員外も含む)470戸帯自治会員305戸帯の基で組織運営されている。

年間事業として主な物では氏神今宮神社例大祭が連合及び町内渡御と山車御神輿に大勢の子供達も参加している。

又、恒例行事の町会員親睦日帰りバス旅行も楽しみな行事になっている。自治会内には文京福祉センターがその施設の事に当っており、又旧鳩山邸も今日では鳩山会館として開放され観光コースにもなっている。

音羽通り全般に言える事ではあるが、昭和49年地下鉄有楽町線の開通と同時に表通りにはビル化が進み、今日では木造家屋もすっかり見られなくなった。

近年自然災害時の事や防火・防犯等に近隣住人等の連帯互助意識の増々の向上を願う今日此の頃である。



昭和48年親睦バス旅行 (川越喜多院)



平成25年今宮神社祭礼時集合写真 (役員及び有志一同)

■ 歴代会長

初代 宮崎辰之助（昭和28年11月～昭和30年3月）
二代 石原仁三郎（昭和30年4月～昭和31年12月）
三代 田草川 薫（昭和32年1月～昭和37年12月）
四代 坪田 麻夫（昭和38年1月～昭和39年12月）
五代 小峰 久平（昭和40年1月～昭和51年12月）
六代 代田 兼吉（昭和52年1月～昭和56年12月）

七代 宮原 惣一（昭和57年1月～平成12年12月）
武藤 時二（平成13年1月～平成13年12月）
（会長代行）
八代 黒田 信喜（平成14年1月～平成20年4月）
九代 木村 茂雄（平成20年4月～平成24年3月）
十代 小峰 久幸（平成24年3月～）

町会のあゆみ

音八会は音羽の鎮守今宮神社の傍にある八幡坂の下です。坂の途中には石川啄木が初めて上京した時に下宿した家があったことで知られています。

音羽通りの東側は音羽1-5と6、西側は1-24と25という極めて小さな町会です。

あまりにも小さいためなのか、九桜会の中の一部に「飛び八」と呼ばれる飛び地を抱えている一風変わった町会でもあります。

町会発足以来みんなで力を合わせ、新年会を兼ねた総会、お花見、今宮神社祭礼、レクリエーション、入学、成人、敬老など祝事の各種行事を続けています。

この10年「小さな町会の大きな仕事」をモットーに始めたことが2つあります。

今宮神社祭礼時の土曜の夜が静かなので少しでも盛りあげようと宵宮を平成13年から実施しました。担ぎ手が集まるか心配でしたが、近隣各町会や都内のみこし同好会などのご協力、大塚警察署のご支援のお蔭で10年を過ぎても続けられています。

婦人部の夜遅くまでの接待も好評のようです。今後も続けるためには婦人部の協力は欠かせないことと思います。

もう一つは、どうしたら音羽の町の活性化につながるだろうかと考え思いついたの

が、季刊紙「音羽通」の発行でした。平成17年3月「音八会会報」（仮称）として創刊、名称募集のうえ、「音羽通」と決定。「オトワドリ」ですが「オトワツウ」としても読まれるよう地域の情報を伝えるミニコミ紙を目指して誕生しました。

創刊以来8年30号まで発行。何とか根付いたところですが、音羽の大地にしっかりと根を張り、枝を伸ばし成長したいと思います。



音羽通りを渡御する音八町会神輿

音羽九桜町会

● 昭和28年8月結成

■ 歴代会長

初代 小西 彦市 (昭和28年8月～昭和33年3月)
二代 小川 仲三 (昭和33年4月～昭和41年3月)
三代 和田 宗市 (昭和41年4月～昭和51年3月)
四代 片岡 富蔵 (昭和51年4月～昭和61年3月)
五代 島根 芳男 (昭和61年4月～平成9年3月)

六代 小西 一郎 (平成9年4月～平成12年3月)
七代 片岡 良造 (平成12年4月～平成20年3月)
八代 桑原 昭彦 (平成20年4月～平成24年3月)
九代 利根川康夫 (平成24年4月～平成26年3月)
十代 徳野 博信 (平成26年4月～)

町会のあゆみ

音羽九桜町会は、初代小西彦市会長のもとで昭和28年8月に創立総会を開き今日に至っている。もともと当町会の最大の目的は住みよい社会生活ができる環境づくりで、町の人々の親睦、互助精神を持ち、大きな家族の気持ちでいつも変わらぬ明るい町会を目指している。

役員一同及び婦人部の方々の何事にも積極的に参加し、結束の堅さを初代会長よりの伝統として受け継がれている。

南に江戸川公園、北に今宮神社に接し、生活環境も勝れている。

江戸川橋を渡り護国寺に向かって左右が私どもの町会で、遠く江戸時代音羽通りが繁盛し、水茶屋などもあった。差し当たって参拝客も多い護国寺の仁王門的役割を我々の先祖がしたのではないかと思われる。

町会名称は、音羽町9丁目と桜木町（現・小日向2丁目の一部）の頭文字をつけて音羽九桜町会（当初「九桜会」と称した。）という町会名にした。

今日、新年会、成人祝い、新入学祝い、観桜会、今宮神社のお祭り、敬老祝い、交通（春・秋全国交通安全運動）、広報・厚生（リサイクル活動）、防犯、防火・防災（旧第五中学校避難所運営協議会活動）、募金等々

の行事は恒例として役員一同が積極的に行っているが、各種行事に町会員の参加が少ないことが悩むところである。



今宮神社例大祭



日帰りバス旅行「秋の房総“食”めぐり」(H22.11.14)

■ 歴代会長

初代 坂田外治郎（昭和24年6月～昭和32年5月）
二代 丸山 良二（昭和32年6月～昭和38年5月）
三代 坂田 義雄（昭和38年6月～平成7年5月）

四代 星合 尚（平成7年6月～平成21年3月）
五代 坂田 義輝（平成21年4月～）

町会のあゆみ

第二次大戦後壮年者による小日向水道町睦会が創設され、その後青年による文化会が誕生し、昭和24年4月に各会を一本化して小日向水道町会として再発足した。その後住居表示により、小日向2丁目と水道2丁目の一部を合わせて小日水町会と改名した。

平成24年度の事業の主なものをあげてみる。

初詣で 1月1日（小日向神社）

「地元の神社を大切にする」という坂田義輝会長の方針で、毎年町会員が20名近く集まり宮司より町会の繁栄を祈りお祓いをしていただいている。

狛犬祭り 5月13日

3・11の大地震で小日向神社の石灯ろうの屋根が落ちてしまったので、氏子町会でお金を出し合って狛犬を造り奉納した。当日は講談社の「おはなし隊」の車が来て、

子どもたちに絵本の読み聞かせをし、Tシャツをプレゼントしてくれた。新しい狛犬の前で町会婦人部がTシャツを配ろうと待機しているところである。他の町会と協力して、わたアメ、ソースセンベなどを子どもたちに提供し盛会だった。

小日向神社祭礼 9月8日～9日

神輿をかつぎ、山車（だし）を引いたあと、子どもたちにお菓子とゲーム券を配っている。風船たたき、輪投げ、わたアメ、かき氷など町会青年部、婦人部全役員が総出で運営している。子どもたちに祭礼のハッピーを貸し出しているが、外国人の子どもも親と一緒に借りに来る。外国人が奉納金まで出してくれる。祭りも国際化してきたのかもしれない。

ゲーム券を出してから子どもたちが多数集まるようになった。小日水町会の特徴は和気あいあいとまとまっていることである。



狛犬祭り



小日向神社祭礼

■ 歴代会長

- 初代 鈴木 俊一（昭和24年～昭和60年）
二代 鈴木 邦男（昭和61年～平成12年）
三代 藤田 洋吉（平成13年～）

町会のあゆみ

昭和37年から実施していた敬老会は、慶祝金を5年ごとの節目に贈呈しています。

恒例としての夏季ラジオ体操については、児童数の減少により、関口一丁目南部町会との合同行事として担当を隔年として継続実施しています。

町会員親睦行事は、バスハイクを恒例行事とするべく、毎年実施しています。昨年度は東京都防災体験施設（そなエリア東京）をその旅行に組み込み参加者全員で体験学習を実施しました。さらに、従来は餅つき大会として実施していた年末行事を、今年度は当町会初となる「総合防災訓練」として実施いたしました。

防災活動に就いては、旧五中避難所運営協議会に積極的に参画し、スタンドパイプ（消火設備機器）配置については平成24年度末、東京都の助成を受けて設置いたしました。

夜警に就いては、昨年度まで暫くの間は年末の7～10日間と縮小傾向にありましたが、今年度は年末に加え年始にも実施することになり、また春秋の交通安全運動、タバコポイ捨て運動等町会員の防災・防犯意識高揚のための行事を一層充実させるよう検討・推進しています

小日向神社例祭に就いては特に大人御神輿に就いて南部町会と隔年に担当を替えて渡御しています。さらに平成24年度は関口水道町会とも協力体制を構築、今年度以降は関口町会とも共同渡御を検討しなければならない状況です。（関水、関口町会とは氏様が異なるのですが、お互い協力し合って実施していきます）

南部、関口、関水の各町会と当町会の4町会での協力、さらに音羽地区との連携も踏まえた活動を今後とも実施していく予定です。



平成19年9月 小日向神社例祭記念



平成24年12月 総合防災訓練

■ 歴代会長

- 初代 中川 政吉（昭和28年11月～昭和34年12月）
二代 戸田 文男（昭和35年1月～昭和40年2月）
三代 相川金次郎（昭和40年3月～平成14年10月）
四代 島田 幸勇（平成15年3月～）

町会のあゆみ

当町の地名の歴史は9世紀頃に刊行された「和名抄」に「日頭」郷の地名があり、これが小日向であると云われております。

鎌倉時代に江戸重長と云う豪族がこの地を支配していたが太田道灌との戦いに敗れ天文年間より豪族 小日向弥三郎・小日向弾正が小日向村と名乗ったものと思われま

す。昭和40年頃より、相川金次郎会長を始め九町会（関口町会・関水町会・関口一丁目南部会・古川松ヶ枝町会・小日水町会・武島町会・西江戸川町会・水道端町会・後楽町会）で神田川治水対策協議会を結成、都知事・都議会・区に働きかけを行いました。

昭和41年10月住民の署名を添え治水対策を早急に進めるよう都河川部・下水道局に強く交渉し昭和44年頃より江戸川橋—下水管一本埋設、江戸川—白鳥橋・江戸川橋—船河原橋にそれぞれ放水路二本が

作られました。

湯島ポンプ場・三河島処理場は大きな役割を果たしております。

これも一偏に先代相川金次郎会長の指導力と実行力の賜物と深く感謝いたしております。

平成23年に当町会請願により老朽化したポンプから新しいC級ポンプを貸与されました。

町会活動は交通安全・防犯・防災訓練・歳末警戒又今後の災害に対して、近隣町会と協力して様々な事業を実施しております。

町会では町民の親睦を絆にラジオ体操・レクリエーション・小日向神社祭礼・盆踊り大会・成人の祝・入学・卒業の祝・敬老の祝いを実行しております。

これからも安全・安心の町として努力して参ります。



平成23年11月13日 町会防災活動への理解と新旧会員の親睦と加入促進の会にて

■ 歴代会長

五代 榎本清五郎（昭和37年～）

六代 片岡桂太郎（昭和37年～昭和39年）

七代 大岩 幸次（昭和39年～昭和41年）

八代 中内 佐光（昭和41年～昭和50年）

九代 向井一太郎（昭和50年～昭和59年）

十代 前田 勝（昭和59年～昭和60年）

十一代 片岡 勇（昭和60年～昭和62年）

十二代 片桐 政雄（昭和62年～平成4年）

十三代 八幡喜代治（平成4年～平成14年）

十四代 佐藤 正（平成14年～平成18年）

十五代 宮崎 文雄（平成18年～平成25年）

十六代 萩元 賢一（平成25年～）

町会のあゆみ

江戸時代 江戸町民の水道として大変重要な役割を果たした神田上水を町名の縁としています。大正12年に発生した未曾有の関東大震災の復興を契機として近隣住民のための組織要請などを鑑み、大正13年4月に関口水道町・町会として発足しました。戦後町内各位の要望により再発足し現在に至っています。1970年代に移り都市のビル化および地下鉄有楽町線の開通に伴い

（以前より町会内に2大金融機関の支店を有していた事もあり）地域経済の中心として近隣町会と共に進歩発展をし、大きな変貌を遂げています。現在の町会活動は防犯・防火・交通・厚生・公共事業援助・青少年の育成および行政サービスのサポーター等多方面にわたっています。町会員同士の親睦を基に地域の安全・平和・発展を願い積極的に活動しています。



江戸川橋付近

■ 歴代会長

初代 西村信次郎（昭和26年6月～昭和32年3月）
二代 横山 軍治（昭和32年4月～昭和34年3月）
三代 坂本紀一郎（昭和34年4月～昭和37年1月）
四代 盛 昌義（昭和37年2月～昭和38年5月）
五代 坂本紀一郎（昭和38年6月～昭和54年7月）
六代 佐々木夫士雄（昭和54年8月～昭和56年9月）
七代 市原 千秋（昭和56年10月～昭和59年3月）
八代 飯田 茂（昭和59年4月～昭和60年5月）

代行 翠川 亀逸（昭和60年6月～昭和61年3月）
九代 市原 千秋（昭和61年4月～平成 4年4月）
十代 翠川 亀逸（平成4年6月～平成 9年1月）
十一代 天沼 惣重（平成 9年2月～平成12年9月）
代行 橋本 政治（平成12年10月～平成13年3月）
十二代 橋本 政治（平成13年4月～平成15年3月）
十三代 浅野 和夫（平成15年4月～）

町会のあゆみ

前回の発行から30年が経過し、街は大きく変貌し、その頃多く住んでいた職人さん（大工・鳶・左官・建具）は皆無に近く、その子息はサラリーマンをめざし、大きな工場（塗装・靴下製造など）や商店（小鳥屋・米屋・パン屋・駄菓子屋・模型屋など）も廃業し、平屋の家も少なくなり、無機質なマンションが増え、住民の高齢化に伴い、オーナーさんとなった家主も上階に居を移し、わざわざエレベータで訪れる友もなく、大都会での過疎化・孤立化が進んでいる。

創立60周年目の平成23年3月11日におきた東日本大震災では、町内には被害もなくホッとしています。最近では東海・東南海・南海地震が連動して、発生するのではといわれ始めました。

当町会では平成19年の避難所運営協議会発足に伴い、減災面での強化を推進しており、D級消防ポンプ、連絡用トランシーバ、ガソリン発電機、平成24年に消火栓から直接放水できるスタンドパイプを導入し、月に一度の性能維持試験を続けております。

近隣町会を合わせ、関口一丁目四町会連合を発足させ、防災訓練・防犯パトロール等で協力し、近隣の安心・安全の確保と友好関係の向上を図るべく毎月第二金曜日に

会合を重ねております。

町会独自には新年会、桜のお花見会、水神社例祭、夏の親子納涼まつり、秋の正八幡神社の例祭には模擬店、歳末特別警戒、不定期の日帰りバス旅行、平成21年から年末にお餅つき会、等の行事を重ねています。

小学校入学児童、成人青年、町会員子息子女のいずれか一名に結婚祝い、75歳以上の高齢者には敬老の日に因んで、それぞれお祝い品の贈呈をおこなっています。

文京区の外れに近く環境は良く、新江戸川公園、目白台運動公園が徒歩圏内にあり、特に江戸川公園の神田川添の桜並木の花見の人出は区内屈指。是非この季節に関口町会周辺の散策をお勧めします。



平成24年11月17日 スタンドパイプ訓練

目白台二丁目町会

● 昭和33年9月結成

■ 歴代会長

初代 柳下 友次（昭和33年9月～昭和36年5月）
二代 吉原 菊造（昭和36年6月～昭和41年1月）
三代 西田 吉蔵（昭和41年2月～昭和43年8月）
四代 武藤 文人（昭和43年9月～昭和51年9月）
五代 戸張 覚光（昭和51年10月～昭和63年）

六代 宮内 三郎（平成3年3月～平成12年2月）
七代 柳下 棟生（平成12年3月～平成15年2月）
八代 戸張 皖司（平成15年3月～平成24年2月）
九代 並木 榮一（平成24年3月～）

町会のあゆみ

我が町会は、旧雑司が谷町住民によって昭和33年新町会として結成され、不忍通りの西に位置し、町名変更に伴い、目白台2丁目町会と改称され現在に至っている。

柳下初代会長理念の親睦・調和・協力に基き各官公署に対する協力は勿論であるがその運営は会員の意思に基づく自主的なものであらねばならぬとの会則を定め、会の事業を行っています。

防犯・防火・交通安全には、各運動週間に参加し、防災については防災組織を結成し近隣町会と合同の防災訓練等を都度行っております。歳末夜警の火の用心では目白

台みみずくパトロール隊を結成し、年末の10日間は毎夜町内回りをしております。

町内振興の為、秋季氏神例大祭を大鳥清土睦会と合同で行い、又雑司ヶ谷鬼子母神堂の守り本尊の出現所を有する当町会としては、毎年10月17・18日に行われる鬼子母神の御会式に有志が参加しております。

親睦福利のレクリエーションとして数年に1回は椿山荘での蛍の夕べ等の懇親会、祭りの後には子供の為に射的、金魚すくい、輪投げなどで大変好評です。今後は餅つき大会などにも挑戦したいと思っています。



みみずくパトロール隊出陣式



四町会合同災害避難訓練（青柳小）

関口二・三丁目町会

● 昭和24年4月結成

■ 歴代会長

関口台町町会

丹下敏三郎（昭和24年4月～昭和37年3月）

菅沼 信夫（昭和37年4月～昭和42年3月）

関口二・三丁目町会（町名変更）

初代 宮川 英子（昭和42年4月～昭和56年3月）

二代 今井 房夫（昭和56年4月～平成9年3月）

三代 奥山 政治（平成9年4月～平成13年3月）

四代 後藤日出麿（平成13年4月～平成21年3月）

五代 下山 信（平成21年4月～）

町会のおゆみ

昭和24年4月関口台町町会として発足、昭和42年4月の町名変更と共に、関口2・3丁目町会と改称して、宮川会長より本格的な組織作りが始められた。

当町会は文京区の中でも一番の台地に位置し、町内には多くの坂がある。町の中央に目白坂、それに平行して旧目白坂が伸びる。北には胸突坂があり、その中ほどには芭蕉庵がある。そして北東には鉄砲坂、鳥尾坂と坂に囲まれている。

文京の地の名の通り、関口台町小学校、獨協中学・高等学校があり、文京区歌の作詞家で詩人、佐藤春夫氏の住居がある。神社仏閣も多く、正八幡神社、幸神社、養国寺、永泉寺、大泉寺、蓮光寺と、古くから人々の信仰を集めている。

また、東洋一を誇るカトリック大聖堂と椿山荘。江戸時代椿山荘は黒田豊前守の下屋敷であった。その後明治の元勲山県有朋公の屋敷となり、椿が多く自生していたため椿山荘と命名された。今でも都心とし

ては緑の多い閑静な佇まいをみせる住宅地である。

当町会では毎年幾つもの行事を執り行い、地域の交流の場となっている。新年会から始まり、成人・新入学児童に記念品の贈呈、江戸川公園花まつり野点。夏休みにはカトリック教会の広場で蝉の声を聞きながらラジオ体操。幸神社の祭礼の一環として、子供たちのお祭りを催している。町会発足当時から恒例となっている敬老会では、ご高齢者の方々を椿山荘へお招きして会員共々お祝いしている。歳末助け合い運動では毎年暖かい心付けが寄せられる。

会員の町会に対する関心も徐々に高まりつつある。大災害に備えて防災組織も結成され、防災訓練防犯、交通安全運動、福祉の面にと積極的な参加が見られる。

これからも縦、横の連絡を密にして、地域住民のご支援とご協力のもと、よりよい街づくりに“我が町は我等で守る”をモットーにして、努力したいと願っている。



幸神社祭礼



椿山荘での敬老会

湯島・本郷地区



湯島一丁目町会	湯島会
新花会	三組町会
妻恋会	湯島三丁目梅光会
本郷三丁目南部会	本郷三丁目金助町会
春木会	元二親和会
本郷弓一町会	本郷二丁目元一会
本郷二丁目弓二会	本郷二・三丁目町会
本一町会	本郷四町会
上真砂町会	下真砂町会
中真砂町会	田町町会
菊坂町会	菊和会
本郷五丁目台町町会	本郷五丁目町会
赤門前町会	本富士町会
天梅会	三組弥生会
天一町会	天二町会
天三町会	同朋町会
湯島切通町会	湯島北町会
竜岡会	両門町会

■ 歴代会長

初代	和田 義春 (昭和30年1月～昭和31年7月)
二代	蓮井 健吉 (昭和31年7月～昭和45年5月)
三代	小野沢 清 (昭和45年5月～昭和55年9月)
四代	坂田 実 (昭和55年9月～平成2年5月)
五代	利根川政次 (平成2年5月～平成19年3月)
代行	諸岡 健至 (平成19年3月～平成19年5月)
六代	諸岡 健至 (平成19年5月～)

地区町会連合会のあゆみ

平成2年に第4代会長坂田実氏が退任し第5代会長として利根川政次氏が就任した。利根川氏は区議会議員も兼ねていたので、文町連に関する情報も豊かで、地域活性化事業をやれば、区から助成金が出ることを知り、当町連としてもとり組みたいという意向をもち、また町会員の見聞を広めるため施設見学会を実施したいとの提案をし可決させた。

地域活性化事業として当時はカラオケブームで文京区でも文京カラオケ大会を実施しているので、当町連としてもこれを実施することになった。第1回を湯島の三洋電機会館会議室を借り、審査員にプロ歌手を呼んで実施した。約30名の参加があり盛大であった。しかし第2回は参加が少なくなり、同じ人が参加するという事態になったので、カラオケ大会は2回で終わった。その代案として36町会を四つのブロックに分けて、1年1ブロックの輪番制で実施することにした。テーマは各ブロックで決めることにした。以来各ブロックはそれぞれ工夫を凝らし、各活性化事業とも約500名の参加があり、この計画は成功した。

これと並行してもう一つの町連行事として施設見学会を計画実施した。バブル前は産業各社の景気がよく。各社はその宣伝をかねて自社バスを用意して見学者を送迎してくれたので、各町会員の社会勉強・教養の向上や親睦を図ることにした。電力、ガス、自動車、鉄鋼、ゴミ処理等が主であった。毎年1回秋に実施したが、当時参加者は80名に達した。

バブルがはじけてからは企業も落ちこみ自社バスでの送迎がなくなったので、以後は当町連でバスを1台チャーターし、一人2千円の参加費を徴収して（各町会が負担）実施することになり、見学先が変わっているが、現在も続いている。

平成6年になって広報紙を発行することになり、編集委員会を設け委員は4名とし委員長には松本清氏が選任された。目標は、各町会の実情、特徴、行事などを紹介して互いの町会を知って参考とすること、地域活性化事業の予告と報告、施設見学会の報告を柱とし、更に長寿万歳欄を設けて長寿の方々の健康法を紹介したり、地元歴史の掘り起こし、加賀藩上屋敷（東大）をはじめ

め名だたる大名の屋敷が特に本郷地区に多いので、各藩について当時の様子をしらべて載せることにした。そのほか青少年対策湯島地区委員会や各敬老会の活動状況や、管内小中学校の特別行事、管内老舗の紹介などを取り扱った。

(以上年表参照)

●平成6年度

A 地域活性化事業 どじょうつかみ大会

B 施設見学会 東京電力火力発電所

C 広報紙 湯島本郷だより

上記 A、B、わが町 新花会、同四会、元二親和会、官公庁連絡会、文京区防災訓練、各町会年間行事計画

●平成7年度

A 地域活性化事業 湯島本郷お祭りひろば

B 施設見学会 江戸東京博物館特別展示

C 広報紙 A、B、わが町 本郷二・三丁目町会、湯島一丁目町会、上真砂町会、天梅会、官公庁連絡会、阪神淡路大震災報告会、町連防災座談会、湯島天神改築、長寿万歳 大石隆子（書道）、本郷五丁目町会40周年記念行事、妻恋神社夢枕七福神めぐり（新花町会）

●平成8年度

A 地域活性化事業 湯島地域大運動会

B 施設見学会 ゴミ埋立処分場

C 広報紙 A、B、わが町 天一町会、三



平成6年 東京電力横浜火力発電所



平成7年 お祭りひろば



平成9年 杉並清掃工場

組町会、本郷弓一町会、下真砂町会、官公庁連絡会、㊤本郷座、三河稲荷節分祭、長寿万歳 石井房さん、中川ゆきさん、田中益太郎氏

●平成9年度

A 地域活性化事業 おとなも子供もゲーム大会

B 施設見学会 杉並清掃工場

C 広報紙 A、B、わが町 三組弥生会、妻恋会、元一町会、中真砂町会、官公庁連絡会、三菱資料館紹介、南部会および本郷五丁目町会50周年式典、東大120周年、伝統工芸つげ櫛、婦人部訪問（菊坂町会）、長寿万歳 黒河内冽氏、品川力氏、遠藤マズさん

●平成10年度

A 地域活性化事業 どじょうつかみ大会

B 施設見学会 新装本郷郵便局、岩崎邸、横山大観記念館



平成5年 カラオケ大会（本郷台中）

C広報紙 A、B、わが町 天三町会、南部会、弓二会、田町町会、官公庁連絡会、婦人部訪問(天二町会)、文京区防災訓練(東大)、資源回収開始、長寿万歳 近藤五六氏、江端義重氏、甲田文吾氏、白山神社紹介、湯島・本郷いまむかし

●平成11年度

A地域活性化事業 子ども広場、模擬店
B施設見学会 港清掃工場
C広報紙 わが町 同朋町会、梅光会、本一町会、菊坂町会、官公庁連絡会、㊤金田一春彦氏訪問、大正大震災、本郷いまむかし(三ツ子誕生、金助町、斉藤滋久さん)、婦人部訪問、金助町、長寿万歳 三田政雄氏、春田金太郎氏、金井大吉氏

●平成12年度

A地域活性化事業 湯島お楽しみ広場
B施設見学会 皇居見学
C広報紙 A、B、わが町 湯島北町会、菊和会、切通町会、金助町会、官公庁連絡会、意見交換会、㊤加賀屋敷周辺、四中跡地問題、湯島三町会夜間パトロール、長寿万歳 小林伸太郎氏

●平成13年度

A地域活性化事業 わくわくフェスティバル
B施設見学会 自然教育園
C広報紙 A、B、わが町 赤門前町会、台町町会、竜岡会、天二町会、官公庁連絡会、



平成11年 子ども広場(湯島小)



平成13年 模擬店バザー(本郷台中)

㊤加賀藩江戸屋敷12 真砂小遺跡、文京区防災訓練(東大)、出張所見直し(地域活動センターとなる)、長寿万歳 橘大始氏、上村正氏、小杉利郎氏

●平成14年度

A地域活性化事業 どじょうつかみ大会
B施設見学会 柴又帝釈天
C広報紙 A、B、官公庁連絡会意見交換会、わが町 春木町、両門町会、湯島会、本郷五丁目町会、㊤加賀藩江戸屋敷45 本郷小完成、利根川会長叙勲、長寿万歳 土澤秀雄氏、千葉せんさん

●平成15年度

A地域活性化事業 中国競技芸術団
B施設見学会 江戸博物館特別展示(エノケン)
C広報紙 A、B、千葉エネルギーセンター、官公庁連絡会意見交換会、わが町パートII 春木町、壺屋、㊤樋口一葉、本郷消



平成10年 どじょうつかみ大会

防少年団、長寿万歳 五十畑サクさん、杉江鶴三氏

●平成16年度

A 地域活性化事業 模擬店バザー
B 施設見学会 国立印刷局滝野川工場
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 春木町出羽屋岡崎商店、特養ホーム湯島の郷、本郷三原堂、本富士交通少年団、㊤高田藩江戸屋敷、樋口一葉、妻恋神社夢枕、長寿万歳 高木房子さん

●平成17年度

A 地域活性化事業 わくわくフェスティバル
B 施設見学会 六本木ヒルズ
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 本郷五丁目町会暁秀館、料亭百万石、区との意見交換会、50周年記念式典（天三町会、本郷五丁目町会）、㊤高田藩江戸屋敷、長寿万歳 金助町本郷金寿会 藤沢一義氏

●平成18年度

A 地域活性化事業 どじょうつかみ大会
B 施設見学会 三溪園
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 同朋町会花月、弓一文化会朝陽館、㊤本多忠勝下屋敷、湯島聖堂、文京区防災訓練、本郷消防団、長寿万歳 春田金太郎ご夫妻、棚橋スギさん、酒井長助氏

●平成19年度

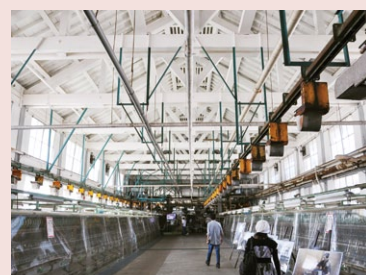
A 地域活性化事業 湯島本郷おたのしみ広場



平成18年 どじょうつかみ大会抽選会(本郷小)



平成19年 お楽しみひろば



平成19年 富岡製糸工場

B 施設見学会 富岡製糸場
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 同四会明月堂、同四会金魚坂、区との意見交換会、㊤高松藩江戸屋敷、利根川会長業績、夏行事いろいろ、新花・三組・三組弥生会 合同防災訓練、本郷五丁目農園、菊坂町会 田植、長寿万歳 前田正男氏、内保留七氏

●平成20年度

A 施設見学会 川越市立鉄道博物館
B 広報紙 わが町パートⅡ 天三町会つる瀬、切通町会江知勝、本郷五丁目町会高島堂薬局、スクールガード始まる、孔子祭、㊤高崎藩松平右亮介、小山内会長叙勲、野外活動、長寿万歳 榎瀨美佐男氏、塚本元吉氏

●平成21年度

A 施設見学会 佐野厄除大師ほか
B 広報紙 A、わが町パートⅡ 赤門扇屋、台町鳳明館、わが町組織と行事元一会、㊤福山藩阿部家中屋敷、岡田嘉子、文京区防



平成16年 大蔵省滝野川印刷所

災訓練、地区対ウォークラリー、長寿万歳
長崎達洋氏、船越文六氏

●平成22年度

A施設見学会 宇宙センター、笠間稲荷
B広報紙 A、わが町組織と行事 三組町
会、続元一会、湯島本郷まちおこしイベント、
㊤水戸藩江戸屋敷、福山藩中屋敷、花柳章
太郎と湯島小、消防総監賞、湯島三町会S
YM、本郷五丁目町会、弓二会農園、東京都・
文京区合同防災訓練、地区対都電でGO

●平成23年度

A施設見学会 佐倉惣五郎記念館ほか
B広報紙 A、わが町組織と行事 元二親
和会、切通町会、上真砂町会、本富士地区
文高連芸能大会、湯島小学校140周年記念
式典、雨宮正男氏叙勲、意見交換会、㊤水
戸藩江戸屋敷、長寿万歳 長谷川正康氏、
地区対おやつ作り、利根川政次氏を悼む、
なでしこジャパン優勝

●平成24年度

A施設見学会 益子焼と足利学校
B広報紙 わが町組織と行事 菊坂町会、
三組弥生会、㊤庭瀬藩 壱岐坂と唐津藩、
石川啄木12、地区対地域こどもプラザ、
老人クラブ本三さつき会、湯島3町会防災
訓練、長寿万歳 千代田フサ子さん、高橋
雄次郎氏

●平成25年度

A施設見学会 偕楽園ほか
B広報紙 A、わが町組織と行事 新花会、
赤門前町会、湯島会、㊤石川啄木3、金田一
京助12、意見交換会、東京都防災隣組設定 湯
島三町会SYM、本郷五丁目町会、地区対おや
つ作り、長寿万歳 千葉センさん、矢嶋キクさん



平成20年 川越市江戸時代町並



平成22年 宇宙センター



平成24年 足利学校

湯島一丁目町会

● 昭和22年結成

■ 歴代会長

初代 櫻沢次兵衛（昭和22年～昭和30年）
二代 青木健太郎（昭和30年～昭和55年）
三代 青木謹之助（昭和55年～平成元年）

四代 本田 正明（平成2年～平成21年）
五代 廣橋 裕介（平成22年～）

町会のあゆみ

当町会の生いたちは現存する資料からみますと明治31年浜島幾四郎氏や原沢常三郎氏が町政の改革を叫んで従来の差配人制度を改めて町民懇親のため、湯島一丁目睦会が創立され、35年に総代会、町内睦会、懇話会、衛生組合の4団体が合併し、今日の町会の基礎ができました。大正12年関東大震災をうけたが翌13年再興を見るに至り、町会員は61世帯と記録にある。その後昭和20年戦災で町内中を焼失したものの会員の努力により再興し今日に至った。

当町会は神田明神の坂の左右に所在し、

昌平坂学問所“昌平黌”に付属した孔子の廟である湯島聖堂がある。徳川幕府時代の昌平黌は武家子弟の教育のみであり庶民は寺子屋で習字、算術を教えられており本郷区内に5つあった寺子屋の1つである市川小学校が当町内にあり明治生まれの子供はここに通っていた。昌平黌の門前地として影響を受け幾多の変遷はあったものの区内でも歴史ある町会のひとつであります。

主な活動として防犯防災等各諸団体への協力。各種賛助会への協力。

行事として新年総会、懇親会、湯島神社祭礼、有志による旅行会の開催等。



湯島聖堂「明神門」



中伊豆旅行

■ 歴代会長

初代 前嶋栄次郎（昭和25年8月～昭和30年3月）
二代 山口 喜久（昭和30年4月～昭和32年4月）
三代 沖 貞利（昭和32年4月～昭和34年3月）

四代 利根川政次（昭和34年4月～平成19年3月）
五代 赤塚 和侑（平成19年3月～）

町会のあゆみ

当湯島会は発足して64年目となり、私は五代目の町会長となります。初詣に始まり、新年会、湯島天満宮大祭、焼肉大会、ラジオ体操、バス旅行、年末大掃除、防火演習、夜警等町会員と企業の皆さんが一体となり、数々の行事を行ってまいりました。

これからも歴代の会長の志である「ふれあいのある街づくり」を継承し、さらに発展をめざしてまいります。



平成13年12月24日 湯島会年末大掃除



湯島天満宮梅まつり出演の湯島はやし連



湯島会創立60周年記念（平成21年10月20日 於 東京ガーデンパレス）

■ 歴代会長

初代	田沢仲次郎（不詳）	六代	河西 功（昭和47年5月～昭和53年4月）
二代	河西 瑞穂（不詳）	七代	小室 由蔵（昭和53年5月～平成元年4月）
三代	前田 深（昭和36年～昭和39年）	八代	榊瀧美佐男（平成元年5月～平成14年4月）
四代	栗原吉次郎（昭和40年～昭和42年）	九代	田中 祺益（平成14年5月～平成23年4月）
五代	中田 高平（昭和43年～昭和46年）	十代	小倉 孝允（平成23年5月～）

町会のあゆみ

新花会は、旧町名の湯島新花町に由来しており、範囲も広く、真言宗「霊雲寺」、区内最初の小学校である「湯島小学校」（明治4年開校）も含み、多数の会員で成り立っています。町内には、新花の氏神様と呼ばれる「湯島御霊社」があります。祭神は八座で合殿には與財恵門稲荷と大己貴神を祀っており、会員一丸となって崇敬護持しています。2010年（平成22年）には、御鎮座3百年祭が近隣の町会関係者をお招きして盛大に行われました。隣接する社務所の大広間で毎月10日に町会常会を開催し、役員はじめ班長さん等も出席して各部の事業計画、報告等が行われ、問題提起があれば意見交換を行い、合意の上実行されています。季節の主な祭事（節分祭、二の午祭、秋の例大祭、七五三）には、毎年大勢の町会員と近隣の皆様方にもご参加頂き、親睦を深めています。町会行事は、境内での観桜会、ラジオ体操をはじめ日帰り温泉、敬老のお祝い等を実施、それが町会内の連帯感を緊密にしていると思います。また町会

活動として夏期と年末の夜警に加えて、月例役員会後防犯パトロールを続けています。また大震災や大雨などの災害に備えて非常用物資を備蓄し、防災訓練（隣接町会合同）を行っています。

近年阪神淡路、中越等短い間隔で起きた大震災を経て発生した東日本大震災により、研究機関において首都直下地震による大規模災害が高い確率で想定されています。いざという時に行政としても同時に区民をフォローすることは実質的に困難と予想されます。それを念頭において新花会は町会を主体とした自主防災組織を速やかに展開しようと考え、平成18年7月に3町会（新花・三組弥生・三組）合同で防災訓練を実施しました。これを契機に平成19年7月「SYM3町会災害連合会」を結成し、平成20年2月に文京区と災害対策活動に関する覚え書きを交しました。平成24年4月に、3町会で協力して防災対策マニュアルを作成するなど災害的協力体制を確立する取り組みが評価され、東京防災隣組に認定されました。



新花会 節分祭



SYM 総合防災訓練

■ 歴代会長

山田 景福 (3年間)、山田 辰造 (2年間)、濱田 春次 (3年間)、竹島 健次 (2年間)、仁木 平四郎 (4年間)、濱田 春次 (3年間)、山田 景福 (10年間)、濱田 春次 (4年間)、高

浪 正勝 (4年間)、兼平 英男 (2年間)、丸島 清義 (1年間)、高浪 正勝 (1年間)、中山 京子 (1年間)、川口 宣男 (2年間)、犀川 薫 (1年間)、大野 等 (9年間)、高浪 武 (平成18年～)

町会のあゆみ

戦前から名称は三組町会でした。昭和27年に三組会で再発足し、昭和35年に三組町会に名称を改称しました。

高浪会長を中心にしての主な町会活動は平成18年に近隣町会(新花会、三組弥生会、三組町会)でSYM三町会災害連合会を結成しました。合同防災訓練や救命講習会、要援護者対策の実習会その他加盟事業所27社と共同で防災訓練を行っています。

平成24年3月28日に日頃の活動が評価され東京都防災隣組第1回認定団体に認定されました。

その他には湯島天満宮祭礼時の町内祭、ラジオ体操と年末の夜警は毎年行い、納涼会と日帰りバス旅行を隔年で行っています。

それ以外にも婦人部の活動等多岐にわたり行っています。

特に、平成23年は東日本大震災の為5月の町内祭を中止、代わりに義援金募集を目的としたチャリティーイベント「とどけ元気」を200名以上の参加者を得て開催し町



24年ビルからの救出・救助、火をつけての消火訓練



大人神輿宵宮



ラジオ体操



納涼会



日帰りバス旅行

内事業所10社による展示即売会と被災地南相馬市からの出展販売や町会員によるフリーマーケットの他、防災意識向上のため区の防災課による転倒防止装置展示など町会員一体となって行いました。

このような行事を行い安全で安心な住みごこちの良い町会を目指して活動をしています。



チャリティーイベント「とどけ元気」



■ 歴代会長

- 初代 鶴巻 嘉男（昭和21年1月～昭和49年3月）
- 二代 宇都木仁平（昭和49年4月～昭和51年4月）
- 三代 小宮 米吉（昭和51年5月～昭和62年5月）
- 四代 林 靖（昭和62年6月～平成4年4月）
- 五代 増田 栄一（平成4年5月～平成8年7月）
- 六代 増田 克己（平成8年8月～平成24年5月）
- 七代 岩金 靖夫（平成24年6月～）

町会のあゆみ

昭和21年頃、初代鶴巻嘉男氏により町会の基礎が作られ、焼け跡に戻った人々と協力して、現在の街の発展を見た。妻恋神社を町内にもち、昭和40年の地名変更までは江戸時代から続く妻恋町という町名であったため町会名も「妻恋会」とした。

戦争直後は30世帯ぐらいの町会であったが、その後ビル街となり、会社事務所などが増え、最近ではマンションが8棟にもなり、古き良き職人街も昔の夢となってしまった。現在では、法人会員、マンションの住民を含め、350名を越す世帯となっている。

妻恋神社の氏子町会として、千代田区の

外神田同朋町会とともに、年間を通じ神社をお守りし、年末年始には、初詣の方々の接待を続けている。境内の掃除も婦人部の皆さんにより続けられている。神社にいと、時には、往時の町会の住人だったという方が訪ねてこられ、懐かしく昔話をお伺いすることもある。

町内の親睦を図るため、毎年8月末には、神社境内で納涼大会を開き、企業からの参加も増え、150名以上の方が狭い境内を埋め尽くす。また秋には、親睦バス旅行を行い40名ほどの町会員が参加している。



妻恋神社

■ 歴代会長

- 初代 石塚金之助（昭和23年～昭和33年7月）
二代 内山己之吉（昭和33年8月～昭和39年3月）
三代 石塚 とき（昭和39年4月～昭和60年4月）
四代 原 フサ（昭和60年5月～平成6年4月）
五代 漆原 徳光（平成6年5月～平成8年4月）
六代 原 一雄（平成8年5月～）

町会のあゆみ

湯島台地の東南の端、妻恋坂の仲程を北へ立爪坂（別名芥坂）を上った高台に、江戸時代より続いた大きな味噌醸造所「伊勢利」があった。この台地は関東ローム層で地下室にて「糶」を製造するに適しており、本郷湯島は江戸の初めよりみその特産地として有名であった。

戦後、その地が漆原氏の屋敷となり昭和23年から再開された両国の花火大会には、広い芝生の庭が解放され、近隣の人達が打ち上がる花火に酔いしれていた。

そこも、平成18年に三井不動産による大きなマンションが建てられ、3%の提供敷地に区立清水坂上児童遊園が設置、春にはつつじ・初夏にはアジサイの花を咲かせている。

現在の東都文京病院は、昭和12年、日立製作所の創業者小平浪平氏が、豪壮な2

階建洋館を建てたが空襲で焼失。昭和35年、日立製作所創業50周年記念事業の一環として「小平記念東京日立病院」が開設され、地域医療に貢献されたが、今春医療法人大坪会にそのまま継承された。

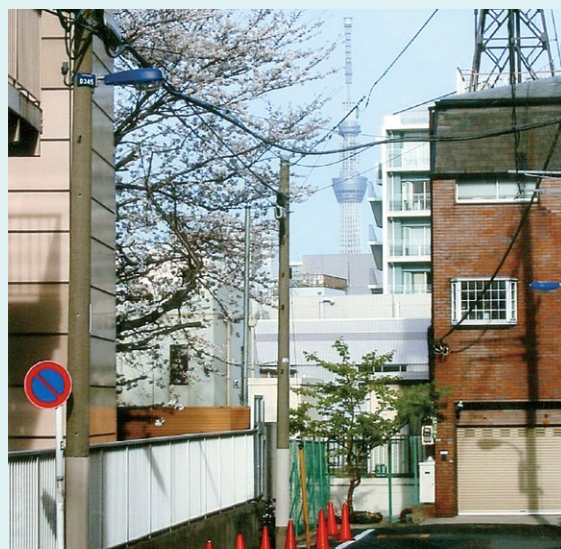
当町会は昭和23年、旧湯島三組町会より分離し結成された小さな町会である。現在正会員18世帯・準会員（マンション住人）で成り立っている。

町会行事は正月の年賀品くばり・5月町会総会・湯島天神まつり・6月防災訓練・9月敬老の日祝い品・11月文化の日に美術鑑賞券を贈呈。

週1～2回、児童遊園の管理清掃を行う。



清水坂上児童遊園にそろう現町会役員



昔は両国の花火、今は東京スカイツリー

■ 歴代会長

- 初代 海老沼善一郎（昭和22年4月～昭和30年3月）
- 二代 平井 康之（昭和30年4月～昭和37年3月）
- 三代 木津 直次（昭和37年4月～昭和42年3月）
- 四代 栗原兼太郎（昭和42年4月～昭和47年3月）
- 五代 大塚 由松（昭和47年4月～昭和51年3月）
- 六代 平井 信男（昭和51年4月～平成10年3月）
- 七代 鎗田 精康（平成10年4月～）

町会のあゆみ

国道17号（中仙道）を挟んだ当町会は戦後間もない昭和22年湯島26町会として発足、昭和30年に湯島二丁目町会を経て、地番変更により昭和40年に現在の本郷三丁目南部会と改めました。当初は職人の町として人口も多く、従って子どもの数も著しく多かった時代でした。町会行事も子ども中心で祭太鼓などは近隣では一番大きいのを作ったものです。

現在では、ビルの高層化により人口も減り町会活動も人的面で苦労が絶えませんが各官庁への協力と、近隣同志の協力は惜しみなく行っております。殊に清掃事業はタ

バコ禁止地区への協力、町会として毎月1回多数の参加により続いております。最近では3・11東日本大震災教訓による防災意識が高まり、まだまだ不十分ではありますが力を入れております。

町会行事としては、春秋の交通安全運動、防犯、歳末警戒、防災演習、日赤への協力、ラジオ体操、湯島神社祭礼、町内レクリエーション、さつき会への協力、各種寄付活動等実施しております。

又、町内にあります湯島幼稚園、順天堂医院、サッカー協会と連携し、諸行事への参加も行っております。



湯島神社祭礼



清掃事業

本郷三丁目金助町会

● 昭和29年5月結成

■ 歴代会長

初代 久水 良重（昭和29年6月～昭和32年5月）
二代 山崎 文蔵（昭和32年6月～昭和36年5月）
三代 齊藤 保（昭和36年6月～昭和38年5月）
四代 池本 喜三（昭和38年6月～昭和44年5月）
五代 松谷俊太郎（昭和44年6月～昭和49年5月）
六代 渡辺 嘉男（昭和49年6月～昭和54年5月）
七代 和久井源太郎（昭和54年6月～昭和57年5月）

八代 倉田 耕吉（昭和57年6月～昭和61年5月）
九代 久我 友吉（昭和61年6月～平成3年5月）
十代 田中 利政（平成3年6月～平成7年5月）
十一代 瀬戸 一郎（平成7年6月～平成14年5月）
十二代 三ヶ尻延男（平成14年6月～平成20年5月）
十三代 松谷 豪（平成20年6月～平成24年5月）
十四代 三ヶ尻祥二（平成24年6月～）

町会のあゆみ

徳川時代元和4年7月、徳川家の旗本小人頭であった牧野金助政成の所領地3700坪の跡地であったため、その旧縁により元禄9年本郷金助町と称したのが、約400年前である。

明治16年現在の町会の前身である同和会が設立され、その後明治44年に本郷金助町と改称、更に昭和29年に本郷三丁目金助町会と改称され現在に至っている。

現在、町会の活動として、7の部があり、それぞれ活発に事業を行っている。

年始には賀詞交換会、春には観劇会、春の全国交通安全運動街頭出動、新入学児童へのお祝い配布。

初夏には町内清掃、湯島天満宮祭礼及び子供広場。

夏期休暇中にはラジオ体操、納涼大会。
秋には、秋の全国交通安全運動街頭出動、敬老の日のお祝い配布。

冬には餅つき大会、町内清掃、歳末警戒と四季を通して行事が実施されている。
更に毎月資源回収を有志により実施され、又、金寿会は年2回の誕生日を始め、各行事への協力、参加などが実施されている。



歳末警戒



町内清掃



もちつき大会

■ 歴代会長

初代 壺井 光好（昭和28年～昭和31年）
二代 打越 徳寿（昭和31年～昭和43年）
三代 金原 四郎（昭和43年～昭和53年）
四代 岩永 彦志（昭和53年～昭和63年）

五代 牧口 重康（昭和63年～平成11年）
六代 岡崎 泰三（平成11年～平成15年）
七代 佐野 恒男（平成15年～）

町会のあゆみ

春木会の沿革

当会は昭和27年6月旧春木町一丁目、二丁目、三丁目を地域として「明るい町の建設」をモットーに多くの方々の協力により発足し、28年8月に結成されました。

以来、平成25年には設立60周年を迎えました。また平成15年6月には、50周年を記念して、記念誌“春木会50年の歩み”を発行し、会員に配布をしました。

春木会の町並み

昭和30年代後半からの日本経済の高度成長に伴い、商業ビルやマンションの建設が進み現在もなお継続しています。当町会の大きな特徴として、文京区の地場産業の一つでもある医療機器産業のメッカとして近隣町会と共に、全国でも有名な地域として、繁栄をしてきました。

春木会の組織と活動

会長、副会長、会計の他、総務部、環境衛生部、防火防犯部、公害防災部、交通部、青少年部、女性部で活動しております。

他に60才以上のお元気な高齢者の集りである春木向寿会も活発に活動しています。

年間の主なる行事としては、正月の4日にバスをチャーターしての十社廻り、浅草寺を初め、川崎大師、明治神宮等に寄り、湯島天満宮にて解散する1日を初詣だと初顔合せを兼ねた伝統行事として代々引き継

がれています。もう一つ春木会ならではの行事に毎年3月のお彼岸に、その年に亡くなられた方々の遺徳を偲ぶ物故者慰霊祭を40年近く行っており、区内でも類をみない行事です。又、平成23年には戦争で消失した御神輿を造営してから30年を迎え8月に町内渡御を行い、湯島天満宮において式典を催行しました。お祝いとしては、新入学児童、成人、敬老等で記念品を贈呈して、お祝いをしています。この他、夏のラジオ体操と共に子供広場を開催し、消防署の協力の下、大人の方々にも防災訓練を兼ねて、参加して頂いています。又、年末には12月25日より1月の中旬まで会員の自主的な参加により、どの町よりも永い間、夜警巡回して町内を見守っております。他に毎月第3土曜日に欠かさず古紙回収を行い会員相互の共助の一つにしています。

今後も毎月の役員会と共に新しいイベントと伝統行事を織り交ぜて行うよう会員一同、力を合せて町を盛り上げている昨今です。



春木会創立50周年記念祝賀会

■ 歴代会長

初代 生地龍太郎（昭和20年1月～昭和22年4月）
二代 和田健太郎（昭和22年5月～昭和36年5月）
三代 服部 仙順（昭和36年6月～昭和39年5月）
四代 倉本 肇（昭和39年6月～昭和43年3月）
五代 服部 仙順（昭和43年4月～昭和44年4月）
六代 高麗^{ユウマ} 梅吉（昭和44年5月～昭和50年5月）

七代 杉浦芳四郎（昭和50年5月～昭和56年4月）
八代 畑中 正一（昭和56年4月～昭和62年4月）
九代 鈴木 國治（昭和62年4月～平成8年4月）
十代 國分 棟一（平成8年4月～平成12年4月）
十一代 鷺田 勇（平成12年4月～）

町会のあゆみ

明治4年我元町、西側の白山通り小石川沿いに、日本帝国陸軍東京砲兵工廠が新設、そこで働く大勢の人々がいて、元町側で住む人達も多くいた様です。そんな事から白山通りは勿論、横丁の通りにも、魚屋、米屋、八百屋、洋服屋、酒屋、銭湯、床屋、駄菓子屋、などなど大変活気がある町だったそうです。その後砲兵工廠が九州へ移転、昭和12年に後楽園球場が出来て、野球で賑わう半面、地域での活気は薄らいできました。

昭和16年第二次世界大戦に突入、18年頃には戦禍も厳しく生活物資も乏しくなり配給制で、又警防団を中心に隣組も警戒体制をとっていました。20年4月13日の夜から、14日に掛けて、東京大空襲、住み慣れた町並を焼夷弾の投下によって、焼き尽くされました。

昭和20年8月15日終戦を迎え、廃墟と化した中、徐々に人々が戻られ復興の槌音もする、22年頃「元二親和会」と名称を定め町会長を初め組織作り、外灯や、物資食料不足などの難題を乗り越え、30年頃には生活も安定し、新年会や祭、日帰り旅行なども行なわれる様になりました。

昭和38年には待望の町会事務所2階建、100㎡を新築、総会や役員会、夜警詰所又地域の会合に大変重宝されています。昭和45年青年部、平成元年婦人部結成される。

平成19年三河稻荷神社御遷座400年祭が行われ、この年に合わせ大人神輿を新調、青年部を中心に近隣の応援を得て元一睦会の神輿と共に盛大な大祭となりました。

又恒例の納涼大会は今年で15回目8月下旬に道路を借りて、青年部、婦人部の協力と、成澤区長を初め警察署、消防署、区民部のご来賓の皆様にご参加を頂き、地域の事、振り込め詐欺、地震災害等の注意心得の話の頂き、近隣町会、会員の皆様と飲食を共にし300を越す人々と地域の絆を深めています。

平成23年3月、区の地縁法人の認可を会員皆様の協力で取得することが出来、又平成25年2月、町会会館の土地所有権を個人から法人へ移転登記する事が出来ました。

又地域防災の合同訓練を行って来ましたが、更に町会独自の訓練も進めたい。

終りに町会のあゆみを振り返る時、平和である事に感謝したい。



三河稻荷神社大祭 神酒所前で集合写真（平成24年6月3日）

■ 歴代会長

初代 山崎 惣吉 (昭和21年2月～昭和32年7月)
二代 栗原 貞夫 (昭和32年8月～昭和33年2月)
三代 東野 公一 (昭和33年2月～昭和49年2月)
四代 片山 満吉 (昭和49年2月～昭和55年2月)
五代 新井 正浩 (昭和55年2月～平成2年2月)

六代 荒井 豊三 (平成2年2月～平成10年2月)
七代 谷合初太郎 (平成10年2月～平成17年2月)
八代 種田 守宏 (平成17年2月～平成24年2月)
九代 浅川 昇 (平成24年2月～)

町会のおゆみ

本郷弓一町会は旧文京区弓町一丁目に立地する。江戸時代初期から『御弓町』と称される武家屋敷の町である。その名は江戸城の鬼門の方角に当たるので、弓場を設けて厄除けとしたことに由来する。のちに東叡山寛永寺が建立されたため、弓場は他所に移し、町名だけが残った。

『本郷区史』によれば、「今の弓町一、二丁目の地域は延宝中頃まではその大部分が御先手組大縄地であったが、元禄12年の大火で類焼したのち…宝永元年(1704)…他の旗本屋敷となった」とある。その町内には、昭和14年ごろまで武家屋敷の黒門があり、東大の赤門と好一对と言われた。ちなみに今、大クスノキのある場所は『甲斐庄喜右衛門』という『楠正成』の後裔とされる旗本の屋敷跡であった。そして戦後町の民生化にともない、昭和21年2月に弓町一丁目町会から弓一文化会と名称を変え、平成25年11月には法人化されて、本郷弓一町会となった。

時代の流れの中で武家屋敷の並んだ弓町

も住宅地へと変貌していった。中には1区画300～400坪という大きな区画も多くあったが、そういった大きな区画が高度経済成長期にいくつもマンションへと変わっていった。一時は落ち着きを見せた街並みにも平成になり、再びマンション化の波がやってきた。

かつて、当町会には戦前より町会専用の会館がありさまざまな集会や行事に利用されてきた。その会館は戦災で焼失してしまっただけで、戦後11年の時を経たのち、新たに建設された。

長年町会の行事や祭礼また日頃の役員会に使用してきた町会会館は、近隣の再開発計画によって現在、新たに建てられたマンションの1階に入っている。

マンションが増えるという事は、町会の人口が増えるという事であり、歓迎されることである。しかし、同時に従来通りの町会運営ではうまくいかないことも生じると予想される。今後は新しい会館を拠点に時代に即した町会として活動をしていきたいと願っている。



婦人部 例会 平成18年11月



櫻木神社 祭礼 平成17年9月
旧町会会館前にて



町会レクリエーション 平成25年6月
御岳溪谷にて

■ 歴代会長

- 初代 小山九十九 (昭和28年4月～昭和38年3月)
- 二代 小野沢 清 (昭和38年4月～昭和55年3月)
- 三代 波多野鑿吾 (昭和55年3月～平成元年5月)
- 四代 増田 春吉 (平成元年5月～平成2年4月)
- 五代 拓植 清一 (平成2年5月～平成6年4月)
- 六代 丸山 英雄 (平成6年5月～平成10年4月)
- 七代 諸岡 健至 (平成10年5月～)

町会のあゆみ

当町会は以前元町1丁目でしたが、昭和40年4月に住居表示実施に伴い本郷2丁目となりましたので、本郷二丁目元一会となりました。元町は、『本郷元町書上』によれば、ここは御中間大縄拝領屋舗であり、家康公入国に従った三河出身の共衆が、慶長10年(1605)三河町駿河台辺に拝領地を与えられ、元町付近の御弓同心組屋敷が、小石川大塚辺へひき払った跡へ、元和4年(1618)三河町駿河台から引替拝領の形で移ったという。のち武家地として、幾度も変遷があったが、町屋になる以前から元町の名称があり、そのまま伝えられたという。と記されている。

現在当町会内では、三河稻荷神社を崇敬するグループと湯島天満宮を崇敬するグループが分かれています。お互いが協力し合って祭礼が行われている。その他、第3代町会長の波多野氏が毎月、町内の広報誌

を発行してから、30余年になりますが今日現在も継続発行しています。その他の行事として、1月は、成田山の初詣、2月には、本郷行灯まつり、5月、6月にかけて、両神社の祭礼、7月は、ラジオ体操、8月は、子どもまつり、9月には、敬老祝い、秋には、親睦バス旅行、その他学童の登校日には、町内2か所でスクールガードを行い、毎週金曜日には、町内を災害抑止のためパトロールを行っています。防災救助訓練・避難所運営訓練も毎年熱心に行っています。



1月第2土曜日には成田山新勝寺に初詣



5月・6月には湯島・三河両神社の祭礼



秋には天気の良い日曜日を選び親睦バス旅行

■ 歴代会長

初代 高野善之助（昭和31年4月～昭和33年5月）
二代 熊谷 新次（昭和33年5月～昭和41年5月）
三代 高木 利一（昭和41年5月～昭和45年5月）
四代 前田 康晴（昭和45年5月～昭和53年5月）
五代 奥平正一郎（昭和53年5月～昭和55年5月）
六代 新井 光雄（昭和55年5月～平成2年5月）

七代 河内 武之（平成2年5月～平成8年5月）
八代 利根川包吉（平成8年5月～平成12年5月）
九代 熊谷 英男（平成12年5月～平成16年5月）
十代 関口 龍市（平成16年5月～平成22年5月）
十一代 樋口 善勝（平成22年5月～平成24年5月）
十二代 大谷 益弘（平成24年5月～）

町会のあゆみ

戦後の町会の空白時代も指令解除で新しい町会設立の気運が高まってきました。先ず町を明るくする手段として旧睦会が中心となって神輿の新調を計画し、多くの方々のご芳志を得て翌年には現在の大小神輿太鼓等が新調され盛大に祭りが行われました。この神輿の集まりが母体となって、翌年には戦後の新しい町会の設立総会が迎えました、昭和31年4月15日であります。そして各時代の役員 노력により町会の基礎は固められ現在のような立派な町会となりました。しかしながら、一方では世の中の移り変わりと共に古い街並みは近代化していきますが、この町の人々の親しみ深い風情や人情は昔のままであります。

町会の行事や事業も活発に行われ、区や警察消防関係の行事にも積極的に参加し、

防犯運動に、また春秋の全国交通安全に、或いは火災予防運動に、防災訓練にと目覚ましい活動が目立っています。

町会独自の行事としては、1月15日の成人の日には記念品を贈ってその前途を祝い、4月には新入学進学児童に記念品を贈って激励し、地域のより良い環境づくりに協力し、9月には敬老祝を贈って喜ばれ、神社の祭礼には積極的に参加、当町会独自の行事を行うなど目覚ましく、レクリエーションでは大勢の人に大変喜ばれています。また年末には歳末夜警を行って、町会の信頼度を深めています。

このような各種行事が順調に行われているのも、役員を始めとして、青年部、婦人部、また若手婦人層の積極的な協力があればこそで、人の和を軸とした若さ溢れる町会といえます。



御祭礼（平成24年9月22日）



■ 歴代会長

- 初代 蓮江 健吉（昭和24年4月～昭和37年3月）
二代 木津 信輝（昭和37年4月～昭和59年3月）
三代 若井 佐吉（昭和59年5月～平成15年5月）
四代 小澤 太郎（平成15年5月～平成21年5月）
五代 金井 弘海（平成21年5月～）

町会のあゆみ

戦後、近隣諸町会と連合で本郷第一町会を結成したが、追々地元に戻ってきた人々との協力によって、本郷二・三丁目町会を昭和24年3月に設立し、現在に至っている。

町会活動を行うにあたって、町会の組織を防災、警察、消防、学校関係等の分野ごとに分けて、副会長が分掌している。また、役員には若手の会員を登用し、組織の活性化に取り組んでいる。

婦人部では、お祭り、新年会、町会員の葬儀の手伝い等の地域の下支えとなる活動を行っている。

町会の行事としては、新春の新年会、秋に行われる桜木神社の祭礼や、75歳以上の方に町会から記念品を贈呈する敬老祝

や、新成人を対象とした成人祝、新入学児童祝を行っている。

現在、最も力を入れているのは、防災・安全のまちづくりの推進である。

毎年、年末警戒のための夜警詰所を設置し、町内挙げて防犯・防火の意識の向上に取り組んでいる。さらに、町内をもとより、近隣町会を含めた地域として、街の安全を守るために区や警察の協力を得て、防犯カメラを設置することに取り組んでいる。

町会の発展のためには、若い人たちの活躍が必要であることから、町会運営に関わってもらうとともに、新しく町内のマンションに引っ越してきたファミリー層に町会の会員になってもらうことが必要である。



桜木神社のお祭り

■ 歴代会長

初代	林 皆二 (昭和30年～昭和35年)	七代	秋田 国助 (平成元年5月～平成6年4月)
二代	市河作之輔 (昭和36年～昭和39年)	八代	小林 源三 (平成6年5月～平成11年4月)
三代	小林 忠信 (昭和40年～昭和41年)	九代	吉川 薫明 (平成11年5月～平成15年4月)
四代	椎橋 健一 (昭和42年1月～昭和54年1月)	十代	金子 文男 (平成15年5月～平成17年10月)
五代	安池晴之助 (昭和54年1月～昭和58年12月)	十一代	湯浅 欣誉 (平成18年5月～平成25年5月)
六代	池田富士男 (昭和59年4月～平成元年4月)	十二代	池田 義久 (平成25年6月～)

町会のあゆみ

本一町会は御茶の水駅に近く文京区の南玄関に位置しております。徳川家康公が江戸幕府を開くと、武器庫の街として竹町と弓町が弓矢及建築資材の基地とし誕生した。

明治まで加賀前田藩を初め大名屋敷が多く“かねやすまでは江戸の内”と職人の町として大いに繁栄した。関東大震災以降は、利便性に優れた場所の為、順天堂大学病院、東京医科歯科大学病院、東京大学病院等があり、関連して医療機器の商店が軒を連ね、また関連出版社が多く、オフィスビル、マンション等町内には7棟の多くとなる反面古くからの住民は減少する一方です。

町会活動は8班制で①明るく②楽しい③安心安全の街造りに努力中、春と秋の交通安全運動、地域の桜木天神祭、日帰り旅行、観劇会が主な行事で友好の絆と輪を拡げて

います。東日本大震災を機に区役所、本富士署、本郷消防署等の指導の下に、近隣7町会及旧元町小学校避難所を借りている順天堂病院とが数度の対策を立て防災訓練を実施しました。住民にとっては防災意識が高揚し、連帯感を深める機会となったと信じています。

当町会の歴代会長は初代林町会長、市河思誠堂社長、小林忠信、池田富士男、椎橋健一、秋田国助、小林源三、吉川薫明、金子文男、湯浅欣誉と続き、現在の町会長は池田義久であります。

区の憩いの地として隣接する水道公苑は、バラを主体として四季の花が咲きみだれ、池と水の流れが年間を通して多くの方々を楽しませている。又文化遺産である元町公園は古くから桜の名所で、昔は富士山が一望でき、ラジオ体操も行われていた。

区町会連合会の発展を切望しております。



町会日帰り旅行 横浜三溪園にて



町会の祭りを盛り上げる湯浅会長



2007年 桜木神社宮入

■ 歴代会長

初代 柏崎 貞雄（昭和26年4月～昭和27年3月）
二代 仁科 将（昭和27年4月～昭和33年3月）
三代 小里 秋男（昭和33年4月～昭和37年3月）
四代 柳沢 治実（昭和37年4月～昭和40年3月）
五代 種田 武夫（昭和40年4月～昭和42年3月）

六代 金山 健二（昭和42年4月～昭和44年3月）
七代 森田 賢（昭和44年4月～昭和50年3月）
八代 天野 明（昭和50年4月～平成11年3月）
九代 金山 恵一（平成11年4月～）

町会のあゆみ

昭和26年4月戦前からあった本郷四丁目町会がそのまま復活、当町会がスタートした。東に本郷通り、南に春日通りに面し菊坂通りをはさんで私共の町会は存在している。

昭和40年行政区画の変更（町名変更）によって、当会は菊坂通りを境にして本郷4丁目と本郷5丁目とに分断された。その際、伝統と歴史を尊ぶ会員の「同じ4丁目の住人」との意識で本郷同四会と町会名を新たにした。

最近の10年をふり返ると、2つの大きな社会現象が見られる。1つは、少子高齢化であり、当町会もその影響を受けている。会員220のところ70才以上の敬老当該者が100名を超えるのに新入学児童は5名以下の状態が10年以上続いている。災害、事故等について老人を中心とした対策が求められている。次に、マンションの急増も問題を提起している。環境の変化に加えて町会員の融和がはかりにくいことである。プライバシーの異常な尊重が原因かも知れない。

今後は社会の変化につれて町会のあり方を考える必要があるようだ。

町会の主な年中行事

定時総会と懇親会
春の交通安全運動
町会員リクリエーション
（小旅行・食事会・見学会など）
防災訓練
敬老御祝
桜木神社祭礼
秋の特別警戒
初薬師（本郷薬師）
成人御祝
新入学児童御祝
役員会（毎月1回）



本郷薬師

■ 歴代会長

初代 渡辺 一雄（昭和25年4月～昭和27年3月）
二代 諸井 貫一（昭和27年4月～昭和29年3月）
三代 種田 清一（昭和29年4月～昭和38年3月）
四代 岩崎雅太郎（昭和38年4月～昭和45年3月）
五代 古畑 庄吉（昭和45年4月～昭和52年3月）
六代 坂田 實（昭和52年4月～平成4年3月）

七代 永井 久信（平成4年4月～平成10年1月）
八代 坂口 哲也（平成10年1月～平成18年3月）
九代 栗田 洋（平成18年4月～平成20年3月）
十代 蛭川 晃（平成20年4月～平成25年4月）
十一代 枇杷阪弘且（平成25年5月～）

町会のあゆみ

当町内には、文京区の施設で、ふるさと歴史館、真砂中央図書館、男女平等センター、真砂児童遊園、本郷小学校等がある。

ふるさと歴史館前通りを本郷の文化ゾーンとして、特別に水銀灯8灯を区で建てた。

マンション建設、オフィスビル建設等で、町全体が大きく変貌している。

歴代町会長を始め役員、町会員全員で一步一步と近代化した町づくりに専念してきた。町内に於いても、昭和50年役員及び町会員の努力により設備の整った町会会館を建設し、上真砂町会会館として町会員、他の方々にも開放し地域の活性化に協力している。町会会館には1階に祭り、模擬店、イベント、餅つき等の諸道具を格納し、2階は集会の場としている。なお、当町会は法人化の認可を受けている。

（組織）

当町会は34の班に分けて、班長は回覧、区報等の配布、町会費の集金等の実務を担当している。

総務は町会行事を担当。

民生部：赤十字募金、赤い羽根募金、歳末助け合い募金を担当。

文化部：敬老の日に73才以上の方に記念品として、クッキー等を贈呈し、お祝いしている。

交通部：春秋の交通安全運動に協力。

防災部：防災訓練、年末夜警を実施。

防犯部：防犯ポスター等で周知、年末夜警をテントを設置して、防災部と共に夜警にあたる。

青少年部：新入学児童と新成人にお祝いの記念品をお届けする。納涼縁日、餅つき大会、模擬店等子供達へのイベントを実施。

町会リサイクル：元会長が資源回収活動を解散した婦人部より引き継ぎ実行している。

伝統90（大正13年創立）有余年我が町会は世帯数740余、文京区本郷の丘の上にある良き町と成る様住民が共に助け合い、生活環境の向上、発展を図り、良好な町の維持を続けたい。



祭りの一コマ

■ 歴代会長

初代 重富 豊実（昭和23年～昭和30年）
二代 松下 徳正（昭和30年～昭和47年）
三代 高橋雄次郎（昭和47年～昭和53年）
四代 武井 義雄（昭和53年～昭和63年）

五代 小林喜一郎（昭和63年～平成14年）
六代 鈴木 誠（平成14年～平成26年）
七代 掛布 外一（平成26年～）

町会のあゆみ

組織とその活動

町会長のもと5部に分れ部は数班に分れて各部長、班長は町会活動の通達等率先してその任に当る。なお真砂アパート自治会は特別会員として参加され格別な協力を自治会長、副会長、会計部長がされている。

- 副会長数名 会長の補佐。
- 会計 町会一般会計担当。
- 特別会計 祭礼に於ける会計一切。
- 文化部
- 防火防災部
- 衛生部
- 婦人部

等の専門部は夫々の町会活動の企画実行実習訓練参加等を担当する。部長任命は町会長指名諒解とする。但し凡ての役職は留任を可とする。

行事、事業

■ 役員会、月例役員会を本四集会室に於て月1回開催し諸役所よりの伝達事項、必要の事項への意見集約をする。但必要の応月2回も可。総会年1回。

■ 祝金、祝品進呈

イ、成人式 ロ、入学式 ハ、敬老日町会員と同居する子、孫、兄弟を原則としている。部長の推せんに依る。

■ バス旅行会

秋バス旅行を企画実行し会員各位の親睦を深める。但下真砂クラブ（会長荒木一作氏）と共催とする。

■ 桜木神社祭礼参加

9月下旬、桜木神社大祭に参加。主に町内祭礼を、田町町会、中真砂町会と合同し、宵宮神輿渡御、子供みこし、山車町内渡御、夜店開店等例年賑々しく町内祭礼を実行している。

■ 防災訓練・夜警

消防署、消防団主催の訓練には会員の積極的な参加をすすめる。夜警は例年12月29、30日夜町内詰所に詰め実施する。役員全員が毎年担当参加する。

■ 防災倉庫、町会倉庫

清和公苑入口道路傍に文京区提供の防災倉庫1棟、防災諸道具一切を収納する。他に公園菊坂寄りに町会倉庫、ここには町内祭礼実施一切（みこし等）を収納、更にテント、机等防災用具も収納されている。



平成20年5月18日 坂東16番水沢観世音

中真砂町会

● 昭和26年8月 清和会(清和町会)結成
平成元年4月 現町会名に変更

■ 歴代会長

初代 雨宮 文治 (昭和26年8月～昭和36年9月)
二代 鳥原 茂代 (昭和36年10月～昭和42年10月)
三代 塩谷とし子 (昭和42年11月～昭和46年1月)
四代 渡辺 ゆき (昭和46年2月～昭和46年9月)
五代 野村 春子 (昭和46年10月～昭和51年3月)
六代 五十嵐成久 (昭和51年4月～昭和60年3月)
七代 牧野 英夫 (昭和60年6月～昭和61年3月)
八代 武田 二一 (昭和61年4月～昭和62年3月)
九代 平高 正雄 (昭和62年4月～昭和63年3月)

十代 山口 家光 (昭和63年4月～平成元年3月)
十一代 近藤延一郎 (平成元年4月～平成2年3月)
十二代 船越 彬 (平成2年4月～平成3年3月)
十三代 鳥原 正憲 (平成3年4月～平成5年3月)
十四代 野村 正明 (平成5年4月～平成7年3月)
十五代 山口 家光 (平成7年4月～平成15年3月)
十六代 山田 晴久 (平成15年4月～平成21年3月)
十七代 荻原 信平 (平成21年4月～)

町会のあゆみ

地域の歴史

本郷台地の南西端に位置する我が町会地域は、江戸時代に高崎藩松平右京亮の中屋敷であり、明治2年に真砂町と名付けられたが町並みはごく一部で、一帯は右京山とそれに続く右京が原の草原でした。陸軍省、のちに東京帝国大学の付属用地として長く空地になっており、樋口一葉の日記や、富田常雄の小説「姿三四郎」の決闘の舞台としてその名がみえます。

その地を東京市が払い下げを受け、大正10年から大正14年、3期に亘って46棟75戸建設されたのが東京市営真砂町住宅で、現在の中真砂町会の前身です。周辺には住宅のほかに、真砂町小売市場（大正8年、26店舗、文京区設真砂市場の前身）、公衆食堂（大正15年、区民センター裏）、单身者用集合住宅・清和寮（昭和6年、本郷四丁目アパートの前身）が、東京市の社会事業関係施設としてこの頃に設営されました。

また、住宅地の中心にある公園には井戸が配され、当初より遊び場として利用され

ていたが、戦災で荒廃し、住民の署名運動により、昭和26年に東京都立公園として開園したのち文京区に移管され、昭和56年から57年にかけて改修されています。その清和公園の斜面一帯に染井吉野桜が植樹されたのが今では大木となり、知る人ぞ知る花見の名所として、町会のシンボリック存在となっています。

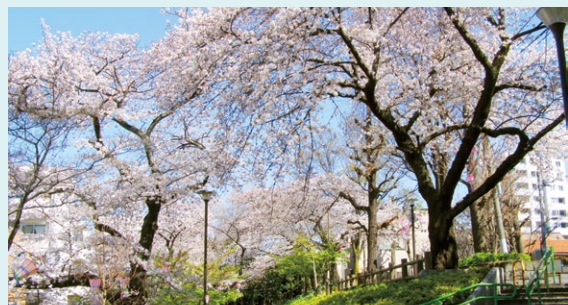
町会の主な事業内容

防犯、防災、環境保全、情報周知、等が町会の果たすべき役割であり、その大前提である健全なコミュニティの維持、発展に注力した歴代会長の功績が引き継がれています。

都営本郷4丁目アパート（元清和寮）に地域開放型集会室の設置を要請、近隣町会、アパート自治会と運営していること。一時衰退していた地元桜木神社例大祭を、近隣町会の協力で町会の主要行事に復活させていること。旧住民と新住民の積極的な交流を図っていること。などが挙げられます。



桜木神社例大祭



清和公園桜まつり

■ 歴代会長

初代 三浦 銀蔵（昭和23年～昭和53年3月）
二代 猪尾 善典（昭和53年4月～昭和60年）
三代 榎 栄治（昭和60年～平成元年6月）

四代 栗本 安朗（平成2年4月～平成20年3月）
五代 伊藤 孝（平成20年4月～）

町会のあゆみ

現在の田町町会は昭和23年からですが、それ以前の歴史は、町会の備品の中で、櫻木神社祭礼用の三宝に「文久三年 本郷丸山菊坂田町 井筒屋伝七」の文字が有る事から、町会の形態は変わっても、江戸時代から「田町」という名の組織が存在していたという事がわかります。

昭和59年には現在も活用しております「田町町会会館」を多くの会員から浄財寄進を募り、建設致しました。

三代会長、榎氏の発案で、櫻木神社祭礼用の備品の充実をと、大人用、子供用ともに祭絆纏を100枚以上揃え、祭礼用幟旗（最近ではよく見かける様になりましたが、近隣町会で当町会が一番早く取り入れたと思います）、カキ氷の機械、綿菓子の機械、焼きそば用鉄板、おでん鍋等を、毎年祭礼運営費を切り詰めて、余剰金を残し、購入して参りました。現在でも祭礼の会計は、町会と別会計で、すべて奉納金で賄われ、運営しています。

榎氏の懸案であった、大人神輿購入は、榎氏急逝の為、生前には実現は出来ませんでした。4代会長栗本氏が遺志を受け継ぎ、平成2年、浄財を募り、現在の2尺の大人神輿を新調する事が出来ました。

十年程前からは、近隣の下真砂町会・中真砂町会と3町会合同で祭礼を行い、大人神輿、子供神輿・山車巡行とも土曜日には100人以上の参加者で、大変賑やかに行っております。

また、防災訓練等も、町会の壁を取り払って、3町会で行い単一町会で出来ないことも、協力し合って仲良く活動をしています。

また、菊坂町会も加えた4町会で、本郷4丁目集会室の管理運営も行っております。

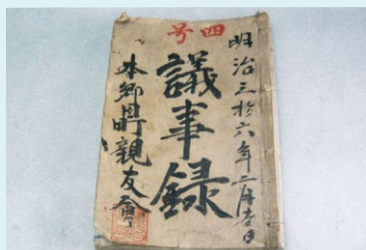
当町会の組織の中で、最大勢力は老人会「田町みのり会」で現在50数名の会員数で宮原会長を中心に、町内清掃、交通安全の交差点での旗振り等ボランティア活動の他にも、コーラス、カラオケ、旅行会等親睦を深め活動しております。

又、町会役員を中心とした親睦団体「金曜会」も町会活動の中心として、年1回の親睦旅行、夜警、火の用心の夜回り等にも参加しております。

青年部は小坂橋部長を中心に十数名、マンション居住者や、近年田町に越してきた人も多く、真砂、二中を知らない人が半数を占める新しい勢力です。今までの古い町会の考え方ではない、新しいパワーも加わりこれからの活躍が期待されます。



明治時代議事録保管箱



明治36年本郷田町親友会議事録



三ヶ町合同神輿宵宮渡御

■ 歴代会長

初代 佐藤 忠蔵 (昭和23年4月～昭和30年3月)
二代 本田 勝朗 (昭和30年4月～昭和32年3月)
三代 宇野 孝夫 (昭和32年4月～昭和34年3月)
四代 原口 鍋吉 (昭和34年4月～昭和36年3月)
五代 風間 清吉 (昭和36年4月～昭和46年3月)
六代 藤城銀太郎 (昭和46年4月～昭和51年3月)
七代 丹羽 源司 (昭和51年4月～昭和54年3月)
八代 岩下 重雄 (昭和54年4月～昭和62年3月)

九代 中村 勉 (昭和62年4月～平成5年9月)
代行 牧野 匡充 (平成5年9月～平成6年3月)
十代 牧野 匡充 (平成6年4月～平成15年3月)
十一代 坂井 弘幸 (平成15年4月～平成20年3月)
十二代 太田 泰 (平成20年4月～平成23年3月)
十三代 大久保幸信 (平成23年4月～平成24年1月)
代行 倉島 英二 (平成24年1月～平成24年3月)
十四代 倉島 英二 (平成24年4月～平成26年9月)

町会のあゆみ

■ 菊坂町会の活動

現世帯数450 4月入学祝・募金運動・春の交通安全運動・5月総会・田植参加(有志)・6月環境衛生運動・7月納涼ビアパーティー・8月夏休みレクリエーション・9月敬老の日・防災月間運動・防火訓練・櫻木神社大祭・10月秋の全国交通安全運動防犯運動・11月防火防災運動月間・稲刈参加(有志)・12月年末助け合い運動・少年少女夜警パトロール・1月元旦櫻木湯島神社初詣(有志)・成人夜警パトロール・新年顔合わせ・餅つき大会・成人祝い・2月初午祭(火状稲荷)・3月防犯運動・次年度総会準備等を基本に活動。

《菊坂町会の共同体について》

● 武州豊島郡狭間田(ハケタ)領本郷丸山

片町と往古呼称。長祿の菊栽培は、有名です。飛鳥時代の5戸1保から流れを継ぐ五人組へ幕府は1602(慶長7)横行する辻斬り対策に武家屋敷の辻番・町人会自身番や木戸会所の設置を示唆。寛文11年の新板江戸外絵図には菊坂入口、現在中村蕎麦やと柴田商店(角店)位置に在りました。幕府は度々襲う大火に本郷筋広小路等を設けたり大名火消加賀鳶や旗本「定火消し」、大岡越前之守は町火消『いろは48組』菊坂は「た」組に所属湯島聖堂建設の為、櫻木神社が元禄3年移動翌年眞光寺内に遷座【菅公】をお迎えする近隣氏子同様、菊坂町会も共同体を組んでいた筈です。明治二年に「道造屋敷残地」や代替地等を併せ菊坂町へと。明治33年、府令第16号で各町会に衛生組合が設置義務自治は進化、菊坂町会は現在に至ります。



桜木神社 大祭



■ 歴代会長

初代 金子 純雄（昭和27年10月～不詳）
二代 三野 久（不詳）
三代 柴田 正（不詳）
四代 飯塚みち子（不詳）
五代 近堂 可祝（不詳）
六代 平井 泰夫（不詳）
七代 片山 為親（不詳）

八代 柴田 正（不詳）
九代 早川 喜康（不詳）
十代 鈴木 孝俊（不詳）
十一代 塩谷 一三（昭和47年4月～昭和52年9月）
十二代 片山 孝祐（昭和52年10月～平成18年8月）
十三代 近堂 一郎（平成18年8月～）

町会のあゆみ

昭和27年10月菊坂町会より分離独立して、菊和会を結成現在に至っている。かつての本妙寺跡とその周辺のわずか67所帯の小さな町会で商店は理容クサマが1件のみで大部分はサラリーマンですが、最近町内の大地主が土地を手放したため、新興の一戸建ての家が急激に増え全所帯数比で17%を占めるまでに至っており平成17年、22年と続けて最新名簿を発行致しました。

昭和20年の空襲でこのあたりは大部分が消失しその時から住み始めた人たちと最近越してきた若い人たちとの年齢ギャップが大きく古い人たちは年齢的にも活動しにくくなっており世代交代が町会維持の鍵となっております。町会の行事は新年会、敬老の祝い、成人祝い、結婚や子供の誕生祝い、子供たちへの図書券支給、桜木神社祭礼、交通安全運動の参加等ですが、今年8月菊和会創立60周年の記念に全所帯にオリジナル防災用品セット（非常用持ち出し袋、多機能ラジオライト、トイレ用収納袋、折り畳み式給水タンク、ヘルメット、緊急用ホイッスル、サバイバルシート）を支給。防災に関しては一人暮らしの人が多いので状況確認などにも十分気を配っております。

町内には歴史のあとがあちこちで見られます。前述した本妙寺は1636年（寛永13年）

小石川より移転してきた大寺院ですが1657年に江戸の2/3を焼失した明暦の大火、いわゆる振袖火事の火元として有名です（現在は巣鴨に移転）。本妙寺跡地には佐藤高女（現女子美大）が建ちましたがこれも昭和20年戦災で焼失。又、公立小学校のさきがけとして明治3年市内に設けられた6つの小学校のうちのひとつが本妙寺におかれた第4校（本妙寺校）で現在の湯島小学校の前身となっています。又、町内に記念碑がありますがかつて竹下夢二、坂口安吾、尾崎士郎、宇野千代などそうそうたるメンバーが下宿していた菊富士ホテルのあともあります。ちょっと足をのばせば啄木ゆかりの赤心館、徳田秋声の旧居や一葉ゆかりの数々の遺跡があり祝日には大勢の観光客の姿に遭遇する観光銀座となっています。



菊富士ホテル跡

■ 歴代会長

- 初代 小池 英夫（昭和28年5月～昭和49年10月）
二代 浅野宗一郎（昭和49年11月～昭和60年5月）
三代 中島 常輔（昭和60年6月～平成25年4月）
四代 井口 桂子（平成25年5月～）

町会のあゆみ

台町町会は昭和25年9月に発足した台町文化会を母体とし、昭和30年5月に結成された。

町会の活動状況

当町会には総務部をはじめ、下記の通りの部を設けてそれぞれ活動している。

- 総務部－企画、運営、庶務及び慶弔、表彰に関すること。
- 経理部－会費、寄付等の収入、支出及び財産管理その他会計に関すること。

- 警防部－防犯、災害、防火等に関すること。
- 婦人部－婦人の親睦と文化の向上に関すること。
- 防災部－区役所の指導により新設したもので防災に関すること。

敬老の日に75歳以上のお年寄りに記念品とお菓子を贈っている。

夏季早朝ラジオ体操、スイカ割り・花火大会等のレクリエーション実施。

歳末夜警活動、交通安全・防災教室の参加。



楽しそうに花火をする子供たち



台町公園でのスイカ割りの様子

本郷五丁目町会

● 昭和30年結成

■ 歴代会長

初代 山上 九一 (昭和30年)
二代 田村 詩朗 (昭和31年)
三代 加藤 謙一 (昭和32年)
四代 後藤 安平 (昭和33年～昭和36年)
五代 江田 正治 (昭和37年)
六代 吉田 憲二 (昭和38年～昭和39、51、55年)
七代 鈴木 博 (昭和40年～昭和41、49、56年～63年)

八代 志水 晴雄 (昭和42年～昭和43年)
九代 松岡新治郎 (昭和44年～昭和45年)
十代 竹下 孝 (昭和46年～昭和48年)
十一代 太田作次郎 (昭和50年)
十二代 高橋 保 (平成元年～平成5年)
十三代 松本 清 (平成6年～)

町会のあゆみ

当町会の創立は昭和30年で、昭和60年には30周年記念行事を行った。その後も充実発展をつづけている。当町会の本郷通りにはビルが並ぶが一步入れば閑静な住宅街である。町会員はマンションを含め250世帯。

当町会の特長

- 1) 婦人部が一年交代の輪番制である。町会を九地区に分け、各地区2名ずつ担当。部長は互選による。6～7年で当番が回ってくるので町会の仕事がよく理解でき、協力体制ができています。
- 2) 広報紙「いちょう」を年4回発行している。町会行事や新一年生、新成人、新町員の紹介、企業紹介その他。
- 3) 10年ごとに記念式典を行い、記念誌を発行している。

- 4) スタンドパイプ消火法を発案した。東京都でもその利用を奨励している。

町会行事

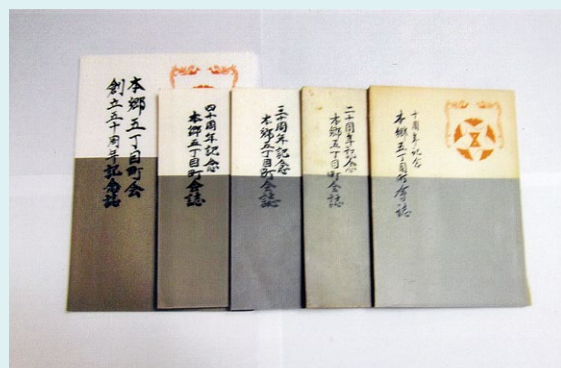
- 餅つき (新成人に紅白餅贈呈) ● 花見
- ラジオ体操 ● 七夕祭り ● こども花火大会
- 納涼大会 ● 防災訓練 ● 交通安全協力
- 夜警 (2週間) ● 白山神社祭り



七夕祭り



スタンドパイプ



町会記念誌

■ 歴代会長

初代 青木 正雄（昭和31年1月～昭和32年12月）
二代 遠藤 辰蔵（昭和33年1月～昭和34年12月）
三代 須藤 貫一（昭和35年1月～昭和36年12月）
四代 岩下清太夫（昭和37年1月～昭和39年12月）
五代 稲本 満一（昭和40年1月～昭和43年12月）
六代 中村 孝蔵（昭和44年1月～昭和45年12月）

七代 西 正男（昭和46年1月～昭和47年12月）
八代 青木 平吉（昭和48年1月～昭和49年12月）
九代 松岡 博一（昭和50年1月～平成20年3月）
十代 安岡 努（平成20年4月～平成23年5月）
十一代 浅地 康平（平成23年6月～平成24年4月）
十二代 小野寺 彰（平成24年4月～）

町会のあゆみ

町会連合会三十年記念誌に云う。

『古くは（本郷）三丁目別れ橋を渡り見返り坂を登り 旅人爪先立ちて人々に別れを告げんあたり我が町が始まる』と。

なかなか名文です。中山道の馬車中継地も近くにあったようで、中山道の街道から参道を延ばした、南から法真寺（樋口一葉の腰衣観音が有名）、藤之森稲荷、喜福寺（火折せ北向き観音）が所在する。西側は両寺の墓地があり街道を挟んだ東側は東大敷地である。他地区へ行くには南北に走る本郷通りか岡本薬局・須藤カメラ店横の道路か落第横丁の道路が西に抜けている道を使う。

戦前からある東大相手の本屋（洋書法律書仏教書医学書等専門店）さんや医療機械屋さんも最近は少なくなったとはいえ、営業している。

町会の一番北寄り落第横丁の飲食店通り

も残っているが、本郷通りのレストランなどは店替わりして食堂喫茶店画廊が並んでいる。店々の跡は模様替えして、大きなマンションが建った所もある。町会員の戸数は240を超すが半分近くがマンション住戸になった。マンション住民組合が町会員になっても、新しい個戸・住民が町会員になるのは少ない。

『白山神社、湯島神田山に在る時より氏子なるを誇りとす』

とあるように藤之森稲荷社の例祭には白山神社宮司主宰で地縁ある現区長も列席いただいている。

町内北西の隅にある本郷児童館の広場では毎年十二月に恒例の餅つき大会を行い、お相撲さん呼んで町内だけでなく、近隣の住民・児童にも喜ばれている。

町会ももうすぐ、結成60年を迎えようとしている。



今年も朝日山部屋の力士さんがお手伝い



婦人部のみなさんのお手伝い



子どもさんもおもちつきのお手伝い

■ 歴代会長

- 初代 内田 三嗣（昭和21年4月～昭和51年3月）
二代 内田 充子（昭和51年4月～昭和57年3月）
三代 土屋 好平（昭和57年4月～平成22年9月）
四代 立野誠一郎（平成22年10月～）

町会のあゆみ

当町会は大正10年に本富士町会として発足しましたが、第二次世界大戦の東京大空襲により全戸焼失してしまい、自然解散となってしまいました。

そして、戦後、いち早く復興に着手し、近隣町会と連合して“本郷美観商店街”を結成し街灯、防犯灯を設置して町を美しく、明るくするように努めてまいりました。

その後本郷防火協会設立にあたっては積極的に後援し、本富士警察後援会、湯島天神参集殿の建設等に町会の方々の協力を得て参加をし、目的を達成して現在に至っています。

現在の主な活動としては湯島天神祭礼、町内にお祀りしている富士浅間神社祭礼を行っています。

近年は当町会も高齢化が進んでおり、高齢者へのケア、最近頻発している地震などの自然災害への対策を重視し、安心して暮らせる町会作りをして行きたいと思っています。

そして、もっと多くの方たちに富士山をお祀りしている富士浅間神社を“日本一の山”にちなんで“一番と縁のある”神社として親しんでいただきたく存じます。



“一番と縁のある”富士浅間神社



町会員の皆様

■ 歴代会長

三代 長谷川清七郎（昭和23年4月～昭和46年3月）
四代 塚田 松司（昭和46年4月～昭和57年3月）
五代 八重田重四郎（昭和57年4月～平成8年3月）
六代 深野 勤一（平成8年4月～平成12年3月）
七代 遠藤昭一郎（平成12年4月～平成14年3月）

八代 八重田敏子（平成14年4月～平成15年3月）
九代 辻 充（平成15年4月～平成20年3月）
十代 中村 文夫（平成20年4月～平成26年3月）
十一代 大塚 稔（平成26年4月～）

町会のあゆみ

江戸時代、庶民の自治組織は古くは各町を支配する名主のもとに5人組の制度や武家屋敷の辻番、自身番等の形態で発展してきたが、明治になっていずれも崩壊してしまった。

旧梅園町は天神社の境内に在り、町屋は数軒、府内で一番小さい町会であった。そこで旧天神一丁目と合併して両方から一字をとり「天梅会」と名付け、湯島天神の宮元町会となった。

昭和40年に新住居表示になり天梅会は湯島二丁目23、24、25、26、27、32、33番と三丁目20、21、28、30番地となった。

町会の事業を遂行するために地区を11班に区分して班長は公的機関（区、警察、消防、清掃等）よりの連絡事項を伝え、町

会費の徴収など協力していただいております。

天梅会は公的な付属機関でなく自主的な組織として会員の成人、小学校入学、敬老の御祝、赤十字、緑の羽根、歳末助け合などの募金、春秋の防犯、交通安全運動、火災予防運動、5月湯島神社の祭礼、慶弔の手伝い、湯島・本郷地区町会連合会に参加、湯島小学校避難所運営協議会に参加、歳末夜警など実施しており、天梅会の長い歴史においてこの土地に密着した活動をしております。

これからも会員が一致して「心のふれ合う幸を誇れる町」に向かって努力をと考えます。
(天梅会史より抜粋)



納涼子供会



天梅神輿

■ 歴代会長

初代 増田 敏行 (昭和22年3月～昭和25年2月)
二代 川辺多喜男 (昭和25年2月～昭和27年12月)
三代 増田 敏行 (昭和28年1月～昭和30年12月)
四代 川辺多喜男 (昭和31年1月～昭和33年12月)
五代 河合 磯次 (昭和34年1月～昭和38年12月)
六代 松本 喜三 (昭和39年1月～昭和44年12月)
七代 安井 勇 (昭和45年1月～昭和47年12月)
八代 飯塚 佳治 (昭和48年1月～昭和55年12月)

九代 木村 信行 (昭和56年1月～昭和59年12月)
十代 上村 正 (昭和60年1月～平成元年12月)
十一代 堀江 忠 (平成2年1月～平成5年12月)
十二代 岩井 昌造 (平成6年1月～平成9年12月)
十三代 榎本 一夫 (平成10年1月～平成14年12月)
十四代 原田 猛 (平成15年1月～平成21年12月)
十五代 川辺 皓司 (平成22年1月～)

町会のあゆみ

元和2年(1616年)徳川家康駿府にて死去により家康お付きの中間、小人、駕籠方のご家人衆が屋敷地として徳川家より拝領され、この地を三組町と名付けられました。その後、昭和22年3月(弥生)に下三組を三組弥生会として新たに町会が発足しました。

平成14年榎本会長の時に、町会の長年の夢でした2尺3寸の大人神輿が、町会員総意のもとに3年掛りで立派に新調され、湯島天満宮にて盛大にお披露目させていただきました。

町会行事としましては、元旦祭、成人祝、就学祝、湯島天満宮例大祭、夏期のラジオ体操、町会懇親納涼会、敬老祝、SYM三町会(新花会、三組弥生、三組町会)の災害連合会に加盟し、災害に備えて各種の訓練を実施、本郷消防署の防災コンクールにも

積極的に参加、春秋全国交通安全運動に協力、また火の用心、夜警など子ども達と時間分けをして声を張り上げて町会の防火、防犯に尽くしています。



子供神輿



婦人部



大人神輿

■ 歴代会長

初代 手島 栄吉（昭和23年～不詳）

二代 斉藤 光歩（不詳）

三代 吉川（不詳）（不詳）

四代 井本 良光（昭和34年8月～昭和43年8月）

五代 中川初太郎（昭和43年8月～平成7年4月）

六代 一色 一夫（平成7年5月～平成15年7月）

七代 岡野 幸弘（平成15年7月～平成25年3月）

町会のあゆみ

町会発足時の町会名は、湯島天神町一丁目下町会か天一交和会か定かではない。現在の町会名は、隣接町会が天二町会、天三町会なので、それに倣い昭和55年9月に天一町会に改名したものである。

町会行事としては、敬老のお祝、新入児童のお祝、年末の夜警パトロール、他町会との友好行事などを実施している。

特筆すべきものとしては以下のものが挙げられる。

平成17年9月防災出前講座を設け防災袋を配布し、平成24年には、防災リュック（天一町会ネーム、警笛入）を町会員に配布したところ、大変好評であった。

平成18年2月には、念願であった大人神輿を購入し、湯島天満宮「梅まつり」にてお披露目を行った。さらには、昨年、次の大祭に備えるため子ども神輿の化粧直しを行った。

「餅つき大会」は、平成16年に催行以来、第9回目を迎え大盛況である。併設してい

る「子どもひろば」も子ども達に大人気となっている。

東日本大震災時には、町会一丸となって、子ども達と共に義援金集めのため街頭に立ち、集まった32万円余りを寄付した。この義援金活動を通じ、子ども達が町会のあり方を実感するとともに地域の絆を深める出来事であったと思い、良い体験であった。

さらには、若手婦人部主催のバス旅行も、2年に1度実施しており、一昨年は「SL列車と長瀨下り」に行き、今年は、さくらんぼ狩りと温泉」を予定している。

8代目会長も決定、新旧会長の伝達を兼ねた役員との食事会もなごやかに終了。新会長金子國人による新体制がスタートする筈でしたが…一週間後の突然の訃報。現在副会長4名による代行で滞りなく、町会行事をすすめております。若い英知を結集した天一町会が楽しみです。



子ども神輿の出発



連合神輿渡御 出発前全員集合

■ 歴代会長

初代 若原正七郎（昭和20年～昭和30年）
二代 中川 宏（昭和30年～昭和59年3月）
三代 木下 一弥（昭和59年4月～平成8年5月）

四代 池田日出男（平成8年6月～平成19年4月）
五代 飯村 実（平成19年4月～平成22年1月）
六代 林 秀訓（平成23年1月～）

町会のあゆみ

我が町は、大正初期に天神町貳丁目町会として発足し、戦後天二町会と改名し、平成5年に町内の日栄建設（株）のご厚意により、町会会館を大改修して頂き、平成7年には法人格を取得した。会館は10坪だららずの2階建てで町会行事の中心になっている。

3代目木下会長は、前会長の約30年の在任期間副会長として会長を補佐し、実務をほとんど担当し、商店が少なく男性会員の協力が困難で会員の若き奥様方を中心とし、祭禮、防災等の行事の際、炊き出し、下準備、清掃を行い会員相互の和を大切に、町会事業の理解、協力を深める目的とし、2年交替の組長制度（14組）を構築し、現在の町会運営の基となっている。

4代目池田会長が地道な運営を行い、5代目飯村会長は道半ばで逝去され、梅澤、宮内副会長が中心となり、高齢者、子供達を含めた夏休みウォーキングを始め、地域の活性化に努め町会の伝統を守っている。

独自行事として、女性部中心に復興地蔵の日々のお花の供え、毎年9月1日の平和記念式典。リサイクル部がダンボール、新聞、雑誌を週1回の収集し、月末の金曜日、業者に出荷している。

今年9月8日に予定している（第8回）白梅商店会青年部主催の“ちびっ子広場（昨年800名）”に協力し、焼ソバ、たこ焼き、ゲーム、飲料水等無料提供、防災、防火訓練を取り入れ、将来を担う子供達に、町を愛し伝統、文化を継承する目的として力を注いでいる。

インターネット時代に入り、変化が激しく、情報量も増し、正確に把握し、選択が困難な時代ではありますが、神輿渡御の掛け声“ワッショイ（和が一緒）”のように、お互い精神を思い出し、東日本大震災発生後、防災対策として天神下災害連合会（天一、天二、天三、同朋町会）を建ち上げ、全町会員協力の元、災害弱者にも安心して居住し易い町作りをめざしている。



湯島天神のお祭り



防災・防火訓練

■ 歴代会長

六代 和田 義春（昭和18年～昭和34年3月）
七代 野沢 留吉（昭和34年3月～昭和35年10月）
八代 海保 元彦（昭和35年10月～昭和57年12月）
九代 深沢 新平（昭和57年12月～昭和59年3月）
十代 田野 登（昭和59年4月～昭和62年12月）

十一代 松下大二郎（昭和63年5月～平成1年5月）
十二代 井水 愛吉（平成1年5月～平成9年5月）
十三代 佐藤 要一（平成9年5月～平成17年5月）
十四代 田邊 泰治（平成17年5月～平成26年6月）
十五代 古澤 健治（平成26年6月～）

町会のあゆみ

当天三町会は昭和3年（1928年）湯島天満宮のほぼ東と東北に広がる、所謂、天神下と呼ばれた地域の住民の親睦と発展を願って組織された町会を母体として現在に至っております。平成7年（1995年）、町会事務所の再建、町会運営の合理化を目指して町会の法人化を果たし、更に都や区よりの助成金を得て平成9年（1997年）には地上4階建の現在の「天三町会会館」が再建され町会活動の拠点となっております。戦前の花柳界で賑わった粋な雰囲気を残しながらも、戦後の復興とともに町内にも都市化の波が押し寄せ街の様子も変貌しましたが、アクセスの良さから山の手と下町を結んで人が賑わう街として親しまれております。町会の会員には地域に根ざした飲食、食品・物品販売、サービス業などで2代、3代に亘った家業を継ぎ新しい時代にマッチした営業を展開している人、あらたにこの町の好立地、雰囲気に事業を展開しようと町内に転入して飲食店を中心に頑張っている人などが仲良く町の発展に取り組んでおります。特にその範囲に当町会を包含する白梅商店会とは会員も役員も重複する者が多く相互に連携、協力しながら地域住民の親睦と福利そして、地域の活性化に励んでいるところです。

当町会のメインイベントは何と言っても毎年5月に開催される湯島天満宮の例大祭です。“お祭り命”で結びついた絆が、お祭りは勿論、地域の防災・防犯活動、成人・敬老のお祝いなどの町会の諸行事にいかされております。少子化の時代ではありますが将来の天三町会の担い手となる子供達にもお祭りなどを通じた地域社会への参加を促しながら、この素晴らしい町会を遺してくれた先人達のご苦勞に感謝しつつ、更なる町会の発展に励んでいきたいと考えております。



湯島天満宮境内を渡御する天三町会神輿

■ 歴代会長

戦後の規制に依り町会活動が出来ずこの間会長不在
(昭和21年秋～昭和28年1月)

初代 川口 章八 (昭和28年2月～昭和37年2月)
二代 石坂 一雄 (昭和37年3月～昭和39年2月)
三代 白川 末吉 (昭和39年3月～昭和43年2月)
四代 湯尾 富雄 (昭和43年2月～昭和53年2月)

五代 門前 正一 (昭和53年2月～昭和57年2月)
六代 中村 三郎 (昭和57年2月～平成6年10月)
暫定 滝沢 彦治 (平成6年11月～平成7年4月)
七代 中村 充 (平成7年4月～平成11年3月)
八代 溝口 智正 (平成11年4月～)

町会のあゆみ

昔は芝崎村の内に属して寺地であったという。

明暦3年(1657年)振袖の火事で焼失。その後明暦4年(1658年)江戸城西の丸の表坊主衆による拝領地となり、寛文12年(1672年)町座を開き同朋町と名付ける。

戦後はや60余年、町会結成されたのが昭和21年秋、初代会長は故川口氏である。当町会は下谷区と本郷区の区境で、通りには松坂屋を控えながら、本郷の一角花柳界の街として栄えた。

同朋町は、全域といってよいくらい日暮れとともに三味線の音、声色、新内流しもよく聞かれた。横丁は待合、芸者置屋ばかりで正月には、芸者衆が帯を柳に締め、髪に稲穂をさして行き来する。表通りは、都

電の厩橋・大塚行きの電車通りで飲食店、物品販売店の商店街で形成された町でした。

今は高層ビル、町内の大半が耐火鉄骨ビル街で、湯島天神や上野公園などが近いせいもあって、参拝・行楽の還り客が飲食店等に立ち寄り、歓楽街としての顔ももっている我が町である。現在7代続いた会長の跡を溝口智正会長が引き継いでいる。

平成12年12月12日には地下鉄大江戸線も開通し、近年には歩道もカラー舗装され、新しく植えられた街路樹の「はなもも」が春にはかわいい白い花をつけ、行き交う人の目を楽しませてくれる。夜にはこれも新しい街路灯が湯島の街を照らしてくれる。これが今の湯島同朋町である。



平成21年町会旅行 宇奈月温泉



同朋町名物 女神輿

■ 歴代会長

- 二代 矢部 俊一（昭和20年8月～昭和40年8月）
三代 京野 三郎（昭和40年8月～昭和48年7月）
四代 野上 義二（昭和48年7月～昭和53年10月）
五代 一丸 孝次（昭和53年10月～平成1年8月）
六代 遠藤 治郎（平成1年9月～平成9年8月）
七代 大野 万里（平成9年9月～平成17年8月）
八代 柴山 十八（平成17年9月～）

町会のあゆみ

三十年記念誌によると、当町会の町会活動は戦後いち早く復活している。

祭りの子供神輿、山車には昭和27年謹製と記されている。当時の役員はじめ町民の並々ならぬ努力と結束があった事に敬意を表したい。

この子供神輿と山車は、長い年月、町会のシンボルとして活躍してくれたが老朽化が激しく、平成21年から3年がかりで、町民はじめ有志の方々のご理解を頂き寄附を募り新品同様に甦って、町会の貴重な財産となっている。



三町会合同お花見



三町会合同夏休みラジオ体操

主な行事

- 新年会
- 成人式お祝い
- 新入学児童お祝い・交通安全祈願（湯島天神）
- お花見（切通・竜岡・北 三町会合同）切通公園にて130名程参加
- 湯島天神祭礼参加
- ラジオ体操（切通・竜岡・北 三町会合同）夏休み10日間、切通公園にて150名程参加
- 防災避難訓練
- 敬老お祝い
- 婦人部において観劇会
- 切通公園の清掃・美化
- 資源ゴミ回収活動
- 総会・役員会



新品同様に甦った子供神輿と山車

■ 歴代会長

初代 秋元 尚（昭和60年4月～昭和62年6月）
二代 武田 豊英（昭和62年6月～平成6年6月）
三代 高橋 高男（平成6年6月～平成7年6月）
四代 高橋 龍正（平成7年6月～平成11年9月）
五代 矢部 敬三（平成11年9月～平成13年1月）
六代 伊藤百合子（平成13年1月～平成15年6月）
七代 竹森 義財（平成15年6月～平成18年6月）

八代 田羅間哲夫（平成18年6月～平成18年8月）
九代 松澤 靖子（平成18年8月～平成19年6月）
十代 入倉富美子（平成19年6月～平成20年6月）
十一代 齊藤 美福（平成20年6月～平成22年6月）
十二代 高橋 龍正（平成22年6月～平成25年6月）
十三代 松澤 靖子（平成25年6月～）

町会のあゆみ

湯島北町会の前身は、いまから40数年前に湯島四丁目に建設された集合住宅「湯島ハイタウン」の区分所有者約440世帯の自治会として発足した。

その後、マンション住民のライフスタイルに融和した町会組織の立ち上げに取り組み、昭和58年に湯島北町会として近隣町会から認めていただくところとなりました。

これと同時に、集合住宅における住民の生活と施設保全のためのルールである管理規約を作成し、湯島ハイタウン管理組合が設立され、翌59年の春以来、組合業務と併せて町会業務を遂行しております。

町会としては30年弱の経験しかありませんが、幸いにも近隣の先輩町会からご指導を賜り、湯島天満宮の氏子として、初詣に始まる年中行事や祭礼も行っております。また、龍岡町会・切通町会からお誘いいただき、「お花見の会」「夏休みラジオ体操会」を共同開催しており、これらの活動が、防災対策合同訓練や交通安全運動などの自治体活動へと有機的に繋がっているものと思われま。

一方、当町会独自の活動としては、湯島ハイタウンには玄関ホールと会議室があり、ここを住民の交流場所として、新年会・

祭礼・クリスマス会・図書室の通年開設などの文化・福祉的行事が行われています。また、玄関前にバス停があるため、強風雨の際にはホールを高齢者や身障者の方々の一時的な待機場所として提供するなど、地域の安全と情報伝達にも役立っています。

集合住宅内の町会という特殊性から、協同意識を醸成しやすい反面、地域活動に無関心な住民を生み出しやすい一面もあります。そこで、少子・高齢化を迎えた今後の課題としては、プライバシーを尊重しつつ風通しのよい、誰もが地域に貢献でき恩恵を受けられるコミュニティの形成を心がけたいと思っております。



楽しいクリスマス会

■ 歴代会長

- 初代 赤沢 光吉（昭和26年6月～昭和35年5月）
二代 内藤 敏雄（昭和35年6月～平成2年5月）
三代 倉林 春男（平成2年6月～平成4年5月）
四代 小山内清孝（平成4年5月～）

町会のあゆみ

竜岡会の沿革

現在文京区湯島4丁目が公式な地番となっているが旧町名の竜岡町を基盤として、町会活動を行っている。古地図によれば、江戸幕府の頃は、徳川家康の側近であった榊原式部太輔の家屋敷があった土地である。故事によれば七代目榊原政岑はなかなかの遊び人で、吉原の花魁七代目紺屋高尾と昵懇になり、ついに落籍した。花魁は殿様の奥方になり、立派に勤めたと言われている。

徳川三代将軍家光の乳母春日局の菩提寺麟祥院は町内にあり、墓は円柱の石に東西南北に貫く孔がある特異な形のものである。今も参観者が絶えない有名寺院である。

竜岡町は旧岩崎邸に隣接しており、現在の総合体育館はかつて岩崎家の馬場であった。戦後数年間は馬場を見ることができた。竜岡町内に岩崎家の直系が住まれる住居と三菱資料館がある。

昨年、森鷗外記念館が公開された。その資料によれば鷗外は若い頃竜岡町に下宿していたと記録されている。鷗外は小説「雁」

で無縁坂に住むお玉さんを想う書生岡田を書いているが、今でも多少の面影はある。無縁坂沿いの一角、現在秀和マンションに料亭「竜岡」があった。そこで、囲碁や将棋の名人戦が行われた。昔も今も静かな町である。

昭和20年春の空襲で竜岡町は本郷区役所を除いて竜岡町はほぼ全焼したという。その区役所あった場所には、今は広い駐車場になっている。

竜岡町も高層マンションが建ち並び町並み大きく変わった。それでも以前のたたずまいも残っている。この良さを保ちたいものである。

町内会活動「町内で行われている行事」

- ① 敬老のお祝い（該当者）約120名
- ② 成人のお祝い（該当者）約5、6人
- ③ 新入学生お祝い
- ④ 観劇（参加）約30人
- ⑤ レクリエーション（参加者）約30人
- ⑥ 歳末警戒活動（子供も参加）約30人
- ⑦ 新年会（参加者）約25人
- ⑧ 防災・防犯・交通
- ⑨ 湯島天神例大祭

三町会（竜岡、切通、湯島北）

共同行事として行っている。

春のお花見、夏のラジオ体操は参加者は年々増加し百数十人を越えるようになった。



湯島天神のお祭り

■ 歴代会長

- 初代 宮内謹之助（昭和37年～昭和43年）
二代 中村 春野（昭和44年～昭和46年）
三代 片根 喜道（昭和47年～昭和54年2月）
四代 大橋 勝也（昭和54年3月～）

町会のあゆみ

本町会の名前は、講安寺と称仰院の両寺の門前町として、旧名は「両門町」と称していたことから、この名が付けられた。

この講安寺は土蔵づくりの本堂でも有名である。江戸は家屋が密集し火事が多く、一度大火が起きると瞬く間に焼け尽くしてしまう。

幕府は防火対策として、瓦屋根や土蔵づくり（土蔵のように家の周りを土で塗り固める）を進めた。この土蔵づくりにしたのが講安寺の本堂である。火は寺の近くまで迫ったが、火災に遭うことなく現在に至っている。

この講安寺に面している坂を無縁坂といい、講安寺も無縁山法界寺ともいった。また、この周辺は武家屋敷が多く、武家に縁で武縁坂ともいわれた。

無縁坂は、森鷗外の小説「雁」の主人公岡田青年とお玉さんで有名になり、多くの人に親しまれている。

「岡田の日々の散歩は大抵道筋が決まっていた。寂しい無縁坂を降りて……不忍池の北側を廻って上野の山をぶらつく。……中に往来の人の目につくのは裁縫を教える女の家で……その隣に一軒格子戸をきれいに拭き入れて……」この格子戸の家にお玉さんがいて、岡田青年がひそかな好意を持

つ。その格子戸の家も昭和57年に姿を消した。

両門町会が設立されたのは、昭和37年10月7日で会員数34世帯であった。現在は、マンションも建設され、新しい町になってきているが、町会としては、小さく行事活動も難しい状況ではあるが、隣人の触れ合いを大切に笑顔のある町をこれからも守っていききたい。

町会の主な行事は、敬老の日の祝品の贈呈、交通・防犯・防災活動の協力実施、歳末の夜警等である。



土曜朝 清掃会

向 丘 地 区



向丘地区町会連合会

● 昭和58年10月結成

森川町会 向丘追分町会
向丘追分東部町会 肴町町会
白山上自治会 西片町会
丸山福山町町会 丸山新町町会
蓬萊町会 向丘一丁目中町会
向丘一丁目上町会 東大農学部前自治会

■ 歴代会長

初代 若月 清市（昭和58年10月～昭和62年5月）
二代 西脇 龍三（昭和62年5月～平成3年5月）
三代 古道 武二（平成3年5月～平成9年5月）
四代 宇川 禎二（平成9年5月～平成13年5月）
五代 鷺尾 治男（平成13年5月～平成16年11月）
六代 山根 彬夫（平成16年12月～平成18年11月）
七代 渡辺 泰男（平成19年1月～平成24年5月）
八代 澁木 禧雄（平成24年5月～）

地区町会連合会のあゆみ

【地区の概況】

向丘地区は、文京区のほぼ中央の東寄りに位置し、本郷郵便局から駒本小学校までの本郷通り周辺地域と、東大農学部前から白山上までの旧白山通り（国道17号）周辺地域で構成される。

上野から不忍池を隔てて向こう側に開ける台地（丘）ということで向丘の名が付いたといわれる。

江戸時代には、大半が武家屋敷、寺領地で、明治以降は、主として住宅地として発展してきた山の手地域である。

区立の第一幼稚園、誠之小学校、駒本小学校、第六中学校や都立の向丘高校、私立の郁文館夢学園（中・高）、文京学院大学などの教育機関のほか、本郷税務署、東京都水道局文京営業所、向丘地域活動センター、向丘保育園、白山東児童館、白山東会館など多くの公共施設がある。

地区内の公共交通機関は、都電が廃止となった昭和47年以降、都バスのみであったが、平成8年2月に東京メトロ南北線が開通し、利便性が格段に向上した。

【地区町会連合会の概要】

向丘地区町会連合会（以下「向丘地区町連」という。）は、地区内に存する12の町会・自治会の連合組織として、昭和58年10月に発足、同日、文京区町会連合会に加入し、今日に至っている。

向丘地区町連は、各町会・自治会間の連絡機関として共通の事業遂行のため協調するとともに、地域の親睦を図り、町会・自治会の発展向上と福利増進に寄与することを目的に活動している。

具体的な活動内容としては、まず、各町会・自治会間で情報を共有し、相互に緊密



役員宿泊研修会（H25.6）



町会長・自治会長会議 (H24.9)

な連携を図るための町会長・自治会長会議の定期的な開催があげられる。

また、毎年6月には、文京区長や区の幹部を招いて役員宿泊研修会を開催し、区政に関する情報交換等に努めている。

さらに、毎年度、ふれあい向丘地区連合まつり、婦人向け施設見学会といった事業を継続して実施している。

ふれあい向丘地区連合まつりは、向丘地区の住民が交流する一大イベントである。お年寄りから子供たちまで、あらゆる世代の住民と一緒に楽しめるものとするため、平成23年度から運動会形式で実施している。事業計画の立案から実施まですべての準備作業を各町会・自治会から選出された運営委員が担当している。

婦人向け施設見学会も向丘地区町連の主要事業の一つである。これは、各町会・自治会を支えるご婦人の方々を対象に行うもので、都内外の各種施設を見学する事業である。平成23年度には東京ベイエリア、24年度には開業間もない東京スカイツリーなどを訪れている。

加えて、日本赤十字社の社資募集、共同募金、歳末助け合い募金、緑の募金といった各種募金活動も展開している。

近年は、防災対策にも精力的に取り組ん

でおり、平成22年には東京都・文京区と連携して広域防災訓練を行い、地域の結束と防災意識の高揚に努めている。

平成23年3月に発生した東日本大震災を契機として、住民の防災対策への関心はさらなる高まりをみせ、町会・自治会活動においても防災訓練等の活動を一層強化することとなった。

平成23年度には、東京都の「地域の底力再生事業助成」を活用し、『防災マップ』づくりに着手した。この防災マップには、災害時の行動マニュアルが掲載され、併せて避難所・防災倉庫・消火栓・消火器・貯水槽・町会掲示板等の所在が地図上に明記されている。住民の防災意識を高め、災害時に迅速かつ的確に行動できるようにとの思いから、地区内すべての町会・自治会がそれぞれ独自の防災マップを作成したものである。

このほか、平成24年には、管内における火災による死者ゼロ2,000日の達成を受け、東京消防庁本郷消防署長から向丘地区町連あてに感謝状が贈られた。

向丘地区町連は、今後とも地区内12の町会・自治会の連携を深めながら、向丘地区のさらなる発展のために全力で取り組んでいく。



ふれあい向丘地区連合まつり (H24.10)

■ 歴代会長

初代 石田 國廣（昭和27年10月～昭和28年4月）
二代 庵治川良雄（昭和28年5月～昭和32年3月）
三代 蟹江 茂男（昭和32年4月～昭和52年4月）
四代 大仁 利貞（昭和52年5月～昭和62年9月）

五代 古道 武二（昭和63年5月～平成9年5月）
六代 高原 康男（平成9年5月～平成12年5月）
七代 鯨井 勇（平成12年5月～平成17年5月）
八代 松尾 紀彦（平成17年5月～）

町会のあゆみ

森川町の町名の由来は、江戸時代森川宿と称していたことから、明治5年、岡崎藩主本多氏の屋敷地と先手組屋敷跡を併せて、里俗の森川宿から森川町と称えることとなったと伝えられている。

旧先手組屋敷は、森川金右衛門氏俊の組下、与力同心の大縄屋敷であったことから、中山道の建場（人馬が休むところ）として森川宿といわれた由である。

明治以降、森川町の中心に本多平八郎忠勝を祀る映世神社を本多氏が建立し、郷社として祭り、その祭日には、旧藩士達が甲冑を着て陣太鼓を打ち鳴らしつつ古式の行列が行われたと伝えられている。

加賀前田侯の上屋敷が東京帝国大学（東京大学）となり、その正門前に閑静な住宅地と、格調の高い商店街を形成してきた。

戦後、町会組織は解体となり、文化活動

をする自治組織のみが認められた一時代があったが、昭和27年に講和条約が発効した後、森川町会と旧名称を復活させて新たに発足した。

時代の変遷に合わせて変貌する建物とともに古い街並みは新しく高層化・近代化していくが、この町に住む人々の親しみ深い雰囲気の中に山の手の住民らしい上品な風潮をただよわせた町筋も残されている。

東大ができてからは、文学者や学生が多く住む町として大いに発展し、今日に至っている。

町会の行事としては、会員新年会、夏祭り（子供会・盆踊り大会）を開催し、秋祭り（向丘地区町会連合会運動会、根津権現の御祭礼）に参加。また、成人式・新入学・敬老の日に該当者への祝品の配布。他に、町内清掃、歳末夜警、お楽しみ会などがある。



求道会館

■ 歴代会長

初代	坂 民之進（昭和元年～昭和16年）	五代	坂 栄一（昭和27年1月～昭和62年12月）
二代	長谷川太郎（昭和16年～昭和23年）	六代	澁木重太郎（昭和63年1月～平成10年1月）
三代	森 岩太郎（昭和23年～昭和26年1月）	七代	箕浦 義一（平成10年2月～平成14年1月）
四代	小沼 一（昭和26年1月～昭和27年1月）	八代	澁木 禧雄（平成14年2月～）

町会のあゆみ

本郷通りを挟む向丘一丁目と二丁目の地域は、戦災から免れ、谷中・根津に次ぐ下町風情の残る町として栄えてきたが、昭和末期から平成初頭のバブル景気時には、地上げが起こり、町内に空き地・空き家が増え、防火・防犯対策が懸案となった。

その頃、「町をなんとか守ろう」「住みやすい、より良い町を作ろう」と町会役員が立ち上がった。地下鉄南北線の開通を念頭に、街路灯・掲示板の設置など、町の整備を進めた。また、近隣同士のふれあいの場を作るため、餅つき会、防災訓練、納涼まつり、ラジオ体操会、敬老お祝い品のお届け、寿の集い、根津神社祭礼、歳末夜警、米作り体験（商栄会との協力）などを実施して努めてきた。

昨今、マンション、高齢者入居施設や大学などの高層建物が建ち並ぶなど、町は大きく様変わりしたが、その中でも、先人たちの思いはしっかりと受け継がれている。

平成23年、57年ぶりに、戦後間もなく作られた大人神輿に、総修理を施した。解体された神輿の屋根裏から、神輿作成時の趣意書と連綿と綴られた御寄附者名簿（246名）が発見された。当時の方々の、町を盛り上げようとする篤い気持ちを感じられた。今般の神輿修理にかかる費用の捻出は大きな課題であったが、町会員・有志の方々のご協力により、予想を上回る御寄附金が寄せられた。伝統ある神輿と町をしっかりと守り、後世に伝えようとする思いが受け継がれていることを再認識した。

首都直下型大地震が案じられている今日、より堅固に備えねばならないが、何より、近隣住民たちの互いに助け合う心が大切である。そのためにも、平日頃から町会活動を通じた「つながり」が不可欠だ。

より良い住環境を作るため、古き良き伝統を守りながら、新しい人々との和を大切に、皆で力を合せて邁進する所存である。



納涼まつり（H24.夏）



根津神社大祭（H24.秋）

向丘追分東部町会

● 昭和25年4月結成

■ 歴代会長

初代 内山 圭悟 (昭和25年4月～昭和34年3月)
二代 佐々木重夫 (昭和34年4月～昭和38年3月)
三代 水上 一雄 (昭和38年4月～昭和50年3月)
四代 榎本 為一 (昭和50年4月～昭和51年3月)
五代 羽田 修果 (昭和51年4月～昭和54年3月)

六代 関 巳千雄 (昭和54年4月～昭和56年3月)
七代 西脇 龍三 (昭和56年4月～平成4年3月)
八代 福島 重治 (平成4年4月～平成16年3月)
九代 飯野 カネ (平成16年4月～平成20年3月)
十代 村松 賢英 (平成20年4月～)

町会のおゆみ

当町会の区域は、東大農学部の前に沿って東に折れ、本郷通りに平行して南北に連なっている。南端は朱殿門のある西教寺、続いて文豪森鷗外の小説「青年」に書かれている願行寺の石塀が並んでいる。このあたりは、震災、戦災をまぬがれ、東大の銀杏並木がまっすぐにのびる閑静な地域である。さらにその先は、日医大の奥に夏目漱石の邸宅があったことから、この辺の商店街を「ぼっちゃん商店街」と云っている。

昭和20年の大空襲のあと、町が復活し、60余年を経て、住む人も変わり、建って

いた家々も変貌してはいるものの、古い町筋と人の和は変わることなく継承されている。

現在、会員相互の親睦を図る目的で、ラジオ体操、バスハイク、御祭礼、歳末の警戒などを行っている。また、各募金活動への協力、婦人会活動のほか、地区対策委員による青少年の育成に協力している。平成23、24年に行われた12町会による大運動会では2年連続で優勝している。大変まとまりのあることを誇りとして、組織作りに励んでいる。



昭和36年 旅行会



昭和49年 お祭り



昭和49年夏 金魚釣り大会



平成24年 ラジオ体操

■ 歴代会長

初代 園田 勝二（昭和32年4月～昭和41年3月）
二代 荒川庄之助（昭和41年4月～昭和50年3月）
三代 五十嵐吉左衛門（昭和50年4月～昭和54年3月）

四代 田中 末吉（昭和54年4月～昭和61年3月）
五代 宇川 禎二（昭和61年4月～平成13年3月）
六代 吉田 亨（平成13年4月～）

町会のあゆみ

明治になり、駒込肴町とした町名は、大正、昭和、平成と引き継がれ、戦後町会が復活した昭和32年、肴町睦会を改称し、以前の肴町町会となり現在に至っています。

肴町は、かつては戸数も100戸余りの小さな町でしたが、老いも若きも一致協力し、榎町商店街（現在の白山上向丘商店街）として本郷地区随一の商店街となりました。

その後、マンションが立ち並び、景観もまったく変わってきました。人口も多くは

なりましたが、町会の行事にはなかなか参加、協力してもらえず、本当に寂しいものです。

肴町では、根津神社の祭礼を2年に1回、祭りのない年は日帰りバス旅行を実施しています。また、春・秋の全国交通安全運動に協力するほか、12月には餅つきか、いも煮会を行っています。そして、暮れには火の用心をやって、1年の行事が終了となります。



平成23年11月6日 肴町町会 日帰り旅行

■ 歴代会長

初代 丸山 俊誠（昭和28年7月～昭和30年8月）
二代 高木 重長（昭和30年9月～昭和36年8月）
三代 深澤 育弥（昭和36年9月～昭和46年8月）
四代 海野 清（昭和46年9月～昭和56年8月）
五代 土屋 太二（昭和56年9月～昭和63年3月）

六代 杉本 元宥（昭和63年4月～平成11年4月）
七代 重盛 米蔵（平成11年4月～平成16年4月）
八代 溝呂木春江（平成16年5月～平成24年4月）
九代 寺澤弘一郎（平成24年5月～）

町会のおゆみ

昭和27年の朝鮮戦争は日本の復興に弾みをつけ、当町会も前の住人が戻り、また新しい人が移住し、住民が多くなり町会復活の機運が出てきた。自主的に町会を再建したのか、行政からの要望であったのか定かではないが、昭和28年7月潮泉寺住職丸山俊誠氏を初代会長に、名称も白山上自治会として発足した。まず住居地の整備、道路の舗装、街路灯の設置などを行い、次いで安全、安心の地域環境の整備、維持、老人、子供への対処などが実施された。現在は総務部、資源回収部、交通部、防火防犯部、防災部、保健衛生部、文化部、婦人部、祭典部の9部制を敷き活動を行っている。春秋の交通安全運動、地域安全運動、防火防災訓練、年末夜警、清掃、ごみ集積所の管理等を行い、また文化部はラジオ体操会、レクリエーション、新年会を、婦人部は年末助け合いを始めとして各種募金運動、会費の集金、区報を始めとする印刷物の配布、各種施設への研修見学会、敬老会の実施、白山まつり、つつじ祭、盆踊りなど町内を越え幅広い地域活動を行っている。祭典部は根津神社の大祭に際し神酒所を

設置、町会員からの奉賛金で盛大に祭礼を行い、これもまた町内だけでなく7町会連合で、お練りを行っている。

これらの行事、運動を推進するため、毎月一定日に定例会を実施、役員全員で町会活動の内容、時期、方法、など話し合って決定している。なお、子供に関しては地区対に、高齢者に関しては民生委員に譲っていたが、最近孤独死、児童虐待などの問題が起こって来たので、町会として、向こう三軒両隣の1人暮らしの世帯に注意を、また区報配布の際に児童虐待に注意するよう心掛けています。以上、白山上自治会の歩みは行事、運営と共に有り、これらは全部「地縁」を大切に、育てたいとの一念で、縁が深まるのが会員の安全、安心で幸せな生活が送れるものと願っての事である。



おまつり風景

■ 歴代会長

初代 山根 静人（昭和28年7月～昭和41年6月）
二代 金澤 庸治（昭和41年7月～昭和54年6月）
三代 阿部 正道（昭和54年7月～平成10年7月）

四代 山根 彬夫（平成10年7月～平成18年11月）
五代 小倉 芳彦（平成18年12月～）

町会のあゆみ

[地域の特色]

本町会の地域は元福山藩主阿部家の丸山中屋敷である。北・西・南が崖で周囲から隔てられた台地で、わずかに東北方だけが中山道（国道17号）に面していた。地域内には数本の幹線道路をはじめ多くの街路が開かれ、阿部家の貸地、貸家には学者・文人が居を構えて、閑静な住宅地の文化が形成された。関東大震災やB29空襲の被害からも幸い免れたが、昭和の面影は次第に失われつつある。



西片会館

[町会の主な事業]

- 昭和28年（1953）10月 『西片だより』第1号を発刊、以後毎月発行して、670号に達する。（平成25年9月現在）
- 平成12年（2000）「地縁法人」として法人格を取得した。
- 平成15年（2003）旧西片会館の土地に新西片会館を新築した。
- 平成16年（2004）6月 誠之小学校で西片町会創立50周年記念式典が挙行された。
- 平成16年（2004）6月 町会創立50周年記念として『西片町の阿部家とその時代・西片町の郷土誌』が発行された。
- 平成24年（2012）10月 文京区から「防犯対策を推進する地区」の指定を受けた。

[主な年中行事]

- 1月 新年会
- 2月 新春餅つき会
- 4月 西片さくらまつり
- 9月 西片祭り（大人祭り・子ども祭り）
- 12月 歳末夜警



歳末夜警に出発

■ 歴代会長

初代 笹田 誠一（昭和30年4月～昭和35年3月）
二代 手島 續（昭和35年4月～昭和40年3月）
三代 藤本 留平（昭和40年4月～昭和50年3月）
四代 佐々木武男（昭和50年4月～昭和52年3月）

五代 清水 和雄（昭和52年4月～平成12年3月）
六代 北原 祺久（平成12年4月～平成21年3月）
七代 諏訪 勉（平成21年4月～）

町会のあゆみ

丸山福山町の町名の由来は、私共地域の崖上に備後福山藩主阿部氏の藩邸（中屋敷）がありました。また、この台地一帯が丸山と呼ばれており、福山の名と併せて「丸山福山町」としたと伝えられています。この古い名称を引き継ぎ、現在の町会が誕生しました。

私共の町は、本郷区と小石川区との旧境界にあって、かつては凸版印刷や共同印刷の下請け業者が多く居住していましたが、現在は印刷後の加工をする紙工業者が多く見受けられます。この庶民的な町に、明治27年、樋口一葉が、母と妹の3人で越してきました。

昭和27年初代会長の笹田誠一氏が私費を投じて一葉の記念碑を建設されたので、

往時を僅かに偲ぶことができます。町会では毎年献花を行っています。

平成16年には一葉の肖像が五千円札になり、当町会としては大変喜ばしく思っております。

その他町会行事として、白山神社の祭礼、あじさいまつり、盆おどり大会、秋の味覚まつり、餅つき大会などの行事を行っています。さらに、防災に関心を持ってもらうため、防災マップを作成し、避難所や消火器の場所などを分かりやすく表示するとともに、AEDを使用した救命救急講習会や防災用品の準備、訓練、他に防犯パトロール、交通安全、歳末警戒などの活動を続けています。



【一葉忌】に合わせ一葉碑に献花

平成24年11月23日：丸山福山町会

一葉碑に献花

■ 歴代会長

初代 木之村重吉（昭和26年10月～昭和30年12月）
二代 斎藤 三郎（昭和31年1月～昭和34年12月）
三代 清水 次郎（昭和35年1月～昭和39年7月）
四代 宮下 清（昭和39年8月～平成5年9月）

五代 斎藤 宏（平成5年10月～平成14年4月）
六代 植村 邦夫（平成14年5月～平成26年4月）
七代 椎名 修（平成26年5月～）

町会のあゆみ

往古は小石川村に属し、後阿部対馬守の中屋敷となって丸山屋敷と称えたが、元禄中上地して幕府の医師等の拝領屋敷があり、初めて丸山新町と称した。明治5年8月、付近の武家屋敷を併せて「丸山新町」となった。この丸山という里俗名称は、現在の町会名から言えば菊坂、田町、西片、丸山新町、白山前あたりの台地を指していたのだろう。白山下から当町に登る坂も胸突坂、中坂、浄心寺坂（お七坂）があり、こんもりと盛り上がった丸山を連想するのにことかない。これらの坂を登り切って旧中山道（国道17号）までの閑静な落ち着きのある

町筋である。

町会の中心にある、白山一丁目第二児童遊園（舟の公園）で、春の「花見の会」、夏の「ラジオ体操」、「夕涼みの会」、秋の「防災訓練」、冬の「歳末夜警」等、多彩な行事を実施しています。また舟の公園は地震発生時の一時集合場所でもあります。平成20年から「丸新だより」を年4回（季刊）発行しています。町会行事の概要報告をはじめ、町の歴史などを掲載し、古い伝統の継承と新しい人々の和を大切にする町会の組織作りに励んでいます。



お花見

■ 歴代会長

初代 奥田 実 (昭和28年1月～昭和30年3月)
二代 佐々木悟山 (昭和30年4月～昭和46年3月)
三代 倉田 光雄 (昭和46年4月～昭和53年6月)
四代 久貝 貫一 (昭和53年6月～昭和63年8月)
五代 高島 正義 (昭和63年9月～平成3年10月)

六代 廣澤長次郎 (平成3年10月～平成5年3月)
七代 小林 音吉 (平成5年4月～平成9年3月)
八代 三宅 英三 (平成9年4月～平成17年4月)
九代 本城 康至 (平成17年4月～平成23年5月)
十代 大畑 清心 (平成23年5月～)

町会のおゆみ

昭和56年の町名創始100年の記念事業は現在の町会運営の基本的な流れを生む良い端緒となった。しかし、バブルの崩壊と長期的な不況による自営業の減少や少子高齢化による町会員の減少等のため青年部を一時休部するところとなったが、役員若返りにより町会運営は活性化に向っている。

事業面では、根津神社祭礼の神輿行事が近隣町会と一体となり町の潜在エネルギーを反映し、特に平成22年から始めた花神輿(写真)は蓬萊町会の華となった。また、祭礼の陰の年には昭和40年当時の青年部により企画された「盆おどり大会」が大観音広場で行なわれ、子供太鼓に合わせ近隣町会との交流が図られている。2月の「もちつき会・しるこ会」も好評である。一方、「蓬萊町だより」は既に82号を数え町会運営の歴史と時々の文化的記録として定着している。

社会的問題対応としては日常的には防災・防犯・交通各部により地域の安全が図られているが、平成17年に突如公表された文京区立小・中

学校将来ビジョンによる駒本小学校の統廃合問題は不当な教育行政からの地域防衛を図るところとなった。

他方、平成19年に文京区地域防災計画が公表され、20年末に蓬萊町会・肴町町会・白山上自治会・浅嘉町会の4町会による駒本小学校避難所運営協議会が発足した。平成22年度の東京都・文京区合同総合防災訓練の避難所運営訓練では駒本小学校が主会場となり、区役所職員と協同して区として最初の演習を実施した。この協議会が区民の自助と行政の公助をつなぐ町会組織による協助機能を果たすための今後の課題は多い。



根津神社 花神輿

■ 歴代会長

初代 村瀬 利一（昭和27年4月～昭和47年12月）
二代 水上 一雄（昭和48年1月～平成13年3月）
三代 藤生千代吉（平成13年4月～平成15年4月）
四代 中島 幸夫（平成15年4月～平成25年5月）

五代 石原 文爾（平成25年5月～）

町会のあゆみ

歴代会長を中心に築かれてきた基礎を土台として、この間、「和をもって、明るく住みよい町づくり」を指針として各種活動が推進された。それらの要旨は以下のように総括することができよう。

① 活動費用の効率化と合理化を図り町会費の減額（平成20年度から年会費6,000円～4,800円）をはじめ町会員の高齢化への対応、町会ニュースの発行による情報の共有化、防災・防火・防犯意識の向上、各部活動の活性化を推進して明るい町づくりに努めてきた。

② 「中町会ニュース」発行は、町会活動のなかで重要な活動の一つと位置づけられ「中仙道・東片・飛脚便一向丘一丁目町会ニュース」のタイトルで平成15年5月に第1便を発行、以後隔月に1回定期発行している。平成23年5月発行のNo.48号から4ページ立てに増頁、写真を多用しカラー化、「親しまれる」「発行が待たれる」「読むより見る」ニュースづくりに努めている（平成24年No.57号から名称を「町会だより」に変更）。また、IT時代に対応して「中町会ホームページ」を開設（平成17年）、広報活動に力を注いでいる。

③ 防災・防火・防犯対策については、歳末防火・防犯夜回りをはじめD級ポンプ消

火訓練の恒例化、区・消防署の行う防災訓練への積極的参加、災害時の相互扶助を目的とした「女性サポート隊」の立ち上げ等々町会員の防災意識の向上に取り組んでいる。こうした“自分たちでつくる防災組織への取り組み”が評価され東京消防庁「地域防火防災功労賞」を受賞（平成19年）した。

④ 高齢化・独居家庭への対応も最重要課題の一つとして取り組み、これまでの「ご長寿さんへの記念品贈呈」とともに「敬老お食事会」の開催（平成23年）、役員による独居家庭への支援体制の構築、さらに親睦旅行・バスハイクなど創意と工夫を払っている。

⑤ 親睦、文化活動は、文化部主体に旅行、バスハイク、美術鑑賞、工場見学、落語を楽しむ会、釣の会等を町内に住むその道の専門家の支援、協力を得て実施し成果を上げている。今後もアンケートなどで町会員の要望を聞きながら幅広く推進し親睦交流に資することとしている。

⑥ その他 根津神社の祭礼、こども祭り、ゴミ処理・資源回収、行政との関わりについても、町会員の相互協力のもとで着実に進められている。



敬老お食事会 平成23年



防災・防火訓練 平成21年



こども神輿の宮入 平成24年

向丘一丁目上町会

● 昭和36年5月結成

■ 歴代会長

初代 鈴木 金二 (昭和36年5月～昭和48年4月)
二代 尾高 全 (昭和48年5月～昭和54年4月)
三代 内山 輝雄 (昭和54年4月～昭和61年3月)
四代 吉田 光男 (昭和61年4月～平成10年5月)

五代 鷺尾 治雄 (平成10年6月～平成16年11月)
六代 若林 良雄 (平成16年12月～平成20年5月)
七代 杉山 淑孝 (平成20年6月～)

町会のあゆみ

当町会は、昭和36年5月区のご指導を得、発足致しました。初代会長には、当時紳士服店を営んでいた鈴木金二氏を選出し、以来12年間会員相互の親睦と地域の防犯防災意識向上に努め、会運営の基盤を確立していただきました。会長には、以来6代の方々に務めていただき会の主旨に添い、新しい行事も加えて現在に至っています。当会会員数は、約130世帯でこれを11班に分け、班長を置き、きめ細やかな連携体制を敷くことにより会員相互の連帯意識が向上し、各種行事への参加率も他に比し比較的高いと思われます。特に婦人部の活動は、大変活発で親睦の要となっています。主な年間活動は、下記のとおりです。

活動状況 (抜粋)

- 4月 春の交通安全・防犯運動・花見会・神社つつじ祭り協力
 - 5月 定期総会・日赤社資募金活動
 - 6月 町会親睦旅行
 - 8月 納涼大会
 - 9月 敬老祝い金及び記念品贈呈・神社例大祭参加・秋の防犯防災運動
 - 10月 赤い羽根募金協力・向丘地区連合まつり (運動会) 参加
 - 11月 防災訓練
 - 12月 歳末防犯防災警戒活動
 - 1月 成人祝い品贈呈・新年親睦会
 - 3月 小学校入学祝い品贈呈・班長引き継ぎ会
- その他定例役員会・町内防犯パトロール (毎月最終日曜日)・区役所、警察、消防など諸行事参加。



納涼大会



連合まつり

■ 歴代会長

初代 渡邊福次郎（昭和41年6月～昭和52年3月）
二代 外山 實（昭和52年4月～昭和55年3月）
三代 若月 清市（昭和55年4月～平成3年3月）
四代 蓮沼 博（平成3年4月～平成4年9月）

五代 坂田 豊次（平成5年4月～平成10年5月）
六代 渡辺 泰男（平成10年5月～平成24年5月）
七代 外山 眞一（平成24年5月～）

町会のあゆみ

当会は、昭和26年発足の「東大農学部前通り商睦会」の中で若手と言われるメンバーが中心となり、昭和41年6月「東大農学部前自治会」として発足しました。今では当会の歴史を語る人が少ないのが現状です。

現執行部が先代より引き継いだ物の中で一番の財産が「神輿」「子供山車」です。現在も大切に維持管理され、2年に一度の根津神社大祭の時期には町内を練り歩く姿を見る事ができます。平成18年には、根津神社御遷座300年を迎え、これを記念して江戸天下祭りの再現を期し、国宝級の神社神輿3基を氏子が古式ゆかしい衣類を着用し、こぞって大々的に練り歩きました。当会も新築する神輿蔵の費用を準備し、会員多数が協力して大成功を収めることができました。これを契機に、町

の行事に新会員が参加し、町の次代を担ってもらう機運が生まれたのではないかと安堵しています。

当会前の本郷通り沿いに、東京メトロ南北線「東大前」駅があります。朝・夕のラッシュアワー時は、東大生、文京学院大生はもとより、サラリーマン諸氏ですごい混雑となります。

交通の便が良くなるにつれ、消費者の商店街離れが散見されるようになり、商店の廃業が多数見られるのは誠に残念なことです。解決策は今のところ見当たりません。その一方で、新築マンションが増え、会員数は増えています。

当会のいろいろある年間行事の中で、一押しが2月に行われる「ふれあい餅つき大会」です。大相撲力士を招いての餅つきは子供たちに大好評を博しています。



ハロウィン・パーティー



餅つき大会

根津弥生七ヶ町



根津弥生七ヶ町連合会

● 昭和29年4月結成

根津宮永町会
根津八重垣町会
藍染町会
根津片町町会
根津宮本町会
向ヶ岡弥生町会
弥生一丁目町会

歴代会長

初代	高橋 武三 (昭和29年4月～昭和30年3月)	十三代	服部 眞一 (昭和56年4月～昭和57年3月)
二代	澤井帝次郎 (昭和30年4月～昭和31年3月)	十四代	山田 大 (昭和57年4月～昭和58年3月)
三代	高橋 武三 (昭和31年4月～昭和32年3月)	十五代	渋谷 鉦吉 (昭和58年4月～昭和59年3月)
四代	菊見 玉蔵 (昭和32年4月～昭和33年3月)	十六代	尼ヶ崎新作 (昭和59年4月～昭和60年3月)
五代	澤井帝次郎 (昭和33年4月～昭和34年3月)	十七代	稲船 清嗣 (昭和60年4月～昭和61年3月)
六代	柏崎 輝 (昭和34年4月～昭和34年11月)	十八代	服部 眞一 (昭和61年4月～平成7年3月)
七代	金岡軒次郎 (昭和34年11月～昭和35年3月)	十九代	菅沼 利雄 (平成7年4月～平成20年2月)
八代	大滝総太郎 (昭和35年4月～昭和36年3月)	代行	瀬戸 克己 (平成20年2月～平成20年3月)
九代	菊見 玉蔵 (昭和36年4月～昭和43年3月)	二十代	瀬戸 克己 (平成20年4月～平成22年3月)
十代	上田 松男 (昭和43年4月～昭和45年3月)	二一代	秋羽 一雄 (平成22年4月～)
十一代	菊見 玉蔵 (昭和45年4月～昭和55年3月)		
十二代	高田 春吉 (昭和55年4月～昭和56年3月)		

地区町会連合会のあゆみ

根津弥生七ヶ町連合会は、根津宮永町会、根津八重垣町会、藍染町会、根津片町町会、根津宮本町会、向ヶ岡弥生町会、弥生一丁目町会で構成されています。地域は、文京区のほぼ東側で、根津1丁目、根津2丁目、弥生1丁目、弥生2丁目である。根津はもともと、宮永町・八重垣町・藍染町・片町・須賀町・西須賀町・清水町で根津七ヶ町と称しました。現在では、宮永町・八重垣町・藍染町・片町の4町会と須賀町・清水町を併せ、根津神社の宮元であることから命名された宮本町会と、向ヶ岡弥生町の一部と西須賀町による弥生一丁目町会と、向ヶ岡弥生町会を含め「根津・弥生七ヶ町連合会」となり、7つの町会が連携し、地域の様々な課題や地域活性化の一助を果たしております。

根津は古くから名の知られた地域であり、弥生土器の出土の地であるとともに江戸時代から伝わる根津神社等、歴史と文化の香り高い街で、昔の面影を残す懐かしい街並みや路地が残っており、休日には写真を撮る人や写生をする人などたくさん観光客が訪れて賑やかな町です。

根津・弥生七ヶ町連合会は、昭和29年に結成され、根津神社を中心とし、大祭、つつじまつり、根津・千駄木下町まつりと地元はもちろんのこと、多くの観光客も訪れる全国規模のイベントに携わっております。

また、毎月月末には、町会同志の連絡調整や連合会としての決定事項を図るほか、行政からの情報共有などを行う場として町会長会議を開催しており、毎月9日には、定例役員会を開催し円滑な連携を図っています。



研修会

過去、30年間で特に大きな出来事としては、平成元年度より、文京区・台東区提携事業「文京・台東下町まつり」が開始され、



夏季レク 1



夏季レク 2



下町まつり テレカ



下町まつり バッチ



下町まつり 1



下町まつり 2

根津神社と谷中墓地の参道を毎年交互に場所を替え、平成10年度まで実施しました。平成11年度からは、文京単独で根津・千駄木下町まつりとして地域の手づくりによる催し物として開催を続けています。今年度（平成24年度）は、第14回を迎え、森鷗外生誕150周年と森鷗外記念館の開館が重なり、プレオープンを行ったり、サブ会場間を繋ぐ無料シャトルバスを導入するな



根津音頭

ど例年になく、たくさんの人出があり、大いに盛り上がりました。

根津神社の社殿が宝永3年（1706）に徳川綱吉によって造営されてから平成18年には三百年を迎えました。9月の記念大祭では成徳4年（1714）に江戸城に入った獅子頭一對と本社神輿三基が氏子町会を渡御しました。

また、今年（平成24年）の祭礼では、七ヶ町連合渡御に参加する七基の神輿と華神輿を加えた八基が揃って、宮入し、例年になく賑わいとなりました。

地域の学び舎である根津小学校が平成9年に百周年を迎えました。明治30年7月4日「東京市根津尋常小学校」として、東京市本郷区根津清水町2番地に開校し、明治41年に全校舎が焼失、明治44年に現在地の根津清水町17番地に新校舎が建てられました。この由緒ある小学校において「根津っ子」が育ち、卒業生には、俳優の大滝秀治氏があります。また、卒業生の多くの方は、根津弥生七ヶ町の町会の重鎮として活躍しています。

また、昭和43年に開設された根津幼稚園は、平成10年には30周年を迎えました。園歌「なかよくあそんで すくすく伸びる子」は弥生在住のサトウハチロー氏が作詞しております。

平成15年、茨城県会館の跡地に外観が古びた木造を思わせる、SRC造の有料老人ホーム「ウィーザス根津」（現在のクラシックガーデン文京根津）が建設され、その老人ホームと根津弥生七ヶ町連合会が、災害時の相互救護活動について「災害時応援協定」を結びました。協定内容は、災害時に、地域住民がウィーザス根津の施設敷地に一時避難場所として受け入れ体制を確保し、逆に地域住民がウィーザス根津の高齢者救



三百年祭 1



三百年祭 2



宮入 1



宮入 2

出活動を行うことを取り決め、木造密集地を抱えた根津地域の自主的な防災対策を図りました。

また、平成23年3月の東日本大震災を教訓に平成23年度には、根津弥生七ヶ町連合会を中心に民生児童委員や根津小学校PTA役員などと根津小学校避難所運営協議会を開催し、平成24年3月に避難所運営訓

練を実施し、災害に強いまちづくりを構築しています。

以上のような安全で安心して暮らせるまちづくりの推進や、良好な地域コミュニティの形成など、さまざまな地域活動を通じて、住民福祉の向上と地域の振興に寄与しております。



根津小1



避難所運営訓練 1



避難所運営訓練 2

根津弥生七ヶ町連合会 年間事業

月	事業名
4	緑の羽根募金協賛
	根津小学校入学式
	文京つつじまつり協賛
	第八中学校入学式
	根津幼稚園入園式
5	日赤社資募集協賛
	定時総会
6	文町連総会
	ふれあい館運営協議会総会
7	七ヶ町連合会研修会
	文町連研修会
8	夏休みラジオ体操会 (根津神社)
	夏季レクリエーション (ふれあい館)
9	文京区総合防災訓練
	根津神社祭礼 (例祭式 21日)
10	共同募金協賛
	根津小運動会
	文町連功労者表彰 (スカイホール)
	根津・千駄木下町まつり
11	文町連施設見学会
	菊まつり協賛 (湯島天満宮)
12	社会福祉協議会歳末たすけあい運動協賛
	文京区年賀会 (東京ドームホテル)
	本郷消防団初め式・第四分団新年会
1	文町連新年会
	文京区はたちの集い (シビック大ホール)
	七ヶ町連合会新年会
2	梅まつり協賛 (湯島天満宮)
	節分祭 (根津神社)
3	ふれあい館まつり (不忍通りふれあい館)
	文京区政功労者表彰 (シビック小ホール)
	根津・汐見地区合同町会長会議
	根津神社就学児童奉告祭
	根津幼稚園・根津小学校・第八中学校卒業式
	防災避難所運営訓練

町会長会議 (10回) ・ 定例役員会 (10回)
 夏季レク委員会 (2回) ・ 下町まつり会議 (10回)
 ふれあい館まつり企画部会 (2回) ・ 避難所運営協議会 (1回)

年間事業

■ 歴代会長

初代 高橋 武三（昭和28年4月～昭和30年3月）
二代 柏崎 輝（昭和30年4月～昭和34年11月）
三代 金岡軒次郎（昭和34年11月～昭和36年3月）
四代 齊藤喜治郎（昭和36年4月～昭和39年3月）

五代 長井 清水（昭和39年4月～昭和56年3月）
六代 尼ヶ崎新作（昭和56年3月～平成9年3月）
七代 瀬戸 克己（平成9年4月～平成22年3月）
八代 山田 泉治（平成22年4月～）

町会のあゆみ

昭和44年に地下鉄千代田線が開通して不忍通りが大きく変わりました。第7代瀬戸会長が町会の法人化を成し遂げ、また不忍通り拡幅協議会を立ち上げ、積極的に不忍通りの拡幅と電線の地中化に尽力し、見違えるような街並みが完成致しました。

また町会には、創立当時の方から受け継いだ会館（舞台付大広間、20人の座敷、10人の椅子席と台所）があり、町会が管理運営して、町内や近隣の皆さまの便利な集会所として利用されております。

第6代尼ヶ崎会長と第7代瀬戸会長お二人で約30年の期間、町会を支えて頂きました。現在、会員数800余名を数え、役員48名を揃え、月例役員会は、毎月35名程の出席者で町会を運営しております。

行事としては、バスで行く成田山初詣、新年会、つつじ祭り甘酒茶屋一日当番、つ

つじ苑草取り、町会最大行事である夏休みふれあい子供広場（50人の役員・他と300人の来場者）と根津神社祭礼、秋の一泊懇親旅行、60kgの餅つき大会、また七ヶ町の協力としてラジオ体操や下町まつりなど、1年が本当に短く、役員と町会員が丸となって奮闘しております。

平成23年3月11日の東日本大震災の義援金は763,278円の暖かいお心を会員の皆さまから頂戴しました。改めて御礼申し上げます。

これからは、区の景観条例によって下町の風情を残すまちづくりが始まります。今や全国区になったつつじ祭りと、子供の頃に過ごした昔が感じられる町をセットにして、「動物園から日暮里」を合言葉に20年後を楽しみに日本中からお客様を呼べるのではないのでしょうか。



夏休みふれあい子供広場

根津八重垣町会

● 昭和29年9月結成

■ 歴代会長

初代 澤井帝次郎（昭和29年4月～昭和39年3月）
二代 上田 松男（昭和39年4月～昭和50年3月）
三代 海老原島吉（昭和50年4月～昭和54年3月）
四代 浜島 眞一（昭和54年4月～昭和59年3月）
五代 中川 正男（昭和59年4月～平成9年3月）

六代 御器谷育三（平成9年4月～平成10年11月）
七代 大貫 淳二（平成10年11月～平成15年3月）
八代 篠 二郎（平成15年4月～平成19年3月）
九代 藤塚 俊孝（平成19年4月～平成25年3月）
十代 金子 英一（平成25年4月～）

町会のおゆみ

当町会は不忍通りの両側に面し、一つの町及び商店街を形成しています。現在、通り側は殆ど10階以上のマンション群によって囲まれ木造住宅は少なくなりました。

4月の文京「つつじまつり」に始まり9月の根津神社ご祭礼・10月の根津千駄木下町まつり・2月ふれあい館まつりと地域の祭り行事に積極的に参加をしています。

町会の行事としては5月に潮干狩りを兼ねてバスレクリエーションの実施。毎月第1日曜日のクリーンディは朝の10時から1時間程、街の清掃活動を町会員と一緒にしています。

正月には商店会・町会と合同で新春懇親会を子供やお年寄りを交え開催しています。春秋の交通安全週間への参加、12月下旬から2月初旬にかけて夜警(火の用心)及び(防犯)を兼ねて実施しています。

当町会の広報誌として四半期に1回「やえがき」を発行し、町会員とのコミュニケーションづくりを行って掲示板及びマン

ション内へ掲示をして意志の疎通及び町会内の情報の伝達に努めています。

敬老の祝いとして70歳・75歳の方80歳以上の方に町会からお祝いを贈っています。

又、20歳の成人になった方・小学校入学する方にお祝いを贈呈しています。

これからの課題としてはマンション在住の方とも情報交換を多くし、来るべき災害等に幾らかでも町会としてお手伝い出来るように努めていきたいと思っています。



町会タウン誌



潮干狩り



祭礼

■ 歴代会長

初代 山田 和助（昭和27年5月～昭和43年4月）
二代 浅野 末吉（昭和43年5月～昭和47年4月）
三代 村田松之助（昭和47年5月～昭和49年4月）
四代 北野 虎蔵（昭和49年5月～昭和51年4月）
五代 鎗 新（昭和51年4月～昭和53年4月）

六代 服部 眞一（昭和53年5月～平成14年4月）
七代 北野 嘉光（平成14年5月～平成20年4月）
八代 杉山 八郎（平成20年5月～平成24年4月）
九代 吉田 禎介（平成24年5月～）

町会のおゆみ

当町の名称の由来につきましては、明治5年に当時町に沿って流れていた藍染川に因み、町名を藍染とすると伝えられている。

又、当町会の発祥は明治41年3月に染親会と称する組織ができて町会運営の基礎となり大正に入り藍染町々会と改称された。

戦後一時期町会活動の禁止があり、その解除に伴って昭和27年5月に新生藍染町会として創立された。

歴代会長のもと、役員並びに会員の協力を得て各種の活動を行い今日の隆盛を見るに至った。

当町会は青年部、婦人部の活動によりさまざまな行事を展開しています。

まち中央を通る区道藍染大通りは日曜日ごとに歩行者天国となり、この空間を利用して4月のつつじ祭りには来訪者の休息所を設営し、湯茶接待、すいとん、焼きそばなどの軽食提供、フリーマーケットの運営などを実行しています。

秋には本郷消防署、根津出張所、第4分団などの協力指導のもとに防災、防火フェスタを開催して煙体験訓練、担架作成、AED取り扱い、はしご車体験、スタンドパイプ取り扱い及び放水訓練を实

施して町会員の災害に対する意識の高まりを育むように取り組んでいます。

下町祭りでサブ会場になる藍染大通りでは3世代まち遊びを企画、町内の藍染保育園、父母会、園児、NPO法人の協力を得て、下町祭り来訪者と一緒になって下町昔あそびを楽しんでいます。

当町会は高層の建物もなく、伝統的な下町情緒を保ちながらユニークな小店も新しく展開し、町並みを形成しています。

文京区の町並み、景観形成重点地区に指定されている当町会、まちづくりで下町情緒や人情を大切にして町会員相互の絆をより育み、居心地の良い町会運営を心がける所存です。



三世代まち遊び風景



防火・防災フェスタの風景
(スタンドパイプ放水とはしご車)

■ 歴代会長

初代 里見 博康（昭和29年9月～昭和54年3月）
二代 山田 大（昭和54年4月～昭和62年3月）
三代 中村 兼松（昭和62年4月～平成11年7月）

四代 富田 昭一（平成11年8月～平成17年6月）
五代 秋羽 一雄（平成17年7月～）

町会のあゆみ

当町会名の根津片町は東側は、谷中と隣接し南は言問通りに面している根津2丁目中央部の旧町名であります。古くは甲斐甲府藩主松平綱重邸の敷地に含まれており俗に元屋敷と呼ばれた土地の一角でした。宝永元年（1704）綱重の子綱豊が五代將軍綱吉の養子となり西の丸に入ると、綱豊の産土神であった根津神社は、藩邸を社地として与えられ同3年に遷宮します。同5年幕府小人組の町屋敷代地となり、正徳元年（1711）には、その一部が、谷中片町拝領町屋となりました。明治5年（1872）谷中片町（現台東区）の飛地と周辺の武家地を合わせて、『根津片町』が成立しました。昭和40年の住居表示変更に伴い根津2丁目となります。大正末年に暗渠となるまで、谷中の寺町に面した町の東側と言問通りの南側を藍染川が流れていました。本郷台地と谷中からの坂を下りきった交差点近くで地勢が低く以前は大雨による浸水に悩まされてきましたが、下水、治水工事でそれも

過去のものとなりました。世帯数はおよそ240。この辺りは幸いにも関東大震災や戦災の火の手を免れたため、古くからの居住者が多い町です。長い伝統を持つ町は昔ながらの心持ちで隣近所との助け合いの精神が受け継がれ、人情や親しみやすさ、優しさの下町気質で団結しています。町会では40名の役員を中心に、防火防災・交通安全・防犯活動・福祉厚生に努め町の親睦を図り近隣の町会とともにさまざまな文化活動を行ってきました。一方、婦人部は、廃品回収活動を長年にわたり続けています。町をあげて行われる秋の根津神社祭礼には老若男女50名の祭礼委員を中心に大中小3基の神輿が山車お囃子とともに繰り出され町内の親睦の象徴となっています。住宅街を商店街が包んだ形の当町の中心部には、戦後、町会と住民の宿願だった根津二丁目児童遊園が作られ、大通りから入った路地裏にあり、静かで安心でき、緑も豊富、手入れも行き届いた気持の良い公園です。



路地



祭礼



根津二丁目児童遊園

■ 歴代会長

- 初代 菊見 玉藏（昭和30年4月～昭和55年3月）
二代 稲船 清嗣（昭和55年5月～平成6年3月）
三代 菅沼 利雄（平成6年4月～平成20年2月）
四代 宮田 昇（平成20年4月～）

町会のあゆみ

根津宮本町会は、本郷台地の旧一高跡地を東に下った裾で、北は千駄木、南は弥生坂に接する平地部で、根津小学校及び根津神社を擁する位置にあり、古くは徳川中期6代将軍家宣公時代から、根津神社の門前町として、お茶屋も多く賑ったとさる地域であった。明治期になり町名制定された根津須賀町、根津西須賀町、根津清水町の3町が時代の変遷と共に順次町会組織されたが、昭和12年地域整備により3町会を統合し、その名称を由緒ある根津神社の宮元であるということから、「根津宮本町会」とした。昭和20年終戦と共に、町会組織は解散させられたが、町内相互の連絡等、親睦機関として親和会を結成運営した。

昭和30年4月会員の強い要望があり、親和会を発展的に解消し新生根津宮本町会として隣人愛を基調とする会員相互の親睦並びに福祉の増進、生活の安全を遂行する目的をもって創立された。

町会活動は年間を通し活発に行われ、会員総会で決議された事業計画、収支予算案に基づき実行されており、昭和

時代から平成にかけては盛んだった町内の消毒事業や子供会、親睦の宿泊旅行会等は行われなくなり、青年文化部主催の夏休み日帰りバスハイクは親子で参加する楽しい行事になっている。秋の根津神社祭礼には、金の獅子頭で飾られた大太鼓の山車を多数の幼児や子供達等による町内巡幸は根津地域の風物詩でもある。

町会事業は会員相互の協力や親睦により町内自治発展のために、古き良き伝統として受け継ぎ、毎月行う資源回収、年末からの夜警等を行い、行政関係、各協会、協議会等の各種事業に積極的に協力して運営されている。



根津神社 鳥居

向ヶ岡弥生町会

● 昭和30年9月結成

■ 歴代会長

初代 大滝総太郎（昭和30年9月～昭和45年3月）
二代 境 健造（昭和45年4月～昭和46年3月）
三代 三好 栄（昭和46年4月～昭和48年3月）
四代 高田 春吉（昭和48年4月～昭和51年3月）
五代 北川兼次郎（昭和51年4月～昭和53年3月）

六代 高田 春吉（昭和53年4月～昭和57年3月）
七代 高田 榮一（昭和57年4月～昭和62年7月）
八代 鈴木 健之（昭和62年8月～平成21年3月）
九代 角田 昌子（平成21年4月～）

町会のあゆみ

当地は、かつて水戸藩の中屋敷でありました。明治5年、初めて明治政府による町屋制で新しい町名、旧「向ヶ岡弥生町」が誕生しました。この町名の由来は、「文政十余り一という年のやよい十日……名にしおう春に向ふか岡なれば世にたぐいなき花の影かな」これは水戸藩主9代目徳川斉昭が、対面の上野台地から吾が屋敷周りを望み、春先の見事に咲き誇る桜を詠んだ歌とされ、屋敷跡地に残された徳川斉昭の歌碑から引用、向ヶ岡弥生町が生まれたとされております。この「向ヶ岡記碑」は現在も東大の浅野校舎敷地内に大切に保存されております。また明治17年にはここの貝塚から土器の壺が発掘され、当町名の弥生をとり「弥生式土器」と命名されました。この記念碑「弥生式土器発掘ゆかりの地」は当町会の先人達が残してくれた大切な財産で、今日まで町会の管理下で保存されております。

「向ヶ岡弥生町会」は、昭和30年5月戦災の復興も一段落した頃、戦後の町会として再出発しました。約60年経過した現在、当時と比較して私達の街なみ、居住者、環境もずい分変貌いたしました。当町会としての本質の部分は殆ど変わっていないと信じております。それは、先人達が過去に

築いた町会としての誇りや、良き伝統です。先人達の功績に感謝し、この精神は大切に忘れず現状の町会活動に活かしていきたいと考えております。そして、次世代にも同様、正しく伝承、継承していく所存です。

当町会を構成する弥生2丁目は、東京大学の本郷、弥生両キャンパスに接し、浅野キャンパスを取り囲む地勢にあります。アカデミックで文化的香りもたたえながら一方では下町情緒の根津地区に隣接した環境にも恵まれて人情のぬくもりに触れ、根津神社を中心に集う様々なイベントを通しての広域的地域活動への関わりも、大切にしていって向ヶ岡弥生町です。



弥生土器記念碑にて
右より 角田会長、吉羽総務部長、小泉副会長

■ 歴代会長

初代 金津 熊夫（昭和32年4月～昭和39年3月）
二代 松角 武忠（昭和39年4月～昭和46年3月）
三代 高野 与作（昭和46年4月～昭和51年3月）
四代 村松 道弥（昭和51年4月～昭和54年3月）

五代 渋谷 鉦吉（昭和54年4月～平成12年3月）
六代 横田 彰一（平成12年4月～平成18年3月）
七代 柳谷 邦章（平成18年4月～平成20年3月）
八代 佐藤 康祐（平成20年4月～）

町会のあゆみ

当弥生一丁目町会は戸数約200世帯余の住宅地域にある町会で、昭和初期には西須賀町と向ヶ岡弥生町とで形成され西須賀弥生会と称されていた時期もあったが、昭和40年の住居表示改称により西須賀町と東京大学農学部全域（旧制第一高等学校）を含み弥生一丁目町会と改称されました。

南に東京大学農学部、東に根津神社、北に日本医科大学付属病院と、学舎・神殿・医療機関に三方が接しており、根津権現坂の上に位置する町会です。

近年日本の少子化が深刻な社会現象となっておりますが、当町会もご多分に漏れず子供の少ない地域であることから、秋の根津神社例大祭では祭礼役員が趣向を凝らし水ヨーヨー、輪投げ、焼きそば、フラン

クフルトなど準備して、多くの子供たちの参加を呼び掛け町会あげて奮闘しております。

また、町会住民が町会行事にご理解して頂き、気軽に行事に参加して頂けるよう毎年文化部を中心に企画して、新年会や親睦会などを開催しております。

婦人部は町会事業のほか「日赤活動、歳末助け合い」などさまざまな活動に参加しており、年末には保安部を中心に3日間町内「火の用心」巡回も行い「防犯・防火・厚生」などに真摯に努めております。

今後も町会の住民と更に親睦を図り、明るく住みよい弥生一丁目町会を目指し会長並びに役員一同、町会自治発展のために尽力してまいります。



秋例大祭



弥生一丁目町会役員一同

汐見地区



汐見地区町会連合会

● 昭和34年4月結成

千駄木二丁目東町会 千駄木二丁目西町会
上千駄木町会 千駄木東林町会
千駄木西林町会 千駄木三丁目南部町会
千駄木三丁目北町会

■ 歴代会長

初代 佐々木 光 (昭和34年4月～昭和36年3月)
二代 岡田 圭雄 (昭和36年4月～昭和44年3月)
三代 須合 一郎 (昭和44年4月～昭和54年3月)
四代 野口 守雄 (昭和54年4月～昭和59年3月)
五代 大熊 武榮 (昭和59年4月～昭和60年3月)
六代 澤田 健蔵 (昭和60年4月～昭和61年3月)
七代 高野 悦義 (昭和61年4月～昭和63年3月)
八代 楠山 正雄 (昭和63年4月～平成3年3月)
九代 大熊 武榮 (平成3年4月～平成4年3月)
十代 本山 正治 (平成4年4月～平成6年3月)
十一代 高野 悦義 (平成6年4月～平成7年3月)
十二代 吉田 有孝 (平成7年4月～平成10年3月)
十三代 井岡 恒夫 (平成10年4月～平成20年3月)
十四代 高橋 毅喜 (平成20年4月～)

地区町会連合会のあゆみ

昭和34年に結成された「汐見地区町会連合会」は、定期的に行われている総会、町会長会及び役員会を通じて、密接な情報交換と事業連携を図り、汐見地区の親睦と町民の福祉増進に寄与してきているところである。

地域環境の整備については、昭和40年に地域の商店連合会等と協力し、不忍通り店舗前ガードレールを設置、又、同年地下鉄9号線（千代田線）工事に伴い、当初計画に無かった千駄木駅の設置について関係団体と協力、国会に請願し、これが採択され、昭和44年に待望の千駄木駅が開設された。さらに、不忍通り拡充整備事業推進のため、不忍通り都市計画促進会を地域商店街、関係町会、地区町会連合会で結成し、(1) 地域社会全体の再開発と生活環境の改善、(2) 車輛交通の円滑と歩行者の安全確保のための施設建設、(3) 出水対策、災害防止の施策、(4) 商工業の発展のための施策等の早期実現を都議会に請願、これが採択され、昭和47年4月に不忍通りの車歩道が整備された。

その後、平成16年のバリアフリー法制

定を機に、汐見町連7町会長を中心に「千駄木駅を愛する会」を発足させ、千駄木駅改良計画を進めてきた結果、エレベーターの新設、列車風の軽減、千駄木駅全体のリニューアル工事が、平成26年度完成予定で進められている。

一方で、地区町連活動が活発化するに伴い、青少年健全育成のための各種行事も、青少年対策汐見地区委員会と合同して行われることになり、数多くの事業を実施してきたが、現在実施している千駄木マラソンは29回、スキー行事に至っては41回となっている。

さらに、根津地区町連と合同で下町の風情を発信してきている、「根津・千駄木下町まつり」においては、台東区と合同で実施してきた10回を合わせると計24回を数えている。

この間、昭和47年より49年にかけて、当汐見地区町連第三代会長須合一郎氏は、文町連会長として文京区の自治会発展のために大いに貢献された。

当汐見地区は地形上毎年水害を受け、特に不忍通り沿いの住民の被害は甚大なもの

であった。このため、都では抜本的な対策を講じてきており、いくつかの下水幹線工事も完成して効果が現れている。現在、平成26年度を目途に、第二谷田川幹線の整備が進められているが、これが完成すると汐見管内の浸水被害も相当軽減されるもの

と期待されている。

結束して事にあたる汐見の力は、今後も、子どもたちと、調和のとれた新しい街づくりのために、発揮され続けられ、町連活動は、その核となっていくものである。



千駄木マラソン2013



スキー行事



下町まつり(H24)

■ 歴代会長

初代 佐久間桂次（昭和23年4月～昭和25年1月）
二代 太田 兼蔵（昭和25年2月～昭和27年1月）
三代 佐久間桂次（昭和27年2月～昭和33年12月）
四代 佐々木 光（昭和34年1月～昭和44年4月）
五代 本橋 信次（昭和44年5月～昭和45年4月）

六代 名倉立太郎（昭和45年5月～昭和49年4月）
七代 濱川 順市（昭和49年5月～昭和53年5月）
八代 大熊 武榮（昭和53年6月～平成8年3月）
九代 鈴木 富茂（平成8年4月～平成22年3月）
十代 松田 功（平成22年4月～）

町会のあゆみ

千駄木二丁目は、文京区の北東に位置し、台東区と境とする町である、徳川家康が江戸城を構えるにあたり、鬼門になる上野に東叡山寛永寺を建立し、護摩木を千駄ずつ納めるによって名づくともいう、又東叡山建立後、御宮及び大献院殿御霊屋の御薪として附せられる所以なりとある。

「新編無蔵土記」御林蹟地と題してこの林は、太田道灌が植えし梅檀の木多かりし故に梅檀木材と言える後に依って文字改めしなり。この説は正しいとも思われず、上人の伝えるところも信じ難し、かくの如くその昔、四十軒位の僻村であった、現在の我々の住む千駄木二丁目東町は明治十一年本郷区駒込千駄木町となる。昭和二十三年四月千駄木二丁目東部協力会発足、初代会

長以後、代々の先人が営々と守り育て現在にいたるも幾多の難関あることを痛感致すところであります。

現在、組織は会長、副会長、会計、監事、1～5部長、総務部、文化部、防火部、防犯部、福祉部、交通部、環境衛生部、婦人部、公園管理部、地区対常任委員、各部により諸官庁行政への協力他町会運営活動をしている。近年振りこめ詐欺被害防止、首都直下型地震想定訓練など防災訓練が重要視されているが、人との繋がりが希薄になり気軽に手をさし延べることもままならなくなっている。町会員の勧誘については若い世代の人に町会活動に関心をもっていただき、いざというときに何事にも対応できる町会でありたい。



平成25年7月 千駄木二丁目東町会 親睦日帰りの旅 「国会議事堂と東京スカイツリー展望デッキ」

■ 歴代会長

初代	鈴木 眞亮（昭和23年～26年3月）	六代	金久保早治（昭和56年4月～平成2年3月）
二代	濱井 政吉（昭和26年4月～昭和36年3月）	七代	和田 安信（平成2年4月～平成6年3月）
三代	荒川 忠（昭和36年4月～昭和40年3月）	八代	井岡 恒夫（平成6年4月～22年3月）
四代	須合 一郎（昭和40年4月～昭和54年3月）	九代	尾崎 哲雄（現会長）（平成22年4月～）
五代	上野半一郎（昭和54年4月～昭和56年3月）		

町会のあゆみ

「我が町千駄木」は、明治33年「藪下通り衛生組合」発足以来「共交会」「千駄木下町会」「千駄木西町会」と、その名称を変えつつ、太平洋戦争に突入、戦後の町会解体による活動の停止はあるものの、「汐見会」で再興し「千駄木西町会」を経て昭和40年4月住所表示変更により駒込千駄木町が千駄木二丁目となり、それにともない町会名が、「千駄木二丁目西町会」に改名するに至っております。

由緒ある千駄木とその周辺には幾多の歴史と、人の移ろいがより深く刻まれております。

「千駄木二丁目西町会」の特徴としては、町会内に「汐見小学校」「第八中学校」「しおみ保育園」「しおみ児童館」という子ども達に関連する公共施設が、4施設もあることから、町会員の子どもの見守る姿勢が非常に強く、1400世帯ありながらも、コミュニティがしっかりしていることです。



昭和45年の千駄木二丁目の風景

■ 歴代会長

初代 明石三重子（昭和27年4月～昭和30年3月）
二代 田代 君子（昭和30年4月～昭和51年3月）
三代 福島善太郎（昭和51年4月～昭和53年3月）
四代 澤田 健蔵（昭和53年4月～昭和61年3月）

五代 楠山 正雄（昭和61年4月～平成19年3月）
六代 鈴木 八郎（平成19年4月～平成23年3月）
七代 鶴巻 貴弘（平成23年4月～平成25年3月）
八代 鈴木 八郎（平成25年4月～）

町会のあゆみ

昭和27年に住民の親睦を図るため、七曜婦人会が結成された。その後男性による「祭り会」と合併し、現在の町会の原点となりました。

特に、田代会長は町名変更について、行政側と熱心に交渉、現千駄木の町名を残すことに尽力、永年にわたり女性会長として上千駄木町会のために活躍されました。そして福島、澤田両会長が新時代に即応すべく、町会組織を強化し現在に至っています。

婦人部は毎月の廃品回収、厚生部はラジオ体操、町会のレクリエーション「バスハイク」、防犯部は日頃の町内の防犯啓蒙と防止に、交通部は地域の交通安全、各イベント時の交通整理。防災部は12月の「こども夜警」を始め、地域の防火訓練等と積極的に参加し防災・防火に努めております。又地区対部は他の町会と連合して「千駄木マラソン」「プール開放」など数々のイベントの運営に携わっております。

ここで我が上千駄木町会を紹介したいと思います。「団子坂の菊人形」と言えば、懐かしく思われる方も多いかと思えます。団子坂を登ると、右はお富士様より保健所前を通り坂上へ、左に曲ると汐見小学校裏門から汐見坂を下り消防署、根津神社裏門へと通じ、汐見地区の高台と不忍通の商店街とに二分、この藪下の道、特に坂上より根津神社への道は、昔から多くの文壇人が好んで通った道です。

● 観潮楼

高層ビルのなかったその昔、ここからは遥か東京湾や深川、浦安あたりの海の潮が観えたとか。また昔なつかしい両国の打上げ花火もよく

見える高台地域でした。

森鷗外が、明治二十五年一月から大正十一年七月没するまでの住居跡で、自ら家を観潮楼、自分を観潮楼主人などといっていた。現在は、「森鷗外記念館」となり、貴重な遺品を保有、展示しています。平成24年11月に竣工し、当町会はその鷗外生誕150年記念に鷗外生誕の地、島根県津和野町とネットを通して記念事業を盛り上げました。

区当局及び多くの方々のご協力により、当町会に立派な記念館ができたことは、喜びと共に感謝に堪えません。

この高台一帯は町名の通り緑の多い場所で、太田ヶ原とも言われ、昔の武将達の鷹狩の地とされたとか。団子坂上より白山に向う商店街の両側には数々のお寺があり春秋のお彼岸お盆には多くの墓参の人で賑わっております。

町内の史跡として忘れてはならないのは「漱石旧居跡」です。

● 漱石旧居跡

日本医大本部の一角に漱石旧居跡があります。夏目漱石がここで始めて創作の筆をとり、次々と名作を発表して一躍文壇に出た漱石文学の発祥の地です。この辺は昔から屋敷町として知識人、文壇人の多く住んでいた落ち着いた住みよい地区でもあります。

五丁目向ヶ丘の一部、漱石旧居跡、日本医大の裏から藪下通り、太田様の古池を左に見て、団子坂上へとこの一画が上千駄木町会の地域ですが野鳥も舞い戻り、尾長、ムクドリ、メジロ、ウグイス等々、都会でありながら静かな緑の多い地域です。

町内を皆様の力で、更に住み良い地域として努めて参ります。



漱石旧居跡



森鷗外記念館

■ 歴代会長

初代 大給 庸子（昭和24年7月～昭和25年3月）
二代 酒井 イト（昭和25年4月～昭和26年3月）
三代 鳥居 喜代（昭和26年4月～昭和32年3月）
四代 沢田 むめ（昭和32年4月～昭和54年3月）

五代 青柳 正（昭和54年4月～昭和64年3月）
六代 村上 喜一（昭和64年3月～平成8年3月）
七代 木下光一郎（平成8年4月～平成13年3月）
八代 高橋 毅喜（平成13年4月～）

町会のあゆみ

私共の町会は豊かな緑につつまれた町で都心にほど近く環境が良く下町と山の手の接点にあたる人情暖かい土地柄で、戦前は子爵大給近孝氏が町会長を務められ本郷区林町東部町会と称して地域の親睦発展に寄与されたが、終戦となり世間も変り町会活動も自然消滅となった。そして戦後物資の乏しい時期に文化婦人団体としてお互に啓発し、女性の集りが町会の芽ばえとなり次第に世の中も落ちつくにつれ「社団法人東林町会」として昭和24年7月女性を主とした町会が生まれたのである。初代の大給庸子会長以後女性にひきつがれた。以後多くの男性も加わり充実した町会が形成され昭

和56年には「社団法人東林町会」から「千駄木東林町会」と改称されたのである。

当町会には文豪芸術家の旧住宅もあり、又公共福祉施設も出来又道路整備も行われ「くらしのみち」も出来コミュニティバス「Bーグル」も運行される様になり便利さを増し充実した町会になりました。千駄木東林町会は文京区汐見地区町会連合会に属し約1350世帯の大きな町会であり当町会は行事やイベントを年1回レクリエーション、バスハイク、祭礼等行っており町会の皆様には喜んで頂いております。この伝統ある町を皆様によって引き継がれていく事を願っております。



昭和4年に大給子爵より当地に寄贈された武道場で平成21年に改築した東林町会事務所（芳林閣）

■ 歴代会長

初代 富所 富平 (昭和34年8月～昭和54年10月)
二代 松本 政男 (昭和54年11月～昭和61年10月)
三代 吉田 有孝 (昭和61年11月～平成12年3月)

四代 野口 哲彦 (平成12年4月～平成16年3月)
五代 松本 正 (平成16年4月～)

町会のあゆみ

昭和28年10月に、松村幸次・吉澤義正両氏により、町会に準じた諸事運営が行われるようになった。

昭和34年に初代会長に富所富平氏が就任することとなり、「千駄木五丁目西林町会」が正式に発足、本格的な町会運営に当たることとなった。その後、「老人クラブを」との声も多く聞かれ、昭和55年に「西林西寿会」が発足し、現在では藤森利子会長のもと、会員相互の親睦を図り多方面に活動している。

以来53年、世帯数700世帯、現松本会長を中心に役員一体となって円満なる町会運営に当たっている。

当町会が、この様な現在の隆盛をみるに至った理由の一つとして、当町会の守護神である「御林稲荷社」がある。当社は古く

江戸時代よりの天祖神社の末社として、千駄木林町に祀られたものであるが、現社殿は昭和33年総鎮守天祖神社神殿再建のみぎり、戦後造営の仮本殿の払い下げを受け、造営鎮座祭お魂入れを行い、現在の社殿となったものである。

御林神社の祭礼は毎年5月に行われ、町内児童の絵画展も恒例になっている。

平成17年には、町内大神輿を修復し、秋季例大祭時の町内巡幸を復活した。

当町会の現況は、各担当部長、役員の活発な地域活動と共に、婦人部ならびに青少年部の献身的な協力により、交通安全活動或いは歳末夜警には子供達参加による巡回も例年の恒例となっている。

住みよい町づくりのために当町会の一層の発展が期待されている。



天祖神社例大祭 (御林稲荷社)

■ 歴代会長

初代 小野田嘉八郎（昭和33年6月～昭和36年3月）
二代 岡田 圭雄（昭和36年4月～昭和44年3月）
三代 川村 達三（昭和44年4月～昭和50年3月）
四代 別府 恒雄（昭和50年4月～昭和56年3月）
五代 高野 悦義（昭和56年4月～平成7年3月）
六代 戸波 道正（平成7年4月～平成14年3月）

七代 青木 博（平成14年4月～平成20年3月）
八代 前田 賢司（平成20年4月～平成22年3月）
九代 田浦 光（平成22年4月～平成24年3月）
十代 古内 基裕（平成24年4月～平成26年3月）
十一代 西垣内 宏（平成26年4月～）

町会のあゆみ

本町会の前身である「駒込坂下町会」が加入世帯数の増加等により2分割されて、本町会は昭和33年（1958年）6月19日の創立総会で「駒込坂下南部町会」と決議され、昭和40年（1965年）4月の住居表示法施行に伴い、「千駄木三丁目南部町会」と改称され現在にいたる。

町会名改称時に町会のシンボルマークを公募して定めた。

不忍通りの東西に位置する本町会は8部48班の地区で構成され、町会組織には総務部、経理部、保健部、防犯部、防火部、福祉部、文化青少年部、交通部、公害部、防災部、婦人部の11部があり、歴代役員の献身的尽力により活発な活動を行っている。文京区内でも町会活動に纏まりのある町会との評を得ている。今後とも隣接他町会と協調しつつ、また行政官庁、その他公的機関との連携を一層強め、互助、隣保の精神を以って運営に当たる。

谷根千《ヤネセン》の愛称で呼ばれる谷中、根津、千駄木の街は、下町情緒あふれる地域として知られており、土日に限らず平日も多くの散策客で賑わっている。

東京大学が近くにあることで、過去に川端康成、北原白秋、高村光太郎、夏目漱石、森鷗外など多くの文人が居を構えた住宅を

中心とした街です。

千駄木は古くは「豊島郡下駒込村」の一部地区であり、名前の由来は“雑木林で薪などを伐採、その数が千駄にも及んだから”という説や、“太田道灌が梅檀（せんだん）の木を植えた地であり、この梅檀木が転訛した”との説がある。



もちつきフェスタ

■ 歴代会長

初代 菅 矢太郎（昭和23年5月～昭和38年1月）
二代 富本 茂（昭和38年2月～昭和43年2月）
三代 野口 守雄（昭和43年3月～昭和60年4月）

四代 本山 正治（昭和60年5月～平成7年4月）
五代 瀬川 長勝（平成7年5月～）

町会のあゆみ

当町会は昭和初期まで団子坂助長会（駒込坂下町と駒込千駄木町と合併）として活動していたが、大東亜戦争中に合併を解消し駒込坂下町と改称した。その後の敗戦により町会は一旦解散させられた。

昭和22年子ども勉強会を「若葉子供会」として発足させ、その活動が東京都民生局長より顕彰された。昭和23年には「駒込坂下町北部協力会」が結成され、庶務、保安、防火、文化、厚生、青少年、婦人の各部を設置した。昭和35年には会の名称を「駒込坂下町北部町会」と改称、さらに昭和40年には住居表示変更に伴い「千駄木三

丁目北町会」と改称した。

平成9年より「子どもの火の用心」という、子ども達が防火を訴え町内を巡回する行事を始め現在も継続中。平成12年「地縁法人」の認可を受ける。また同年8月には町会の正式ホームページを公開、これは区内の町会としては初めての試みであった。平成13年に「我が町今昔写真展」を開催、ケーブルテレビの番組として放映された。平成14年から4年間にわたり、3町会合同企画として「子ども防災キャンプ」を実施。平成19年上野精養軒にて町会創立60周年記念式典を挙げる。さらに平成20年からは「キッズクリーン隊」という名称で、町内の子どもたちが、まちをきれいに清掃しようという運動を積極的に行っている。

東日本大震災を機に地域の“つながり”の必要性がさげばれている現在、地域コミュニティとしての町会の役割は重要性を増しており、未来に向けて、地域住民一人ひとりの想いがつなぎ合わされた真のまちづくりの為に、今後も活動をすすめてゆく。



創立六十周年記念祝賀会



キッズクリーン隊



子ども防災キャンプ

駒込地区



駒込地区町会連合会

● 昭和36年4月結成

吉片町会
浅嘉町会
曙町会
上富士町会
上動五三会
動坂中町会
動坂町会
富士前町会
神明町会
神明上町会
神明西部町会
本駒自治会

■ 歴代会長

初代 吉原 欽吉 (昭和36年4月～昭和37年3月)
二代 星野 真皎 (昭和37年4月～昭和38年3月)
三代 坂部金太郎 (昭和38年4月～昭和39年3月)
四代 加藤 康延 (昭和39年4月～昭和40年3月)
五代 河西 菊三 (昭和40年4月～昭和41年3月)
六代 影山 薫 (昭和41年4月～昭和42年3月)
七代 早乙女一栄 (昭和42年4月～昭和43年3月)
八代 福山 清 (昭和43年4月～昭和45年3月)
九代 酒井 次太 (昭和45年4月～昭和46年3月)
十代 飯塚文次郎 (昭和46年4月～昭和47年3月)
十一代 岡本 昌一 (昭和47年4月～昭和48年3月)
十二代 泉 喜一 (昭和48年4月～昭和49年3月)
十三代 清水 栄一 (昭和49年4月～昭和50年3月)
十四代 加藤 康延 (昭和50年4月～昭和51年3月)
十五代 鈴木松太郎 (昭和51年4月～昭和52年3月)
十六代 大畑三次郎 (昭和52年4月～昭和53年3月)
十七代 野上 精 (昭和53年4月～昭和54年3月)

地区町会連合会のあゆみ

駒込地域は、戦後疎開から戻ってきた人や新しく駒込の地に移り住んだ人たちによって、この地域を何とか住みよいまちにしようと自治と親睦を目指して地域の中に自主組織が発足しました。

当初、その主な行事は、街路灯の設置、防犯・防火活動、地域の清掃・環境美化などの取り組み、また、先祖代々から伝わる氏神様の祭礼行事などに地域の人たちが力を合わせて行ってきました。

昭和27年サンフランシスコ講和条約が成立し進駐軍からの指示で禁止されていた町会の復活が叫ばれ戦前にあった町内会をもとに任意団体としての町会が結成され今日に至っています。個々の町会が活動する中で地域住民の地方自治への意識の高まりや行政機関との相互連携の必要性から昭和36年4月に駒込地区町会連合会が結成されました。

駒込地域の成り立ち

文京区史によると、この駒込一帯は奈良時代武蔵の国豊島駒込領より発展し、天祖神社を中心に岩槻街道をはさんで、農、工、商の町民が点在し江戸初期より駒込文化が芽生えはじめました。その主なる人物はこの地一帯治めた駒込名主の高木家でした。

高木将監は元和元年(1615)大阪落城後、豊臣の残党として関西から亡命し当時伝通院領であった駒込の開拓を許され、代々



名主屋敷門 式台つき玄関

十八代 田中 博愛 (昭和54年4月～昭和55年3月)
 十九代 向山 但 (昭和55年4月～昭和56年3月)
 二十代 田所 市蔵 (昭和56年4月～昭和57年3月)
 二一代 宇田川芳太郎 (昭和57年4月～昭和58年3月)
 二二代 島田 英吉 (昭和58年4月～昭和59年3月)
 二三代 高木 英介 (昭和59年4月～昭和60年3月)
 二四代 大畑三次郎 (昭和60年4月～昭和61年3月)
 二五代 加藤 康延 (昭和61年4月～昭和62年3月)
 二六代 栗原 茂信 (昭和62年4月～昭和63年3月)
 二七代 飛田 正一 (昭和63年4月～平成1年3月)
 二八代 中島國三郎 (平成1年4月～平成2年3月)
 二九代 山本 勝人 (平成2年4月～平成3年3月)
 三十代 戸井田房治 (平成3年4月～平成4年3月)
 三一代 市村 英司 (平成4年4月～平成5年3月)
 三二代 田辺 信一 (平成5年4月～平成6年3月)
 三三代 糸魚川勝彦 (平成6年4月～平成7年3月)
 三四代 高木 英介 (平成7年4月～平成8年3月)

三五代 大畑三次郎 (平成8年4月～平成9年3月)
 三六代 栗田 昌二 (平成9年4月～平成10年3月)
 三七代 水口 清 (平成10年4月～平成10年10月)
 (代行) 川島 一郎 (平成10年11月～平成11年3月)
 三八代 川島 一郎 (平成11年4月～平成12年3月)
 三九代 小林 功 (平成12年4月～平成13年3月)
 四十代 山本 勝人 (平成13年4月～平成14年3月)
 四一代 加文字 隆 (平成14年4月～平成15年3月)
 四二代 塚本富士夫 (平成15年4月～平成16年3月)
 四三代 荒井 三郎 (平成16年4月～平成17年3月)
 四四代 糸魚川勝彦 (平成17年4月～平成18年3月)
 四五代 中村 進 (平成18年4月～平成19年3月)
 四六代 古谷 喜一 (平成19年4月～平成20年3月)
 四七代 小池 邦夫 (平成20年4月～平成22年3月)
 四八代 大畑 雅一 (平成22年4月～平成24年3月)
 四九代 宮本 誠司 (平成24年4月～平成26年3月)
 五十代 櫻井新次郎 (平成26年4月～)

嘉平次を名のり名主役をつとめました。名主とは、江戸町年寄の指揮を受けて、支配地内の町人の取り締まりの一切の責任を負うという役職でした。現在の名主屋敷は火災により享保2年（1717）に再建と伝えられ、名主屋敷は公務を司る役宅であり、ここは名主屋敷の旧規を保っています。一般の町屋では許されず武家でも旗本以上の屋

敷しか許されない式台つきの玄関があります。

次に天祖神社は社伝によれば文治5年（1189）源頼朝が奥州征伐の途中、このあたりに寄ったところ、松の枝大麻（伊勢神宮の授けるおふだ）がかかっていた。それで頼朝は神明あまてらすおみかみ（天照大神）を祀ったといわれています。



天祖神社神幸祭（平成24年）

例大祭（9月中旬）氏子13町会の連合神輿が本郷通りに並び、一斉に宮入を行う。

神幸祭（4年に一度）大正11年に製作された本社神輿は、台座三尺八寸の千貫神輿とも言われる大神輿（本所・大倉竹次郎製作）。平成12年には氏子会の熱意によって修復され（本行徳・十六代浅子周慶）、44年ぶりに氏子会を渡御されました。以来4年に一度神幸祭が行われ、本社神輿は氏子13町会の全ての地域で引き継がれながら渡御が行われます。平成24年には4年に一度の年あたり盛大に神幸祭が行われました。本社神輿が13町会に渡御され各町会が責任を持って次の町会に引き継ぐという駒込地区町連の力を結集しての一大イベント



麦わら蛇

トなのです。

富士神社の山開きは駒込地区の重要な祭事です。富士講は秀麗な富士山を崇拝する山岳信仰。近世中ごろから江戸庶民の間に集団で富士山に登拝する富士講が多く発生しました。

「江戸は広くて八百八町 江戸は多くて八百八講」（古川柳）

富士山にいけない人は江戸の富士に詣でました。富士講の流行とともに、模造の富士山である富士塚が各地につくられた。「お富士さん」と呼ばれ、区内では「駒込のお富士さん」、護国寺の「音羽の富士」、白山神社の「白山の富士」が有名でありました。山開きには、富士講の人たち（主に町会長）が万灯を掲げて町内を回り、神社に戻り、社殿を3周して花万灯を奉納し山開きとしている。この祭事も町の人たちに受けつがれ伝統文化の祭事となっています。また、山開きの大祭3日間、縁起物授与品「神龍」（麦わら蛇）を授与する。この蛇をおいた家は、当時、流行した疫病から免れたとされています。

柳多留^{やなぎたるとる}（古川柳）「駒込は一富士二鷹三茄子」という句があります。富士とは富士



万灯回り

神社のお富士さん、鷹は現在の駒込病院付近
近一帯にあった鷹匠屋敷。茄子とは、富士
神社裏側一帯でとれる茄子のこと、初夢の
めでたいものにつけ駒込の名所名物を歌い
こんだものであり当時の駒込が偲べれます

8月の初めに行われる夏の納涼盆踊り大
会も駒込地区町連の一大イベントです。各
町会が毎年持ち回りで受け持ち、駒込地区
の町会が力を合わせて富士神社の境内で
行っています。

また、2月3日の富士神社で行われる節
分の豆まきも多くの人で賑わっています。

駒込地域の変貌

都電は駒込地区に住む人たちにとっては
重要な交通手段であり、地域の発展にも大
きく寄与してきました。しかしながら自動
車の増加や交通局の経営悪化などにより、
昭和42年12月に、神明町車庫から銀座7丁
目を走る都電が、さらに昭和46年12月王
子から通3丁目（八重洲）を走る都電がそ
れぞれ廃止されました。現在残っている都
電は荒川線だけ。区内を走っていた都電の
車両が今神明都電車庫跡公園の敷地内に置
かれています。

こうして都電の廃止とともに、本郷通り
や不忍通り沿いは大きな変貌を遂げていく
ことになります。

今、幹線道路沿いには高層マンションが
建ち並びまちの景観も大きく変わってき
ています。新住民も多くなりコミュニティー
の希薄化や高齢化に伴い地域での一人暮ら
しのお年寄り世帯の増加が地域の問題と
なっています。今後、地域の町会が取り組
むべき課題でもあります。地域の歴史とま
ちの伝統文化をよく知る町会の役割は重要
さを増してきています。

参考文献「文京区史」

「ぶんきょうの史跡めぐり」

「ぶんきょう町名由来」



昭和46年3月、本郷通りを走る都電最後の日



毎年、富士神社で行われる駒町連盆踊り大会

■ 歴代会長

初代 井ノ部 一（昭和24年12月～昭和25年3月）
二代 井上嘉一郎（昭和25年4月～昭和33年3月）
三代 小川 銀造（昭和33年4月～昭和40年3月）
四代 星野 真皎（昭和40年4月～昭和51年3月）

五代 大畑三波郎（昭和51年4月～平成10年6月）
六代 寺島 秀麿（平成10年7月～平成19年3月）
七代 橋口 賢（平成19年4月～平成20年5月）
八代 大畑 雅一（平成20年6月～）

町会のあゆみ

昭和24年12月に地域のための自治団体として地域住民が明るい住みよい町にするために吉片親和会を結成しました。その後吉片町会と名称を変更し今日にいたっています。

地域の人達との親睦、警察、消防、区役所などの関係機関と相互連携をはかり、交通安全、防災訓練、防犯活動、青少年健全育成への応援協力、環境浄化等の奉仕活動とくに婦人部の活動は町内を班に分け班ごとに数名の人達が分担し区の広報誌の配布、祭礼行事への協力、町会費の集金など組織をあげて活動しています。

町会も最近ではマンションがふえて町会員の7割の住民がマンション住まいです。マンションの人達となかなか連絡がとれず町会への関心が低く町会活動への参加が少ないのが残念です。

町会住民の高齢化もはげしく65歳以上の高齢者は3割近くになり、若者が少なく町会活動に影響しているのが悩みのたねです。

町会の由来は吉祥寺と門前の駒込片町併せて両方の吉と片

を取り吉片町会といいます。

町内には5つの寺院があり八百屋お七で有名な吉祥寺、江戸五色不動の目赤不動の南谷寺、江戸33観音の定泉寺、樋口一葉の師半井桃水の墓がある養昌寺、都史跡の原氏の墓がある洞泉寺等境内に樹木が茂り本郷通りの銀杏の街路樹と合せて緑が多い町です。

町会には大小の神輿があり大正時代初期に建造されたものです。戦後2回にわたり改修し今日にいたっています。

祭礼は氏神である天祖神社の神幸祭が4年に一度行われる氏子会が組織をあげて参加をし2年に一度の祭りには太鼓、大小神輿が町内を巡行し町の安全を祈願します。



平成24年 天祖神社祭礼

■ 歴代会長

初代 山下久四郎（昭和24年4月～昭和29年3月）
二代 坂部金次郎（昭和29年4月～昭和41年3月）
三代 清水 栄一（昭和41年4月～昭和55年3月）
四代 中澤 常雄（昭和55年4月～昭和59年3月）
五代 栗原 茂信（昭和59年4月～昭和61年3月）

六代 栗田 昌二（昭和61年4月～平成10年3月）
七代 小池 邦夫（平成10年4月～平成22年3月）
八代 山下 隆一（平成22年4月～平成26年5月）
代行 灰野 廣美（平成26年6月～）

町会のおゆみ

本郷区駒込浅嘉町〇番地。これが浅嘉町会の源流です。旧町名『浅嘉町』（あさかちょう）は昭和41まで続き現在の住居表示、本駒込1、3丁目及び向丘2丁目に変わりました。当町会はこの旧町名を冠しております。本郷通りから吉祥寺南側に沿って東西に走る細い道路を一辺として本郷通りと動坂通りに囲まれた三角形の地と浅嘉交番から向丘2丁目の交差点まで両側に南北に延びる短冊形の地域を合わせた一帯です。町内には寺旧跡等の歴史があります。

まずお寺ですが、天栄寺、常德寺、徳源禅院の3寺があります。天栄寺の門前、岩槻街道ぞい（現在の本郷通り本駒込1丁目の歩道橋あたり）には土物（土のついた野菜類）を商う青物市があり、賑わいを見せていました。起源は元和年間（1615～1624）だそうです。町が南北に長いこともあって氏神様が北の天祖神社、南の根津神社に分

かれています。お祭が2回あって、子供たちは喜んでますが、大人たちは大変です。

町内には、本駒込1丁目に浅嘉交番、3丁目に本郷消防署駒込出張所、東京メトロ本駒込駅があり、安全が保たれ、交通が確保されています。また歌人で国文学者の落合直文（1861～1903）は、明治26年から亡くなる36年まで当町内に住み、私塾の団体『浅香社』を基盤に和歌の改良と人材の育成に力を注ぎました。

このような町です。どうぞ皆さん一度お訪ねください。（詳細は『浅嘉町会』でホームページをご覧ください。）



もちつき



体操

柳沼康史 撮影

■ 歴代会長

初代 寿 三郎（昭和23年4月～昭和34年8月）
二代 田添 一郎（昭和34年9月～昭和37年3月）
三代 加藤 康延（昭和37年4月～平成8年5月）
四代 水口 清（平成8年6月～平成11年3月）

代行 古賀 衛（平成11年4月～平成12年4月）
五代 松井 彰（平成12年5月～平成16年4月）
六代 佐藤 昌俊（平成16年5月～平成20年4月）
七代 加藤 隆一（平成20年5月～）

町会のあゆみ

本駒込一、二丁目のほとんどが住居表示前までは、曙町の全域で、江戸時代は、下駒込村に属していた寒村であった。今は町の世帯数も人口も近隣の町より多い方に数えられるのである。ただ、戸数と人口の多い割に寺院が一ヶ寺もないことに気づくのである。他の町は昔から町屋として営んでいたのに対し、曙町は武家地であった事が一つの理由である。徳川家康になって江戸城を中心とした隣接に將軍の部下である重臣を戦時及び政治上の要地として各大名に下屋敷を賜ったのである。即ち支配階級である武士の土地、武家屋敷に対して町人の群居する町屋、需要と供給、これが江戸の町を発展させた一つの原因でもある。この曙町は徳川の重臣である下総佐倉の城主土井大炊頭利勝が賜ったのである。この人の藩祖は水野信元の関係で家康とは従弟にあたる人である。その頃、富士前町の一部小石川駕籠町及び原町の一部と加えて八万七千余坪といわれるこの辺を大炊ヶ原と呼んでいた。これが土井の下屋敷であった。区

内における武家屋敷として最初に建てたのである。道をへだてて向側、原町に酒井雅楽頭の下屋敷があった。土井の屋敷の前は中仙道で江戸五街道の一つに数えられている。

明治2年2月町名制定にあたって、「鶏声ヶ窪」、「鶏声の井跡」等の諸説の由来によって「曙町」と命名されたのである。龍光寺裏墓地崖下に戦前まで小川が流れていた、今は暗渠となってその姿は見られない。

土井侯本邸は3番地あったが明治の終わりから昭和にかけて2、3回の土地分譲を行っている。町内を歩いてみて整然としている姿が見られるのもそのためである。また、この町には、かつて森鷗外の妹喜美子を妻とした医学博士小金井良精先生、洋画藤島武二先生、宮内大臣の一木喜徳郎先生、漢和辞典の編者金沢庄三郎先生等知名人が数多く住んでおられる町である。今でも落ち着いたたたずまいのある町である。



平成25年2月 もちつき大会



平成23年 防犯・防火の親子パトロール

■ 歴代会長

初代 河西 菊三（昭和26年2月～昭和42年3月）
二代 鈴木松太郎（昭和42年4月～昭和52年3月）
三代 飯島 藤重（昭和52年4月～昭和62年3月）
四代 飛田 正一（昭和62年4月～平成4年3月）

五代 川島 一郎（平成4年4月～平成18年4月）
六代 宮本 誠司（平成18年5月～平成26年4月）
七代 中村 正雄（平成26年5月～）

町会のあゆみ

現在の上富士前の土地は、往古は染井村の一部であった。寛文5年以来は、伝通院領の百姓地であって、それが元文2年に町屋を開き、延享2年12月より町奉行の支配するところとなり、変遷の後上富士前町と呼ぶようになった。町名変更により現在は、本駒込2丁目、5丁目、6丁目、（大和郷を含む）に跨がっている。

この町で特記すべきは、六義園である。既にNHKのテレビ等により、全国的にその名声を博し、吾等町民の誇りとする名園である。ちなみに六義園は、明治初年以来、岩崎家の駒込別邸となりよく保存されていたが、昭和13年4月東京市（都）に寄付されたものである。

まえがきが長くなったが、由緒ある上富士町会の生い立ちがいまだ明確ではない。

町会にも、また文京区役所にも一片の資料も現存していないので、町内の古の方々をはじめとし、特に河西菊三、西貝芳松、飯塚文次郎（郷土史家）関根正明の諸氏のご記憶、御調査を基として記した。町

会の創設の時期は詳かではないが、関根氏の調べによると、昭和の初期に上富士町会らしきものが存在していたのではないかと、いう感触を得られた由、初代会長に柏原正義氏、続いて中居清次郎、宮江長治、小林倉三、河西菊三、立石美和の各氏が歴任された。

昭和16年からの戦中、戦後の混乱期を経て戦後再開された町会は昭和26年2月11日付にて、本会会則を定めて、河西菊三氏（再任）を町会長に推薦し再発足いたし、鈴木松太郎、飯島藤重、飛田正一、川島一郎、宮本誠司の各氏を経て、現会長の中村正雄氏に至っている。

新年会・夏季ラジオ体操・12町会連合盆踊り大会・歳末夜警・日帰りバスハイク・総会・総合防災訓練・防犯・防火・交通安全運動並びに町会支部講習会・天祖神社祭礼執行・関係機関連絡会と広報周知・敬老祝意・募金に関する協力・不祝儀ある時、訃報の回覧。



天竜舟下り

■ 歴代会長

初代 戸井田益弥 (昭和26年4月～昭和40年10月)
二代 福山 清 (昭和42年4月～昭和44年3月)
三代 田中 博愛 (昭和44年4月～昭和59年3月)
四代 戸井田房治 (昭和59年4月～平成5年)

五代 小林 功 (平成6年5月～平成16年4月)
六代 佐藤 賢蔵 (平成16年5月～平成18年4月)
七代 櫻井新次郎 (平成18年5月～)

町会のあゆみ

昭和26年3月：平和回復と共に動坂上町会親和会として再発足これを現在の町会結成とした。昭和32年：町会も区役所、警察、消防、保健所等の町内連絡業務も担当する。昭和34年10月：駒込警察防犯課の指導で管内全部に母の会が組織され当町会も母の会支部発足。



三基の神輿

昭和41年4月：新住居表示が実施されて、当町会は千駄木5丁目（40年4月）本駒込3丁目（41年4月）と分かれたのを機に町会名を「上動五三会」と改める。昭和45年9月：町会旗新調、会章を五三の桐とした。昭和50年9月：戦時中に金物の大部分を供出し、裸同然の大神輿を修理復元して完成（二世大倉竹次郎作・台輪寸法2尺6寸・延屋根・黒漆塗り・勾欄造り）大中小の3基の神輿が勢ぞろいし戦前の昔にもどる。昭和51年8月：町内に青年部が発足して同年11月青少年育成を目的に少年野球チーム（上動ファイターズ）を結成した。昭和62年1月：町会創立20周年記念式典を挙行し会員に記念品配布。

平成8年2月：町会30周年・婦人部30周年青年部20周年・上動ファイターズ20周年・を弥生会館にて多数の来賓をお招きし開催し会員に記念品配布。

平成18年7月：町会40周年記念式典を挙行、会員に記念品配布。

平成22年6月：マンション等が増え町が様変わりしてきたため町会員拡充を図り（町会入会のご案内）のパンフレットを作成。町のあゆみ、活動、行事等を紹介。会員、未入会者、マンション管理会社等に配布。



平成25年1月 もちつき大会

動坂中町会

● 昭和21年1月結成

■ 歴代会長

初代 影山 勲（昭和21年1月～昭和53年3月）
二代 野上 精（昭和53年4月～昭和55年3月）
三代 佐藤 実（昭和55年4月～昭和59年3月）

四代 山本 勝人（昭和59年4月～平成16年8月）
五代 田邊 國弘（平成16年9月～）

町会のあゆみ

動坂の名称は元々、坂の西側に石の不動蔵（目赤不動）のある坂ということで不動坂と呼ばれていたものがいつの頃からか「不」を取って動坂と呼ばれるようになり周辺一帯を「動坂町会」と称し大正7年に創設された。

終戦後G・H・Qの指令により従来の動坂町会が組織解体され現在の3町会に分割された。その際当町は動坂中町会として昭和21年1月にいち早く設立し今日に至っている。

昭和40年1月の住居表示変更迄 ①本郷区駒込動坂町 ②文京区駒込動坂町 ③文京区本駒込・千駄木とその時々々の行政で地名の呼び方は変って来たが今でも不忍通りと交差する所が「動坂下」、駒込病院周辺を「動坂上」という呼称で交差点地名として「動坂」の名が残されている事は古き時代をしのぶ上で嬉しい事である。

当町会の主な事業は (1)新入学児童（小学校）への記念品贈呈 (2)敬老者に対する（70才以上者）記念品贈呈 (3)会員親睦を目的とし2年に1度実施する日帰り旅行 (4)その他交通、防犯、防火、防災等に関し警察、消防、区と共同し随時事業を遂行している。

また、天祖神社の例大祭（9月16日）には、各町会による神輿や山車の渡御を行い祭りを盛り上げている。なお平成12年以降は4年ごとに神幸祭を執り行い氏子13町会を巡行するこれらの行事にも積極的参加をしている。



町内を練り歩く子供神輿



平成22年6月27日 犬吠埼灯台前にて町会レクリエーション

■ 歴代会長

初代 小野 幹一（昭和28年4月～昭和30年3月）
二代 平賀卯之吉（昭和30年4月～昭和32年3月）
三代 横川富士作（昭和32年4月～昭和34年3月）
四代 早乙女一栄（昭和34年4月～昭和46年3月）
五代 加藤五兵衛（昭和46年4月～昭和48年3月）
六代 福田長次郎（昭和48年4月～昭和54年3月）

七代 向山 但（昭和54年4月～昭和60年3月）
八代 中島国三郎（昭和60年4月～平成8年3月）
九代 鈴木 慎三（平成8年4月～平成9年3月）
十代 加文字 隆（平成9年4月～平成18年3月）
十一代 溝口 基善（平成18年4月～平成22年3月）
十二代 福田敏一郎（平成22年4月～）

町会のあゆみ

動坂町会は、不忍通りと不動坂の交差する、動坂下交差点を中心に東西にまたがる位置にあります。不忍通りは路面電車が通り、また映画館が2館あり商店も繁盛していましたが、区画整理により、表通りは高層ビルが立ち並び、入居者は増えたものの、商店街は時代の趨勢、また、物流攻勢に押され以前の賑やかさは消えつつあります。

戦後の初代会長小野幹一氏以降、12名の町会長が就任しておりますが、4代早乙女一栄会長には任期中の42年、区議会議員に当選、4年の町会長兼任後、46年再び区議会議員に当選され、面目躍如たるものがありました。

町会の組織は、会長、副会長3名、総務・会計・厚生・交通・防犯・防火防災・婦人・青少年・青年の各部と会計監査で構成し、地域を6部に分け、町会行事の周知、行政刊行物の配布、行政機関からの行事協力要請（交通安全運動・防災防火訓練・防犯パトロール・歳末特別警戒・3町会合同ラジオ体操・赤十字等の布陣活動）等に参加、実施しております。

また、町会独自の活動として、

天祖神社祭礼の大神輿・山車の巡行、日帰り旅行、敬老会での会食・記念品の贈呈、高齢者クラブ動坂長寿会への援助、入学児童へ入学祝の贈呈、子供祭り、餅つき大会、毎年定期総会における議案書と3年毎に町会員名簿を作成配布するなどして、町会員相互の親睦と融和を図り、安心した街づくりに取り組んでおります。



平成24年祭礼 町内御輿

■ 歴代会長

初代 山口菊太郎（昭和27年10月～昭和30年9月）
二代 前原 実（昭和30年10月～昭和32年9月）
三代 新井 蔵吉（昭和32年10月～昭和34年9月）
四代 桑原 武夫（昭和34年10月～昭和36年9月）
五代 鷺田富士衛（昭和36年10月～昭和39年3月）
六代 桑原 武夫（昭和39年4月～昭和41年3月）
七代 飯塚文治郎（昭和41年4月～昭和49年3月）
八代 東 武治（昭和49年4月～昭和52年7月）

九代 杉山哲一郎（昭和52年8月～昭和55年3月）
十代 宇田川芳太郎（昭和55年4月～平成2年3月）
十一代 田辺 信一（平成2年4月～平成10年3月）
十二代 鷺田 隆一（平成10年4月～平成12年3月）
十三代 塚本富士夫（平成12年4月～平成22年3月）
十四代 新井 基二（平成22年4月～平成26年3月）
十五代 藤井 克彦（平成26年4月～）

町会のあゆみ

今は立錐の余地もない程に家屋が立並んでいるが、江戸時代は下駒込村の百姓地であった。元文2年（1737年）に町屋が許され、延享2年（1745年）に町奉行支配となった。本郷通りはかつて岩槻街道（別称御成街道）と呼ばれたが、その東側、町内の町屋裏に富士神社があり、その前ということで「駒込富士前町」と名付けられた。

“一富士、二鷹、三茄子”と言われ、富士山信仰で栄え、門前市をなしたお富士さんは、我が町会のシンボリック的存在である。

町域の小さい割に多い寺は、明暦の大火後、江戸城周辺やお茶の水辺りにあったのが、幕府の命によって移転させられたもの

で、山の手と称した小石川・本郷、下谷等に移された寺町の一つである。

町会の活動としては全国交通安全運動への参加や防災活動・防犯運動・歳末の“火の用心”パトロールなども実施している。各年齢層からの参加の多いのが秋の天祖神社祭礼で、大神輿と山車で町内を練り歩く。日帰りバス旅行も人気が高く、このところ大山・川越・宇都宮・昇仙峡へと足を延ばし、秋の味覚を楽しんで来た。最近では、藤井会長のもと結束して、敬老の日の記念品を75歳以上の方に配布し、またリサイクル運動として資源回収の運動などにも取り組んでいる。



富士前町会祭礼委員



平成23年 富士前町会レクリエーション

■ 歴代会長

初代 酒井 次太（昭和23年4月～昭和34年3月）
二代 米山 九市（昭和34年4月～昭和38年3月）
三代 大滝 寅治（昭和38年4月～昭和41年3月）
四代 酒井 次太（昭和41年4月～昭和46年3月）
五代 米山 九市（昭和46年4月～昭和54年3月）

六代 田所 市蔵（昭和54年4月～昭和63年3月）
七代 市村 英司（昭和63年4月～平成5年3月）
八代 荒井 三郎（平成5年4月～平成21年3月）
九代 小林 誠（平成21年4月～）

町会のおゆみ

戦前の祭礼は、神明東部、北部町会で「神昭会」を結成し、昭和5年に現在に残る立派な大神輿、小神輿（2基）、太鼓が新造され町内渡御も盛況を極めたが、戦争で中断、昭和25年連合町会に依る、お神明様の（現天祖神社）大祭が執行され、三業からは華やかな「手子舞」、町内揃いの祭絆纏の若い衆による神輿渡御は、昔に勝る壮観であった。

現在も先人の意志を大切に受け継ぎ守っている。

敬老祝意は75歳以上の高齢者に町会行事として贈呈している。また高齢者クラブは「寿同志会」「寿神明クラブ」2つの組織が活発な活動を続けている。

昭和26年都市計画による、区画整理が

開始され38年終了、現在の優れた街並みが完成した。

昭和40年、住居表示については、永年親しみ呼びつがれた「駒込神明町」が「本駒込」と表示されることに至った。

昭和46年、住民の惜別の念も空しく、都電が撤廃され、車庫跡地は、その後勤労福祉会館、図書館、幼稚園、都営アパート、車庫跡公園等が同時に建設され、都市化が一層進められた。

現在は、マンション居住の会員の数が急速に増え続け、薄れた地縁、連帯感の希薄等、種々問題も山積していますが「安心」「安全」で明るい街造りに、これからも役員、町民一体となって取り組み中です。



平成23年 天祖神社祭礼

■ 歴代会長

初代 吉田 栄治（昭和30年9月～昭和35年3月）
二代 中村 利男（昭和35年4月～昭和39年3月）
三代 寺谷 正雄（昭和39年4月～昭和42年3月）
四代 岡本 昌一（昭和42年4月～昭和51年3月）

五代 島田 英吉（昭和51年4月～昭和59年3月）
六代 松塚 幸司（昭和59年4月～平成2年3月）
七代 糸魚川勝彦（平成2年4月～平成18年3月）
八代 高橋 繁栄（平成18年4月～）

町会のあゆみ

- **町会の位置** 神明上町会は文京区駒込地区全体のほぼ中央に位置するところに在り、都指定史跡「駒込名主屋敷」、旧跡「駒込神明宮」（現・駒込鎮守天祖神社）、区立第九中学校、神明公園など、数多くあります。
- **街なみ** 戦後の都市計画により、昭和26年から10年間に及ぶ区画整理事業により、整然とした道路、緑豊かな樹木などなど、優れた街並を誇っております。
- **町会の結成** 町会結成前は祭礼を中心とした名称で「宮元」と称した。昭和29年頃、結成気運が高まり、住民全員参加・民主的運営を旗印に、有志一丸となって協議を重ねてきました。昭和30年9月「神明町上町会」が設立発足しました。以来現在まで極めて順調に、発展して参りました。
- **10周年祝賀** 昭和40年9月、設立以来、不安苦勞の連続ながら順調に発展した10年間。振り返って役員各位の功績に対し感謝状を贈り慰勞をしました。
- **住居表示変更** 昭和41年、住居表示変更が行われた。当時「神明町」であったが「本駒込」と変更になりました。旧名称には大いに未練あったが行政上やむを得ない。町会名は「神明町上町会」のままでありました。
- **20周年祝賀** 昭和50年9月、順調に迎えた20周年、当時地域一番と云われた会場「動坂花家」で盛大に祝賀したの



駒込天祖神社
戦前の天祖神社

- であります。
- **宮元白寿会結成** 昭和53年頃、高齢者時代の気運が上って来ました。町会も高齢者健全育成のため、同年6月、100名を上廻る会員数により「宮元白寿会」の結成に至りました。
 - **30周年以後の周年記念行事**
30周年（S60. 9）町会旗更新
40周年（H7. 9）シビックスカイホール祝賀
50周年（H17. 9）町内掲示板更新
 - **町会名変更・宮元氏子会合併** 平成22年4月、町名「神明上町会」と改名しました。更に祭礼の催行会であった。「宮元氏子会」を合併し、町会祭禮部を組織し、町会一体となって、祭礼を支援、他町会と歩調を合せて催行する事となった。〈文：山崎・八木・高橋〉

■ 歴代会長

初代 中里豊次郎（昭和24年4月～昭和30年3月）
二代 吉原 歎吉（昭和30年4月～昭和43年3月）
三代 山崎 静治（昭和43年4月～昭和45年3月）
四代 泉 喜一（昭和45年4月～昭和49年3月）

五代 高木 英介（昭和49年4月～平成9年8月）
六代 田名網芳治（平成9年8月～平成12年3月）
七代 中村 進（平成12年4月～）

町会のあゆみ

神明西部町会は、本駒込5丁目の閑静な住宅街の一角にあり、戦後の焼け跡がまだ残りバラック建ての家屋が多かった昭和24年4月に結成され、住居表示実施前は駒込神明町と呼ばれていました。

今では会員も増え700所帯を数えるほどになりました。町会員相互の信頼と絆を深め、こどもに優しく、高齢者を労わり、明るい笑顔で犯罪のない、安全・安心の街づくりを目指しております。

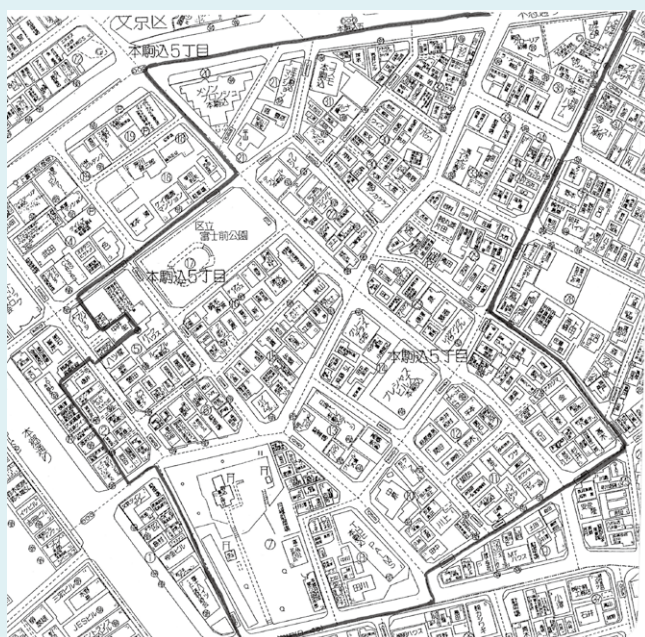
その昔、当町会の周辺には、駒込富士神社、御鷹屋敷（現駒込病院）があって富士神社北側一帯は野菜畑が広がり、美味しい茄子が採れた事から”駒込は一富士二鷹三茄子”と川柳にも詠われて有名になった所です。

昨今では個人情報保護法などにより、各種名簿の発行に二の足を踏む団体が多い中、町会員各位の理解と協力を得て、平成24年版町会員名簿を発行する事が出来ました。

地域の由来にちなみ、一富士二鷹三茄子の図柄を名簿の表紙に配し、会員の皆さまにお配りしたところ です。

町会の組織は会長、副会長、会計部、会計監査、総務部、防犯部、防火部、衛生部文化部、厚生部、防災部、交通部、青少年部、女性部で構成され、また地域内を第1地区部から第4地区部の4つに分け、更に各地区部ごとに班を編成して、行政刊行物の配布や町会行事の周知徹底など、きめ細かい取り組みをしております。

毎月3日間の防犯パトロール、月1回の夜警や年1度の防火・防災訓練を消防署、消防団の指導の下に行うなど、特に力を入れて活動しております。



神明西部町会区域の地図

■ 歴代会長

初代 木崎 鐵也（昭和50年8月～昭和51年3月）
二代 吉田建二郎（昭和51年4月～昭和52年3月）
三代 木並 徳昭（昭和52年4月～昭和53年3月）
四代 栗俣 敏彦（昭和53年4月～昭和55年3月）
五代 鈴木 正博（昭和55年4月～昭和56年3月）
六代 清水 恒男（昭和56年4月～昭和57年3月）
七代 古谷 喜一（昭和57年4月～昭和58年3月）
八代 福崎 定夫（昭和58年4月～昭和60年3月）
九代 尾形 宏（昭和60年4月～昭和61年3月）
十代 酒井 元（昭和61年4月～昭和62年3月）
十一代 森下 覚（昭和62年4月～昭和63年3月）

十二代 清水 恒男（昭和63年4月～平成元年3月）
十三代 積田 勇（平成元年4月～平成2年3月）
十四代 坂元 秀人（平成2年4月～平成3年3月）
十五代 吉田建二郎（平成3年4月～平成4年3月）
十六代 磯野 健寿（平成4年4月～平成6年3月）
十七代 尾形 宏（平成6年4月～平成7年3月）
十八代 清水 恒男（平成7年4月～平成8年3月）
十九代 小島 久寿（平成8年4月～平成9年3月）
二十代 古谷 喜一（平成9年4月～平成20年3月）
二十一代 坂元 秀人（平成20年4月～）

町会のあゆみ

本駒自治会を有す都営住宅は昭和49年に旧神明都電車庫跡の3分の1の敷地内に本駒込図書館、本駒込幼稚園、勤労福祉会館を併設すると同時に建設されました。

他の町会とは異なり地元出身の人、郷里を遠くにしている人と全国各地の出身の人達で構成された“ミニ全国区自治会”です。

春、秋の交通安全運動、夏のラジオ体操、

秋の団地祭、バス旅行、定期総会、夏、冬の夜警等々色々な行事を行っています。

特に秋の団地祭は多くの参加があり大変盛り上がります。

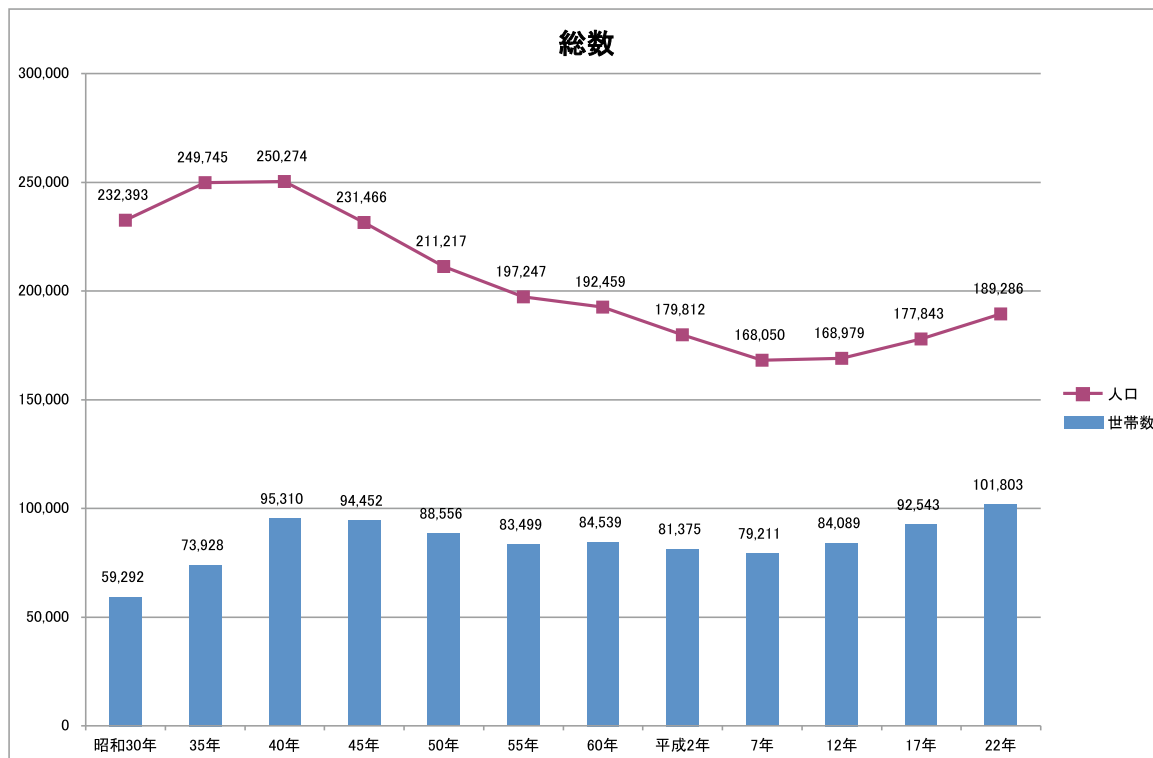
入居以来40年が経ち高齢化が進んでいます。今後10年20年先を考えた環境整備、高齢者対策を第一に考え活動して参ります。



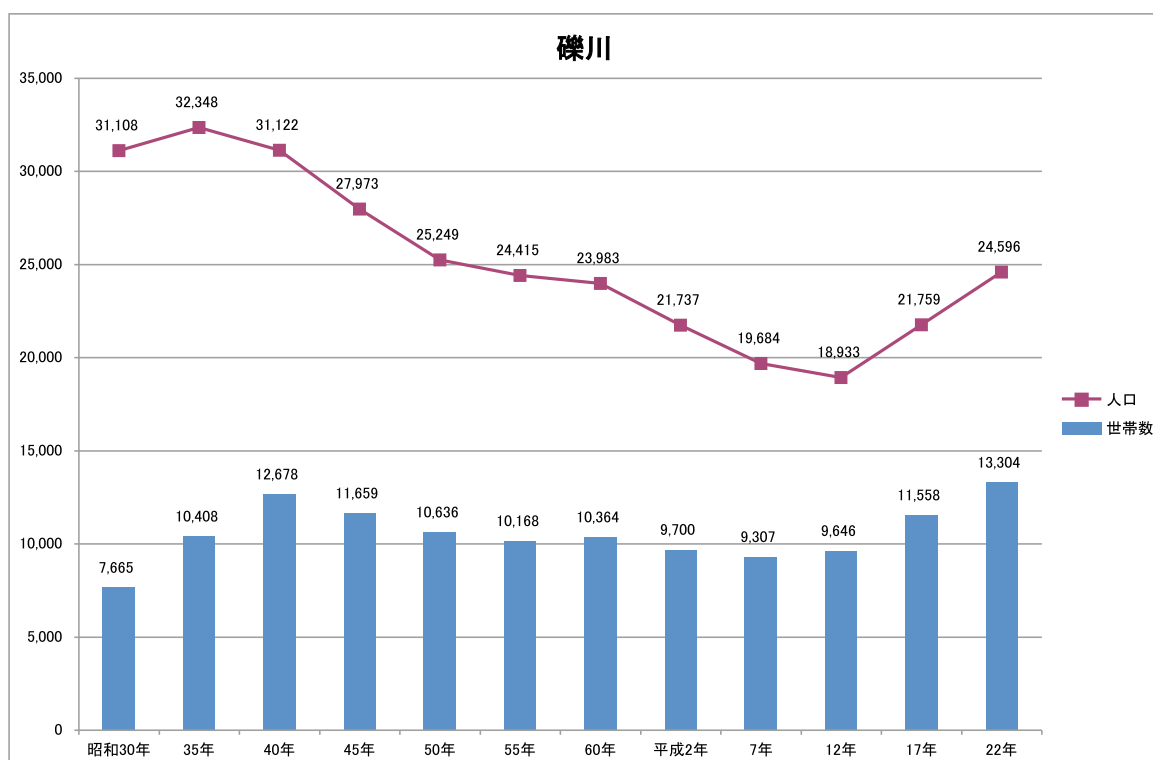
平成24年団地祭（9月9日）

人口、世帯数の推移

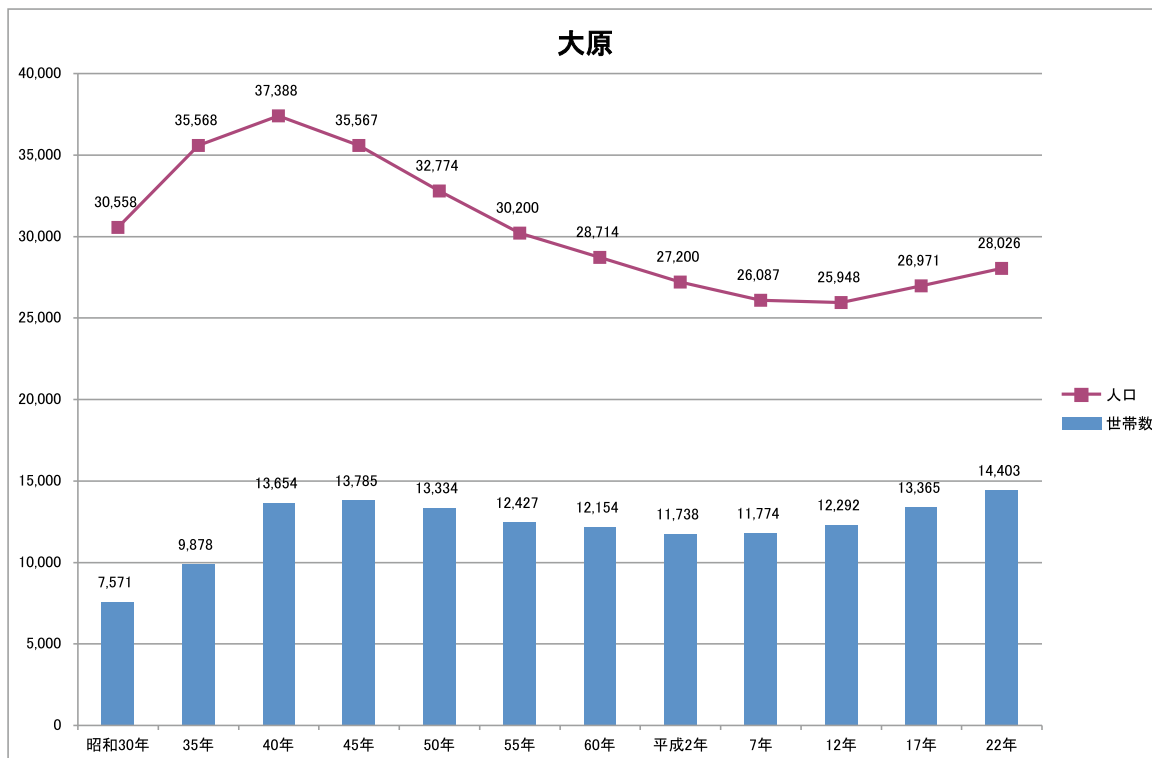
文京区全体



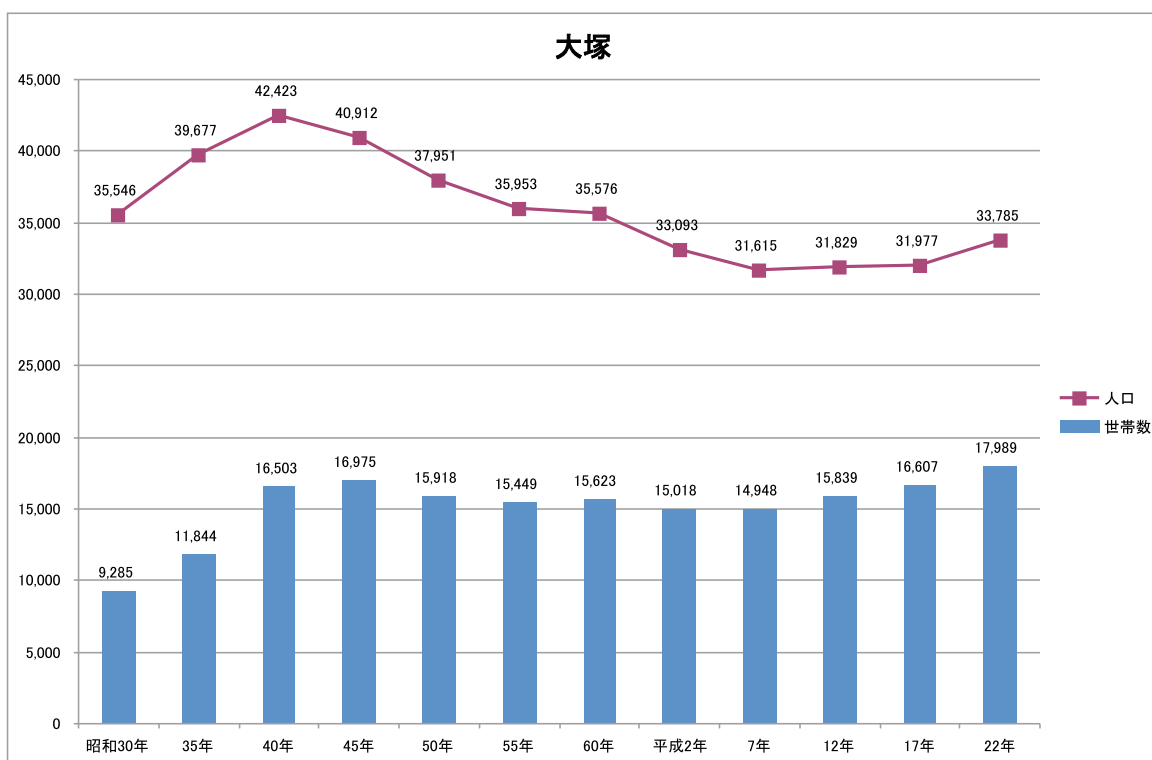
礪川地区



大原地区

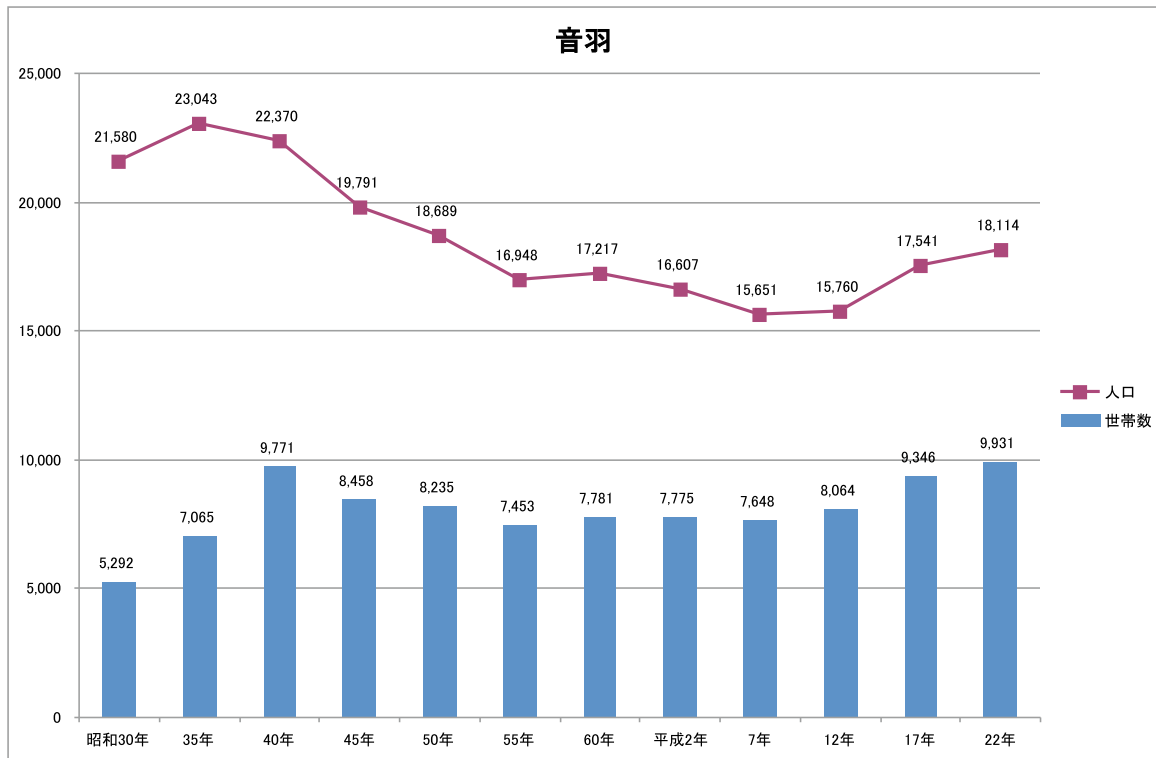


大塚地区

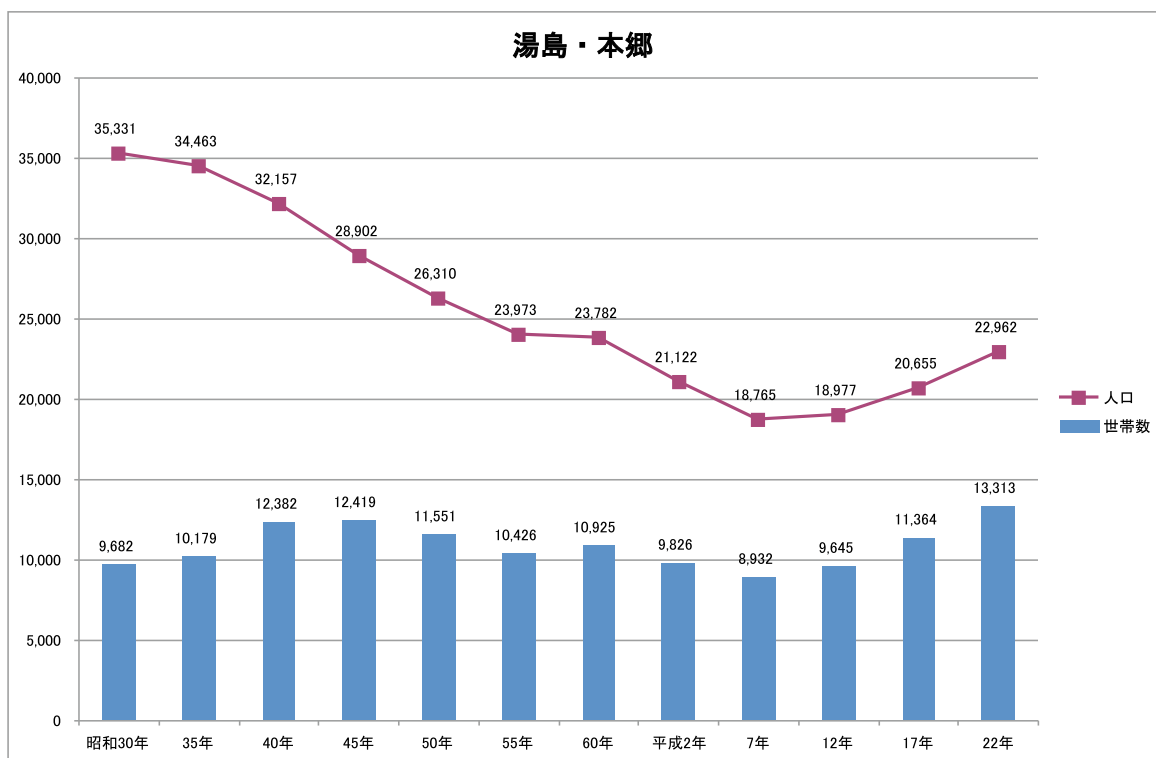


人口、世帯数の推移

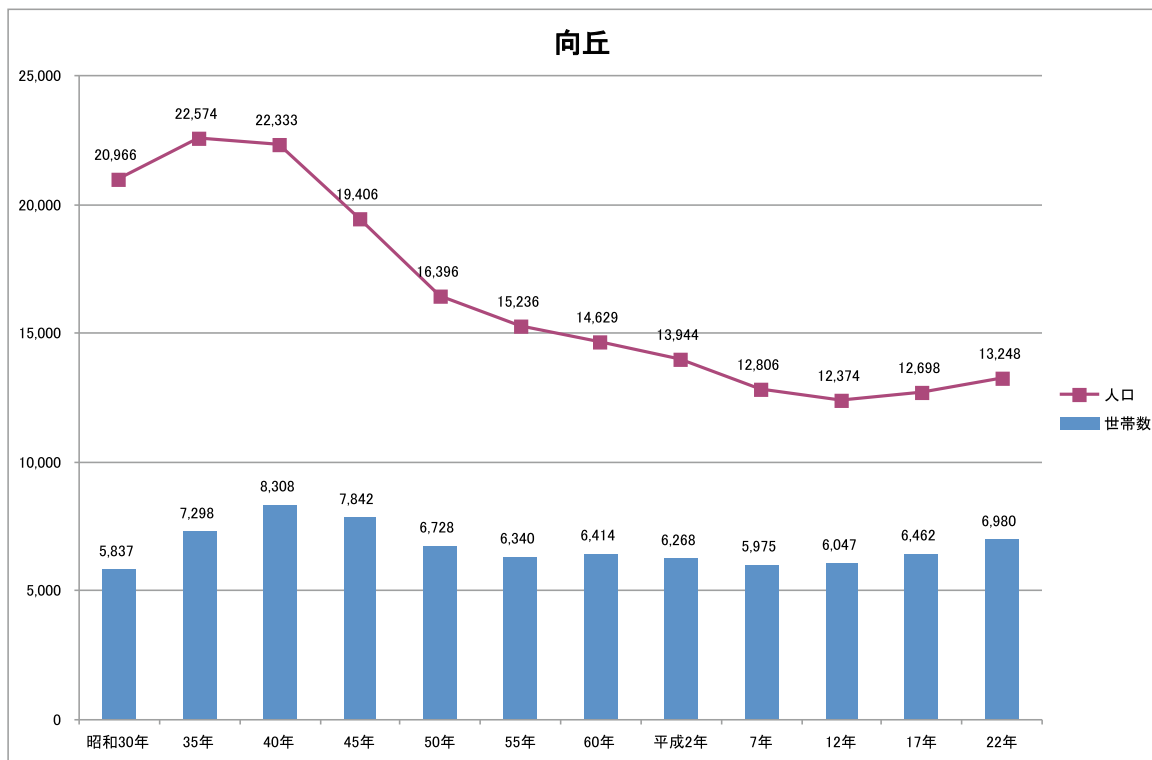
音羽地区



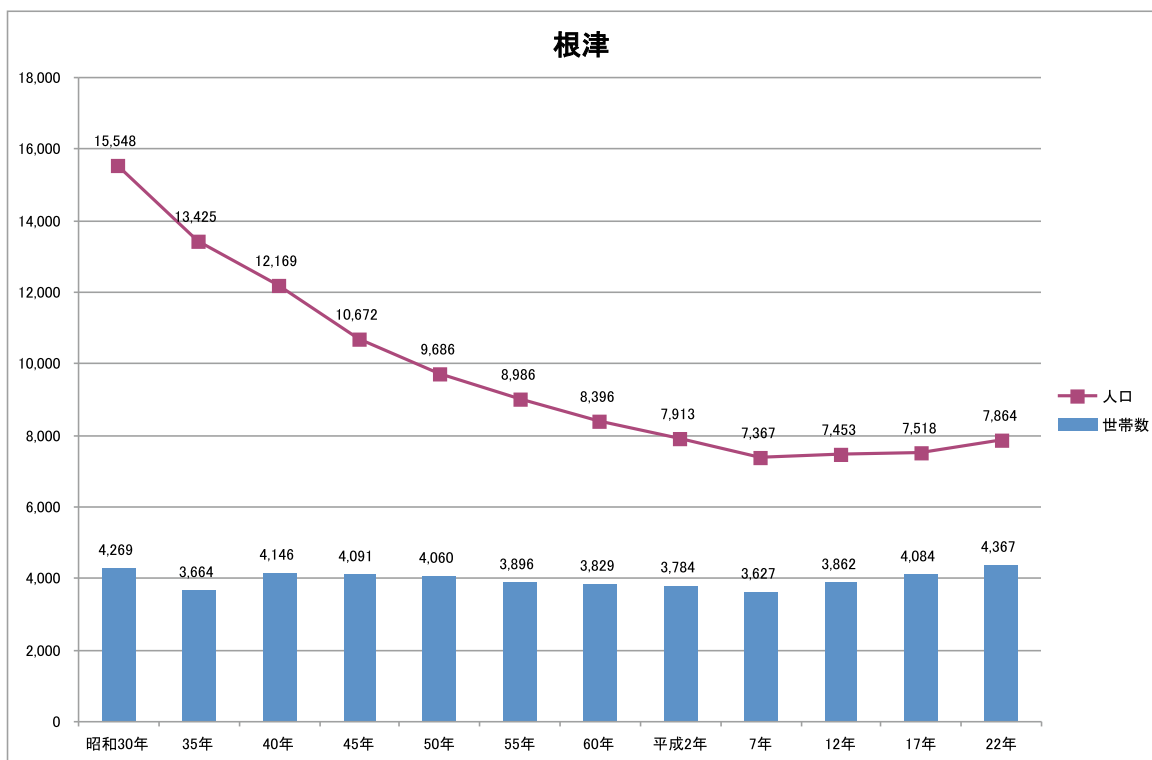
湯島・本郷地区



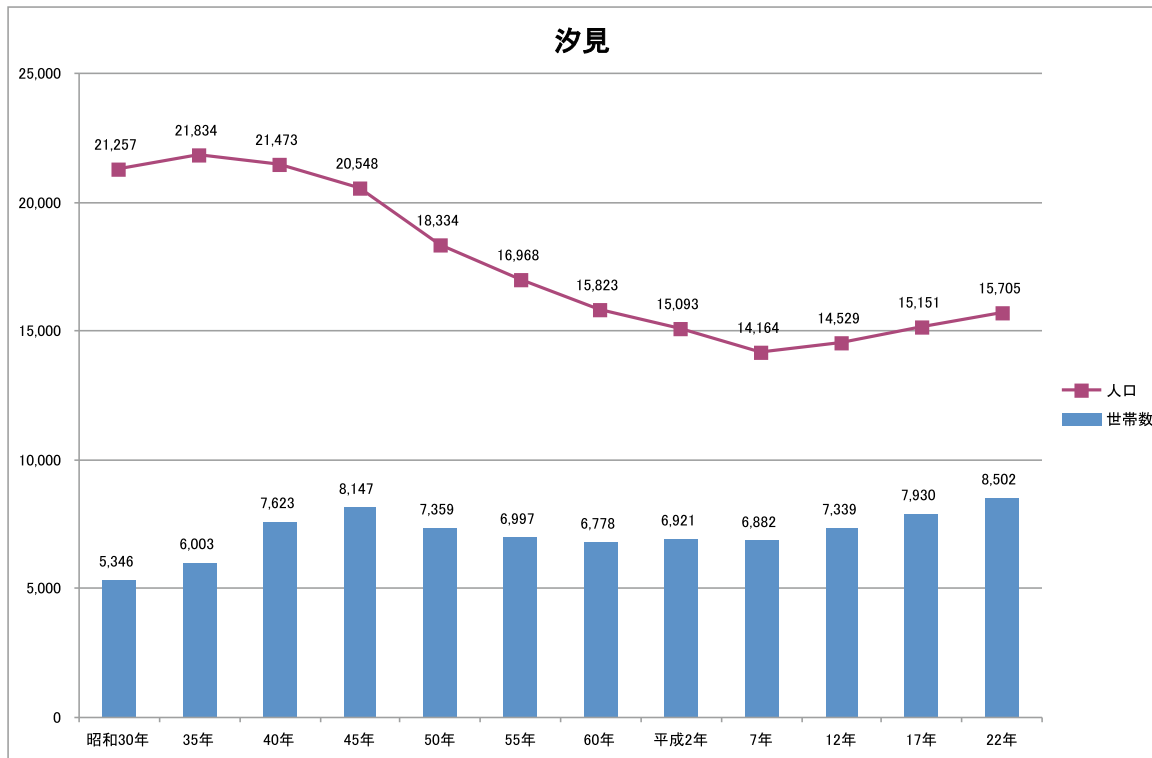
向丘地区



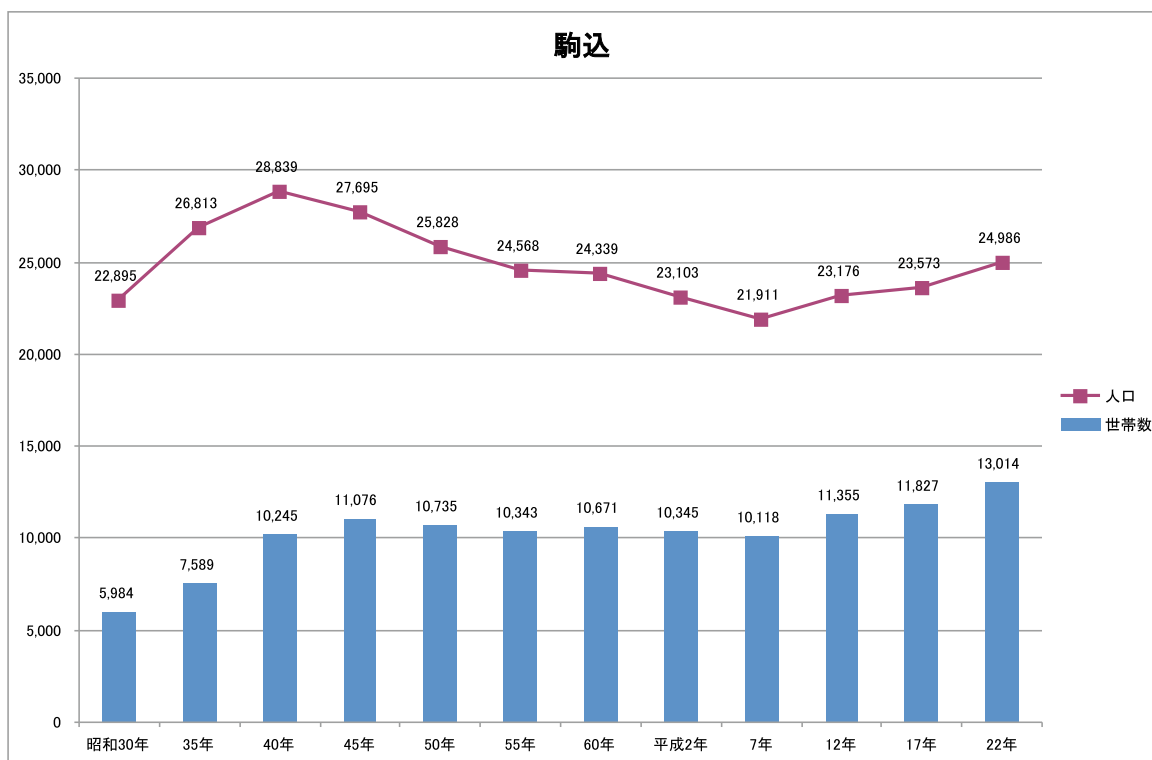
根津地区



汐見地区



駒込地区



編集後記

文京区町会連合会60周年記念誌発刊にあたり、実行委員として携わった一員として感想を記させていただきます。

遡ること5年前、文町連創立60年に当たり記念誌を発行してはとの話があり、現企画担当と次期企画担当が準備委員に任せられました。私は次期企画担当として実行委員となり、編集方法などの協議に入り、編集等の経験のある方に実行委員に加わっていただきました。前回30年誌の際も編集支援をお願いした(株)TONEGAWAにご協力をいただき、まず1町会につき1ページとし、印刷はオールカラーとすることに全員同意しました。30年誌と内容が重複しないよう、それ以降の事柄を記すこと、また最近の傾向である写真を多く取り入れることなどを決め、各町会が編集に取り掛かりました。各地区連・町会には執筆に長けた人が必ずいるもので、文章量をかなり超過して書かれ削っていただいたこともありました。ただ強い思い入れから削るに忍びないケースもあって、そこはご寛容を願いたいと思います。また写真を集める困難さを知りました。欲しい写真がどこにあるか分からない。昔のフィルムの時代ですらこんなに大変なのです。いま簡単に写真が楽しめるデジカメになり撮る枚数も増えていますが、メモリーに入れたままになっていないでしょうか。これでは次回記念誌を出す際、大変な苦勞をする事は目に見えています。普段から保存すべき写真を整理しておくことをぜひお勧めします。

ともかく区民課、各地域活動センターの多大なるご協力のもと(株)TONEGAWAのご指導も得、すばらしい記念誌が出来上がったと自負しております。お気付きの勝手な点はお許し願ひ、編集後記と致します。ご協力いただいた関係者ご一同に深く感謝申し上げます。

実行委員長 諸岡 健至

■ 実行委員

- 諸岡 健至 渡辺 泰男 浅利 幹郎 田上 侑司 平野 今朝人
○金輪 情梧 鈴木 伸男 土橋 正平 諸留 和夫
○松本 清
○木村 茂雄

○印は編集委員です

■ 事務局

上條 厚彦 関本 文夫 小池 義治 土田 晃

■ 編集にご協力いただいた方々

東京都町会連合会

文京区 文京区ふるさと歴史館 文京区観光協会

単位町会長 地区町連会長 地域活動センター所長

■ 参考文献

文京区史 文京区基本構想 文京の坂道 文京の文化史
文京の町名由来 文京区の観光と史跡

六十年のあゆみ

(創立60周年記念誌)

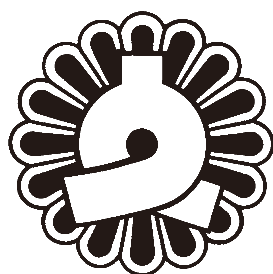
平成26年11月4日発行

発行責任者 鷹田 芳郎

編集責任者 諸岡 健至

印刷・製本 株式会社TONEGAWA

表紙・扉イラストは、湯島本郷マーチング委員会より提供して頂いております。
快く提供して頂き、感謝申し上げます。
(イラスト画:湯島出身のイラストレータ 上野 啓太)



文京区町会連合会